

北海道大学総合博物館年報 (平成28～令和元年度版)

目 次

第1部 博物館の活動記録

I. 沿革	1
II. 組織	1
III. 学術標本・データベース	15
IV. 高等教育	47
V. 展示活動	52
VI. 社会教育・普及活動	65
VII. 各種協定締結状況	84
VIII. 刊行物等	85

第2部 博物館教員の活動記録

<平成28～令和元年度の新聞報道記録>	179
<平成28～令和元年度の予算状況>	189

第1部 博物館の活動記録

I. 沿革

北海道大学の前身、札幌農学校は1876(明治9)年に開校した。その翌年にはクラーク博士が『札幌農学校第1年報』において、将来の自然史博物館の基礎が着々と出来つつあることを述べている。博士が去って7年後の1884(明治17)年に札幌農学校は開拓使より植物園とともに園内の博物館を譲り受け、ここに附属博物館が実現した。

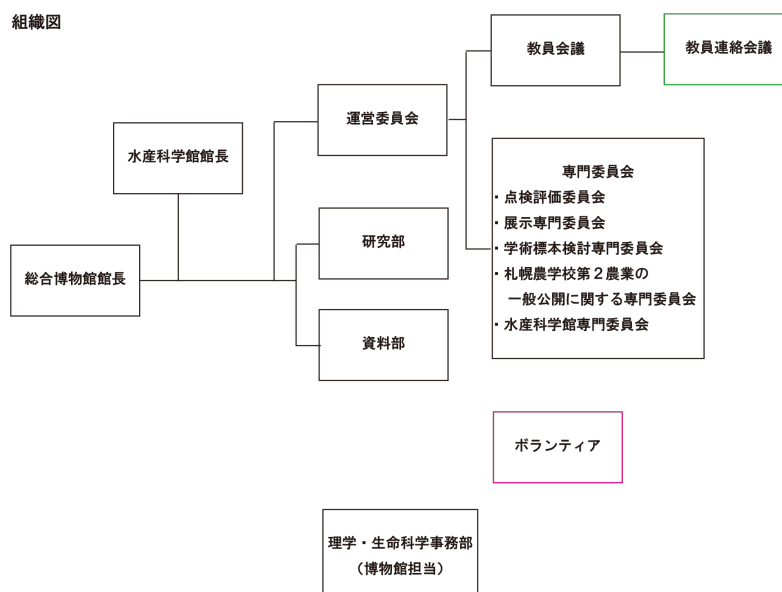
札幌農学校開校以来143年の研究成果として、現在400万点を越す学術標本が学内に所蔵され、その中には1万3千点以上のタイプ標本が含まれている。

これら貴重な学術標本を良好な状態で集約管理し学内外に情報を発信するために、1966(昭和41)年から総合博物館設置が検討されてきた。理学部本館建物を総合博物館として再利用し、延べ約9,000㎡の総合博物館にする構想がまとまり、1999(平成11)年度、文部省より設置が認められた。2001(平成13)年には、本学創基125周年次事業の一環として、第1期工事分3,000㎡の改修が行われ公開展示が開始された。2014(平成26)年には、第2、第3期6,000㎡の改修・耐震工事に着手し、2016(平成28)年に展示室・収蔵庫・研究教育関連スペースを完備してリニューアルオープンした。総合博物館は、北大の教育・研究の成果を広く一般に公開する場として、また、貴重な学術標本を整理・保管し教育・研究に利活用する場として、その役割はますます大きなものとなっている。

なお、2007(平成19)年には、水産科学研究所の水産資料館が、水産科学館として総合博物館の分館となった。

II. 組織

1. 組織(平成28～令和元年度)



2. 総合博物館運営委員会(平成28年4月1日～令和2年3月31日)

・運営委員会 平成28(2016)年4月1日～

総合博物館	館長	中川 光弘
	副学長	川端 和重
附属図書館	館長	新田 孝彦
大学院文学研究科	教授	佐々木 亨
大学院 ¹⁷ ・コミュニケーション研究院	教授	宇佐見 森吉
大学院水産科学研究院	教授	足立 伸次
大学院先端生命科学研究院	教授	金城 政孝
触媒科学研究所	教授	高橋 保
大学院薬学研究院	教授	前仲 勝実
大学院保健科学研究院	教授	伊達 広行
総合博物館	教授	高橋 英樹
大学院農学研究院	教授	秋元 信一
大学院水産科学研究院	教授	今村 央
総合博物館	教授	大原 昌宏
総合博物館	教授	湯浅 万紀子
総合博物館	准教授	小林 快次
総合博物館	准教授	山本 順司
総合博物館	講師	阿部 剛史
総合博物館	講師	江田 真毅

運営委員会は以下の通り開催された。(2016年度)

第1回 28.7.22／第2回 28.11.14 メール持ち回り／第3回 29.1.31／
第4回 29.3.9 メール持ち回り

・運営委員会 平成29(2017)年4月1日～

総合博物館	館長	中川 光弘
	副学長	西井 準治
附属図書館	館長	長谷川 晃
大学院文学研究科	教授	佐々木 亨
教育学研究院	教授	宮崎 隆志
理学研究院	教授	堀口 健雄
地球環境科学研究院	教授	久保川 厚
北方生物圏フィールド科学センター	教授	齊藤 隆
歯学研究院	教授	横山 敦郎
遺伝子病制御研究所	教授	田中 一馬
総合博物館	教授	湯浅 万紀子
大学院農学研究院	教授	秋元 信一
大学院水産科学研究院	教授	今村 央
総合博物館	特任教授	高橋 英樹
総合博物館	教授	大原 昌宏
総合博物館	准教授	小林 快次
総合博物館	准教授	山本 順司
総合博物館	講師	阿部 剛史
総合博物館	講師	江田 真毅

運営委員会は以下の通り開催された。(2017年度)

第1回 29.7.31／第2回 29.9.7／第3回 30.2.2／第4回 30.3.9

・運営委員会 平成30(2018)年4月1日～

総合博物館	館長	中川 光弘
	副学長	西井 準治
附属図書館	館長	長谷川 晃
大学院文学研究科	教授	佐々木 亨
教育学研究院	教授	宮崎 隆志
理学研究院	教授	堀口 健雄
地球環境科学研究院	教授	久保川 厚
北方生物フィールド科学センター	教授	齊藤 隆
歯学研究院	教授	横山 敦郎
遺伝子病制御研究所	教授	田中 一馬
総合博物館	教授	湯浅 万紀子
大学院農学研究院	教授	秋元 信一
大学院水産科学研究院	教授	今村 央
総合博物館	特任教授	高橋 英樹
総合博物館	教授	大原 昌宏
総合博物館	准教授	小林 快次
総合博物館	准教授	山本 順司
総合博物館	講師	阿部 剛史
総合博物館	講師	江田 真毅

運営委員会は以下の通り開催された。(2018年度)

第1回 30.8.1/第2回 31.1.23/第3回 31.2.14/第4回 31.3.19

・運営委員会 令和元年(2019)年4月1日～

総合博物館	館長	小澤 丈夫
	副学長	西井 準治
附属図書館	館長	長谷川 晃
大学院文学研究科	教授	佐々木 亨
経済学研究院	教授	平本 健太
工学研究院	教授	五十嵐 敏文
獣医学研究院	教授	坪田 敏男
低温科学研究所	教授	佐崎 元
北海道大学病院	教授	生駒 一憲
医学研究院	教授	吉岡 充弘
総合博物館	教授	大原 昌宏
大学院農学研究院	教授	秋元 信一
大学院水産科学研究院	教授	今村 央
総合博物館	教授	湯浅 万紀子
総合博物館	教授	小林 快次
総合博物館	准教授	山本 順司
総合博物館	准教授	阿部 剛史
総合博物館	准教授	江田 真毅

運営委員会は以下の通り開催された。(2019年度)

第1回 R1.9.18 メール持ち回り/第2回 R1.10.16/
第3回 R2.3.26 メール持ち回り

3. 総合博物館点検評価委員会(平成28年4月1日～令和2年3月31日)

・点検評価委員会平成28(2016)年4月1日～

総合博物館	館長	中川	光弘
総合博物館	教授	高橋	英樹
総合博物館	教授	大原	昌宏
総合博物館	教授	湯浅	万紀子
大学院文学研究科	教授	佐々木	亨
大学院農学研究院	教授	秋元	信一
理学・生命科学事務部	事務部長	寺澤	睦

点検評価委員会は以下の通り開催された。(2016年度)

第1回 28.5.12 メール持ち回り／第2回 28.12.2

・点検評価委員会平成29(2017)年4月1日～

総合博物館	館長	中川	光弘
総合博物館	特任教授	高橋	英樹
総合博物館	教授	大原	昌宏
総合博物館	教授	湯浅	万紀子
大学院文学研究科	教授	佐々木	亨
大学院農学研究院	教授	秋元	信一
理学・生命科学事務部	事務部長	寺澤	睦

・点検評価委員会平成30(2018)年4月1日～

総合博物館	館長	中川	光弘
総合博物館	特任教授	高橋	英樹
総合博物館	教授	大原	昌宏
総合博物館	教授	湯浅	万紀子
文学研究科	教授	佐々木	亨
農学研究院	教授	秋元	信一
理学・生命科学事務部	事務部長	寺澤	睦
北方生物圏フィールド科学センター	教授	齊藤	隆
工学研究院	准教授	林	重成

・点検評価委員会令和元(2019)年4月1日～

総合博物館	館長	小澤	丈夫
総合博物館	教授	大原	昌宏
総合博物館	教授	湯浅	万紀子
総合博物館	教授	小林	快次
文学研究科	教授	佐々木	亨
農学研究院	教授	秋元	信一
理学・生命科学事務部	事務部長	川上	豊
北方生物圏フィールド科学センター	教授	齊藤	隆
工学研究院	准教授	林	重成

4. 展示専門委員会(平成28年4月1日～令和2年3月31日)

・展示専門委員会 平成28(2016)年4月1日～

総合博物館	教授	高橋 英樹
大学院農学研究院	教授	秋元 信一
総合博物館	教授	大原 昌宏
総合博物館	教授	湯浅 万紀子
総合博物館	准教授	小林 快次
総合博物館	准教授	山本 順司
総合博物館	講師	阿部 剛史
総合博物館	講師	江田 真毅
大学院文学研究科	教授	佐々木 亨
総合博物館	助教	山下 俊介
産学・地域協働推進機構	特任教授	末富 弘 (28.12.1～)
観光学高等研究センター	特任准教授	花岡 拓郎 (28.12.1～)

展示専門委員会は以下の通り、開催された。(2016年度)

第1回 28.10.28

・展示専門委員会 平成29(2017)年4月1日～

総合博物館	教授	湯浅 万紀子
大学院農学研究院	教授	秋元 信一
総合博物館	教授	大原 昌宏
総合博物館	特任教授	高橋 英樹
総合博物館	准教授	小林 快次
総合博物館	准教授	山本 順司
総合博物館	講師	阿部 剛史
総合博物館	講師	江田 真毅
大学院文学研究科	教授	佐々木 亨
総合博物館	助教	山下 俊介
産学・地域協働推進機構	特任教授	末富 弘

展示専門委員会は以下の通り、開催された。(2017年度)

第1回 29.6.12

・展示専門委員会 平成30(2018)年4月1日～

総合博物館	教授	湯浅 万紀子
大学院農学研究院	教授	秋元 信一
総合博物館	教授	大原 昌宏
総合博物館	特任教授	高橋 英樹
総合博物館	准教授	小林 快次
総合博物館	准教授	山本 順司
総合博物館	講師	阿部 剛史
総合博物館	講師	江田 真毅
大学院文学研究科	教授	佐々木 亨
総合博物館	助教	山下 俊介
産学・地域協働推進機構	特任教授	末富 弘

展示専門委員会は以下の通り、開催された。(2018年度)

第1回 30.7.26／第2回 31.2.14

・展示専門委員会 平成31(2019)年4月1日～

総合博物館	教授	大原 昌宏
大学院農学研究院	教授	秋元 信一
総合博物館	教授	湯浅 万紀子
総合博物館	教授	小林 快次
総合博物館	准教授	山本 順司
総合博物館	准教授	阿部 剛史
総合博物館	准教授	江田 真毅
大学院文学研究科	教授	佐々木 亨
総合博物館	助教	山下 俊介
観光学高等研究センター	准教授	上田 裕文

展示専門委員会は以下の通り、開催された。(2019年度)

第1回 R1.7.22／第2回 R2.2.19

5. 学術標本検討専門委員会(平成28年4月1日～令和2年3月31日)

・学術標本検討専門委員会 平成28(2016)年4月1日～

総合博物館	教授	高橋 英樹
大学院農学研究院	教授	秋元 信一
総合博物館	教授	大原 昌宏
総合博物館	教授	湯浅 万紀子
総合博物館	准教授	小林 快次
総合博物館	准教授	山本 順司
総合博物館	講師	阿部 剛史
総合博物館	講師	江田 真毅
総合博物館	助教	山下 俊介
総合博物館	助教	河合 俊郎
大学院地球環境科学研究院	教授	大原 雅
大学院農学研究院	准教授	吉澤 和徳
大学院理学研究院	准教授	柘原 宏
大学院医学研究科	教授	清水 宏
大学院水産科学研究院	教授	綿貫 豊
大学院獣医学研究科	教授	坪田 敏男
大学院文学研究科	准教授	高瀬 克範
高等教育推進機構	准教授	藤田 良治

学術標本検討専門委員会は以下の通り、開催された。

(2016年度)

第1回 28.11.29

・学術標本検討専門委員会 平成 29 (2017) 年 4 月 1 日～

総合博物館	教授	湯浅	万紀子
大学院農学研究院	教授	秋元	信一
総合博物館	教授	大原	昌宏
総合博物館	特任教授	高橋	英樹
総合博物館	准教授	小林	快次
総合博物館	准教授	山本	順司
総合博物館	講師	阿部	剛史
総合博物館	講師	江田	真毅
総合博物館	助教	山下	俊介
総合博物館	助教	河合	俊郎
大学院地球環境科学研究院	教授	大原	雅
大学院農学研究院	准教授	吉澤	和徳
大学院理学研究院	准教授	柘原	宏
大学院医学研究科	教授	清水	宏
大学院水産科学研究院	教授	綿貫	豊
大学院獣医学研究科	教授	坪田	敏男
大学院文学研究科	准教授	高瀬	克範
高等教育推進機構	准教授	藤田	良治

・学術標本検討専門委員会 平成 30 (2017) 年 4 月 1 日～

総合博物館	教授	湯浅	万紀子
大学院農学研究院	教授	秋元	信一
総合博物館	教授	大原	昌宏
総合博物館	特任教授	高橋	英樹
総合博物館	准教授	小林	快次
総合博物館	准教授	山本	順司
総合博物館	講師	阿部	剛史
総合博物館	講師	江田	真毅
総合博物館	助教	山下	俊介
総合博物館	助教	田城	文人
大学院地球環境科学研究院	教授	大原	雅
大学院農学研究院	准教授	吉澤	和徳
大学院理学研究院	准教授	柘原	宏
大学院医学研究科	助手	中村	秀樹
大学院水産科学研究院	教授	綿貫	豊
大学院獣医学研究科	教授	坪田	敏男
大学院文学研究科	准教授	高瀬	克範

・学術標本検討専門委員会 平成 31 (2017) 年 4 月 1 日～

総合博物館	教授	大原	昌宏
大学院農学研究院	教授	秋元	信一
総合博物館	教授	湯浅	万紀子
総合博物館	教授	小林	快次
総合博物館	准教授	山本	順司
総合博物館	准教授	阿部	剛史
総合博物館	准教授	江田	真毅
総合博物館	助教	山下	俊介
総合博物館	助教	田城	文人
総合博物館	助教	首藤	光太郎
大学院地球環境科学研究院	教授	大原	雅
大学院農学研究院	准教授	吉澤	和徳
大学院理学研究院	准教授	柁原	宏
大学院医学研究科	助手	中村	秀樹
大学院水産科学研究院	教授	綿貫	豊
大学院獣医学研究科	教授	坪田	敏男
大学院文学研究科	准教授	高瀬	克範

6. 札幌農学校第2農場の一般公開に関する専門委員会

(平成 28 年 4 月 1 日～令和 2 年 3 月 31 日)

・札幌農学校第2農場の一般公開に関する専門委員会 平成 28 (2016) 年 4 月 1 日～

総合博物館	教授	高橋	英樹
大学院農学研究院	教授	秋元	信一
大学院農学研究院	教授	柴田	洋一
大学院農学研究院	教授	小泉	章夫
大学院農学研究院	准教授	石井	一暢
大学院文学研究科	准教授	仁平	尊明
大学院工学研究院	准教授	小澤	丈夫
観光学高等研究センター	特任准教授	花岡	拓郎
総合博物館	教授	大原	昌宏
総合博物館	准教授	山本	順司
総合博物館	講師	江田	真毅
総合博物館	資料部研究員	近藤	誠司
理学・生命科学事務部	事務部長	寺澤	睦
施設部環境配慮促進課	課長	竹内	真司

札幌農学校第2農場の一般公開に関する専門委員会は以下の通り開催された。

(2016 年度)

第 1 回 28. 7. 4 / 第 2 回 28. 12. 22

・札幌農学校第2農場の

一般公開に関する専門委員会

平成29(2017)年4月1日～

総合博物館	教授	湯浅	万紀子
大学院農学研究院	教授	秋元	信一
大学院農学研究院	教授	柴田	洋一
大学院農学研究院	教授	小泉	章夫
大学院農学研究院	准教授	石井	一暢
大学院文学研究科	准教授	仁平	尊明
大学院工学研究院	准教授	小澤	丈夫
総合博物館	教授	大原	昌宏
総合博物館	特任教授	高橋	英樹
総合博物館	准教授	山本	順司
総合博物館	講師	江田	真毅
総合博物館	資料部研究員	近藤	誠司
理学・生命科学事務部	事務部長	寺澤	睦
施設部環境配慮促進課	課長	佐々木	津祥

札幌農学校第2農場の一般公開に関する専門委員会は以下の通り開催された。
(2017年度)

第1回 29.4.21

・札幌農学校第2農場の

一般公開に関する専門委員会

平成30(2018)年4月1日～

総合博物館	教授	湯浅	万紀子
大学院農学研究院	教授	秋元	信一
大学院農学研究院	教授	岩渕	和則
大学院農学研究院	教授	小泉	章夫
大学院農学研究院	准教授	石井	一暢
大学院文学研究科	准教授	仁平	尊明
大学院工学研究院	准教授	小澤	丈夫
総合博物館	教授	大原	昌宏
総合博物館	特任教授	高橋	英樹
総合博物館	准教授	山本	順司
総合博物館	講師	江田	真毅
総合博物館	資料部研究員	近藤	誠司
理学・生命科学事務部	事務部長	川上	豊
施設部環境配慮促進課	課長	佐々木	津祥

札幌農学校第2農場の一般公開に関する専門委員会は以下の通り開催された。
(2018年度)

第1回 30.4.19

・札幌農学校第2農場の

一般公開に関する専門委員会

平成31(2019)年4月1日～

総合博物館	教授	大原	昌宏
大学院農学研究院	教授	秋元	信一
大学院農学研究院	教授	岩渕	和則
大学院農学研究院	准教授	石井	一暢
大学院文学研究科	准教授	仁平	尊明
大学院工学研究院	教授	小澤	丈夫
総合博物館	准教授	山本	順司
総合博物館	講師	江田	真毅
総合博物館	資料部研究員	近藤	誠司
理学・生命科学事務部	事務部長	川上	豊
施設部環境配慮促進課	課長	佐々木	津祥

7. 総合博物館水産科学館専門委員会

(平成28年4月1日～令和2年3月31日)

・水産科学館専門委員会 平成28(2016)年4月1日～

大学院水産科学研究院	教授	今村	央
総合博物館	教授	高橋	英樹
総合博物館	助教	河合	俊郎
大学院水産科学研究院	教授	綿貫	豊
大学院水産科学研究院	特任教授	矢部	衛
大学院水産科学研究院	准教授	山口	篤
大学院水産科学研究院	准教授	平譚	享
大学院水産科学研究院	教授	水田	浩之
大学院水産科学研究院	准教授	東藤	孝
大学院水産科学研究院	准教授	岸村	栄毅
大学院水産科学研究院	助教	李	大雄

・水産科学館専門委員会 平成29(2017)年4月1日～

大学院水産科学研究院	教授	今村	央
総合博物館	教授	湯浅	万紀子
総合博物館	助教	河合	俊郎
大学院水産科学研究院	教授	綿貫	豊
大学院水産科学研究院	特任教授	矢部	衛
大学院水産科学研究院	准教授	山口	篤
大学院水産科学研究院	准教授	平譚	享
大学院水産科学研究院	教授	水田	浩之
大学院水産科学研究院	准教授	東藤	孝
大学院水産科学研究院	准教授	岸村	栄毅
大学院水産科学研究院	助教	李	大雄

・水産科学館専門委員会 平成 30 (2018) 年 4 月 1 日～

大学院水産科学研究所	教授	今村	央
総合博物館	教授	湯浅	万紀子
総合博物館	助教	田城	文人
大学院水産科学研究所	教授	綿貫	豊
大学院水産科学研究所	准教授	河合	俊郎
大学院水産科学研究所	准教授	山口	篤
大学院水産科学研究所	准教授	平譚	享
大学院水産科学研究所	教授	水田	浩之
大学院水産科学研究所	准教授	東藤	孝
大学院水産科学研究所	教授	岸村	栄毅
大学院水産科学研究所	助教	李	大雄

・水産科学館専門委員会 平成 31 (2019) 年 4 月 1 日～

大学院水産科学研究所	教授	今村	央
総合博物館	教授	大原	昌宏
総合博物館	助教	田城	文人
大学院水産科学研究所	教授	綿貫	豊
大学院水産科学研究所	准教授	河合	俊郎
大学院水産科学研究所	准教授	山口	篤
大学院水産科学研究所	准教授	平譚	享
大学院水産科学研究所	教授	水田	浩之
大学院水産科学研究所	准教授	東藤	孝
大学院水産科学研究所	教授	岸村	栄毅
大学院水産科学研究所	助教	李	大雄

8. 総合博物館研究部

<研究部>

平成(平成 28 年 4 月 1 日～令和 2 年 3 月 31 日)

研究部長 高橋 英樹 (～平成 29 年 3 月 31 日)

研究部長 湯浅 万紀子 (平成 29 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日)

研究部長 大原 昌宏 (平成 31 年 4 月～)

○資料基礎研究系

教授 高橋 英樹 (植物体系学) (～平成 29 年 3 月 31 日)

教授 大原 昌宏 (昆虫体系学)

准教授 阿部 剛史 (海藻分類学)

助教 河合 俊郎 (魚類分類学) (～平成 30 年 3 月 31 日)

助教 田城 文人 (魚類分類学) (平成 30 年 4 月 1 日～)

助教 首藤 光太郎 (植物分類学) (平成 31 年 4 月 1 日～)

○資料開発研究系

教授 小林 快次 (古生物学)

准教授 山本 順司 (地球科学)

准教授 江田 真毅 (考古学)

○博物館教育・メディア研究系

教授 湯浅 万紀子 (博物館教育学)

助教 山下 俊介 (映像資料学) (～令和 2 年 3 月 31 日)

教員会議は、以下の通り開催された.

(2016年度)

第1回 28.5.19 メール持ち回り／第2回 28.7.20／

第3回 28.12.5 メール持ち回り／第4回 29.1.25／第5回 29.3.1

(2017年度)

第1回 29.7.26／第2回 29.9.1／第3回 30.1.31／第4回 30.3.2

(2018年度)

第1回 30.7.18／第2回 30.7.27／第3回 31.1.16／第4回 31.2.12／

第5回 31.3.18

(2019年度)

第1回 R1.10.9／第2回 R2.3.25 メール持ち回り

9. 資料部研究員

平成（平成28年4月1日～令和2年3月31日年度）									
大学院文学研究科	教授	佐々木 亨		総合博物館				小野 裕子	
大学院理学研究院	准教授（～H28年度）			総合博物館				小林 孝人	
	教授（H29年度～）			総合博物館				佐藤 広行	
		小亀 一弘		総合博物館				新井田 清信	
大学院理学研究院	教授	堀口 健雄		総合博物館				春木 雅寛	
大学院理学研究院	教授	増田 隆一		総合博物館				菊田 融	
大学院理学研究院	准教授	柁原 宏		総合博物館					
大学院理学研究院	准教授	沢田 健		北海道大学		名誉教授		杉山 滋郎	
大学院工学研究院	助教	池上 重康		北海道大学		名誉教授		諏訪 正明	
大学院工学研究院	助教（～H28年度）			北海道大学		名誉教授			
	特任助教（H29年度～H30年度）			北海道大学		名誉教授		仲谷 一宏	
		小野 修司		北海道大学					
大学院薬学研究院	技術職員	乙黒 聡子		総合博物館				岡田 大岬	
大学院農学研究院	教授	佐野 雄三		総合博物館					
大学院農学研究院	准教授	吉澤 和徳		北海道大学		名誉教授		松枝 大治	
大学院農学研究院	講師	宮本 敏澄		北海道大学					
大学院獣医学研究科	教授（～H28年度）			神流町恐竜センター		研究員		久保田 克博	
	特任教授（H29年度～H30年度）			総合博物館					
		片倉 賢		総合博物館				佐々木 均	
大学院水産科学研究院	特任教授（H28年度～H29年度）			総合博物館					
	名誉教授（H30年度～）			総合博物館				佐藤 謙	
		矢部 衛		総合博物館					
大学院地球環境科学研究院	教授	大原 雅		総合博物館				竹田 裕介	
北方生物圏フィールド科学センター	准教授	四ツ倉 典滋		総合博物館					
北方生物圏フィールド科学センター	助教	東 隆行		総合博物館				田中 康平	
アイヌ・先住民研究センター	教授	加藤 博文		総合博物館					
埋蔵文化財調査センター	助教	高倉 純		総合博物館				渡部 英昭	
埋蔵文化財調査センター	助教	守屋 豊人		総合博物館					
北海道教育大学	教授	高久 元		総合博物館					
千歳科学技術大学	研究主幹	下村 政嗣		低温科学研究所		助教		大館 智志	
国立科学博物館	研究主幹	篠原 現人		総合博物館					
浦幌町立博物館	学芸員	持田 誠		名古屋市立大学		准教授		角 哲	
むかわ町穂別博物館	学芸員	西村 智弘		総合博物館					
国沼田町化石館（～H28年度）	学芸員			北海道大学		名誉教授		高橋 英樹	
大阪市立自然史博物館（H29年度～）	学芸員	田中 嘉寛		総合博物館					
瑞穂町郷土資料館けやき館	嘱託職員	谷亀 高広		大学院理学研究院		教授		中川 光弘	
北海道大学	名誉教授	片倉 晴雄		総合博物館					
北海道大学	名誉教授	木村 正人		大学院水産科学研究院		准教授		河合 俊郎	
北海道大学	名誉教授	五嶋 聖治		総合博物館					
北海道大学	名誉教授	近藤 誠司		洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会学術研究員				西 勇樹	
北海道大学	名誉教授	津曲 敏郎		総合博物館					
北海道大学	名誉教授	戸田 正憲						山中 草叶	
北海道大学	名誉教授	藤田 正一							
北海道大学	名誉教授	馬渡 駿介							
総合博物館		天野 哲也							
総合博物館		石川満寿夫							
総合博物館		泉 洋江							
総合博物館		稲荷 尚記							
総合博物館		越前谷宏紀							

10. 客員教授・外国人研究員（平成28年度在任）

○平成28年6月27日～平成28年9月2日・特任教授

Leschen Richard Alan（ニュージーランド・ランドケア・リサーチ）

11. 国内研究員（平成28年度在任） なし

III. 学術標本・データベース

1. 陸上植物標本コレクション (SAPS)

【利活用】

北大総合博物館植物標本庫利用者数 (人・日) 記録

年度	学内	学外	総計
2016	10	50	60
2017	11	73	84
2018	16	46	62
2019	9	46	55

標本庫は学内の院生・学生により日常的に利用されている。「学内」とした記録はゲストブックに記録されている者のみで、実際の利用者の一部である。

1-1) 標本庫利用者記録 (学外者のみ)

(2016年度 : 2016.4-2017.3) 32件

- 2016.05.24 山崎真実 (札幌市博物館活動センター), ホテアツモリなど
- 2016.06.14 勝山輝男 (神奈川県立生命の星・地球博物館), スゲ属
- 2016.07.05 富松裕 (山形大学), エンレイソウ属
- 2016.09.06 Shufen Cheng (National Taiwan University), General plants
- 2016.09.06 Kuang-hua Chen (National Taiwan University), General plants
- 2016.09.09 札幌藻岩高校より 10名, カモガヤ
- 2016.09.15 新田紀敏 (北海道立総合研究機構林業試験場), イグサ科など
- 2016.09.16 札幌藻岩高校より 10名, イネ科
- 2016.09.21 高嶋八千代 (釧路市), ショウブ属, タヌキモ属
- 2016.10.13 新田紀敏 (北海道立総合研究機構林業試験場), ジンチョウゲ属
- 2016.10.27 武田千恵子 (日本シダの会), シダ類, アブラナ科
- 2016.10.28 宮本太 (東京農業大学), キク科, イグサ科, ホシクサ科, スゲ属
- 2016.11.07 武田千恵子 (日本シダの会), シダ類, アブラナ科
- 2016.11.10 新田紀敏 (北海道立総合研究機構林業試験場), シロネ属
- 2016.11.17 新田紀敏 (北海道立総合研究機構林業試験場), ジンチョウゲ属
- 2016.11.25 内田暁友 (知床博物館), 知床半島産植物
- 2016.11.25 高嶋八千代 (釧路市), スゲ属, ノガリヤス属
- 2016.11.26 高嶋八千代 (釧路市), スゲ属, イチヤクソウ属
- 2016.12.08 新田紀敏 (北海道立総合研究機構林業試験場), ジンチョウゲ属

2016.12.20 佐々木純一 (雨竜沼湿原を愛する会), ミクリ属
 2017.01.12 新田紀敏 (北海道立総合研究機構林業試験場), タヌキモ属
 2016.01.25 加藤ゆき恵 (釧路市立博物館), 川上瀧彌標本
 2016.01.26 新田紀敏 (北海道立総合研究機構林業試験場), ジンチョウゲ属
 2016.02.09 新田紀敏 (北海道立総合研究機構林業試験場), シソ科
 2016.02.18 五十嵐博 (北海道野生植物研究所), キンポウゲ科
 2016.02.23 新田紀敏 (北海道立総合研究機構林業試験場), ヤナギ属
 2016.03.09 新田紀敏 (北海道立総合研究機構林業試験場), ジンチョウゲ属
 2016.03.16 新田紀敏 (北海道立総合研究機構林業試験場), シダ類
 2016.03.21 神昌行 ((株) エコニクス), 不明
 2016.03.21 三木昇 ((株) エコニクス), 不明
 2016.03.22 新田紀敏 (北海道立総合研究機構林業試験場), 湿原植物
 2016.03.28 加藤ゆき恵 (釧路市立博物館), 秋山コレクション

(2017年度 : 2017.4-2018.3) 55件

2017.04.13 新田紀敏 (北海道立総合研究機構林業試験場), カシワ
 2017.04.20 新田紀敏 (北海道立総合研究機構林業試験場), カシワ
 2017.04.20 石塚航 (北海道立総合研究機構林業試験場), グイマツ
 2017.04.21 内田暁友 (知床博物館), 知床半島産植物
 2017.04.21 高嶋八千代 (釧路市), アザミ属
 2017.04.21 我妻尚広 (酪農学園大学), エゾコザクラ
 2017.04.24 山崎真実 (札幌市博物館活動センター), スズランなど
 2017.04.27 新田紀敏 (北海道立総合研究機構林業試験場), カシワ
 2017.05.22 田端英雄 (岐阜県立看護大学), カバノキ科
 2017.06.22 新田紀敏 (北海道立総合研究機構林業試験場), 湿原植物
 2017.08.24 陶山佳久 (東北大学), キタダケソウ属
 2017.09.05 加藤ゆき恵 (釧路市立博物館), 川上瀧彌標本
 2017.09.07 指村奈穂子 (山梨県森林総合研究所), スイカズラ属
 2017.09.08 札幌藻岩高校より 10名, イネ科
 2017.09.14 新田紀敏 (北海道立総合研究機構林業試験場), ジンチョウゲ属
 2017.09.15 札幌藻岩高校より 10名, イネ科
 2017.09.28 新田紀敏 (北海道立総合研究機構林業試験場), ジンチョウゲ属
 2017.10.26 五十嵐博 (北海道野生植物研究所), イネ科
 2017.10.26 新田紀敏 (北海道立総合研究機構林業試験場), イネ科
 2017.10.27 高嶋八千代 (釧路市), アザミ属
 2017.10.28 高嶋八千代 (釧路市), トリカブト属

2017.11.01 永光輝義 (森林総合研究所), コナラ属, カバノキ属
 2017.11.05 五十嵐博 (北海道野生植物研究所), イネ科
 2017.11.09 山崎真実 (札幌市博物館活動センター), ハイハマボッサ, ガマ科
 2017.11.16 新田紀敏 (北海道立総合研究機構林業試験場), ジンチョウゲ属
 2017.11.23 藤田豊 (倶知安町), カヤツリグサ科
 2017.11.27 高嶋八千代 (釧路市), トクサ属
 2017.11.28 高嶋八千代 (釧路市), スミレ属
 2017.12.02 五十嵐博 (北海道野生植物研究所), キク科など
 2017.12.07 堀江健二 (旭川市北邦野草園), イネ科など
 2017.12.07 新田紀敏 (北海道立総合研究機構林業試験場), メシダ科など
 2017.12.09 五十嵐博 (北海道野生植物研究所), キク科など
 2017.12.18 武田千恵子 (日本シダの会), シダ類
 2018.01.11 新田紀敏 (北海道立総合研究機構林業試験場), イネ科
 2018.01.20 岩部周次, シダ類
 2018.01.20 岩部佳明, シダ類
 2018.01.22 志田祐一郎 ((株) 野生生物総合研究所), ミクリ属, タヌキモ属
 2018.01.25 新田紀敏 (北海道立総合研究機構林業試験場), カヤツリグサ科
 2018.01.29 牧雅之 (東北大学), スイカズラ科, バラ科, メギ科など
 2018.02.08 新田紀敏 (北海道立総合研究機構林業試験場), バラ科
 2018.02.21 五十嵐博 (北海道野生植物研究所), カヤツリグサ科, キク科
 2018.02.21 宮本誠一郎 (礼文町), 不明
 2018.02.22 黒沢高秀 (福島大学), チシマウスバスマレ
 2018.02.22 新田紀敏 (北海道立総合研究機構林業試験場), タデ科, キク科
 2018.03.08 新田紀敏 (北海道立総合研究機構林業試験場), コウガイゼキショウ属
 2018.03.13 横川昌史 (大阪市立自然史博物館), ハナシノブ属, ガマ属
 2018.03.13 澤田佳宏 (兵庫県立淡路景観園芸学校), バシクルモン, ウンラン
 2018.03.14 横川昌史 (大阪市立自然史博物館), ハナシノブ属
 2018.03.14 首藤光太郎 (新潟大学), ヒルムシロ属, イチヤクソウ属
 2018.03.14 志賀隆 (新潟大学), アリノトウグサ科
 2018.03.14 指村奈穂子 (琉球大学), スイカズラ属
 2018.03.14 酒井章子 (京都大学), ミヤマニガウリ
 2018.03.15 横川昌史 (大阪市立自然史博物館), ハナシノブ属
 2018.03.15 内田暁友 (知床博物館), 道東産標本
 2018.03.15 福田知子 (三重大学), ユキノシタ科

(2018年度：2018.4-2019.3) 46件

- 2018.04.07 五十嵐博 (北海道野生植物研究所), スミレ属など
2018.04.11 我妻尚広 (酪農学園大学), エゾコザクラ, ハマエンドウ
2018.04.11 原悠里 (酪農学園大学), エゾコザクラ, ハマエンドウ
2018.04.11 伊東時子 (酪農学園大学), エゾコザクラ, ハマエンドウ
2018.04.19 長谷川榮, 資料閲覧
2018.04.24 若原正博, トクサ属
2018.04.24 佐々木香織 ((株)北開水コンサルタント), トクサ属
2018.05.08 長谷川榮, 資料閲覧
2018.06.15 山下由美 (福島大学/国立科学博物館), ラン科, サカネラン属
2018.07.17 山崎真実 (札幌市博物館活動センター), タデ科など
2018.07.20 神戸敏成 (富山県中央植物園), センノウ属
2018.08.09 石塚航 (北海道立総合研究機構林業試験場), ヤナギ属
2018.10.15 山下由美 (福島大学/国立科学博物館), ラン科, サカネラン属など
2018.11.09 堀江健二 (旭川市北邦野草園), 旭川産植物
2018.11.16 堀江健二 (旭川市北邦野草園), 旭川産植物
2018.11.20 堀江健二 (旭川市北邦野草園), 旭川産植物
2018.11.28 堀江健二 (旭川市北邦野草園), 旭川産植物
2018.12.04 北原涼子 ((株)野生生物総合研究所), キク科
2018.12.05 堀江健二 (旭川市北邦野草園), 旭川産植物
2018.12.06 五十嵐博 (北海道野生植物研究所), キク科
2018.12.08 山崎真実 (札幌市博物館活動センター), スゲ属
2018.12.12 堀江健二 (旭川市北邦野草園), 旭川産植物
2018.12.12 武田千恵子 (日本シダの会), スミレ属
2018.12.13 志賀隆 (新潟大学), ジャニンジン
2018.12.21 堀江健二 (旭川市北邦野草園), 旭川産植物
2019.01.09 堀江健二 (旭川市北邦野草園), 旭川産植物
2019.01.16 堀江健二 (旭川市北邦野草園), 旭川産植物
2019.01.18 加藤ゆき恵 (釧路市立博物館), スゲ属
2019.01.25 堀江健二 (旭川市北邦野草園), 旭川産植物
2019.01.30 堀江健二 (旭川市北邦野草園), 旭川産植物
2019.02.06 堀江健二 (旭川市北邦野草園), 旭川産植物
2019.02.06 志田祐一郎 ((株)野生生物総合研究所), アザミ属
2019.02.13 堀江健二 (旭川市北邦野草園), 旭川産植物
2019.02.20 堀江健二 (旭川市北邦野草園), 旭川産植物
2019.02.27 堀江健二 (旭川市北邦野草園), 旭川産植物

2019.03.06 堀江健二 (旭川市北邦野草園), 旭川産植物
 2019.03.13 堀江健二 (旭川市北邦野草園), 旭川産植物
 2019.03.17 内田暁友 (知床博物館), シダ類
 2019.03.18 加藤ゆき恵 (釧路市立博物館), スゲ属
 2019.03.18 山崎真実 (札幌市博物館活動センター), ミズニラ属
 2019.03.18 河合久仁子 (東海大学), シダ類
 2019.03.18 東海林亨 (東海大学), シダ類
 2019.03.19 内田暁友 (知床博物館), シダ類
 2019.03.20 堀江健二 (旭川市北邦野草園), 旭川産植物
 2019.03.27 堀江健二 (旭川市北邦野草園), 旭川産植物
 2019.03.27 高嶋八千代 (釧路市), 不明

(2019年度 : 2019.4-2020.3) 42件

2019.04.13 五十嵐博 (北海道野生植物研究所), 不明
 2019.05.24 山下由美 (福島大学/国立科学博物館), ラン科, サカネラン属など
 2019.05.27 山下由美 (福島大学/国立科学博物館), ラン科, サカネラン属など
 2019.06.02 浅沼孝夫 (羅臼町), ラン科, ヒメミヤマウズラ
 2019.06.10 劉翠雅 (中央研究院), 標本庫見学
 2019.06.15 中島優介 (滋賀県立大学), マメ科
 2019.06.21 末次健司 (神戸大学), ラン科
 2019.06.27 五十嵐博 (北海道野生植物研究所), イネ科など
 2019.07.01 山下由美 (福島大学/国立科学博物館), ラン科
 2019.07.09 永光輝義 (森林総合研究所), ブナ科
 2019.07.18 田島裕子 (札幌市), イチヤクソウ科
 2019.07.25 五十嵐博 (北海道野生植物研究所), トウヒレン属
 2019.08.18 片桐浩司 (秋田中央高校, 家族4名と同伴), トリゲモ属
 2019.08.28 早川尚 (フロス・ソサエティ), 標本庫見学
 2019.08.28 岡本恵 (フロス・ソサエティ), 標本庫見学
 2019.08.28 半澤仁美 (フロス・ソサエティ), 標本庫見学
 2019.09.02 山崎真実 (札幌市博物館活動センター), ビャクダン科, オオバヤドリギ科
 2019.09.06 伊藤克美 (新潟大学), 標本庫見学
 2019.09.13 安倍浩 (日本ぎぼうし協会), ギボウシ属
 2019.09.25 岡本恵 (フロス・ソサエティ), 地衣類標本
 2019.10.16 山崎真実 (札幌市博物館活動センター), ブナ科
 2019.11.09 五十嵐博 (北海道野生植物研究所), キク科など

- 2019.11.26 高嶋八千代 (道東野生植物調査会), 蝦夷草木写真
 2019.11.28 佐々木純一 (雨竜沼湿原を愛する会), コウホネ属
 2019.12.05 武田千恵子 (日本シダの会), シダ類
 2019.12.10 Alexey Shipunov (Kyoto University), Plantago
 2019.12.11 堀江健二 (旭川市北邦野草園), 旭川産植物
 2019.12.12 安富佐織 (生物多様性研究会), 標本庫見学
 2019.12.18 堀江健二 (旭川市北邦野草園), 旭川産植物
 2019.12.25 堀江健二 (旭川市北邦野草園), 旭川産植物
 2020.01.10 堀江健二 (旭川市北邦野草園), 旭川産植物
 2020.01.15 堀江健二 (旭川市北邦野草園), 旭川産植物
 2020.01.22 堀江健二 (旭川市北邦野草園), 旭川産植物
 2020.01.22 中濱直之 (兵庫県立大学/兵庫県立人と自然の博物館), 道産標本
 2020.01.27 武田千恵子 (日本シダの会), シダ類
 2020.02.03 山崎真実 (札幌市博物館活動センター), タヌキモ属, カワツルモ属など
 2020.02.06 酒井南帆 (名城大学), サワトウガラシなど
 2020.02.12 武田和哉 (大谷大学), アブラナ科
 2020.02.15 藤井伸二 (人間環境大学), ユキノシタ属, スゲ属
 2020.02.15 牧雅之 (東北大学), ユキノシタ属
 2020.02.17 荒川克郎 (ユリ協会), ユリ属
 2020.03.17 角寿子 (NPO 法人 アースネットワーク), アカネ科, ムラサキ科

1-2) 貸出・送付標本、研究用試料提供記録 (2016-19 年度) 3 件

- 2017.03.28 加藤ゆき恵 (釧路市立博物館), スゲ属 20 点
 2019.07.19 持田誠 (浦幌町立博物館), ウラホロイチゲ 1 点
 2020.02.18 志賀隆 (新潟大学), ジャニンジン, 広義ヒツジグサ 235 枚

1-3) 受領標本記録 (2016-19 年度) 1 件

- 2017.03 佐藤謙 (北海学園大学), 道内産維管束植物標本: 点数不明 (2 万点以上)

標本庫では学内/学外者による標本寄贈が日常的に行われており, 大型のコレクションの受入 (1,000 点以上) のみを記した。

1-4) SAPS 標本が引用されている主な論文 (2016-19 年度) 13 件

1. 佐藤広行. 2017. 北海道大学総合博物館植物標本庫(SAPS)から発見された新渡戸稲造のシダ標本. 植物研究雑誌 92: 369–372.

2. Shutoh K, Kaneko S, Kurosawa T. 2017. Taxonomy and distribution of *Pyrola subaphylla* Maxim. (Pyroleae, Ericaceae). *Acta Phytotax. Geobot.* 68: 181–192.
3. 佐藤広行・細川音治. 2018. マリモ（アオミソウ科）に根付いたクロモ（トチカガミ科）の標本について. *植物研究雑誌* 93: 211–214.
4. 佐藤広行・伊藤美穂子・加藤康子. 2018. オクシリエビネ（ラン科）の新産地および生育環境. *植物研究雑誌* 93: 278–286.
5. Tamura S, Fukuda T, Pimenova EA, Petrunenko EA, Krestov PV, Bondarchuk SN, Chernyagina OA, Suyama Y, Tsunamoto Y, Matsuo A, Tsuboi H, Takahashi H, Sato K, Nishikawa Y, Shimamura T, Fujita H, Nakamura K. 2018. Molecular and cytological evidences denied the immediate-hybrid hypothesis for *Saxifraga yuparensis* (sect. *Bronchiales*, Saxifragaceae) endemic to Mt. Yubari in Hokkaido, northern Japan. *Phytotaxa* 373: 53–70
6. 吉中弘介, 佐藤広行. 2018. 北海道大学総合博物館陸上植物標本庫 (SAPS) における APG 植物分類体系の導入方法とその経緯. *北方山草* (35): 70–79.
7. 速水将人, 岩崎健太, 新田紀敏, 中濱直之. 2019. 北海道更別村の防風林で絶滅危惧種ヤチカンバ集団を発見. *植物研究雑誌* 94(2): 117–122.
8. 中川博之, 佐藤謙. 2019. ラウススゲの新産地. *莎草研究* (21): 21–27.
9. 新田紀敏. 2019. 東野幌湿原の植物相. *旭川市北邦野草園研究報告* (7): 17–24.
10. 新田紀敏. 2019. 美唄山（北海道空知地方）の維管束植物相. *北海道林業試験場研究報告* (56): 21–30.
11. 佐藤広行, 五十嵐博, 蛭名順子. タネツケバナ属 3 種（アブラナ科）の北海道, 千島列島とサハリンにおける分布. *植物研究雑誌* 94: 27–34.
12. 佐藤謙, 中川博之. 2019. 北海道日高山脈額平川流域パンケチエブ沢の維管束植物相. *旭川市北邦野草園研究報告* (7): 33–58.
13. 高橋英樹. 2019. SAPS から見つかった佐藤昌介の 1876 年採集標本. *北方山草* (36): 32–38.
14. 高橋英樹. 2019. SAPS に所蔵されている〈鳥山啓寄贈〉標本の特徴. *北方山草* (36): 39–44.
15. 佐藤謙, 中川博之. 2020. 大雪山系忠別岳の維管束植物相. *旭川市北邦野草園研究報告* (8): 25–41.

2. 菌類標本コレクション (SAPA)

3. 海藻標本コレクション(SAP)

4. 昆虫標本コレクション (SEHU)

【利活用】

年度	学外者国内	学外者海外	総計
2016	6	6	10
2017	15	6	21
2018	30	12	42
2019	25	3	28

標本庫は学内の学生・院生・ボランティアによって恒常的に利用されており、「学外者」のみ国内、海外に分けて記した。

4-1) 貸出記録 (日付／貸出者住所または所属／氏名／貸出分類群) (2016FY-2019FY)

(2016年度：2016.4-2017.3) 12件

2016. 04. 9/Dep. of Entomology, Taiwan Univ., Taiwan/Chiun-Chen Ko (Chen-Fu Hsu)/Coleoptera: Curculionidae

2016. 04. 11/森林総合研究所/末吉昌宏/Diptera: ツマグロヒメキノコバエ

2016. 04. 27/帯広市/鳥倉英徳/Hemiptera: Aphididae/松村コレクション

2016. 05. 23/千葉県立中央博物館/倉西良一/Tricoptera/松村コレクション

2016. 06. 15/Kobe Univ./Rebecca Kittel/Hymenoptera: Brachonidae/

2016. 07. 05/静岡県/浅野 真 /Coleoptera: Melyridae/

2016. 08. 25/Applied Zoology Division, Taiwan Agriculture Research Institute, Taiwan/Chi-Feng Lee/Coleoptera: Chrysomelidae/

2016. 10. 11/Queensland Primary Industries Insect Collecion Australia/Justin Bartlett/Coleoptera: Cleridae/

2016. 12. 16/九州大学/三枝豊平/Neuroptera: ヤエヤマツノトンボ/

2017. 01. 31/大阪府/安藤清志/Coleoptera: Tenebrionidae/

2017. 02. 09/Univ. New Hampshire, USA/Erica Tucker/Hymenoptera: Apidae/

2017. 02. 09/Museum fur Naturkunde, Germany/Sven Eriacher/Lepidoptera:

Geometridae/

(2017年度：2017.4-2018.3) 11件

2017. 04. 17/東京首都大学/Rijai Satria/Hymenoptera: Formicidae
2017. 05. 22/National Museum of Wales, UK/C. J. Hodgson/Hemiptera:
Sternorrhyncha
2017. 05. 23/Illinois Natural History Survey, UIUC, USA/Christopher
Dietrich /Hemiptera: Cicadellidae
2017. 06. 14/恵庭市/伊藤富子/Trichoptera: シマトビケラ
2017. 07. 7/九州大学/辻尚道/Coleoptera: Curculionidae/Nakane coll. Kono
coll.
2017. 07. 22/愛媛大学/吉富博之/Coleoptera: テントウムシダマシ科、デバヒ
ラタムシ科
2017. 07. 22/愛媛県立衛生環境研究所/久松定智/Coleoptera: ケシキスイ科
2017. 08. 02/Chungnam National University, Korea/Sunghoon Jung/Hemiptera:
Cicadellidae
2017. 08. 09/九州大学/三田敏治/Hymenoptera: Scelionidae
2017. 09. 25/千代田ラフト、東京/橋口恵理加/Psocoptera: Trogiomorpha
2017. 11. 28/北海道教育大旭川/奥寺繁/Hemiptera: Athysanus

(2018年度：2018.4-2019.3) 13件

2018. 04. 25/国立科学博物館、東京/野村周平/Psocoptera: Neotrogla curvata
2018. 07. 14/CAS, China/Huanxi Cao/Hymenoptera: Eulophidae
2018. 07. 14/国立科学博物館/篠原明彦/Hymenoptera: Xiphydriidae
2018. 07. 14/Zoologische Staatssammlung Munchen, Germany/Matthias
Riedel/Hymenoptera: Ichneumonidae
2018. 09. 03/株式会社ドリームスタジオ/鈴木真梨子/Psocoptera: Neotrogla
curvata
2018. 09. 12/Chungnam National University, Korea/Sunghoon Jung/ Hemiptera:
Cicadellidae
2018. 09. 19/千歳市/久原直利/Trichoptera
2018. 09. 27/愛媛大学/小西和彦（黒田啓太）/Diptera
2018. 10. 29/株式会社ドリームスタジオ/鈴木真梨子/Psocoptera: Neotrogla
curvata
2018. 12. 16/Sichuan, P.R. China/Wang Cheng-Bin/Coleoptera: Cupedidae,
Rhysodidae

2018. 12. 20/ Zoologische Staatssammlung Munchen, Germany/Stefan Schmidt
(Andres Fabian Herrea)/Hymenoptera: Ichneumonidae
2018. 12. 20/ Dept. Zoology, Swedish Museum of Natural History/Julia
Stigenberg/Hymenoptera: Braconidae
2019. 1. 9/横浜植物防疫所/榎本雅身/Thysanoptera

(2019 年度 : 2019.4-2020.3) 19 件

2019. 05. 07/Zoologische Staatssammlung Munchen, Germany/Matthias
Riedel/Hymenoptera: Ichneumonidae
2019. 05. 07/九州大学/荒谷邦雄/Coleoptera: Lucanidae
2019. 05. 07/神奈川県立博物館/渡辺恭平/ Hymenoptera: Ichneumonidae
2019. 05. 07/九州大学/駒形森/Diptera: Tachinidae
2019. 06. 17/愛媛大学/田中宏卓/Hemiptera: Coccoidea
2019. 07. 01/Russian Academy of Science, St. Petersburg/K. Samartsev/
Hymenoptera: Braconidae
2019. 07. 10/川越市/亀澤洋/Coleoptera: Carabidae
2019. 8. 12/日本大学/岩田龍太郎 (Lan-Yu Liu) /Coleoptera: Bostrichidae
2019. 8. 28/横浜植物防疫所/榎本雅身/Thysanoptera
2019. 9. 27/Gyeongsang National Univ., Korea/Wonhoon Lee/Hemiptera
2019. 11. 16/帯広市/鳥倉英徳/Hemiptera: Aphididae
2020. 02. 05/千葉大学/笹川幸治/Coleoptera: Carabidae
2020. 01. 20/帯広市/鳥倉英徳/Hemiptera: Aphididae
2020. 03. 05/Zoologische Staatssammlung Munchen, Germany/Matthias
Riedel/Hymenoptera: Ichneumonidae
2020. 03. 05/Markkleeberg, Gerny/Heinz Schnee/Hymenoptera: Ichneumonidae
2020. 03. 05/石川県ふれあい昆虫館/渡部晃平/Coleoptera: Hydrovaus
2020. 03. 05/豊橋市/森下俊介/ Hymenoptera: Ichneumonidae
2020. 03. 05/台湾特有生物研究保育中心/施 Shih Li-Cheng/Lepidoptera
2020. 03. 05/九州大学/松尾和典/Hymenoptera: Pteromalidae
2020. 03. 06/九州大学/松尾和典/Hymenoptera: Torymidae

4-2) 受領標本記録 (2016-2019 年度)

小松剛 (札幌市南区) チョウ類標本 (北海道、青森産) : ドイツ箱約 69 箱 (2017
年 4 月 27 日受入)
鈴木常司 (沖縄県名護市) チョウ類標本 (北海道、青森産) : ドイツ箱約 69
箱 (2017 年 7 月 6 日受入)

眞野進 (札幌市) オサムシ類標本 (北海道、青森産) : ドイツ箱約 150 箱 (2017 年 7 月 6 日受入)

坂本昇三 (札幌市あいの里) オサムシ類など昆虫類全般標本 : ドイツ箱約 206 箱 (2018 年 3 月 30 日受入)

青山慎一 (札幌市厚別区) チョウ類など昆虫類全般標本 : ドイツ箱約 1,200 箱 (2018 年 11 月 9 日受入)

小林隆彦 (札幌市厚別区) チョウ類など昆虫類全般標本 : ドイツ箱約 50 箱 (2018 年 11 月 10 日受入)

棟方明陽 (函館市鍛冶 : 北海道教育大学函館校 名誉教授) ハナバチ類など昆虫類全般標本 : 小型印籠箱約 1,500 箱、紙箱約 300 箱 (2019 年 10 月 22 日受入)

4-3) SEHU 標本が引用された主な論文

(2016 年度) 10 件

- Hsu, C. F., Y. Hsiao & M. Ôhara, 2016. Synonymical notes on *Ectatorhinus adamsii* Lacordaire, 1865 (Coleoptera, Curculionidae). *Elytra*, Tokyo, (n. ser.), 6 (2): 215–217.
- Kikuchi, N., & K. Konishi, 2016. Taxonomic notes on Japanese species of *Probolus* (Ichneumonidae: Ichneumoninae), with a new record of *Probolus cyanogaster* Jeong. *Japanese journal of systematic entomology*, 22 (1): 127–129.
- Konishi, K., & N. Kikuchi, 2016. New record of *Pristaulacus kostylevi* (Alekseev, 1986) (Hymenoptera: Aulacidae) from Japan. *Japanese journal of systematic entomology*, 22 (1): 25–27.
- Matsuo, K., & E. Takagi, 2016. New host records of *Macrdasyceras japonicum* (Ashmead, 1904) (Hymenoptera, Torymidae), with notes of its morphology. *Japanese journal of systematic entomology*, 22 (2): 175–178.
- Shimizu, S., 2016. *Agrypon Triangulum* Uchida, 1958 (Hymenoptera: Ichneumonidae: Anomaloninae), new to Taiwan of the Oriental Region. *Japanese journal of systematic entomology*, 22 (1): 39–41.
- Shimizu, S., & K. Maeto, 2016. Three oriental species of the genus *Enicospilus* Stephens (Hymenoptera: Ichneumonidae: Ophioninae) newly recorded from Japan. *Japanese journal of systematic entomology*, 22 (2): 203–207.
- Shimizu, S., K. Watanabe & K. Maeto, 2016. Revision of the Taiwanese species of the genus *Leptophion* Cameron, 1901 (Hymenoptera: Ichneumonidae: Ophioninae), with a discussion of their phenology and distribution. *Zootaxa*,

4144 (1): 71–88.

- Suenaga, H., & H. Miyauchi, 2016. *Lema (Lema) lacertosa* Lacordaire (Coleoptera, Chrysomelidae) newly recorded from Japan. *Elytra*, Tokyo, (n. ser.), 6 (1): 15–18.
- Suenaga, H., & T. Yoshida, 2016. Two new species of the genus *Clavicornaltica* (Coleoptera, Chrysomelidae, Galerucinae) from Taiwan and Ishigaki-jima Islands, Japan. *Elytra*, Tokyo, (n. ser.), 6 (1): 1–9.
- Ôhara, M., & J. C. Paik, 2016. Records of histerid beetles from Jeju Island, Korea (Coleoptera, Histeridae). *Elytra*, Tokyo, (n. ser.), 6 (2): 355–358.

(2017 年度) 4 件

- Achterberg, C. van, K.-D. Long & X.-X. Chen, 2017. Review of *Stantonina* Ashmead (Hymenoptera, Braconidae, Orgilinae) from Vietnam, China, Japan, and Russia, with descriptions of six new species. *ZooKeys*, 723: 61–119.
- Ikeda, H., & H. Yoshitomi, 2017. Revision of the genus *Intybia* (Coleoptera: Malachiidae) from Japan. *European journal of taxonomy*, 331: 1–31.
- Liao, J.-R., C.-C. Ho & C.-C. Ko, 2017. Species of the genus *Euseium* Wainstein (Acari: Phytoseiidae: Amblyseiiinae) from Taiwan. *Zootaxa*, 4226 (2): 205–228.
- Sogo, K., & H. Yoshitomi, 2017. A revision of the genus *Ancylopus* (Coleoptera, Endomychidae) of Japan. *Elytra*, Tokyo, (n. ser.), 7 (2): 421–438.

(2018 年度) 1 件

- Asano, M., H. Ikeda, H. Kamezawa & S. Nomura, 2018. Revision of six species of the subtribe *Ebaeina* of Japan, with description of a new species. *Japanese journal of systematic entomology*, 24 (1): 141–149.

(2019 年度) 3 件

- 市毛勝義, 2019. 日本産メバエ科忘備録. *はなあぶ*, (47): 35–64.
- Hisasue, Y., & K. Konishi, 2019. A new genus of the subfamily *Hybrizontinae* (Hymenoptera: Ichneumonidae) from Japan. *Zootaxa*, 4664 (2): 241–250.
- Lim, C., & Y. J. Bae, 2019. First record of *Aphodius (Agrilinus) hasegawai* Nomura et Nakane (Scarabaeidae: Aphodiinae) in Korea. *Entomological research bulletin*, 35 (1): 13–16.
- Yoshida, T., D. G. H. Halstead & T. Hirowatari, 2019. Discovery of the genus *Airaphilus* (Coleoptera: Silvanidae) in Japan, with a description of a

potentially endangered new species. Acta entomologica, 59 (1): 211–216.

重藤裕彬・末長晴輝・南 雅之・渡部晃平, 2020. ヨツモンカメノコハムシの分布記録および日本国内、特に琉球列島における分布の現状. ホシザキグリーン財団, (23): 227-243. 研究報告

5. 魚類標本コレクション (HUMZ)

【利活用】

本学の魚類標本は、日常的に教員・学生の研究、および学生の教育に活用されている。その他にも、国内外から多数の標本借用の要望があり、本学以外の研究者にも活用されている。2015年度は標本庫建て替えのため利用を休止していたが、2016年度より再開した。

5-1) 標本庫利用者記録 (学外者のみ: 2016. 4-2020. 3)

2016年4月-2017年3月

石松 惇 (長崎大学)

松浦啓一 (国立科学博物館)

篠原現人 (国立科学博物館)

沓名貴彦 (国立科学博物館)

君島裕介 (おたる水族館)

Raja Bidin Bin Raja Hassan (MFRDMD, Malaysia)

Mohammad Faisal Md Saleh (MFRDMD, Malaysia)

Sayan Promijinda (SEAFDEC, Thailand)

Stuart Poss (California Academy of Science, USA)

Renny Kurnia Hadiaty (Indonesian Institute of Sciences, LIPI)

2017年4月-2018年3月

岩槻幸雄 (宮崎大学)

遠藤広光 (高知大学)

荻本啓介 (下関市立しものせき水族館海響館)

酒巻一修 (株式会社建設環境研究所)

篠原現人 (国立科学博物館)

松浦啓一 (国立科学博物館)

田城文人 (京都大学)

藤井亮史 (岐阜県庁)

村崎謙太 (東海大学)

Karla Soares (Universidade de São Paulo)

金 誠勇 (National Marine Biodiversity Institute of Korea)

2018年4月-2019年3月

稲川亮 (北海道原子力環境センター)

甲斐嘉晃 (京都大学)

佐藤崇 (京都大学)

野別貴博 (知床財団)

松浦啓一 (国立科学博物館)

松沼瑞樹 (京都大学)

武藤望生 (東海大学)

2019年4月-2020年3月

稲川亮 (北海道原子力環境センター)

甲斐嘉晃 (京都大学)

鶴岡理 (厚岸翔洋高校)

富田武照 (沖縄美ら島財団)

野別貴博 (知床財団)

三田昂平 (東京海洋大学)

Ian Gleadall (東北大学)

Jin-Koo Kim (Pukyong University)

5-2) 貸出・送付標本記録 (2016. 4-2020. 3)

2016年4月-2017年3月

2016.04.11 中山直英 (京都大学) 34点

2016.05.23 篠原現人 (国立科学博物館) 1点

2016.06.22 Jeff Johnson (Queensland Museum) 3点

2016.08.09 篠原現人 (国立科学博物館) 1点

2016.08.24 田城文人 (京都大学) 16点

2016.08.24 岡本誠 (西海区水産研究所) 14点

2016.09.15 富山晋一 (東海大学) 2点

2016.09.16 井田齋 (北里大学) 8点

2016.12.02 松浦啓一 (国立科学博物館) 2点

2016.12.02 Nicolas Straube (Zoologische Staatssammlung München) 2点

2016.12.20 本村浩之 (鹿児島大学) 1点

2017.02.06 池谷幸樹 (世界淡水魚水族館アクアトト岐阜) 1点

2017.02.22 松原創 (東京農業大学) 1点

2017.03.03 Veera Vilasri (National Science Museum, Thailand) 314点

2017年4月-2018年3月

2017.04.17 Marcelo R. de Carvalho (American museum of Natural History) 27 点
 2017.05.08 遠藤広光 (高知大学) 8 点
 2017.05.12 岡本誠 (水産研究・教育機構開発調査センター) 14 点
 2017.05.15 矢頭卓児 (神戸高校) 3 点
 2017.06.09 田城文人 (京都大学) 8 点
 2017.06.26 矢頭卓児 (神戸高校) 8 点
 2017.06.26 遠藤広光 (高知大学) 2 点
 2017.07.19 Martin F. Gomon (Museum Victoria) 4 点
 2017.09.26 福井篤 (東海大学) 2 点
 2017.10.10 白井滋 (東京農業大学) 3 点
 2017.11.21 白井滋 (東京農業大学) 1 点
 2017.12.01 Martin F. Gomon (Museum Victoria) 11 点
 2017.12.20 星野浩一 (水産研究・教育機構西海区水産研究所) 1 点
 2018.01.28 玉井健太 (下関市立しものせき水族館海響館) 1 点
 2018.02.20 Gavin Naylor (Florida Museum of Natural History) 3 点
 2018.02.21 Mark A. McGrouther (Australian Museum) 3 点
 2018.02.21 Rick Feeney (Natural History Museum of Los Angeles County) 2 点
 2018.02.26 木村清志 (三重大学) 1 点
 2018.03.05 Jeffery Johnson (Queensland Museum) 1 点
 2018.03.12 David Catania (California Academy of Sciences) 3 点
 2018.03.12 Shihua Kang (中国水産科学院) 8 点
 2018.03.20 Sarah Viana (South African Institute for Aquatic Biodiversity) 4 点
 2018.03.26 Roger Bills (South African Institute for Aquatic Biodiversity) 1 点
 2018.03.26 吉田朋弘 (水産研究・教育機構西海区水産研究所) 4 点
 2018 年 4 月-2019 年 3 月
 2018.04.04 石橋敏章 (下関市立しものせき水族館海響館) 1 点
 2018.04.06 Jeffrey T. Williams (National Museum of Natural History) 6 点
 2018.04.17 星野浩一 (水産研究・教育機構西海区水産研究所) 22 点
 2018.05.18 遠藤広光 (高知大学) 12 点
 2018.05.30 小島茂明 (東京大学) 6 点
 2018.06.07 松沼瑞樹 (近畿大学) 22 点
 2018.06.15 町田善康 (美幌博物館) 10 点
 2018.08.20 遠藤広光 (高知大学) 5 点
 2018.09.21 Hsuan-Ching Ho (National Museum of Marine Biology and Aquarium)
 5 点
 2018.11.15 Hsuan-Ching Ho (National Museum of Marine Biology and Aquarium)

17 点

- 2018.12.18 武藤望生 (東海大学) 1 点
2019.02.27 Andrew D. Williston (Museum of Comparative Zoology) 12 点
2019.02.27 Zora Gabsi (Muséum national d'Histoire naturelle) 2 点
2019.02.27 Marcus Krag (Zoological Museum, University of Copenhagen) 2 点
2019.03.05 Amanda Hay (Australian Museum) 9 点
2019.03.11 K. P. Maslenikov (University of Washington) 2 点
2019.03.15 武藤文人 (東海大学) 56 点
2019.03.18 國島大河 (和歌山県立自然博物館) 2 点
2019.03.19 甲斐嘉晃 (京都大学) 6 点
2019.03.22 松沼瑞樹 (近畿大学) 10 点
2019 年 4 月-2020 年 3 月
2019.04.17 本村浩之 (鹿児島大学) 23 点
2019.06.21 甲斐嘉晃 (京都大学) 32 点
2019.06.21 岡本誠 (水産研究・教育機構開発調査センター) 5 点
2019.06.24 甲斐嘉晃 (京都大学) 12 点
2019.06.25 白井滋 (東京農業大学) 6 点
2019.06.26 Mandy Reid (Australian Museum) 1 点
2019.07.04 Martin Gomon (Museum Victoria) 10 点
2019.07.04 岩槻幸雄 (宮崎大学) 25 点
2019.07.10 野原健司 (東海大学) 4 点
2019.09.02 甲斐嘉晃 (京都大学) 33 点
2019.10.04 Jinkoo Kim (Pukyong University) 27 点
2019.12.09 甲斐嘉晃 (京都大学) 5 点
2020.01.20 Martin Gomon (Museum Victoria) 6 点
2020.03.04 松沼瑞樹 (近畿大学) 2 点
2020.03.13 Jeffrey T. Williams (National Museum of Natural History) 12 点
2020.03.13 Amanda Hay (Australian Museum) 5 点
2020.03.10 David Catania (California Academy of Sciences) 2 点
2020.03.10 Glenn Moore (Western Australian Museum) 2 点

5-3) 新規標本記録 (2016-2019 年度)

- 2016 年度 : 1,363 点
2017 年度 : 457 点
2018 年度 : 1,120 点
2019 年度 : 798 点

5-4) 証拠標本として引用された主な論文

2016年

- Hidaka, K., Tsukamoto, Y. and Miyazaki, Y. 2016. *Nemoossis*, a new genus for the eastern Atlantic long-fin bonefish *Pterothrissus bellocci* Cadenat 1937 and a redescription of *P. gissu* Hilgendorf 1877 from the northwestern Pacific. Ichthyological Research.
- Ho, H.-C., Kawai, T. and Amaoka, K. 2016. Records of deep-sea anglerfishes (Lophiiformes: Ceratioidei) from Indonesia, with descriptions of three new species. Zootaxa 4121: 267–294.
- Imamura, H. 2016. Rediagnosis of *Onigocia grandisquama* (Actinopterygii: Perciformes: Platycephalidae) and comparison with congeners. Species Diversity, 21: 151–159.
- Kaga, T. 2016. A new jellynose, *Ateleopus edentatus*, from the western Pacific Ocean (Teleostei: Ateleopodiformes: Ateleopodidae). Zootaxa 4083: 562–568.
- Kawai, T., 2016. *Peristedion richardsi* sp. nov. (Actinopterygii: Teleostei: Peristediidae) from Indonesian waters, with synonymy between *Peristedion riversandersoni* Alcock, 1894 and *Peristedion nierstraszi* Weber, 1913. Zootaxa, 4172: 335–346.
- Matsuura, K. 2016. A new pufferfish, *Arothron multilineatus* (Actinopterygii: Tetraodontiformes: Tetraodontidae), from the Indo-West Pacific. Ichthyological Research.
- Matsuura, K. and Satoh, T. P. 2016. Redescription of *Lagocephalus cheesemanii* (Clarke 1897), a senior synonym of *Lagocephalus gloveri* Abe and Tabeta 1983, based on morphological and genetic comparisons (Actinopterygii: Tetraodontiformes: Tetraodontidae). Ichthyological Research.
- Matsuura, K., Kaneko, A. and Katayama, E., 2016. Underwater observations of the rare deep-sea fish *Triodon macropterus* (Actinopterygii, Tetraodontiformes, Triodontidae), with comments on the fine structure of the scales. Ichthyological Research.
- Nakayama, N. and Endo, H. 2016. A new species of the grenadier genus *Coryphaenoides* (Actinopterygii: Gadiformes: Macrouridae) from Japan and a range extension of *Coryphaenoides rudis* Günther 1878 in the northwestern Pacific. Ichthyological Research.
- Vilasri, V., Yamanaka, R., Kawai, T., Imamura, H., Ratmuangkhwang, S., Tashiro, F. and Ohara, M., 2016. Survey for coastal fishes of Ranong and Phuket provinces,

- Thailand in December 2014. The Thailand Natural History Museum Journal, 10: 117–123.
- Viana, S. T. de F. and Carvalho, M. R. de, 2016. Redescription of *Squalus acutipinnis* Regan, 1908, a valid species of spiny dogfish from southern Africa (Chondrichthyes: Squaliformes: Squalidae). Copeia, 104 (2): 539–553.
- Viana, S. T. de F., Carvalho, M. R. de and Gomes, U. 2016. Taxonomy and morphology of species of the genus *Squalus* Linnaeus, 1758 from the southwestern Atlantic Ocean (Chondrichthyes: Squaliformes: Squalidae). Zootaxa 4133: 1–89.
- 2017 年
- Fricke, R., Kawai, T., Yato, T. and Motomura, H. 2017. *Peristedion longicornutum*, a new species of armored gurnard from the western Pacific Ocean (Teleostei: Peristediidae). Journal of the Ocean Science Foundation, 28: 90–102.
- Kaga, T. 2017. Redescription of *Ateleopus japonicus* Bleeker 1853, a senior synonym of *Ateleopus natalensis* Regan 1921 (Teleostei: Ateleopodiformes: Ateleopodidae). Zootaxa, 4238: 583–592.
- Kang, S., Imamura, H. and Kawai, T. 2017. Morphological evidence supporting the monophyly of the family Polynemidae (Teleostei: Perciformes) and its sister relationship with Sciaenidae. Ichthyological Research.
- 河合俊郎・木村克也・川畑達・神正人. 2017. 青森県むつ市沖から採集されたカグラザメ *Hexanchus griseus*. 北海道大学水産科学研究彙報, 67: 35–37.
- Kimura, K., Takagishi, M., Kawai, T., Imamura, H., Ho, H.-C., Tomita, T., Tanaka, F. and Shinohara, G. 2017. Record of a flathead fish, *Rogadius pristiger* (Cuvier, 1829) (Platycephalidae) from Taiwan. Platax, 14: 46–54.
- Lee, S. J., Kim, J.-K., Kai, Y., Ikeguchi, S. and Nakabo, T. 2017. Taxonomic review of dwarf species of *Eumicrotremus* (Actinopterygii: Cottoidei: Cyclopteridae) with descriptions of two new species from the western North Pacific. Zootaxa, 4282: 337–349.
- Matsunuma, M., Bogorodsky, S. V., Motomura, H. and Mal, A. O. 2017. Objective record of *Pterois russelii* (Scorpaenidae: Pteroinae) from the Red Sea. Cybium, 40: 333–337.
- Matsunuma, M., Motomura, H. and Bogorodsky, S. V. 2017. Review of Indo-Pacific dwarf lionfishes (Scorpaenidae: Pteroinae) in the *Dendrochirus brachypterus* complex, with description of a new species from the western Indian Ocean. Ichthyological Research.
- Matsuura, K. 2017. Taxonomic and nomenclatural comments on two puffers of the genus *Takifugu* with description of a new species, *Takifugu flavipterus*, from

- Japan (Actinopterygii, Tetraodontiformes, Tetraodontidae). Bulletin of the National Science Museum. Series A, 43: 71–80.
- 松崎浩二・平治隆・森俊彰・野別貴博・木戸芳. 2017. 日本初記録のハゴロモコンニャクウオ (新称) *Careproctus zachirus* (クサウオ科). 魚類学雑誌, 64: 179–184.
- Melo, M. R. S. 2017. A review of the genus *Dysalotus* (Percomorphacea: Chiasmodontidae), with the description of *Dysalotus pouliulii* sp. nov. Journal of Fish Biology, 90: 786–802.
- 大橋慎平・川畑達・成松庸二・矢部衛. 2017. 茨城県沖太平洋で採集された2種の小型カジカ科魚類. 日本生物地理学会会報, 71: 221–227.
- Oku, K., Imamura, H. and Yabe, M. 2017. Phylogenetic relationships and a new classification of the family Cyclopteridae (Perciformes: Cottoidei). Zootaxa, 4221: 1–59.
- 2018年
- Amaoka, K. and Ho, H.-C. 2018. Review of the genus *Engyprosopon* Günther, 1862 (Pleuronectiformes: Bothidae) from waters off Taiwan, with descriptions of two new species. Zootaxa, 4413: 449–481.
- Gomon, M. and Kawai, T. 2018. A review of Indonesia's Indian Ocean species of *Lepidotrigla* gurnards (Teleostei: Scorpaeniformes: Triglidae) with descriptions of three new species from southern coastal waters. Raffles Bulletin of Zoology, 66: 624–651.
- Imamura, H., Psomadakis, P. N. and Thein, H. 2018. Two new species of deepwater flathead *Bembras* Cuvier, 1829 from the Andaman Sea, eastern Indian Ocean. Ichthyological Research.
- Kai, Y., Tohkairin, A., Fujiwara, K. and Hamatsu, T. 2018. *Careproctus iacchus*, a new variegated snailfish (Liparidae) from the Seas of Japan and Okhotsk. Ichthyological Research.
- Kimura, K., Imamura, H. and Kawai, T. 2018. Comparative morphology and phylogenetic systematics of the families Cheilodactylidae and Latridae (Perciformes: Cirrhitidae), and proposal of a new classification. Zootaxa, 4536: 1–72.
- 木村克也・今村央・成松庸二. 2018. 岩手県沖から採集された国内2例目のユウレイオニアンコウ *Haplophryne mollis*. 日本生物地理学会会報, 73: 160–163.
- 木村克也・河合俊郎・今村央. 2018. 北海道南部から採集された北海道初記録の4種の魚類. 日本生物地理学会会報, 72: 209–218.
- 岸本早貴・河合俊郎・今村央. 2018. 北海道函館市から採集されたヨリトフグ

- Sphoeroides pachygaster* の記録. 日本生物地理学会会報, 73: 181–186.
- Matsunuma, M., Fukui, Y. and Motomura, H. 2018. Review of the *Ostichthys japonicus* complex (Beryciformes: Holocentridae: Myripristinae) in the northwestern Pacific Ocean, with description of a new species. Ichthyological Research.
- Matsunuma, M. and Motomura, H. 2018. Redescription and geographic variations of *Pterois antennata* and first record of *Pterois paucispinula* from French Polynesia (Scorpaenidae: Pteroinae). Species Diversity, 23: 95–114.
- 松浦啓一・片山英里・吉野哲夫. 2018. 沖縄島から採集されたフグ科魚類 *Tylerius spinosissimus* イバラフグ (新称). 魚類学雑誌, 65: 145–150.
- Morishita, S., Kawai, T. and Motomura, H. 2018. *Sebastiscus vibrantus*, a new species of rockfish (Sebastidae) from Indonesia and Taiwan. Ichthyological Research.
- Muto, N., Kai, Y. and Nakabo, T. 2018. Taxonomic review of the *Sebastes vulpes* complex (Scorpaenoidei: Sebastidae). Ichthyological Research.
- Okamoto, M. 2018. First records of two deepwater cardinalfishes (Perciformes: Epigonidae), *Epigonus lifouensis* and *E. pectinifer*, from Indonesia, Eastern Indian Ocean. Species Diversity, 23: 243–248.
- Psomadakis, P. N., Matsuura, K. and Thein, H. 2018. *Chelonodontops alvheimi*, a new species of pufferfish (Actinopterygii: Tetraodontiformes: Tetraodontidae) from the Indian Ocean, with redescription of the rare pufferfish *Chelonodontops leopardus* (Day 1878). Ichthyological Research.
- 高橋雄大・河合俊郎・今村央. 2018. 北海道函館市臼尻町沖で漁獲されたアナゴ科クロアナゴ *Conger jordani* の北限記録. 日本生物地理学会会報, 73: 164–168.
- Viana, S. T. de F. L. and Carvalho, M. R. de. 2018. *Squalus rancureli* Fourmanoir, 1979, a new junior synonym of the blacktailed spurdog *S. melanurus* Fourmanoir, 1979, and updated diagnosis of *S. bucephalus* Last, Séret & Pogonoski, 2007 from New Caledonia (Squaliformes, Squalidae). Zoosystema, 40: 159–177.
- 2019 年
- Imamura, H., Kimura, K. and Quan, N. V. 2019. First record of *Thysanophrys papillaris* (Actynopterygii: Scorpaeniformes: Platycephalidae) from the Western Pacific. Species Diversity, 24: 17–22.
- Kai, Y. and Matsuzaki, K. 2019. *Careproctus longidigitus*, a new snailfish (Liparidae) from the southern Sea of Okhotsk. Ichthyological Research.
- Kai, Y., Matsuzaki, K. and Mori, T. 2019. First records of the snailfish *Careproctus lycopersicus* (Cottoidei: Liparidae) from the Western North Pacific. Species

- Diversity, 24: 115–118.
- Kai, Y. and Tashiro, F. 2019. *Zenopsis filamentosa* (Zeidae), a new mirror dory from the western Pacific Ocean, with redescription of *Zenopsis nebulosa*. Ichthyological Research.
- Kawai, T. 2019. *Peristedion longicornutum* Fricke, Kawai, Yato and Motomura, 2017 (Actinopterygii: Teleostei: Peristediidae) from Philippines and Taiwan. The Thailand Natural History Museum Journal, 13: 69–75.
- Kawai, T. 2019. Revision of an armored searobin genus *Scalicus* Jordan 1923 (Actinopterygii: Teleostei: Peristediidae) with a single new species. Ichthyological Research.
- Matsunuma, M. and Motomura, H. 2019. Redescription of *Dendrochirus zebra* (Scorpaenidae: Pteroinae) with a new species of *Dendrochirus* from the Ogasawara Islands, Japan. Ichthyological Research.
- 三澤遼・武藤望生・濱津友紀・金眞久・甲斐嘉晃. 2019. メガネカスベにおける遺伝的集団構造と形態的差異. 魚類学雑誌, 66: 23–35.
- Murasaki, K., Takami, M. and Fukui, A. 2019. *Paraliparis hokuto*, a new snailfish (Cottoidei: Liparidae) from Suruga Bay, Japan, and a new record of the rare species *Paraliparis atramentatus* Gilbert and Burke 1912. Ichthyological Research.
- Ogino, A., Lee, S.-H., Chen, W.-J. and Matsunuma, M. 2019. *Chelidoperca cerasina* sp. nov., a new perchlet (Perciformes: Serranidae) from the southwest Pacific Ocean. Ichthyological Research,
- 千田哲朗・河合俊郎・高木省吾. 2019. カラスダラ *Halargyreus johnsonii* の北海道南部沖太平洋からの記録および本種の地理的変異と日本における分布域の再検討. 日本生物地理学会会報, 74: 38–42.
- Vilasri, V., Ho, H.-C., Kawai, T. and Gomon, M. F. 2019. A new stargazer, *Ichthy Scopus pollicaris* (Perciformes: Uranoscopidae), from East Asia. Zootaxa, 4702: 049–059.
- Yoshida, T., Kawai, T. and Motomura, H. 2019. *Gymnapogon sagittarius*, a new species of cardinalfish (Perciformes: Apogonidae) from the South China Sea and Andaman Sea. Ichthyological Research.

6. 古生物学コレクション

【利活用】

6-1) 主な学外からの標本利用

標本利用の中心は、脊椎動物化石が中心だった。ニッポノサウルスの全身骨格実物標本を仙台市科学館で展示に使われた。その他、大阪自然史博物館が中心に絶滅哺乳類化石デスマスチルスの研究が行われたり、東京学芸大学が中心に首長竜の研究が行われた。

	件数	点数
2016年度	1	70
2017年度	1	20
2018年度	2	160
2019年度	2	120
2020年度	3	60

- 2016.8.16 大阪自然史博物館 デスマスチルス他 70点
- 2017.5.18 足寄動物化石博物館 デスマスチルス 20点
- 2018.5.16 大阪自然史博物館 デスマスチルス 40点
- 2018.5.16 仙台市科学館 ニッポノサウルス全身骨格 1 20点
- 2019.6.26 大阪自然史博物館 デスマスチルス他 70点
- 2019.6.26 新潟大学 腕足類化石 50点
- 2020.9.20 羽幌町 クジラ化石 20点
- 2020.9.20 足寄動物化石博物館 首長竜化石 20点
- 2020.9.25 東京学芸大学 首長竜化石 20点

7. 岩石鉱物鉱石標本コレクション

7-1) 標本庫利用状況

【利活用】

- 2016.4.19 小玉愛子 (苫小牧美術博物館)
- 2016.6.17 小玉愛子 (苫小牧美術博物館)
- 2016.12.1 小玉愛子 (苫小牧美術博物館)
- 2016.12.11 サントリーホールディングス
- 2016.12.11 小玉愛子 (苫小牧美術博物館)
- 2016.12.16 北川桐香 (山形大学理学部)
- 2017.3.23 小玉愛子 (苫小牧美術博物館)
- 2017.2.20 川村信人 (北海道大学理学研究院)
- 2017. 6. 2 白石中学校 6名

2017. 6.27 札幌商工会議所観光ボランティア 34 名
 2017.11.16 コミュニケーションペーパー「CROSS_met」 3 名
 2018.5.31 大学院共通授業モノコトヒト 30 名
 2020. 3. 5 中川 光弘・松本 亜希子（北海道大学理学研究院）
 2020. 3. 6 竹下 徹（北海道大学理学研究院）

【貸出標本】

- 2015.4.16 宮地鼓（苫小牧市美術博物館）：標本貸出
 2015.5.15 宮地鼓（苫小牧市美術博物館）：標本貸出
 2015.5.22 宮地鼓（苫小牧市美術博物館）：標本貸出
 2015.12.1 小樽市総合博物館：標本貸出
 2016.8.12 地下歩行空間展示：かんらん岩
 2016.9.1 道立文学館特別展「2016年の宮沢賢治」展示：レンズ状火山弾
 2016.12.11 小玉愛子（苫小牧美術博物館）：火山岩
 2018.10.6 [ストロマトライト] 長坂有希（CAI 展示「カムイワッカへ、そして私たちの始まりへ」）
 2019.4.13 [橄欖岩] 長坂有希（500 m 美術館 vol. 29 「大地の物語」）

【寄贈標本】

- 2015.4.1 寺西辰郎：鉱物標本 200 点
 2017.3.29 田野崎隆雄（石炭エネルギーセンター）：燃料標本一式
 2017.8.24 植松 淳子：ダイヤモンド付き指輪
 2017.11.11 坪井 利美：胆石
 2017.11.23 佐藤 健一：胆石
 2017.11.23 佐藤 豪：鉱物標本一式
 2017.11.24 箕浦 名知男：天然ダイヤモンド 2 個，白金結晶 10 個，天然オスマウム 1 カプセル
 2018.3.14 山下 康平：親知らず
 2018.9.25 滝川 昭：カーロール鉱
 2019.2.15 花岡 瞳：第 1 小臼歯，第 2 小臼歯，第 3 大臼歯
 2019.9.15 小畑 直也：耳石 3 種（シログチ 5 匹分，マアジ 1 匹分）
 2020.3.18 山岸 宏光：鉱物標本一式（デカン産 18 個）

7-2) 標本が引用された主な論文

[査読付き]

- Shitaoka Y., Moriwaki H., Akai F., Nakamura N., Miyoshi M. and Yamamoto J. (2016) Eruption age of Sakurajima-Satsuma tephra using thermoluminescence dating. *Bulletin of Geo-Environmental Science* 18, 29–35.
- Akziawa N., Tamura A., Yamamoto J., Mizukami T., Fukushi K., Python M. and Arai S. (2016) High-temperature hydrothermal activities around suboceanic Moho: An example from diopside and anorthosite in Wadi Fizh, Oman ophiolite. *Lithos* 263, 66–87.
- Shibano Y., Takahata K., Kawano J., Watanabe T., Enomoto D., Kagi H., Kamiya N. and Yamamoto J. (2017) Raman spectroscopic determination of Sr/Ca ratios of calcite samples. *Journal of Raman Spectroscopy* 48, 1755–1761.
- Yamamoto J., Ishibashi H. and Nishimura K. (2017) Cooling rate responsiveness of pyroxene geothermometry. *Geochemical Journal* 51, 457–467.
- Yamamoto J., Yoshino T., Yamazaki D., Higo Y., Tange Y. and Torimoto J. (2018) Thermal expansion of natural mantle spinel using in situ synchrotron X-ray powder diffraction. *Journal of Materials Science* 54, 139–148.
- Hagiwara Y., Takahata K., Torimoto J. and Yamamoto J. (2018) CO₂ Raman thermometer improvement: comparing hot band and Stokes and anti-Stokes Raman scattering thermometers. *Journal of Raman Spectroscopy* 49, 1776–1781.
- Yamamoto J., Kawano T., Takahata N. and Sano Y. (2018) Noble gas and carbon isotopic compositions of petit-spot lavas from southeast of Marcus Island. *Earth and Planetary Science Letters* 497, 139–148.
- Hagiwara Y., Sogo Y., Takahata K. and Yamamoto J. (2018) Temperature dependence of CO₂ densimetry using micro-Raman Spectrometry at laboratory conditions. *Geochemical Journal* 52, 379–383.
- Sato Y., Hirano N., Machida S., Yamamoto J., Nakanishi M., Ishii T., Taki A., Yasukawa K., and Kato Y. (2018) Direct ascent to the surface of asthenospheric magma in a region of convex lithospheric flexure. *International Geology Review* 60, 1231–1243.
- Ono K., Harada Y., Yoneda A., Yamamoto J. and Watanabe T. (2018) Determination of elastic constants of single crystal chromian spinel by resonant ultrasound spectroscopy and implications for fluid inclusion geobarometry. *Physics and Chemistry of Minerals* 45, 237–247.
- Hagiwara J., Torimoto J. and Yamamoto J. (2019) Thermoelastic equilibrium of fluid inclusion-host mineral systems under homogenization measurement. *Journal of Mineralogical and Petrological Sciences* 114, 149–154.
- Shitaoka Y., Saito T., Yamamoto J., Miyoshi M., Ishibashi H. and Soda T. (2019) Eruption age of Kannabe volcano using multi-dating: implications for age determination of young basaltic lava flow. *Geochronometria* 46, 49–56.

- Nakamura Y., Ishibashi H., Yasuda A., Hokanishi N. and Yamamoto J. (2019) Ultra-magnesian olivine-bearing ultramafic lava blocks within Cenozoic accretionary sediments at Shizuoka, Japan: Implications for young, hot plume activity beneath the western Pacific Plate. *Lithos* 324–325, 315–324.
- Yokokura L., Hagiwara Y. and Yamamoto J. (2020) Pressure dependence of micro-Raman mass spectrometry for carbon isotopic composition of carbon dioxide fluid. *Journal of Raman Spectroscopy* 51, 997-1002.
- Hagiwara Y., Torimoto J. and Yamamoto J. (2020) Pressure measurement and detection of small H₂O amounts in high-pressure H₂O–CO₂ fluid up to 141 MPa using Fermi diad splits and bandwidths of CO₂. *Journal of Raman Spectroscopy* 51, 1003-1018.
- Yamamoto J., Takahata N., Sano Y., Yanagita M., Arai S. and Prikhod'ko V.S. (2020) Nitrogen and noble gas isotopic compositions of mantle xenoliths from Far Eastern Russia: implications for nitrogen isotopic characteristics of mantle wedge fluid. *Earth and Planetary Science Letters* 534, 116109.

[査読なし]

- 平野直人, 油谷拓, 山本順司 (2016) 歯舞群島と色丹島の地質資料と岩石試料の重要性. *東北アジア研究* 20, 61–73.
- 山本順司 (2015) 隠岐に火山がある不思議. *隠岐の文化財* 32, 1–10.
- Yamamoto J., Yoshino T., Yamazaki D., Shimojuku A. and Wei S. (2017) Thermal expansion of natural MgAl₂O₄ using in situ synchrotron X-ray powder diffraction. *SPring-8/SACLA Research Report* 6.
- 山本順司, 萩原雄貴 (2017) 西南日本背弧のマグマ供給機構. *Provenance of backarc magmatism in Southwest Japan*. *月刊地球号外* 69, 154-159.
- 西村光史, 山本順司, 石橋秀巳 (2018) 冷却する海洋リソスフェア中の単斜輝石の化学反応と元素拡散. *東洋大学紀要 (自然科学篇)* 62, 25-31.

8. 考古学分野

【利活用】

考古学資料学外利用件数および利用者数（人・日）記録

	件数	人・日数
2016年度	3	5
2017年度	2	2
2018年度	5	9
2019年度	3	3

学外からの利用のほか、標本は学内の学生・教員の研究に日常的に利用されるとともに、講義・実習・パラタクソノミスト養成講座などの学生・生涯教育にも活用されている。

8-1) 標本庫利用記録（2016.4－2020.3：学外者のみ）

2016.11.17. 唐沢興希（三笠市立博物館）香深井1遺跡出土ニホンアシカ頭骨標本調査

2016.12.9. 赤井文人（北海道教育庁）発掘調査図面調査

2017.2.7-9. 種石悠（北海道立北方民族博物館）香深井1遺跡出土骨角器調査

2017.5.19. 唐沢興希（三笠市立博物館）香深井1遺跡出土ニホンアシカ頭骨標本調査

2017.11.7. 鈴木克彦（弘前学院大学）香深井1遺跡出土石器調査

2018.4.7. 前田潮（横浜市）オホーツク文化遺跡出土骨角器調査

2018.7.31. Rick Schulting（ほか1名）（University of Oxford）香深井1遺跡出土動物骨調査

2018.8.3. Tansy Branscombe (University of Oxford) 香深井1遺跡出土動物骨調査

2018.9.18-21. 女部田かなみ（慶應義塾大学）香深井1遺跡出土動物骨調査

2018.9.27. 鈴木素行（ひたちなか市埋蔵文化財調査センター）香深井1遺跡出土骨角器調査

2019.6.18. 坂本尚史（北海道埋蔵文化財センター）香深井1遺跡出土土器調査

2019.10.18. 松井久美子（九州大学）香深井1遺跡出土ニホンアシカ資料調査

2019.11.11. Irina Poukvarova (Magadan, Russia) 香深井1遺跡遺物調査

8-2) 資料・標本貸出（2016.4.－2020.3.）

2017.5.19-10.20. 三笠市立博物館：香深井1遺跡出土ニホンアシカ頭骨1点

平成 29 年度特別展示での利用

2018.4.19-19.3.31. Ari Junno (University of Groningen) : 香深井 1・2 遺跡出土土器
計 24 点と炭化物 1 点 研究利用

2019.10.18-23. 松井久美子 (九州大学) : 香深井 1 遺跡出土ニホンアシカ頭骨 1
点 研究利用

2019.6.17-10.18. 北海道埋蔵文化財センター:香深井 1 遺跡出土土器 2 点 企画
展示「北の縄文 もうひとつの古代世界 オホーツク文化」での利用

8-3) 収蔵資料が利用された主な論文・報告

江田真毅 2020.「標本 100 選 09 考古」北海道大学総合博物館編『北大総合博物館
のすごい標本』、195-213、北海道新聞社。

江田真毅 2019.「遺跡から出土するアホウドリの骨の動物考古学と考古鳥類学」上田
恵介編『遺伝子から解き明かす鳥の不思議な世界』、235-253、一色出版。

江田真毅・小杉康 2019.『考古学からみた北大キャンパスの 5,000 年』、中西出版。

Vokhshoori, N. L., McCarthy, M. D., Collins, P. W., Etnier, M. A., Rick, T., Eda, M.,
Beck, J., and Newsome, S. D. 2019. Broader foraging range of ancient
short-tailed albatross populations into California coastal waters based on bulk
tissue and amino acid isotope analysis. *Marine Ecology Progress Series* 610: 1-13.
<https://doi.org/10.3354/meps12839>

9. 脊椎動物分野

【利活用】

動物骨格標本学外利用件数および利用者数 (人・日) 記録

	件数	人・日数
2016 年度	4	37
2017 年度	3	29
2018 年度	13	47
2019 年度	12	49

学外からの利用のほか、標本は学内の学生・教員の研究に日常的に利用される
とともに、学生教育にも活用されている。

9-1) 標本庫利用記録 (2016.4. - 2020.3. : 学外者のみ)

2016.4.7. 高野廣子 (天使大学) ブタ骨標本調査

2016.10.17-18. 鮫島悠甫（京都大学）シカ骨標本調査
2016.10.24, 11.17. 塚本智宏（ほか計 31 名）（東海大学）動物標本庫バックヤードツアー
2016.11.17. 唐沢興希（三笠市立博物館）哺乳類頭骨標本調査
2017.5.19. 唐沢興希（三笠市立博物館）哺乳類頭骨標本調査
2017.10.30, 11.8. 内山幸子（ほか計 26 名）（東海大学）動物標本庫バックヤードツアー
2017.11.17. 一島啓人（福井県立恐竜博物館）哺乳類頭骨標本調査
2018.5.21-22. 久保麦野（東京大学）シカ骨標本調査
2018.7.11. 宮崎彩乃（帯広畜産大学）鳥類・哺乳類標本調査
2018.7.25. 黒澤令子（パードリサーチ）鳥類剥製標本調査
2018.7.25-27. 北川博道（埼玉県立自然の博物館）クマ類骨標本調査
2018.8.21. 内山幸子（東海大学）哺乳類骨標本調査
2018.9.18-20. 田中公教（兵庫県立人と自然の博物館）鳥類骨標本調査
2018.9.25. 久保麦野（東京大学）シカ骨標本調査
2018.9.25. 林昭次（岡山理科大学）シカ骨標本調査
2018.10.29, 11.8. 内山幸子（ほか計 29 名）（東海大学）動物標本庫バックヤードツアー
2019.3.5. 唐沢興希（三笠市立博物館）哺乳類頭骨標本調査
2019.3.29. 鈴木あすみ（ほか 2 名）（北海道博物館）シカ骨標本調査
2019.6.13. 唐沢興希（三笠市立博物館）哺乳類頭骨標本調査
2019.8.15-16. 工藤海翔（立命館慶祥高校）鳥類頭骨標本
2019.10.1. Alexis Mychajliw (La Brea Tar Pits & Museum) キツネ骨格標本調査
2019.10.4. 鈴木あすみ（ほか 1 名）（北海道博物館）シカ骨標本調査
2019.10.25. Alexis Mychajliw (La Brea Tar Pits & Museum) キツネ骨格標本調査
2019.10.28, 11.7. 内山幸子（ほか計 30 名）（東海大学）動物標本庫バックヤードツアー
2019.11.28. Alexis Mychajliw (La Brea Tar Pits & Museum) キツネ骨格標本調査
2019.12.3, 5, 12. Alexis Mychajliw (La Brea Tar Pits & Museum) キツネ骨格標本調査
2019.12.4. 佐宗亜衣子（新潟医療福祉大学）ヒグマ骨標本調査
2019.12.24. 鈴木あすみ（ほか 1 名）（北海道博物館）シカ骨標本の返却
2020.1.7-8. Alexis Mychajliw (La Brea Tar Pits & Museum) キツネ骨格標本調査
2020.1.29. 宇仁義和（東京農業大学）骨格標本関連資料調査

9-2) 資料・標本貸出 (2016.4.－2020.3.)

- 2016.4.1.-20.3.31. 増田隆一(北海道大学理学研究院):哺乳類頭骨標本 56 点 講義利用
- 2017.7.7-10.20. 北海道立北方民族博物館:ウマ頭骨標本 1 点 第 32 回特別展での展示利用
- 2017.5.19-10.20. 三笠市立博物館:哺乳類頭骨標本 14 点 平成 29 年度特別展示での利用
- 2018.5.21-19.3.31. 久保麦野(東京大学):シカ骨標本 136 点 研究利用
- 2018.9.25-19.8.31. 久保麦野(東京大学):シカ骨標本 65 点 研究利用
- 2018.9.25-19.8.31. 林昭次(岡山理科大学):シカ骨標本 20 点 研究利用
- 2019.2.8-3.31. 青木大輔(北海道大学理学院):鳥類剥製 2 点 研究利用
- 2019.2.15-3.31. 能重光希(北海道大学理学部):鳥類剥製 5 点 研究利用
- 2019.6.13-10.18. 三笠市立博物館:哺乳類頭骨標本 9 点 特別展「マリタイム! 海の爬虫類と哺乳類たち」の展示利用
- 2019.9.20-20.3.31. 田中公教(兵庫県立人と自然の博物館):鳥類骨標本 6 点 研究利用
- 2019.10.4-12.24. 北海道博物館:シカ骨格標本 5 点 企画テーマ展「エゾシカ」での展示
- 2019.12.4-20.3.31. 佐宗亜衣子(新潟医療福祉大学):ヒグマ骨標本 2 点 研究利用

9-3) 収蔵資料が利用された主な論文・報告

- Tanaka, T., Kobayashi, Y., Ikuno, K., Ikeda, T., and Saegusa, H. in press. A marine Hesperornithiform (Avialae: Ornithuromorpha) from the Maastrichtian of Japan: Implications for the paleoecological diversity of the earliest diving birds in the end of the Cretaceous. *Cretaceous Research* 113: 104492. <https://doi.org/10.1016/j.cretres.2020.104492>
- 江田真毅・山川史子 2020.「金沢城下町遺跡(丸の内 7 番地点)出土の鳥類遺体について」石川県埋蔵文化財情報 42: 33-35.
- 太田晶・服部薫・外山雄大・牛島夏未・江田真毅・泉洋江・大泰司紀之 2020.「根室市長筋に漂着したラッコ骨格の記録」根室市歴史と自然の資料館紀要 32: 43-48.
- 阿部常樹・江田真毅・猪熊花那子・田口哲也・奈良貴史 2020.「茨城県大洗吹上遺跡第1次調査出土の脊椎動物遺体—茨城県大洗吹上遺跡出土の動物遺体(2)-3—」國學院大學博物館學紀要 36: 35-56.
- 江田真毅 2020.「カモイベツ遺跡(2008 年調査)出土の鳥類遺体について」『斜里町カモイベツ遺跡』北海道埋蔵文化財センター編、341-345.
- 江田真毅・許開軒 2020.「四谷一丁目遺跡(6 次調査)出土の鳥類遺体」『四谷一丁

- 目遺跡(第3分冊)』東京都埋蔵文化財センター編、116-124.
- 江田真毅・渡辺双葉 2020.「鳥類遺体」『栃原岩陰遺跡発掘調査報告書 第1次～第15次調査(1965～1978)』北相木村教育委員会、251-262.
- Eda, M., Kikuchi, H., Sun, G., and Matui, A. 2019. Were chickens exploited in the Neolithic early rice cultivation society of the lower Yangtze River? *Archaeological and Anthropological Sciences* 11: 6423-6430. DOI: 10.1007/s12520-019-00783-x
- Eda, M., Rasmi Shoocongdej, Prasit Auetrakulvit, Jirassa Kachajiwa. 2019. The history of chicken and other bird exploitation in Thailand: Preliminary analysis of bird remains from four archaeological sites. *International Journal of Osteoarchaeology* 29: 231-237. DOI: <https://doi.org/10.1002/oa.2731>
- 江田真毅・渡辺双葉 2019.「出島和蘭商館跡 江戸町側出土の鳥類遺体－平成20年度および平成26・27年度調査地点」『出島和蘭商館跡 出島表門橋架橋に伴う発掘調査報告書』長崎市教育委員会、118-125.
- 江田真毅・渡辺双葉 2019.「鳥類」『下ヶ戸貝塚VI』我孫子市教育委員会、68-75.
- Iijima, M., Kubo, T., and Kobayashi, Y. 2018. Comparative limb proportions reveal differential locomotor morphofunctions of alligatoroids and crocodyloids. *Royal Society Open Science* 5: 171774
- 田中公教・小林快次. 2018. 「ヘスペロルニス目：白亜紀の潜水鳥類の起源と進化」. *日本鳥学会和文誌* 67: 57-68.
- 江田真毅 2018.「出島和蘭商館跡出土の鳥類遺体」『国指定史跡 出島和蘭商館跡 銅蔵跡他中央部発掘調査報告書 第2分冊(分析・考察編)』長崎市教育委員会、110-131.
- Tanaka, T., Kobayashi, Y., Kurihara, K., Fiorillo, A. R., and Kano, M. 2017. The oldest Asian Hesperornithiform from the Upper Cretaceous of Japan, and the phylogenetic reassessment of Hesperornithiformes. *Journal of Systematic Palaeontology* 16: 1-21. <https://doi.org/10.1080/14772019.2017.1341960>
- 岩波連・江田真毅 2017.「幾何学的形態測定による解体痕の断面形状の分析」*動物考古学* 34: 75-83
- 江田真毅 2017.「鳥類」『史跡 加曾利貝塚 総括報告書』千葉市教育委員会、745-753.
- 江田真毅 2017.「付章 自然科学分析 第4節 鳥類」『千葉県教育振興財団調査報告書第758集 首都圏中央連絡自動車道埋蔵文化財調査報告書32－東金市養安寺遺跡・大網白里市養安寺遺跡－第2分冊』国土交通省関東地方整備局・公益財団法人千葉県教育振興財団編、610－615.

Conrad, C., Higham, C., Eda, M., and Marwick, B. 2016. Paleocology and forager subsistence strategies during the Pleistocene-Holocene transition: A reinvestigation of the zooarchaeological assemblage from Spirit Cave, Mae Hong Son Province, Thailand. *Asian Perspectives* 55: 2-27. DOI: <https://doi.org/10.1353/asi.2016.0013>

10. 学術標本データベース

現在総合博物館で構築・インターネット公開されているデータベースは、タイトル別にして15、分野にして7分野である（それぞれ古生物学、鉱物・鉱床学、植物体系学、昆虫分類学、魚類分類学、考古学、その他分野横断 [=植物体系学、鉱物・鉱床学、考古学を横断]）。

以下に当館で管理されているものについてタイトルを記す（北大総合博物館登録標本データベース：<http://museum-sv.museum.hokudai.ac.jp/databases/>の表記を踏襲し、系別表記とする）。

●地球科学系(既公開及び準備中のものを含む)

- ・化石標本（約20,000点、平成18年再構築、HP公開中）
- ・鉱物（北海道産新鉱物ほかタイプ標本(10点)を含む約7,500点、平成18年再構築、HP公開中）
- ・岩石（約9,000点、理学研究院より公開中、博物館HPからの公開準備中）
- ・北海道の火山（有珠ほか）（約1,600点、公開準備中）
- ・宇井標本（約1,100点、公開準備中）
- ・地質標本・現象のデータベース（約420点、HP公開中）
- ・鉱石データベース（約4,000点、HP公開準備中）
- ・カムチャッカ金属資源データベース（約430点、平成17年9月～HP公開中）
- ・黒曜岩標本（吉谷コレクション）（約1,140点、HP公開準備中）
- ・白滝遺跡出土石器(黒曜石)(約5,300点、HP公開準備中)
- ・渡辺武男標本(約1,385点、HP公開準備中)
- ・由井俊三標本(約3,000点、HP公開準備中)

●生物系

- ・海藻標本データベース
- ・陸上植物タイプ標本データベース
- ・エンマムシデータベース
- ・ICタグ×昆虫標本データベース
- ・苫小牧研究林生命情報データベース
- ・魚類標本データベース
- ・昆虫標本データベース

- ・北海道大学昆虫学教室・総合博物館所属タイプ標本データベース
- ・中根猛彦コレクション：甲虫類タイプ標本データベース
- 考古学系**
 - ・考古学資料検索システム（約 4,000 点 平成 25 年 3 月～ 公開中）
- 分野横断データベース**
 - ・北大総合博物館北東ユーラシア資料統合データベース

IV. 高等教育

博物館教員が兼任あるいは担当する理学部・農学部・水産学部、理学院・農学院・水産科学院で講義・実習・特論等を担当し、担当学部・学院では卒論生・修士・博士も指導している。また全学教育の授業も担当している。平成24年度から実施されている新たな学芸員養成課程では、科目が細分化されて増えたため、博物館教員が分担する授業科目が増え、本学での学芸員資格取得のための教育に貢献をしている。以下、1項は、博物館教員が主担当となり全学対象に開講している博物館開催の授業である。2項は、学芸員養成課程に関連した授業と実習、3項は大学院共通授業科目である。4項は、博物館で全学的に展開している「ミュージアムマイスター認定コース」について紹介する。北大が目指す全人教育の一環を担うコースであり、国内の大学における博物館教育において先進的でユニークな取り組みとして評価されている。

1. 全学教育

【総合科目】

「モノ」＋「コト」＋「ヒト」＝北大総合博物館（平成28年度～）

【一般教育演習】

北大エコキャンパスの自然―植物学入門（平成28～30年度）

北大エコキャンパスの自然と歴史（平成28～30年度）

北大エコキャンパス探求（令和元年度～）

2. 学芸員養成課程関連授業・実習

博物館概論

博物館教育論（平成28年度～）

博物館資料論（平成28年度～）

博物館情報・メディア論（平成28年度～）

博物館展示論（平成28年度～）

博物館資料保存論（平成28年度～）

博物館実習事前指導、事後指導（平成28年度～）

博物館実習

札幌キャンパス

平成 28 年度：14 名（地学・古生物、動物、映像・科学技術史）
平成 29 年度：13 名（第 2 農場、地学・古生物、動物、映像・科学技術史）
平成 30 年度：16 名（第 2 農場、地学・古生物、植物、映像・科学技術史）
令和元年度：16 名（第 2 農場、植物、動物、映像・科学技術史）
函館キャンパス 平成 28 年度：2 名、平成 29 年度：3 名、
平成 30 年度：3 名、令和元年度：2 名

3. 大学院共通授業科目

博物館学特別講義 I：学術標本・資料学（平成 28 年度～）
博物館コミュニケーション特論 I 学生発案型プロジェクトの企画・運営・評価（平成 28 年度～）
博物館コミュニケーション特論 II 映像表現 夏の陣（平成 28～29 年度）
博物館コミュニケーション特論 III ミュージアムグッズの開発と評価（平成 28 年度～）
博物館コミュニケーション特論 IV 映像表現 冬の陣（平成 28～29 年度）

4. ミュージアムマイスター認定コース

- ・実施プログラム：後記
- ・認定コース新規登録者：平成 28 年度：7 名、平成 29 年度：11 名、
平成 30 年度：19 名、令和元年度：8 名
登録者合計：203 名
- ・マイスター認定者：
 - 平成 28 年度：3 名（水産学部、理学院、環境科学院）
 - 平成 29 年度：3 名（文学部、理学部、理学院）
 - 平成 30 年度：4 名（理学部、文学研究科、理学院、生命科学院）
 - 令和元年度：4 名（薬学部、理学部、文学研究科 2 名）

【導入科目】

生物の多様性（平成 28 年度～）
フィールド科学への招待（平成 28 年度～）
アイヌ・先住民研究の現在（平成 28 年度～）
「モノ」＋「コト」＋「ヒト」＝北大総合博物館（平成 28 年度～）

北大エコキャンパスの自然：植物学入門（平成 28～30 年度）

北大エコキャンパスの自然と歴史（平成 28～30 年度）

北大エコキャンパス探求（令和元年度～）

他、2 項に挙げた学芸員養成課程科目（平成 28 年度～）

【ステップアップ科目】

ヒグマ学入門（平成 28 年度～）

フィールド体験型プログラム：人間と環境科学（1）（平成 28 年度～）

フィールド体験型プログラム：人間と環境科学（2）（平成 28 年度～）

地球と大学 北大フィールドセンター施設を活用して地域を学ぶ（平成 28 年度）

遺跡を探そう（平成 28 年度）

アイヌの歴史と文化を歩く（平成 29 年度）

International Archaeological Field School in Rebun Island（平成 28 年度～）

蛙学への招待（平成 28 年度～）

学芸員から見た美術の世界（平成 28 年度、平成 30 年度～）

学芸員に求められる力（平成 29 年度）

PMF の響き（平成 28～29 年度）

札幌と音楽文化（平成 30 年度～）

美術館という現場（平成 28 年度～）

ヒトとは何か：人類史入門＜導入編＞（平成 28～29 年度）

ヒトとは何か：人類史入門＜発展編＞（平成 28～29 年度）

北方人類学演習：フィールドワーク実践（平成 28～30 年度）

水圏生物学（平成 28 年度～）

魚類学（平成 28 年度～）

魚病学（平成 28 年度～）

水族館学（平成 28 年度～）

北方文化論特殊講義：ミュージアムのマネージメント（平成 28 年度～）

博物館学特別講義 I：学術標本・資料学（平成 28 年度～）

自然史科学特別講義 IV：博物館工学 [1]（平成 28 年度）

自然史科学特別講義 IV：博物館工学 [2]（平成 28 年度）

自然史科学特別講義 IV：博物館工学 II [1]（平成 30 年度）

自然史科学特別講義 IV：博物館工学 II [2]（平成 30 年度）

パラタクソノミスト養成講座（平成 28 年度～）

【社会体験型科目】

- 博物館コミュニケーション特論（学生発案型プロジェクトの企画・運営・評価）（平成 28 年度～）
- 博物館コミュニケーション特論 I 学生発案型プロジェクトの企画・運営・評価（平成 28 年度～）
- 博物館コミュニケーション特論（博物館における映像表現）（平成 28～29 年度）
- 博物館コミュニケーション特論 II 映像表現 夏の陣（平成 28～29 年度）
- 博物館コミュニケーション特論（ミュージアムグッズの開発と評価）（平成 28 年度～）
- 博物館コミュニケーション特論 III ミュージアムグッズの開発と評価（平成 28 年度～）
- 博物館コミュニケーション特論（映像制作とスノーボード）（平成 28～29 年度）
- 博物館コミュニケーション特論 IV 映像表現 冬の陣（平成 28～29 年度）
 - 「ランの王国」展展示解説（平成 28 年度）
 - 「北大古生物学の巨人たち」展展示解説（平成 28 年度）
 - 「惑星地球の時空間」展展示解説（平成 29 年度）
 - 「宇宙の 4D シアター」プログラムの運営（平成 29 年度～）
 - 「視ることを通して」展展示解説（平成 30 年度）
 - 「K39：考古学からみた北大キャンパスの 5,000 年」展展示解説（令和元年度）
- 学生参加プロジェクト「宇宙の 4D シアター」プログラム運営
- 卒論ポスター発表会での発表（平成 28 年度～）
- 卒論ポスター発表会の運営（平成 28 年度～）

5 北海道大学初任事務職員実地研修（担当：湯浅万紀子）

2017 年度から本学の人材育成の一環として、徳久治彦理事・事務局長の発案により、総合博物館での実地研修を実施した。研修では、初任事務職員が、来館者への本学の歴史と現在についての説明や展示室での案内といった実務体験を通じて、本学への理解と知識をより深め、職員としての意識を高めるとともに、コミュニケーション能力を身に付けることを目指した。研修生は事前に湯浅万紀子教授から博物館の使命や役割、来館者対応についての講義と見学案内を受け、さらに各自が予習を重ねた後、数名のグループに分かれて 1 時間 30 分の実地研修に臨んだ。当日は見学者へのガイダンスや展示室での案内、リーフレットの配布、アンケートの回答依

頼などを行った。研修報告書からは、本学と博物館への多くの市民を含めた国内外の来館者の関心の高さを実感し、市民との交流の意義を理解したことがうかがえた。

平成 29 (2017) 年度 8月～9月 49名

平成 30 (2018) 年度 8月 22名

令和元 (2019) 年度 7月～8月 28名

V. 展示活動

1. 常設展示

- 1階：北大の歴史、北大のいま－挑戦する北大、北大のいま－北大の学び舎
ミュージアムラボ
- 2階：北大のいま－北大の学び舎、北大のいま－北大の探究心、
感じる展示室
- 3階：収蔵標本の世界

2. 企画展示

平成28(2016)年度 (4回)

- 第100回 リニューアルオープン記念企画展示 「ランの王国」
(平成28年8月5日～平成28年9月25日)
- 第101回 坂本直行生誕110年記念企画展示「直行さんのスケッチブック」展
(平成28年11月4日～平成29年1月9日)
- 第102回 - はじめての人工雪 - 誕生80年記念企画 中谷宇吉郎展
(平成28年11月8日～平成29年3月5日)
- 第103回 冬季企画展示「北大古生物学の巨人たち」
(平成29年1月31日～平成29年4月2日)
- 第---回 夏季企画展示「視ることを通して」
(平成30年8月3日～平成30年10月28日)

平成29(2017)年度 (5回)

- 第104回 地質の日記念展示 「北海道のジオサイトに見る化石」
(平成29年4月28日～平成29年6月18日)
- 第105回 北海道大学総合博物館分館水産科学館「ランの王国」
(平成29年5月15日～7月14日)
- 第106回 常設展示室新設特別企画 「惑星地球の時空間」
(平成29年8月4日～平成29年10月1日)
- 第107回 生体展示 「小さな小さな哺乳類 トウキョウトガリネズミ」
(平成29年12月2日～平成29年12月24日)
- 第108回 写真パネル展 「シマエナガさんの12ヶ月」
(平成30年1月21日～平成30年4月15日)

平成30(2018)年度 (8回)

第109回 冬季企画展示 写真パネル展 「シマエナガさんの12ヶ月」

(平成30年1月21日～平成30年4月15日)

第110回 地質の日記念展示 「北海道のジオサイトに見る岩石」

(平成30年4月27日～平成30年6月17日)

第111回 夏季企画展示 「視ることを通して」

(平成30年8月3日～平成30年10月28日)

第112回 生体展示 「小さなちいさな哺乳類北海道のトガリネズミ」

(平成30年10月12日～平成30年12月2日)

第113回 「標本から見る北海道の水生昆虫」

(平成30年11月3日～平成30年11月11日)

第114回 「ボタニカルアート フローラヤポニカ 北海道植物画展」

(平成30年11月10日～平成30年12月9日)

第115回 没後八十年記念展「比田井天来 北海道大学総合博物館書・拓本所蔵コレクション」

(平成31年1月16日～平成31年2月17日)

第116回 写真パネル展「エゾリス～冬を生きる～」

(平成31年2月23日～平成31年4月14日)

令和元(2019)年度 (7回)

第117回 写真パネル展 「エゾリス～冬を生きる～」

(平成31年2月23日～平成31年4月14日)

第118回 「建築の学生展」

(平成31年4月6日～平成31年4月7日)

第119回 地質の日記念展示「失われた川を尋ねて『水の都』札幌」

(平成31年4月27日～令和元年6月16日)

第120回 夏季企画展示「K39:考古学からみた北大キャンパスの5,000年」

(令和元年7月19日～令和元年9月29日)

第121回 北海道立北方民族博物館移動展／北海道大学総合博物館企画展「融ける大地―温暖化するシベリア・中央ヤクーチア―」

(令和元年10月12日～令和元年11月17日)

第122回 生体展示「小さなちいさな哺乳類 トガリネズミ」

(令和元年11月12日～令和元年12月26日)

第123回 釧路市立博物館巡回展写真パネル展「冷たい海の大冒険!!!～関勝則が写す北の海の生き物～」

(令和元年12月17日～令和2年2月16日)

3. 入館者数

年度	期間	開館日数	入館者数(年度)	入館者数累計	1日平均
10年度	11月24日～3月31日	77	3,043	3,043	40
11年度	4月1日～3月31日	243	9,733	12,776	40
12年度	4月1日～3月31日	241	8,789	21,565	36
13年度	4月1日～3月31日	242	15,866	37,431	66
14年度	4月1日～3月31日	251	28,952	66,383	115
15年度	4月1日～3月31日	289	42,431	108,814	147
16年度	4月1日～3月31日	302	43,889	152,703	145
17年度	4月1日～3月31日	303	75,685	228,388	250
18年度	4月1日～3月31日	303	73,993	302,381	244
19年度	4月1日～3月31日	302	89,086	391,467	295
20年度	4月1日～3月31日	300	62,701	454,168	209
21年度	4月1日～3月31日	303	69,646	523,814	230
22年度	4月1日～3月31日	302	104,661	628,475	347
23年度	4月1日～3月31日	304	105,583	734,058	347
24年度	4月1日～3月31日	303	97,899	831,957	323
25年度	4月1日～3月31日	301	123,979	955,936	412
26年度	4月1日～3月31日	302	107,878	1,063,814	357
27年度	休館 4月1日～3月31日	0	-	1,063,814	-
28年度	休館 4月1日～7月25日 7月26日～3月31日	203	152,561	1,216,375	752
29年度	4月1日～3月31日	302	211,797	1,428,172	701
30年度	4月1日～3月31日	296	220,492	1,648,664	745
R元年度	4月1日～2月28日 休館 2月29日～3月31日	278	239,668	1,888,332	862
計		5747	1,888,332		

< 休館日 >

平成11年4月1日より

休館日：土曜日、日曜日、祝日、年末年始、その他臨時休館日

平成14年4月1日より

休館日：土曜日(毎月第2土曜日は開館)、日曜日、祝日、年末年始、その他臨時休館日

平成15年4月1日より

休館日：日曜日、祝日、年末年始、その他臨時休館日

平成16年4月1日より

休館日：月曜日(月曜日が祝日の場合はその翌日)、12/28～1/3、その他臨時休館日

月別入館者数

年 月	H28年度			H29年度			H30年度			R元年度		
	開館 日数	入館者数	平均入館者 数/日	開館 日数	入館者数	平均入館者 数/日	開館 日数	入館者数	平均入館者 数/日	開館 日数	入館者数	平均入館者 数/日
4	-	-	-	26	12,056	464	26	13,410	516	26	15,241	586
5	-	-	-	26	16,105	619	26	15,387	592	27	18,701	693
6	-	-	-	26	20,539	790	26	24,991	961	26	28,181	1,084
7	6	9,387	1,565	26	18,153	698	26	17,971	691	26	24,275	934
8	27	35,852	1,328	28	30,850	1,102	28	33,405	1,193	28	33,783	1,207
9	25	22,417	897	24	18,097	754	18	12,455	692	24	20,159	840
10	26	24,089	927	26	23,752	914	26	21,557	829	27	26,680	988
11	26	18,592	715	26	12,248	471	26	17,689	680	26	17,324	666
12	23	9,879	430	23	6,072	264	23	9,549	415	23	10,660	463
1	21	9,328	444	21	7,654	364	21	9,483	452	21	10,046	478
2	23	10,908	474	23	10,614	461	24	10,806	450	24	9,274	386
3	26	12,109	466	27	211,797	503	26	10,880	418	-	-	-
合 計	203	152,561	7,244	302	387,937	7,405	296	197,583	7,890	278	214,324	8,326

<展示解説・案内>

展示解説依頼に対しては、館長・教授・准教授・研究支援推進員・資料部研究員・ボランティア等が適宜分担し対応している。

	H28年度		H29年度		H30年度		R元年度	
	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数
小学校	18	220	35	506	41	534	35	539
中学校	14	254	44	1,085	41	1,174	46	1,313
高等学校	22	1,736	45	4,604	41	4,035	36	3,098
その他	124	3,027	156	3,488	144	3,575	109	2,932
計	178	5,237	280	9,683	267	9,318	226	7,882
(内展示解説)	61	1,318	105	2,025	79	1,539	43	926

平成 28 年度

見学団体名	年 月 日	人数	対応教員等
北海道遺産見学愛別同好会	7 月 28 日	30	湯浅
特定非営利活動法人発達支援サポーターズ	7 月 29 日	24	湯浅
幌北第 1 町内会	8 月 3 日	15	高橋(一)

教育学部ディスレクシア支援室	8月6日	25	ミュージアムラブ Mouseion
國學院大學	8月19日	33	湯浅他
札幌商工会議所 観光ボランティアの会	8月23日	55	湯浅
札幌商工会議所 観光ボランティアの会	8月25日	30	湯浅
北京科技大学国際コース学生一行	8月25日	24	山下
長万部中学校	8月25日	13	西本
国際本部・GI-CoRE 量子医理工学グローバルステーション			
	8月26日	30	高橋(一)
参議院議員・秘書官	8月30日	4	大原
北区高齢者教室「北親大学」	9月1日	40	西本他
台湾大学博物館郡一行	9月7日	5	山下
札幌啓成高等学校	9月9日	44	松枝
あげまき会(秋田北高同窓会北海道支部)	9月9日	11	高橋(一)
江教研社会(中)部会	9月9日	21	西本
東京工業高等専門学校物質工学科3年生	9月14日	41	西本他
三笠市文化協会	9月14日	44	西本他
北海道札幌藻岩高等学校	9月16日	5	手島
岡山信用金庫	9月17日	7	高橋(一)
北海道大学施設部、九州大学施設部	9月23日	5	阿部
さっぽろまなびのサポート事業「まなべえ」北区6会場			
	9月25日	45	西本
北海道伊達緑丘高等学校	9月27日	21	湯浅他
つくし子供会	9月30日	29	高橋(一)
平成28年度いわみざわ市民大学	10月2日	37	西本
全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会北海道・東北ブロック会議			
	10月7日	10	江田
札幌旭丘高等学校 PTA 校外研修	10月11日	36	湯浅
旭川市立東明中学校	10月12日	9	高橋(一)
浦河町立荻伏中学校	10月13日	27	高橋(一)
赤れんがガイド会(北海道道友会)	10月13日	13	西本
ヒノキ新薬株式会社	10月14日	18	西本
放送大学北海道学習センター「学友会」	10月18日	3	湯浅
新冠町立新冠中学校	10月19日	5	高橋(一)
NPO 法人シーズネット	10月20日	28	湯浅
東海大学札幌キャンパス	10月24日	16	江田
大韓民国政府関連公務員	10月26日	15	松枝

北海道札幌手稲高等学校	10月27日	1	越前谷
幌北第4町内会	10月28日	22	西本
北海道開拓の村ボランティアの会	11月1日	71	湯浅
文部科学省大臣官房人事課長一行	11月1日	4	高橋(英)
北海道高等学校文化連盟理科専門部石狩支部	11月3日	51	手島他
ときわ大学42期会	11月5日	15	高橋(一)
立命館慶祥高等学校国際交流研修(NJC)	11月15日	16	高橋(一)
マッコーリー大学(オーストラリア)	11月16日	5	山本
東海大学札幌キャンパス	11月17日	15	江田
(公財) さっぽろ青少年女性活動協会(学習支援事業「まなべえ」)	11月19日	45	高橋(一)他
北翔大学生涯学習システム学部学習コーチング学科	11月26日	16	志津木
文部科学省高等教育局国際戦略分析官	12月1日	1	山本
サントリーホールディングス株式会社 知的財産部	12月9日	20	山本
早稲田佐賀高等学校	12月16日	73	山下
文部科学省研究振興局課長一行	1月20日	2	中川
札幌YWCA学生グループSEED	1月21日	20	ミュージアムクラブ Mouseion
ポーランド日本美術技術博物館“マンガ”館一行	2月8日	4	高橋(英)他
グリュシコ・ディミトリーロシア連邦サハ共和国 「アジア子供スポーツ大会国際委員会」会長一行	2月23日	7	高橋(英)
放送大学北海道・東北ブロック所長会議出席者	2月24日	12	山本
アスペンの会	3月2日	20	湯浅
文部科学省係長一行(国立大学法人支援課, 会計課, 学術機関課他)	3月3日	8	江田
ボーイスカウト札幌第12団	3月5日	19	増田他
JENESYS2016参加者(インド高校生)	3月10日	37	山下
華東理工大学学長一行	3月14日	8	山本
次世代化学教育研究会	3月29日	8	山本

平成29年度

団体・学校名	年月日	人数	解説者名
淡江大学(台湾)学長一行	4月19日	5	松枝
会計検査院 内野正博審議官一行	4月25日	3	中川,山本
サハリン郷土博物館 ミロラーノフ館長一行	4月28日	3	大原
北海道青少年科学館連絡協議会	5月12日	15	江田
小樽市立向陽中学校	5月18日	7	山本

北海道大学	5月18日	46	柴田
北海道大学1年生（一般教育演習）	5月19日	24	高橋
雄武町教育委員会	5月24日	1	江田
四天王寺学園中学校	5月26日	74	塚田,西本, 高橋
北光連合町内会女性部	5月26日	20	寺西
さっぽろ まなトピア	5月27日	8	高橋,太田
文部科学省高等教育局国立大学法人支援課 課長補佐 総括係	6月2日	2	湯浅
札幌市立厚別北中学校	6月8日	12	高橋
忠南大学校（韓国）職員及び政府関係者	6月13日	13	阿部
とわの森三愛高等学校	6月14日	65	在田他
北海道大学工学部精密工学科	6月14日	14	西本
6期（昭和42年卒業）卒業50年記念同期会			
工学部機械32期	6月14日	8	山本
北区高齢者教室「北親大学」	6月15日	42	在田他
北海道生物教育会	6月17日	30	湯浅
幕別町PTA連合会	6月17日	30	西本,高橋
文部科学省大臣官房会計課長柿田様御一行	6月19日	3	柴田
公共社団法人北海道観光振興機構	6月21日	36	近藤,湯浅
夢大地北海道ガイドタクシー乗務員向け スキルアップ研修会			
北海道大学関西同窓会、一国会グループ	6月21日	9	西本
東北・北海道地区国立大学医学部 医科大学事務協議会	6月22日	12	山本
総合博物館・道新ぶんぶんクラブ共催講座 「エルムの杜の宝もの」	6月24日	60	近藤
道民カレッジ内 めだかの学校	6月27日	40	山本
芽室町立上美生小学校6年	6月28日	6	湯浅,田中望羽
帯広市大正小学校	6月29日	4	高橋
在日スイス大使と公使（北大山の会）	7月3日	5	大原
文部科学省高等教育局国立大学法人 支援課国立大学戦略室評価改善係長一行	7月4日	2	阿部
黒松内町議会	7月5日	11	大原
厚岸町立高知中学校	7月6日	5	近藤
登別朗読ボランティアの会	7月6日	21	塚田

文部科学省研究振興局学術機関課長補佐一行	7月7日	4	湯浅
博物館網走監獄友の会	7月8日	20	西本
札幌国際プラザ外国語ボランティアネットワーク	7月11日	15	近藤
恵庭市立恵庭中学校	7月11日	64	西本,高橋
石狩遺産プロジェクトM	7月11日	9	大原
北広島市立東部中学校	7月12日	4	西本
北海道札幌北高等学校 定時制課程	7月13日	26	高橋
全学教育科目「モノ」+「コト」+「ヒト」 ＝北大総合博物館の担当教員および受講者	7月20日	35	江田
千歳市立千歳中学校	7月21日	25	高橋
さくらサイエンスプラン・ハイスクール プログラム（中国の高校生受入れ）	7月25日	50	西本,高橋
札幌市新琴似西児童会館	7月26日	32	西本,太田
西こども館ピース（児童館）	7月27日	25	西本,太田
科学教育協議会北海道	7月30日	15	飯島
北海道大学 初任者研修事前説明会	8月1日	25	湯浅
北海道大学 初任者研修事前説明会	8月3日	25	湯浅
室蘭市姉妹都市 米国ノックスビル市長一行	8月5日	10	大原
北海道大学農学部生物環境工学科 （オープンキャンパス高校生限定プログラム参加者）	8月7日	20	近藤
北光児童会館	8月9日	26	塚田,徳丸
東京都立立川高等学校	8月22日	22	大原
むかわ町女性連絡協議会	8月27日	16	太田
北京科技大学 国際部長一行	8月29日	3	江田
斜里町立斜里中学校	8月30日	87	湯浅他
留辺蘂商工会議所	8月31日	29	高橋
北海道公立学校教職員互助会特別会員札幌市北支部	9月1日	21	塚田
プリンスオブソクラー大学（タイ）	9月1日	14	山本
発寒連合町内会女性部	9月5日	30	西本,高橋
帯広市立広陽小学校	9月6日	4	西本
帯広市立広陽小学校	9月6日	4	西本
ジョーリ市立博物館の館長一行（ポーランド）	9月7日	4	江田
札幌市農協花卉部会平岸支部	9月7日	10	西本
札幌三ツ星会	9月7日	5	高橋
利尻富士町立鴛泊中学校	9月8日	23	高橋
七国立大学事務担当理事会議	9月8日	10	湯浅

北海道大学病院 親切ボランティア ポプラの会	9月9日	20	西本
札幌市退職教職員協議会北部支部	9月12日	12	塚田
公益社団法人 札幌消費者協会	9月13日	15	西本
白石区青少年育成委員会連絡協議会	9月13日	38	高橋
清田手話サークル	9月13日	15	増田
放課後デイサービス ジョイキッズ	9月13日	16	塚田
円山動物園ガイドボランティア会	9月15日	30	湯浅他
旭川市立啓明小学校	9月26日	5	西本
北海道教育大学附属函館中学校	9月28日	8	高橋
北海道旭川東高等学校 14 期同期会札幌支部	9月29日	14	西本
北海道大学経営協議会委員	9月29日	12	大原
千歳市家庭生活カウンセラークラブ	9月30日	24	高橋
由仁町立由仁中学校	10月3日	8	西本
豊田市議会市民フォーラム	10月5日	2	谷地中
(株)日立製作所	10月6日	7	高橋
鉄西地区社会福祉協議会	10月10日	30	近藤
浦河町立荻伏中学校	10月12日	21	高橋
札幌市視覚障害者福祉協会	10月14日	40	ハンズオンボランティア
学務部学生支援課（京都大学教育推進 ・学生支援部厚生課職員）	10月17日	3	西本
モンゴル国立大学総長一行	10月20日	5	小林他
北海道登別明日中等教育学校（中高一貫校）	10月24日	82	湯浅他
明石高専 電気情報工学科 5 年生(大学相当)	10月27日	45	高橋,西本
北海道朝鮮初中高級学校（小学校）	10月28日	50	安翔宇
東海大学札幌キャンパス	10月30日	14	江田
幌北第4町内会	11月1日	15	塚田
東海大学札幌キャンパス	11月8日	14	江田
国立大学法人等監事協議会北海道支部会	11月9日	24	湯浅
大通公園メンタルクリニック・リワークオフィス	11月17日	12	西本
竹谷監事、監査室高橋補佐	11月17日	2	近藤
放送大学スクーリング授業	11月18日	25	佐々木亨
北海道大学・教育学研究院 （ソウル大学・台湾師範大学・カセサート大学）	12月19日	20	江田
放課後デイサービス みのりⅡ	1月11日	8	西本,雪田
文部科学省科学技術・学術政策局 科学技術・学術戦略官付（国際担当）	1月17日	2	大原

むかわ町穂別地球体験館 サイエンスガイド	2月2日	4	湯浅
文部科学省 高等教育局 学生・留学生課			
奨学事業係 川本洋輔	2月16日	1	山下
新潟県立歴史博物館	2月20日	3	江田
タルトゥ大学職員 (エストニア)	3月14日	3	高橋
文部科学省学内視察	3月20日	8	大原
Kids Duo 札幌宮の森	3月29日	20	高橋

平成 30 年度

団体・学校名	年 月 日	人数	解説者名
一般教育演習「北大エコキャンパスの自然と歴史」	5月18日	24	高橋(英)
文部科学省小松審議官一行	5月19日	2	山本
小樽市立善園中学校	5月23日	11	高橋(一)
小樽市立桜町中学校	5月30日	17	濱市
文部科学省佐藤高等局視学官一行	5月30日	2	江田
文部科学省研究振興局学術機関課帳補佐一行	5月31日	3	山本
札幌市立厚別北中学校	6月1日	13	高橋(一)
北海道札幌視覚支援学校(中学校)	6月5日	8	山本,高橋(一)
NPO 法人北のユニバーサルデザイン協議会(NUDA)	6月9日	8	山本,植松
文部科学省研究振興局参事官	6月14日	2	大原
北海道栄光会同窓会	6月16日	20	在田
札幌法務局中等科研修	6月20日	44	高橋(一),植松
浜頓別町立浜頓別小学校	6月21日	10	高橋(一),高崎
文部科学省大臣官房会計課長一行	6月21日	7	高橋(英)
千歳市立北斗中学校	6月22日	19	高橋(一)
財務省主計局次長一行	6月22日	9	近藤
文科省研究振興局学術機関課長一行	6月28日	2	阿部
恵庭市立恵北中学校	6月29日	6	高橋(一)
石狩市社会福祉協議会(寿窯)	6月30日	40	湯浅
新渡戸カレッジ KRA 小松啓一郎氏一行	7月2日	5	近藤
新渡戸カレッジ KRA 小松啓一郎氏一行	7月3日	4	湯浅
札幌国際プラザ外国語ボランティアネットワーク	7月3日	15	近藤
横浜市立盲特別支援学校(高等部普通科)	7月6日	12	加藤
Technical Tour for PRESM 2018 (工学研究院 近久教授)	7月6日	50	高橋(一),植松
大学院工学研究院(韓国忠北大学校)	7月6日	6	山本
文部科学省学術研究助成課一行	7月6日	2	阿部

藻岩下町内会女性部	7月10日	10	植松
厚真町立厚南中学校	7月11日	16	近藤
北海道帯広盲学校(中学校)	7月13日	10	加藤
市立小樽文学館	7月14日	20	高橋(一)
全学教育科目「モノ」+「コト」+「ヒト」受講者	7月19日	35	江田
むかわ町立鵜川中学校	7月19日	51	太田,徳丸
江別市立野幌中学校	7月20日	30	高橋(一),植松
特定非営利活動法人 Kacotam	7月22日	10	塚田,田中
北海道第二教区浄土宗青年会	7月28日	50	植松
まつもと子ども未来委員会	8月2日	12	塚田
北海道大学 ほっかいどう同窓会	8月3日	15	寺西,大山,大沼,橋爪
サハリン州郷土博物館	8月3日	2	大原
サイエンスアイ	8月7日	25	山本,高橋(一)
文部科学省審議官一行	8月7日	2	山本
いしかり市民カレッジ	8月9日	50	高橋(一),植松
網走市立第三中学校	8月24日	6	高橋(一),雲中
「酪農から見えてくる北大観光の未来」の集い	9月18日	15	近藤
文化庁文化財部参事官(建造物担当)付修理企画部門村上玲奈技官	9月19日	2	近藤
札幌啓北商業高等学校 PTA	9月27日	27	高橋(一)
校友会エルム保護者会員懇談会及びキャンパスツアー	9月29日	25	湯浅
医学部フラテ祭 2018	9月30日	28	第2農場ボランティア
山鼻第13西町内会	10月3日	22	植松
浦河町立萩伏中学校	10月11日	26	植松
浦幌町立上浦幌中央小学校	10月11日	8	高橋(一)
藤女子中学校	10月12日	136	湯浅、大山
上野幌東小ミニ児童会館	10月13日	17	塚田
鈴乃屋きもの学院札幌校	10月14日	31	塚田
前田地区連合町内会連絡協議会女性部	10月17日	50	高橋(一),植松
月寒五区連合町内会	10月17日	40	高橋(一)
札幌市立中央中学校	10月18日	21	植松,太田
台湾元智大学	10月19日	34	高橋(一),寺西
北海道登別明日中等教育学校	10月23日	80	高橋(一),植松,雲中
音更町立柳町小学校	10月25日	5	高橋(一)
協同組合のレーゾンデートル公開講座	10月27日	20	近藤
東海大学札幌キャンパス(博物館実習)	10月29日	15	江田
九州大学工学部教員と施設部職員,北大施設部職員	10月30日	11	近藤

広尾郡広尾町立広尾小学校	11月1日	7	植松
東海大学札幌キャンパス(博物館実習)	11月8日	15	江田
韓国ソウル大学校(国際部ジョイントシンポジウム)	11月9日	15	江田
一般社団法人北海道退職公務員連盟	11月13日	20	高橋(一)
大連理工大学(中国)学長一行	11月28日	8	山下
サハ共和国VIP訪問団	12月3日	7	立澤,江田
総務企画部総務課(北警察署長一行)	12月5日	9	阿部
韓国・全北(チュンブク)大学校学長一行	12月7日	5	大原
陽明大学(台湾)一行	12月18日	3	大原
HBC 北海道放送企画演出部兼情報制作部	12月22日	3	近藤
北海道小樽未来創造高等学校	1月8日	12	高橋(一)
高麗大学(韓国)学長一行	1月11日	25	江田
東京農工大学島村理事・事務局長一行	2月1日	4	大原
共同組合のレーゾンテートル公開講座	2月23日	20	植松
むかわ町恐竜ワールドセンター	2月27日	7	太田
国際観光コンベンションフォーラム	3月8日	70	大原
シーズネットわくわく同好会	3月13日	11	高橋(一)

平成31年度・令和元年

団体・学校名	年月日	人数	解説者名
文部科学省研究振興局競争的資金調整室長一行	5月8日	2	山本
東京大学研究推進部長一行	5月9日	7	大原
愛別町立愛別小学校	5月10日	5	植松
シニア生涯学習グループめだかの学校	5月13日	30	近藤
滝川市立江陵中学校	5月15日	5	植松
小樽市立菁園中学校	5月22日	35	植松
小樽市立長橋中学校	5月28日	21	植松
東京工業大学財務部主計課長一行	5月31日	4	江田
余市町立西中学校	6月5日	4	植松
中国文化大学(台湾台北)	6月9日	17	大原
NPO 法人北のユニバーサルデザイン協議会	6月16日	3	大原
倶知安消費者協会	7月3日	36	植松
さくらんぼ収穫と手打ちうどん作り体験&北海道農業の歴史を学ぶツアー	7月7日	45	近藤
パヤオ大学(タイ)	7月8日	6	大原
豊田少年少女発明クラブ	7月24日	41	植松
協同組合のレーゾンテートル公開講座(農学研究院申特任准教授)	7月27日	55	近藤

一般財団法人北海道公立学校教職員互助会「MANABU!旅」	8月1日	45	湯浅
旭川工業高等専門学校	8月2日	50	阿部
(公財)北海道生涯学習協会 賛助会員	8月9日	26	大原
北海道畜産草地学会	8月27日	50	近藤
神奈川県議会	8月28日	11	湯浅
衆議院調査局	8月29日	4	近藤
岩見沢市立第一小学校	9月5日	11	植松
校友会エルムホームカミングデーキャンパスツアー	9月28日	33	湯浅
北大建築20期50年会	10月2日	12	湯浅
第10回国際シンポジウム	10月4日	10	江田
北海道登別明日中等教育学校	10月8日	78	湯浅
札幌商工会議所観光ボランティアガイドの会	10月10日	27	近藤
文部科学省医学教育課長	10月12日	3	小澤,阿部
浦河町立荻伏中学校	10月17日	21	植松
鉄西地区社会福祉協議会	10月18日	40	近藤
北海道大学学務部入試課	10月23日	40	近藤
新琴似相談指導教室	10月25日	7	植松
協同組合のレゾンデートル公開講座	10月26日	55	植松
東海大学札幌キャンパス	10月28日	15	江田
道教職員互助会札幌西支部歩こう会	10月30日	17	植松
琉球大学副学長一行	11月1日	4	阿部
東海大学札幌キャンパス	11月7日	15	江田
北海道赤十字奉仕団道央ブロック協議会	11月8日	10	植松
文部科学省研究推進局学術研究助成課課長補佐一行	11月21日	2	山本
7大学財務部長連絡会随行者	12月5日	12	江田
工学部池上重康助教	12月6日	6	池上
名古屋市博物館・乃村工藝社	12月12日	6	山本,江田,山下,浪塚

VI. 社会教育・普及活動

1. 博物館セミナー

平成28(2016)年度 (41回)

- 1 バイオミメティクス市民セミナー
生き物に学ぶ最適化設計 4月2日
- 2 バイオミメティクス市民セミナー
コロイド微粒子を並べてタマムシの構造色を模倣する 5月7日
- 3 バイオミメティクス市民セミナー
環境によって変幻自在に姿を変える昆虫たち 6月4日
- 4 土曜市民セミナー 道民カレッジ連携講座
人獣共通感染症 ― 蚊・野生動物が運ぶウイルス ― 6月11日
- 5 環境月間関連行事
北大エコキャンパス観察会 6月25日
- 6 バイオミメティクス市民セミナー
島津製作所による「バイオミメティクス」など最先端高分子素材研究のマーケティング活動 7月2日
- 7 土曜市民セミナー 道民カレッジ連携講座
森・土・川のつながり ― 自然のしくみと環境のはなし ― 7月9日
- 8 土曜市民セミナー 道民カレッジ連携講座
無火薬式ロケットによる宇宙工学研究のコンパクト化 8月6日
- 9 バイオミメティクス市民セミナー
液晶～分子の「かたち」が決める固体構造 8月13日
- 10 第1回ミュージアム・カフェ 金曜ナイト・セミナー
利尻・礼文の植物保全研究―人間はどこまで自然に手を出せるのか― 8月26日
- 11 リニューアルオープン記念企画展示「ランの王国」関連公開セミナー
北大植物園のラン科コレクション～歴史と現在～ 9月3日
- 12 第2回ミュージアム・カフェ 金曜ナイトセミナー
北海道大学総合博物館所蔵 昆虫標本について 9月9日
- 13 バイオミメティクス市民セミナー
NanoSuit 法によるリアルな生物表面観察 9月10日
- 14 土曜市民セミナー 道民カレッジ連携講座
博物館というフィールドーアイヌ物質文化研究の現場から― 9月10日
- 15 リニューアルオープン記念企画展示「ランの王国」関連公開セミナー
小笠原におけるラン保全活動 9月11日
- 16 リニューアルオープン記念企画展示「ランの王国」関連公開セミナー

- 礼文島におけるレブンアツモリソウ保全活動 9月11日
- 17 第3回ミュージアム・カフェ 金曜ナイトセミナー
この地球にあるマグマの出口～5つ目を見つけました～ 9月23日
 - 18 バイオミメティクス市民セミナー
サメの多様性と生存戦略 10月1日
 - 19 土曜市民セミナー 道民カレッジ連携講座
骨を作る細胞と食べる細胞の不思議を探る 10月8日
 - 20 第4回ミュージアム・カフェ 金曜ナイトセミナー
おとなの夜の恐竜学 10月14日
 - 21 第5回ミュージアム・カフェ 金曜ナイトセミナー
日本海は進化のゆりかご-海藻と貝形虫- 10月28日
 - 22 バイオミメティクス市民セミナー
糸の匠、すごもりはだに 11月5日
 - 23 土曜市民セミナー 道民カレッジ連携講座
子どもの貧困から公正な社会を考える 11月12日
 - 24 坂本直行生誕110年記念企画展示「直行さんのスケッチブック展」記念講演会
山岳画家としての坂本直行 11月19日
 - 25 坂本直行生誕110年記念企画展示「直行さんのスケッチブック展」記念講演会
直行さんと歩々の会 11月20日
 - 26 坂本直行生誕110年記念企画展示「直行さんのスケッチブック展」記念講演会
龍馬と直行 11月27日
 - 27 第5回博物館研究会：公開研究会
娯楽観光施設の研究と記録化 12月2日
 - 28 バイオミメティクス市民セミナー
樹木細胞壁の形成過程を模倣したもの作り 12月3日
 - 29 土曜市民セミナー 道民カレッジ連携講座
玉手箱が明らかにする宇宙と生命の謎 12月10日
 - 30 第6回博物館研究会：公開研究会
アーカイブとコンテクスト：アーティストと映像 12月13日
 - 31 バイオミメティクス市民セミナー
サケ-謎に満ちた生命の旅 1月7日
 - 32 土曜市民セミナー 道民カレッジ連携講座
コミュニティによるローカルなお金は可能か？-北海道仮想地域通貨 DO に向けて- 1月21日
 - 33 バイオミメティクス市民セミナー
昆虫の学習と微小脳:ヒトの脳のしくみとは違うのか? 2月4日

- 34 冬季企画展示「北大古生物学の巨人たち」セミナー
触覚と写真－光の化石－ 2月5日
- 35 土曜市民セミナー 道民カレッジ連携講座
はじけるダイズー収穫量を増やす茨の仕組みー 2月11日
- 36 冬季企画展示「北大古生物学の巨人たち」セミナー
北大化石標本コレクションの系譜 2月12日
- 37 冬季企画展示「北大古生物学の巨人たち」セミナー
ニッポノサウルスの最新研究 2月19日
- 38 バイオミメティクス市民セミナー
ダニの話:形態,生態,多様性 3月4日
- 39 冬季企画展示「北大古生物学の巨人たち」セミナー
デスモスチルスの発見、発掘と研究：1933年から2017年まで 3月5日
- 40 土曜市民セミナー 道民カレッジ連携講座
外来種対策の現状と課題－アライグマ対策を中心に－ 3月11日
- 41 冬季企画展示「北大古生物学の巨人たち」セミナー
私と化石－DNA から進化を探る－ 3月30日

平成29(2017)年度 (72回)

- 1 バイオミメティクス市民セミナー
雪虫のなぞ：複雑な生活史と形の変化 4月1日
- 2 土曜市民セミナー
海藻？ 4月8日
- 3 バイオミメティクス市民セミナー
透明セルロースナノペーパーと次世代光技術 5月6日
- 4 土曜市民セミナー
かんらん岩の山の自然と人々をつなぐ物語 5月13日
- 5 地質の日記念展示市民セミナー
北海道ジオサイト107への旅に出て 5月20日
- 6 バイオミメティクス市民セミナー
甲虫に見られる構造色多形の遺伝と害虫防除 6月3日
- 7 地質の日記念展示市民セミナー
ジオサイトとしての札幌の魅力 6月4日
- 8 土曜市民セミナー
がん放射線治療の最近の進歩と北海道大学の貢献 6月10日
- 9 金曜ナイトセミナー第1回
夜の博物館からの時間旅行 6月16日

- 10 バイオミメティクス市民セミナー
視覚センシングとロボット制御 8月26日
- 42 リニューアルオープン記念企画展示「ランの王国」関連公開セミナー
北大植物園のラン科コレクション～歴史と現在～ 9月3日
- 43 第2回ミュージアム・カフェ 金曜ナイトセミナー
北海道大学総合博物館所蔵 昆虫標本について 9月9日
- 44 バイオミメティクス市民セミナー
NanoSuit 法によるリアルな生物表面観察 9月10日
- 45 土曜市民セミナー 道民カレッジ連携講座
博物館というフィールドーアイヌ物質文化研究の現場からー 9月10日
- 46 リニューアルオープン記念企画展示「ランの王国」関連公開セミナー
小笠原におけるラン保全活動 9月11日
- 47 リニューアルオープン記念企画展示「ランの王国」関連公開セミナー
礼文島におけるレブンアツモリソウ保全活動 9月11日
- 48 第3回ミュージアム・カフェ 金曜ナイトセミナー
この地球にあるマグマの出口～5つ目を見つけました～ 9月23日
- 49 バイオミメティクス市民セミナー
サメの多様性と生存戦略 10月1日
- 50 土曜市民セミナー 道民カレッジ連携講座
骨を作る細胞と食べる細胞の不思議を探る 10月8日
- 51 第4回ミュージアム・カフェ 金曜ナイトセミナー
おとなの夜の恐竜学 10月14日
- 52 第5回ミュージアム・カフェ 金曜ナイトセミナー
日本海は進化のゆりかごー海藻と貝形虫ー 10月28日
- 53 バイオミメティクス市民セミナー
糸の匠、すごもりはだに 11月5日
- 54 土曜市民セミナー 道民カレッジ連携講座
子どもの貧困から公正な社会を考える 11月12日
- 55 坂本直行生誕110年記念企画展示「直行さんのスケッチブック展」記念講演会
山岳画家としての坂本直行 11月19日
- 56 坂本直行生誕110年記念企画展示「直行さんのスケッチブック展」記念講演会
直行さんと歩々の会 11月20日
- 57 坂本直行生誕110年記念企画展示「直行さんのスケッチブック展」記念講演会
龍馬と直行 11月27日
- 58 第5回博物館研究会：公開研究会
娯楽観光施設の研究と記録化 12月2日

- 59 バイオミメティクス市民セミナー
樹木細胞壁の形成過程を模倣したもの作り 12月3日
- 60 土曜市民セミナー 道民カレッジ連携講座
玉手箱が明らかにする宇宙と生命の謎 12月10日
- 61 第6回博物館研究会：公開研究会
アーカイブとコンテクスト：アーティストと映像 12月13日
- 62 バイオミメティクス市民セミナー
サケ-謎に満ちた生命の旅 1月7日
- 63 土曜市民セミナー 道民カレッジ連携講座
コミュニティによるローカルなお金は可能か？ー北海道仮想地域通貨 DO に向けてー 1月21日
- 64 バイオミメティクス市民セミナー
昆虫の学習と微小脳:ヒトの脳のしくみとは違うのか? 2月4日
- 65 冬季企画展示「北大古生物学の巨人たち」セミナー
触覚と写真ー光の化石ー 2月5日
- 66 土曜市民セミナー 道民カレッジ連携講座
はじけるダイズー収穫量を増やす莢の仕組みー 2月11日
- 67 冬季企画展示「北大古生物学の巨人たち」セミナー
北大化石標本コレクションの系譜 2月12日
- 68 冬季企画展示「北大古生物学の巨人たち」セミナー
ニッポノサウルスの最新研究 2月19日
- 69 バイオミメティクス市民セミナー
ダニの話:形態,生態,多様性 3月4日
- 70 冬季企画展示「北大古生物学の巨人たち」セミナー
デスモスチルスの発見、発掘と研究：1933年から2017年まで 3月5日
- 71 土曜市民セミナー 道民カレッジ連携講座
外来種対策の現状と課題ーアライグマ対策を中心にー 3月11日
- 72 冬季企画展示「北大古生物学の巨人たち」セミナー
私と化石ーDNA から進化を探るー 3月30日

平成30(2018)年度 (30回)

- 1 バイオミメティクス市民セミナー
近代国家日本とバイオミメティクス 4月8日
- 2 土曜市民セミナー 道民カレッジ連携講座
明らかな現象・劣化を示す高山植生について何が出来るか～アポイ岳の場合～4月14日
- 3 バイオミメティクス市民セミナー

- 北海道とバイオミメティクスを考える その1バイオミメティクスの動向 5月5日
- 4 土曜市民セミナー 道民カレッジ連携講座
ウズベキスタンの慣習経済—計画経済と市場経済の間で— 5月12日
- 5 地質の日記念展示関連セミナー
北海道の石！砂白金 5月13日
- 6 地質の日記念展示関連セミナー
北海道における地質学の調査・研究の事始め～北海道命名150年によせて～ 5月26日
- 7 バイオミメティクス市民セミナー
北海道とバイオミメティクスを考える その2農業とバイオミメティクス 6月2日
- 8 土曜市民セミナー 道民カレッジ連携講座
北海道のアブ 6月9日
- 9 バイオミメティクス市民セミナー
北海道とバイオミメティクスを考える その3寒冷地とバイオミメティクス 7月7日
- 10 土曜市民セミナー 道民カレッジ連携講座
病気を見つける薬から治す薬へ 7月14日
- 11 企画展 特別講演
教育と通信制度—高等教育における教養教育、職業教育の歴史とメディア— 8月3日
- 12 ミュージアム・カフェ 金曜ナイトセミナー
北海道大学のみどりの効用と緑地管理 8月3日
- 13 バイオミメティクス市民セミナー
北海道とバイオミメティクスを考える その4デザインとバイオミメティクス 8月4日
- 14 土曜市民セミナー 道民カレッジ連携講座
シベリア北極圏への人類の拡散 8月11日
- 15 ミュージアム・カフェ 金曜ナイトセミナー
北大キャンパスの蛾類について 8月31日
- 16 バイオミメティクス市民セミナー
北海道とバイオミメティクスを考える その5花、美、武士道とバイオミメティクス 9月1日
- 17 ミュージアム・カフェ 金曜ナイトセミナー
“場”をつくること—くみたて和室の開発と実践を通じて— 9月21日
- 18 土曜市民セミナー 道民カレッジ連携講座
企画展 “視ることを通して” のねらい 10月6日
- 19 バイオミメティクス市民セミナー
北海道とバイオミメティクスを考える その6博物館の役割 10月6日
- 20 土曜市民セミナー 道民カレッジ連携講座
健康に深く関わる生物時計の仕組み 10月13日
- 21 バイオミメティクス市民セミナー

- 北海道とバイオメティクスを考える その7持続可能なパッケージング 11月3日
- 22 土曜市民セミナー 道民カレッジ連携講座
高齢社会と相続法 11月10日
- 23 バイオメティクス市民セミナー
北海道とバイオメティクスを考える その8動物と人との関係誌 12月1日
- 24 土曜市民セミナー 道民カレッジ連携講座
どうなる？地域に残る標本たち：人口減少期の地方博物館と自然史研究の未来 12月8日
- 25 土曜市民セミナー 道民カレッジ連携講座
森林の変遷—昭和新山で語る— 1月12日
- 26 バイオメティクス市民セミナー
北海道とバイオメティクスを考える その9北海道の自然と環境 1月13日
- 27 バイオメティクス市民セミナー
北海道とバイオメティクスを考える その10持続可能な街づくり 2月9日
- 28 土曜市民セミナー 道民カレッジ連携講座
終末期医療と警報—安楽死・尊厳死問題を中心に—
- 29 バイオメティクス市民セミナー
北海道とバイオメティクスを考える その11生物誕生の根源と生物の可能性 3月2日
- 30 土曜市民セミナー 道民カレッジ連携講座
身近なショウジョウバエの話 3月9日

平成31・令和元(2019)年度（30回、2回中止）

- 1 バイオメティクス市民セミナー
持続可能な社会とバイオメティクスを考える その1今、海はどうなっているの
だろう 4月6日
- 2 土曜市民セミナー 道民カレッジ連携講座
水草を探して、集めて、調べて、守る。 4月13日
- 3 バイオメティクス市民セミナー
持続可能な社会とバイオメティクスを考える その2博物館の役割 5月4日
- 4 土曜市民セミナー 道民カレッジ連携講座
「水の都」札幌—コトニ川を尋ねて 5月11日
- 5 バイオメティクス市民セミナー
持続可能な社会とバイオメティクスを考える その3海の恵みを産業に～自然資
本という考え方～ 6月1日
- 6 土曜市民セミナー 道民カレッジ連携講座
北海道の宝物 “コンブ” 6月8日
- 7 地質の日記念展

- 「水の都」その誕生と消滅～身近に残る水の痕跡～ 6月9日
- 8 ミュージアム・カフェ金曜ナイトセミナー2019
ハナバチは日向に集う日陰者 6月14日
- 9 バイオミメティクス市民セミナー
持続可能な社会とバイオミメティクスを考える その4安心・安全、健康、医療 7月6日
- 10 ミュージアム・カフェ金曜ナイトセミナー2019
野鳥の目線から見る北海道大学 7月12日
- 11 土曜市民セミナー 道民カレッジ連携講座
見えてきた河原に広がる生物の世界 7月13日
- 12 博物館研究会講演会
ヌソ（犬ぞり）から考えるアイヌ文化の復興 7月14日
- 13 ミュージアム・カフェ 金曜ナイトセミナー
みんなでまもりつくるサクシュコトニ川 7月26日
- 14 バイオミメティクス市民セミナー
持続可能な社会とバイオミメティクスを考える その5環境、農業、経済 8月3日
- 15 土曜市民セミナー 道民カレッジ連携講座
考古学からみた北大キャンパス遺跡群における水圏利用 8月10日
- 16 ミュージアム・カフェ金曜ナイトセミナー
キャンパスの緑をどう守り？どう活かす？ 8月23日
- 17 バイオミメティクス市民セミナー
南方熊楠賞受賞記念公園 9月7日
- 18 土曜市民セミナー 道民カレッジ連携講座
日本海の「カレイ」の種多様性を概観する 9月14日
- 19 バイオミメティクス市民セミナー
ある地質学者から見た人新世～環境の時空間スケールとは～ 10月5日
- 20 土曜市民セミナー 道民カレッジ連携講座
サハ共和国（ヤクーチア）の環境と民族文化 10月12日
- 21 バイオミメティクス市民セミナー
人新生に生きるヒト：アラスカの環境人文学から考える 11月2日
- 22 土曜市民セミナー 道民カレッジ連携講座
下水道の来し方行く末 11月9日
- 23 バイオミメティクス市民セミナー
毒と生物の攻防 12月7日
- 24 バイオミメティクス市民セミナー
石狩海岸砂丘は周回遅れで先進事例となった！ 12月14日
- 25 「小さなちいさな哺乳類トガリネズミ」展 公開セミナー 12月21日

- 26 バイオメテイクス市民セミナー
アントロポセンと環境倫理 1月4日
- 27 土曜市民セミナー 道民カレッジ連携講座
北海道大学総合博物館とキャンパスミュージアム 1月11日
- 28 写真パネル展
「冷たい海の大冒険!!!～関勝則が写す北の海の生き物～」展関連セミナー 1月26日
- 29 バイオメテイクス市民セミナー
ブラックアウトの教訓とマイクログリッド 2月1日
- 30 土曜市民セミナー 道民カレッジ連携講座
水を透して見る北海道のユニークな生態系 2月15日
- 31 バイオメテイクス市民セミナー
なぜ環境保全はうまくいかないのか?半栽培とコモنزから考える 3月7日
- 中止
- 32 土曜市民セミナー 道民カレッジ連携講座
カムイの大地—北海道・新風景—撮影秘話「冬・春編」 中止

2. 公開シンポジウム

平成28(2016)年度 (0回)

平成29(2017)年度 (1回)

- 1 北海道大学総合博物館シンポジウム
絶滅動物化石の最新研究in2018 3月18日

平成30(2018)年度 (2回)

- 1 藤原ナチュラルヒストリー振興財団公開シンポジウム
恐竜と鳥のはざま 10月14日
- 2 公開シンポジウム
ミュージアムが公共空間を彩る 1月12日

平成31(2019)年度 (2回)

- 1 夏季企画展示シンポジウム
北大札幌キャンパス遺跡群を探る 9月28日
- 2 絶滅動物化石の最新研究 in 2020 3月21日

3. パラタクソノミスト養成講座

平成28(2016)年度 (3回)

- 1 パラタクソノミスト養成講座「昆虫 (Jr.)」 8月28日
- 2 パラタクソノミスト養成講座 野外採集・地質見学会 10月8～9日

- 3 パラタクソノミスト養成講座「きのこ（初級）」10月15日

平成29(2017)年度 (6回)

- 1 パラタクソノミスト養成講座「土器（中級）」 6月17日
- 2 パラタクソノミスト養成講座「きのこ（初級）」 7月15日
- 3 パラタクソノミスト養成講座「昆虫（初級）」 9月16日～17日
- 4 パラタクソノミスト養成講座 野外採集・地質見学会 10月7日～8日
- 5 パラタクソノミスト養成講座「鉱石（初級）」 12月16日～17日
- 6 パラタクソノミスト養成講座「昆虫甲虫（中級）」 1月27日～28日

平成30(2018)年度 (4回)

- 1 パラタクソノミスト養成講座「植物（初級）」 9月15日
- 2 パラタクソノミスト養成講座 野外採集・地質見学会 10月6日～7日
- 3 パラタクソノミスト養成講座「きのこ（初級）」 10月13日
- 4 パラタクソノミスト養成講座「イネ科（初級）」 2月16日

平成31・令和元(2019)年度 (3回)

- 1 パラタクソノミスト養成講座「きのこ（初級）」 9月7日
- 2 パラタクソノミスト養成講座「昆虫（初級）」 10月12日～13日
- 3 パラタクソノミスト養成講座「昆虫（上級）」 2月22日～23日

4. カルチャーナイト

2004年度から、総合博物館はカルチャーナイト、札幌の夏の一夜に文化施設などを夜間開放して市民の方々に地域の文化を楽しんでいただくイベントに参加している。

2016年は、耐震改修工事による休館中のため不参加

2017年7月21日 星空とチェンバロの夕べ

常設展・企画展の時間延長公開、チェンバロ演奏会、
宇宙の4Dシアター、夏の星座の観望会

主催：北大総合博物館

協力：札幌星仲間

2018年7月20日 星空とチェンバロの夕べ

常設展・企画展の時間延長公開、チェンバロ演奏会、
宇宙の4Dシアター

主催：北大総合博物館

協力：札幌星仲間

2019年7月19日 星空とチェンバロの夕べ

常設展・企画展の時間延長公開、チェンバロ演奏会、

宇宙の4Dシアター、夏の星座の観望会

主催：北大総合博物館

協力：札幌星仲間

5. ボランティア活動

1999年度から、総合博物館では標本整理や展示解説などの分野でボランティア活動を推進している。16分野へと幅も広がり、登録者数も増えている。

各グループでの研修に加え、博物館の研究と教育に幅広く関心を持っていただき、ボランティアの交流を促進するため、博物館が主催してボランティア講座・交流会を開催している。

水産科学館でも標本整理に学生ボランティアが活動している。

16 分野

植物・菌類資料に関する収蔵管理と標本作製

昆虫標本作製と整理

考古学資料の整理と動物骨格標本の作製

総合博物館メディアボランティア

化石標本の整理・クリーニング作業・レプリカ作り

北大の歴史展示に関する作業

展示解説

リーフレット翻訳

平成遠友夜学校

4Dシアター運営

チェンバロ展示の充実

博物館図書室の整備

重要文化財 札幌農学校第2農場の展示支援

ハンズオン展示室整備

展示改訂（地学）（平成28～29年度）

展示製作支援（平成30年度～）

中庭整備

水産科学館

標本整理

・登録者数

平成28年度：240名（本館）、 21名（水産科学館）
平成29年度：228名（本館）、 15名（水産科学館）
平成30年度：247名（本館）、 19名（水産科学館）
令和元年度：234名（本館）、 15名（水産科学館）
(3/31現在)

・ボランティア講座&交流会

平成28年度

第1回ボランティア講座&交流会「博物館リニューアル趣旨説明と館内見学（講師：山本順司、湯浅万紀子）平成28年10月28日

第2回ボランティア講座&交流会「台湾の大学博物館事情」（講師：山下俊介）、平成29年3月11日

平成29年度

第1回ボランティア講座&交流会「札幌農学校第2農場見学」（講師：近藤誠司）平成29年6月11日

第2回ボランティア講座&交流会「『惑星地球の時空間』展解説」（講師：山本順司）、平成29年7月31日

平成30年度

第1回ボランティア講座&交流会「『視ることを通して』展解説」（講師：山下俊介）平成30年8月28日

第2回ボランティア講座&交流会「退官記念講座 研究と博物館活動」（講師：高橋英樹）、平成31年2月24日

令和元年度

第1回ボランティア講座&交流会「『K39:考古学からみた北大キャンパスの5,000年』展解説」（講師：江田真毅）令和元年7月16日

第2回ボランティア講座&交流会「北海道大学総合博物館とキャンパスミュージアム」（講師：小澤丈夫）、令和2年1月11日

6. 研究報告会

平成28年度

平成29年4月3日 13:30-15:30「S105 知の交流」にて開催

研究報告会プログラム次第（進行：高橋英樹 平成28年度研究部長）

1. 開会の挨拶 中川光弘館長

2. 表彰・黙祷
 - 2-1. 亡くなられた方への黙祷
 - 2-2. ボランティア表彰 5年・10年
3. 全体報告（高橋）
4. 研究部報告
 - 4-1. 博物館教育学 研究報告（湯浅万紀子）
 - 4-2. 動物考古学 研究報告（江田真毅）
5. 資料部研究員報告
 - 5-1. 全体報告（秋元信一資料部長）
 - 5-2. 研究員報告（杉山滋郎）
 - 5-3. 研究員報告（木村正人）
 - 5-4. 研究員報告（越前谷宏紀）
 - 5-5. 研究員報告（泉洋江）
 - 5-6. 研究員報告（天野哲也）
6. マイスターコース報告
 - 6-1. 「ランの王国」展示解説（和久井彬実）
 - 6-2. 「古生物学の巨人たち」展示解説（森本智郎）
7. ボランティア報告
 - 7-1. 全体報告（在田一則ボランティアの会会長）
 - 7-2. 植物標本（吉中弘介・佐藤広行）
 - 7-3. 昆虫標本（山本ひとみ）
 - 7-4. 考古学（田中望羽）
 - 7-5. 化石（岡野忠雄）
 - 7-6. ハンズオン（増田彩乃）
 - 7-7. 4Dシアター（福澄孝博）
8. 閉会挨拶（中川館長）

平成29年度

平成30年3月19日 13:30-16:00 「S105 知の交流」にて開催

研究報告会プログラム次第（進行：湯浅万紀子 平成29年度研究部長）

1. 開会挨拶 中川光弘館長
2. ボランティア表彰 5年・10年
3. 全体報告（湯浅）
4. 研究部報告

「むかわ竜の研究の現状」 小林快次
5. 資料部報告

- 5-1. 全体報告 秋元信一資料部長
- 5-2. 「テフラと樹林形成」 春木雅寛
- 5-3. 「化石ボランティアでクリーニングしているクジラ化石について」
田中嘉寛
- 6. 学生の研究報告
 - 6-1. 「日本のワニ類は氷河期を生き延びたか？」 飯島正也
 - 6-2. 「北海道大学総合博物館における『楽しみ方』調査と共有の実践」
増田彩乃
- 7. ボランティア活動報告
 - 7-1. ボランティアの会（在田一則ボランティアの会会長）
 - 7-2. きたみてガーデン（星野愛花里・芦澤万里音）
 - 7-3. 化石（木村聖子）
 - 7-4. 考古（田中望羽）
- 8. 閉会挨拶（中川館長）

平成30年度

平成 31 年 3 月 18 日 13:00－15:00 博物館 3 階 N308 教室にて開催

中川光弘館長退任記念講演

高橋英樹教授退官記念講演

研究報告会プログラム次第（進行：湯浅万紀子 平成 30 年度研究部長）

- 1. 開会挨拶 中川光弘館長
- 2. ボランティア表彰 5 年・10 年
- 3. 全体報告（湯浅）
- 4. 資料部全体報告（秋元信一資料部長）
- 5. 学生の研究報告
 - 「博物館ボランティアの研修プログラムの検討—北海道大学総合博物館に
おける『展示解説者体験プログラム』の実践を通して」（徳丸沙耶夏）
- 6. ボランティア活動報告
 - 6-1. ボランティアの会（在田一則ボランティアの会会長）
 - 6-2. 考古（骨）（森本智郎）
 - 6-3. ハンズオン（濱崎瑠菜・種市晟子）
 - 6-4. 化石（臼田みゆき）
 - 6-5. 昆虫（志津木眞理子）
- 8. 閉会挨拶（中川館長）

引き続き、中川光弘館長退任記念講演、高橋英樹特任教授退官記念講演が行われた。

令和元年度 コロナ対策のため中止

7. 道新ぶんぶんクラブとの共催講座「エルムの杜の宝もの」

平成21（2009）年度から、道新ぶんぶんクラブと総合博物館が共催し、市民向けの講座「エルムの杜の宝もの」を実施している。博物館展示と関連付けた講演、構内外の見学など多彩な内容であり、毎回多くの聴講希望者のなかから抽選で聴講者を決定している。

平成28年度

- 5月14日「北大構内ツアー 遺跡編」
講師：江田真毅（動物考古学）
- 6月25日「北大構内ツアー 建築編」
講師：池上重康（北大大学院工学研究院助教・資料部研究員・近代建築史学）
- 8月27日「リニューアル記念 企画展示・常設展示解説」
講師：高橋英樹（植物体系学）・湯浅万紀子（博物館教育学）
- 9月3日「記録映像から見る北大」
講師：山下俊介（映像資料学）
- 10月15日「小中学生親子対象 恐竜教室」
講師：小林快次（古生物学）

平成29年度

- 4月22日「クラーク博士と札幌の植物」
講師：高橋英樹（植物体系学）
- 5月27日「小学生親子昆虫教室」
講師：大原昌宏（昆虫体系学）
- 6月24日「札幌農学校第2農場見学」
講師：近藤誠司（資料部研究員・家畜生産学）
- 7月29日「特別企画『惑星地球の時空間』・常設展示の見学」
講師：山本順司（地球科学）・湯浅万紀子（博物館教育学）

平成30年度

- 5月26日「宮部金吾が築いた北大の海藻研究」
講師：阿部剛史（海藻分類学）
- 6月30日「札幌農学校第2農場見学」
講師：近藤誠司（資料部研究員・家畜生産学）

7月29日「夏季企画展示『視ることを通して』・常設展示の見学」
講師：山下俊介（映像資料学）・湯浅万紀子（博物館教育学）

令和元年度

5月22日「中谷宇吉郎と雪の研究」

講師：杉山滋郎（資料部研究員・科学技術史）

6月29日「札幌農学校第2農場見学」

講師：近藤誠司（資料部研究員・家畜生産学）

7月27日「夏季企画展示『K39: 考古学からみた北大キャンパスの5,000年』・常設展示の見学」

講師：江田真毅（動物考古学）・湯浅万紀子（博物館教育学）

8. 北海道大学ホームカミングデー

北海道大学では、平成24（2012）年度から、同窓生などをキャンパスに招いて交流を深め、本学の今を知っていただく「北海道大学ホームカミングデー」を開催している。総合博物館では初年度より協力を行い、同窓生や関係者、来館者から好評をいただいた。

平成28年9月24日（第5回）

- ・ 記念公演会「恐竜研究最前線 北海道大学が恐竜研究で大活躍！」
担当者：小林快次
- ・ 企画展示「ランの王国」 担当教員による展示解説（所要時間30分 2回）
担当者：高橋英樹
- ・ 北海道大学学生（北大ミュージアムクラブ Mouseion）による展示解説（所要時間20分 6回）
担当者：「シロブチヘビゲングをめぐって」（杉谷紬・文学部2年）
「文学部らしくない？文学部の研究」（松山結衣子・文学部2年）
「北大昆虫研究の歴史と今」（伊藤優衣・文学部2年）

平成29年9月30日（第6回）

- ・ フィールドワーク等大学の活動についての映像作成
担当者：山下俊介
- ・ 企画展示「惑星地球の時空間」 担当教員による展示解説（所要時間30分 1回）
担当者：山本順司
- ・ 北海道大学学生（北大ミュージアムクラブ Mouseion）による展示解説（所要時間20分 5回）

- 担当者：「文学部らしくない？文学部の研究」（松山結衣子・文学部3年）
「ボーダーツーリズムってなに？～新しい国境のとらえ方～」(黒岩杏佳・農学部2年)
「北大昆虫研究の歴史と今」（伊藤優衣・文学部3年）
「電波望遠鏡を用いた宇宙観測」（吉崎千真・法学部2年）
「時代のタイムカプセル 新聞紙の世界&博物館ボランティア活動の一端紹介」（漆原まりあ・農学部2年）

平成30年9月29日（第7回）

- ・ 企画展示「視ることを通して」 担当教員による展示解説（所要時間30分 2回）
担当者：山下俊介
- ・ 北海道大学学生（北大ミュージアムクラブ Mouseion）による展示解説（所要時間20分 4回）
担当者：「〇〇逆転昆虫『トリカヘチャタテ』」（岡田真歩・理学部2年）
「時代のタイムカプセル 新聞紙の世界&博物館ボランティア活動の一端紹介」（漆原まりあ・農学部3年）

令和元年9月28日（第8回）

- ・ 北海道大学学生（北大ミュージアムクラブ Mouseion）による展示解説（所要時間20分 3回）
担当者：「オホーツク文化と擦文文化」（米山彰香・農学部2年）
「〇〇逆転昆虫『トリカヘチャタテ』」（岡田真歩・理学部3年）

9. エコキャンパス観察会

平成28年6月25日

環境月間関連行事として、北海道大学札幌キャンパス内において、サクシュコトニ川沿いの遺跡と植物・昆虫の観察会をおこなった。

担当者：高橋英樹、大原昌宏、江田真毅

参加者数：一般市民 13 名。

平成 29 年 6 月 24 日

環境月間関連行事として、北海道大学札幌キャンパス内において、サクシュコトニ川沿いの遺跡と植物・昆虫の観察会をおこなった。

担当者：高橋英樹、大原昌宏、江田真毅

参加者数：57 名

平成 30 年 6 月 23 日

環境月間関連行事として、北海道大学札幌キャンパス内において、サクシユ
コトニ川沿いの遺跡と植物・昆虫の観察会をおこなった。

担当者：高橋英樹、大原昌宏、江田真毅

参加者数：45 名

令和元年度は実施せず。

10. CISE ネットワーク (2016-2019)

「CISE (Community for Intermediation of Science Education) ネット」は、2012
年度から JST (独立行政法人 科学技術振興機構)の科学技術コミュニケーション推進
地形・ネットワーク形成地域型の助成(2012-2014年度)「科学系博物館・図書館の連携
による実物科学教育の推進」を受けて開始され、その後活動を継続している。

具体的には、北海道大学の資源をもとに、札幌周辺地域の科学館や、科学系博物館、
図書館などの教育施設が連携し、地域住民への実物科学教育を進めるネットワークを
維持し、連携する教育施設の特性に応じた実物教育を行い、その成果をまとめ地域の
知財として発信している。連携施設が協同して効果的な教育を行うため、教材プログ
ラムの開発を進めている。

2016年度から2017年度は公益財団法人図書館振興財団からの「図書館と自然科学系
博物館の連携による「調べる学習モデル」の開発」に対して5,760,000円の助成金を受
け活動した。

2019年度は一般社団法人全国科学博物館財団から「地域科学系博物館の活性化を目
的としたガイドブックの作成と効果測定」に対して500,000円の助成金を受け、また公
益財団法人日本科学振興財団 船の科学館の「海のミュージアムサポート」プログラ
ムにおいて、「海の学び石狩湾トランクキット」の開発と啓発事業の推進」に対して
助成金3,000,000円を受け活動した。

詳細は、以下のホームページから参照できる。

<http://www.museum.hokudai.ac.jp/cise/>

<https://www.museum.hokudai.ac.jp/lifelongeducation/pastprojects/cise/>

1 1 . 高校教育との連携

平成 28 年度

- ・札幌藻岩高等学校 高大連携環境教育講座
(2016 年 9 月 9 日、16 日)
- ・札幌手稲高等学校 総合学習
(2016 年 10 月 27 日)
- ・旭川西高等学校 道内大学研修 (SSH 事業)
(2016 年 12 月 3 日)

平成 29 年度

- ・旭川西高等学校 道内大学研修 (SSH 事業)
(2017 年 4 月 15 日)
- ・札幌藻岩高等学校 高大連携環境教室講座
(2017 年 9 月 8 日、15 日)

平成 30 年度

- ・旭川西高等学校 道内大学研修 (SSH 事業)
(2018 年 4 月 17 日、12 月 1 日)

令和元年度

- ・旭川西高等学校 道内大学研修 (SSH 事業)
(2019 年 4 月 16 日)
- ・札幌啓成高等学校 道内大学研修 (SSH 事業)
(2019 年 12 月 11 日)

VII. 各種協定締結状況

(国外)

1. ロシア・サハリン州立郷土博物館 (2000年8月1日より)
2. ドイツ・ゼンケンベルグ自然史博物館 (2009年11月18日より)
3. フランス・ストラスブール動物学博物館 (2009年11月20日より)
4. ロシア・ハバロフスク州立グロデコフ博物館 (2010年4月1日より 2019年3月31日まで)
5. ロシア・アルセニェフ総合博物館 (2010年4月1日より 2019年3月31日まで)
6. ロシア・ハバロフスク州ニコラエフスク・ナ・アムーレ市立博物館 (2010年4月1日より 2019年3月31日まで)
7. ロシア・北東総合科学研究所 (マガダン) (2010年8月1日より 2019年7月31日まで)
8. ロシア・カムチャッカ国立工科大学 (2010年8月20日より)
9. インドネシア・Padjadjaran 大学地質学部 (2011年2月24日より)
10. ロシア・イルクーツク工科大学 (2011年6月1日より)
12. アメリカ合衆国テキサス州ダラス自然史博物館 (2011年8月23日より 2021年8月22日)
13. タイ王国国立科学博物館 (タイ) (2012年9月19日より 2021年7月27日)
14. 韓国地質資源研究院地質博物館 (2013年3月20日より 2023年3月19日)
15. 台湾国立海洋生物博物館 (2014年7月29日より 2019年7月28日)
16. 台湾国立東華大學海洋科学学院 (2014年7月29日より 2019年7月28日)

(国内)

1. 神流町恐竜センター (2013年6月1日より)
2. むかわ町 (2014年9月1日より)
3. 北海道立北方民族博物館 (2015年3月24日より)]
4. 洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会 (2018年12月18日より)

VIII. 刊行物等 (2017 年度～2019 年度)

- ・北海道大学総合博物館とタイ国立科学博物館の部局間協定における共同活動 (2017 年 3 月)
- ・北大総合博物館のすごい標本 北海道新聞社刊 (2020 年 3 月)
- ・展示図録
 - 『惑星地球の時空間』(2017 年 7 月)
 - 『K39 : 考古学からみた北大キャンパスの 5,000 年』(2019 年 7 月)
- ・北海道大学総合博物館ニュース
 - 35 号 (2017 年 6 月)
 - 36 号 (2017 年 12 月)
 - 37 号 (2018 年 6 月)
 - 38 号 (2019 年 1 月)
 - 39 号 (2019 年 9 月)

第2部 博物館教員の活動記録

高橋英樹

TAKAHASHI Hideki

資料基礎研究系 教授 (2019年3月 退職)

○研究内容の概要

1. 樺太・千島産維管束植物の分類地理学的研究

植物の「学名」は世界共通語と思われているが、現実には国の違いにより同じ植物に対して異なる学名が使われていることも多い。このような混乱を収めるため北東ユーラシア、特に樺太・千島地域から収集された植物標本を精査し、植物フロアの作成・学名の整理を行っている。

2. 北海道産希少植物の分類学・保全生物学的研究

北海道の希少植物や絶滅危惧植物のリストは整理されつつあるが、分類学的な問題が解決されていないものや保全生物学的な情報が不足している種類も多い。北海道において保全上重要な希少植物（レブンアツモリソウ・リシリヒナゲシ）についての分類学的研究を行っている。

3. 北方四島、サハリン地域における外来植物の現状調査

希少植物の保全とともに、自然生態系への外来植物の侵入が保全生物学における大きな課題となっている。特に北海道に隣接する、北方四島・サハリンで現地調査を行い、生態系に与える影響評価を行っている。

4. 植物標本の整理・分類学研究・分類学史への貢献

北大総合博物館陸上植物標本庫（SAPS）の整理・データベース化を進め、北方地域における植物分類学研究の基礎作りに貢献している。またタイプステータスの確定や植物調査研究史の解明を行うことで、植物標本の学術的価値・文化的価値の向上・再評価を進めている。

5. 花粉形態の体系学的・進化的意義

ツツジ科における花粉形態や形態形成過程を電子顕微鏡レベルで解明し、分類体系との整合性を検討し、形態形質の進化的意義を解明する。バングラデシユ農科大学の Sarwar 教授との共同研究。

○2016-2018 年度の研究・活動業績

<原著論文> (5件)

- Sato, H. and Takahashi, H. 2016. *Calamagrostis purpurea* subsp. *amurensis* (Poaceae) and its new form from eastern Hokkaido, Japan. *J. Jpn. Bot.* **91**: 61-64. [*Calamagrostis purpurea*, form, eastern Hokkaido]
- Takahashi, H. and Barkalov, V.Yu. 2016. A floristic study of the vascular plants in Ushishir, the Middle Kuril Islands. *J. Jpn. Bot.* **91** (Suppl.): 68-82. [flora, IKIP, Kuril Islands, Ushishir]
- Tamura, S., Fukuda, T., Pimenova, E.A., Petrunenko, E.A., Krestov, P.V., Bondarchuk, S.N., Chernyagina, O.A., Suyama, Y., Tsunamoto, Y., Matsuo, A., Tsuboi, H., Takahashi, H., Sato, K., Nishikawa, Y., Shimamura, T., Fujita, H. and Nakamura, K. 2018. Molecular and cytological evidences denied the immediate-hybrid hypothesis for *Saxifraga yuparensis* (sect. *Bronchiales*, Saxifragaceae) endemic to Mt. Yubari in Hokkaido, northern Japan. *Phytotaxa* **373**(1): 53-70. [hybrid, *Saxifraga*, Yubari]
- 佐藤広行・高橋英樹 2017. イネ科ヤマアワ (ノガリヤス) 属のノガリヤスの東限(The easternmost locality of *Calamagrostis brachytricha* Steud. (Poaceae)). *分類* **17**: 193-197. 【イネ科, ノガリヤス, 分布図, ヤマアワ】
- バルカロフ, V.Yu.・スンドウコフ, Yu.N.・三宅幹雄・福田知子・高橋英樹 2019. 千島列島南部のスイセン逸出(Naturalization of cultivated *Narcissus* to the southern Kuril Islands). *植物地理・分類研究* **67**(1): 67-72. 【逸出, スイセン, 千島列島】

<著書・図録・目録等> (12件)

- 加藤克・高橋英樹・中村剛・早川尚(解説) 2016. *須崎忠助植物画集「大雪山植物其他」*, 104 pp. 北海道大学出版会, 札幌. 【植物画, 須崎忠助】
- 高橋英樹 (分担執筆) 2016. 植物の分布. *低温環境の科学事典* (河村公隆編集代表), 432 pp. 朝倉書店, 東京. 【周極植物, 植物区系区, 分布】
- 高橋英樹 (編著) 2016. *ランの王国*, 124 pp. 北海道大学出版会, 札幌. 【ラン科】
- 高橋英樹 2016. ラン科の多様性と分類システム. *ランの王国* (高橋英樹編), pp. 3-10. 北海道大学出版会, 札幌. 【分類, ラン科】
- 高橋英樹 2016. 千島列島のラン. *ランの王国* (高橋英樹編), pp. 41-48. 北海道大学出版会, 札幌. 【千島列島, ラン科】
- 高橋英樹 2016. ランの適応進化シンδροーム. *ランの王国* (高橋英樹編), pp. 51-53. 北海道大学出版会, 札幌. 【適応進化, ラン科】
- 高橋英樹 2016. 日本のラン保全活動. *ランの王国* (高橋英樹編), pp. 101-104. 北海道大学出版会, 札幌. 【保全, ラン科】
- 高橋英樹 2016. レブンアツモリソウの保全活動. *ランの王国* (高橋英樹編),

- pp. 105-108. 北海道大学出版会, 札幌. 【保全, レブンアツモリソウ】
- 高橋英樹 (分担執筆) 2017. モウセンゴケ科. *日本の野生植物*第4巻 (大橋広好・門田裕一・邑田仁・米倉浩司・木原浩編著), pp. 105-107. 平凡社, 東京. 【図鑑, モウセンゴケ科】
- 高橋英樹 (分担執筆) 2017. ハナシノブ科. *日本の野生植物*第4巻 (大橋広好・門田裕一・邑田仁・米倉浩司・木原浩編著), pp. 175. 平凡社, 東京. 【図鑑, ハナシノブ科】
- 高橋英樹 (分担執筆) 2017. サクラソウ科. *日本の野生植物*第4巻 (大橋広好・門田裕一・邑田仁・米倉浩司・木原浩編著), pp. 187-201. 平凡社, 東京. 【サクラソウ科, 図鑑】
- 五百川裕・倉重祐二・高橋英樹 (分担執筆) 2017. ツツジ科. *日本の野生植物*第4巻 (大橋広好・門田裕一・邑田仁・米倉浩司・木原浩編著), pp. 224-262. 平凡社, 東京. 【図鑑, ツツジ科】

<総説・解説・報告等> (10件)

- 齊藤毅・岸川禮子・佐橋紀男・高原光・高橋英樹・船隈透・近藤禎二・相田由美子 2017. 日本花粉学会と日本の花粉学 50年(The fiftieth anniversary of the Palynological Society of Japan and historical review of the field in Japan). *日本花粉学会会誌* 62: 41-74. 【日本花粉学会, 花粉学】
- 高橋英樹 2016. 私の研究遍歴—水辺の植物について. *北方山草* 33: 13-16. 【湿原, 標本, ミクリ属, ヤチカンバ】
- 高橋英樹 2017. 私の研究遍歴—マメ科植物について. *北方山草* 34: 13-15. 【イヌエンジュ, オヤマノエンドウ属, ゲンゲ属, マメ科】
- 高橋英樹 2018. 花の白露交流史 幕末の函館山を見た男. *小原流挿花* (807): 14-17. 【須川長之助, マキシモヴィッチ, 宮部金吾, ロシア】
- 高橋英樹 2018. 外来植物はなぜダメなのか—南千島から北大札幌キャンパスまで. *北海道の自然* 56: 43-47. 【外来植物, 北海道大学, 南千島】
- 高橋英樹 2018. 私の研究遍歴—キンポウゲ科の水生植物バイカモ類について. *北方山草* 35: 13-17. 【キンポウゲ科, バイカモ類】
- 高橋英樹 2018. 北の研究者物語. モーラー 50: 0-1. 【SAPS, 舘脇操, 標本, 宮部金吾】
- 高橋英樹 2019. リシリヒナゲシ、チシマヒナゲシそして栽培ヒナゲシ. *北方山草* (36): 14-17. 【チシマヒナゲシ, リシリヒナゲシ】
- 高橋英樹 2019. SAPSから見つかった佐藤昌介の1876年採集標本. *北方山草* (36): 32-38. 【SAPS, 佐藤昌介】
- 高橋英樹 2019. SAPSに所蔵されている<鳥山啓寄贈>標本の特徴. *北方山草* (36): 39-44. 【SAPS, 鳥山啓】

<学会活動>(5 件)

日本植物分類学会：絶滅危惧植物専門第一委員会委員（平成 26～27 年度）・学会誌（英文「Acta Phytotax. Geobot.」・和文「分類」）編集委員（平成 26～27 年度）

日本花粉学会評議員（2015～2017 年度）

日本科学者会議北海道支部常任幹事（平成 26～27 年度）

「すげの会」評議委員

Botanica Pacifica, Journal of Plant Science and Conservation (Editorial Council Member)

<学会発表等> (0 件)

<一般講演・セミナー発表> (1 件)

Takahashi, H. 「The Kuril Islands and Sakhalin as migration routes for boreal plants」. International Conference dedicated to the 20th Anniversary of CNEAS, Tohoku University. Sendai, Dec. 5, 2015.

<教育活動>

学位論文主査・副査：

- ・ 農学院 環境資源学専攻 生物生態・体系学講座担当：平成 27 年度（修士論文指導副査 2 名、博士論文指導主査 1 名）

指導学生：

- ・ 教育（農学部生物資源科学科・農学院環境資源学専攻 指導学生数）平成 27 年度 学部 0 名、学院 0 名

授業等：(15 件)

全学教育 一般教育演習「北大エコキャンパスの自然と歴史」（担当）

全学教育 一般教育演習「北大エコキャンパスの自然－植物学入門」（担当）

全学教育 総合科目「生物の多様性」（分担）

全学教育 総合科目「北大総合博物館で学ぼう－ヒグマ学入門」（分担）

全学教育 総合科目「北大博物館で学ぶ「モノ」「コト」「ヒト」」（分担）

農学部 「植物分類・生態学」（分担）

農学部 「生物資源科学演習」（分担）

農学部 「生物資源科学科卒業論文」（分担）

大学院農学院 「生物体系学特論」（分担）

大学院農学院 「農学院環境資源学演習 I、II」（分担）

大学院農学院 「農学院環境資源学研究 I、II」(分担)
大学院環境科学院 「多様性生物学基礎論」(分担)
大学院共通授業 「博物館学特別講義 I (学術標本・資料学)」(担当)
学芸員養成課程授業 「博物館情報・メディア論」(分担)
学芸員養成課程授業 「学芸員実習(館園実習)」(分担)

<博物館活動>

総合博物館関連各種委員等 (5 件)

総合博物館運営委員会委員 (1999-現在)
展示専門委員会委員 (1999-現在)
札幌農学校第二農場の一般公開に関する専門委員会委員 (2011-現在)
学術標本検討専門委員会委員 (1999-現在)
総合博物館点検評価委員会委員

博物館教育 (2 件)

北大キャンパスの遺跡・植物・昆虫観察会(野外観察会)(開催担当・分担：
2015年6月20日)
藻岩高校生徒高大連携受け入れ(2015年9月11日)

セミナー・シンポジウム開催 (0 件)

博物館企画展示 (0 件)

<学内各種委員> (4 件)

生態環境 TF 委員 (2010 年度-)
歴史的資産活用 TF 委員 (2010 年度-)
埋蔵文化財調査センター運営委員会委員 (2009 年度-)
北大学生サークル YH クラブ顧問教員(2001 年度-)

<社会貢献> (7 件)

北海道希少野生動植物保護対策検討委員会植物専門部会委員
北海道外来種対策検討委員会委員
希少野生動植物種保存推進員(環境省(庁))(2000-現在)
環境省絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会植物 I 分科会委員
(2009-現在)
鉄道・運輸機構「北海道新幹線環境影響事後調査アドバイザー」(2008-現在)
国際自然保護連合日本植物専門家グループ委員 IUCN Japanese Plants

Specialist Group member (2001-現在)
市民植物愛好団体「北方山草会」会長 (2013-現在)

<外部資金> (0 件)

首藤光太郎

SHUTOH Kohtaroh

資料基礎研究系 助教

○研究内容の概要

1. ツツジ科イチヤクソウ属を用いた植物の菌従属栄養性の進化

光合成を行わず菌から有機物を得て生育する菌従属栄養植物は、特殊な形態・生活史をもち、最も近縁な緑葉植物でさえ系統的に離れていることからその進化過程に謎が多い植物群である。ツツジ科イチヤクソウ属には近縁な類縁関係の葉が縮小しほぼ完全な菌従属栄養性をもつヒトツバイイチヤクソウと、これに近縁な普通葉をもつイチヤクソウが知られている。近縁な関係間で異なる菌従属栄養性を示すことから、菌従属栄養植物の進化過程の研究に有用な材料であることが期待され、これらの系統・分類・進化学的な研究を行っている。

2. 日本国内の水生植物相に関する研究

国内の水生植物は、およそ4割の種が環境省のレッドリストに掲載されており、全国的に減少傾向にある。その一方で、国内における水生植物の分布状況は十分に把握されていない。自然湖沼・ため池・河川といった日本国内の水辺を巡り、水生植物相調査、分類学的研究、調査手法について研究を行っている。

3. 植物標本の収集および活用に関する研究

日常的に分類群・地域環境問わず植物標本を収集・整理し、陸上植物標本庫(SAPS)の蓄積を図っている。これらのコレクションや既存の標本を活用し、希少種などをはじめとした特筆すべき種の新産地・生育および分布状況、一定範囲の植物相などを報告する。

○2019年度の研究・活動業績

<原著論文> (7件, すべて査読あり)

1. Kishikawa K, Suetsugu K, Kyogoku D, Ogaki K, Iga D, **Shutoh K**, Isagi Y, Kaneko S. 2019. Development of microsatellite markers for complete cleistogamous species *Gastrodia takeshimensis* (Orchidaceae), with transferability for its chasmogamous sister *G. nipponica*. *Genes Genet. Syst.* **94**: 95–98.
2. Kadono Y, Noda T, Tsubota K, **Shutoh K**, Shiga T. 2019. Taxonomic identity of an alien *Utricularia* plant naturalized in the Japanese wild flora. *Acta Phytotaxon. Geobot.* **70**: 129–134.
3. **Shutoh K**, Yamanouchi T, Kato S, Yamagishi H, Ueno Y, Hiramatsu S, Nishihiro

- J, Shiga T. 2019. The aquatic macrophyte flora of a small pond revealing high species richness in the Aomori Prefecture, Japan. *J. Asia-Pacific Biodivers.* **12**: 448–458.
4. Larridon I, Tanaka Nr, Liang Y, Phillips SM, Barfod AS, Cho S-H, Gale SW, Jobson RW, Kim Y-D, Li J, Muasya AM, Parnell JAN, Prajaksood A, **Shutoh K**, Souladeth P, Tagane S, Tanaka Nb, Yano O, Mesterházy A, Newman MF, Ito Y. 2019. First molecular phylogenetic insights into the evolution of *Eriocaulon* (Eriocaulaceae, Poales). *J. Plant Res.* **132**: 589–600.
 5. Ogaki K, Suetsugu K, Kishikawa K, Kyogoku D, **Shutoh K**, Isagi Y, Kaneko S. 2019. Newly developed microsatellite markers suggest the clear difference in tandem repeats among four related *Gastrodia* species (Orchidaceae) *Genes Genet. Syst.* **94**: 225–259.
 6. Midorikawa S, **Shutoh K**, Shiga T. 2020. An easy method of identifying herbarium specimens of *Najas minor* and *N. oguraensis*. *Acta Phytotaxon. Geobot.* **71**: 55–63.
 7. **Shutoh K**, Usuba M, Yamagishi H, Fujita Y, Shiga T. 2020. A new record of *Potamogeton ×angustifolius* J. Presl (Potamogetonaceae) in Japan. *Acta Phytotaxon. Geobot.* **71**: 33–44.

<著書・図録・目録等> (1件)

1. **首藤光太郎**. 2020. 01 陸上植物. In: 北海道大学総合博物館 [大原昌宏, 小林快次, 湯浅万紀子] (編), 北大総合博物館のすごい標本, 北海道新聞社, 札幌, pp. 20-42.

<総説・解説・報告等> (3件)

1. 大西亘, **首藤光太郎**, 城川四郎. 2019. 神奈川県内のベニバナ! ? イチヤクソウ. *Flora Kanagawa* (神奈川県植物誌調査会ニュース) (87): 1027-1028.
2. 加藤将, **首藤光太郎**, 志賀隆. 2020. 水生植物相調査のガイドライン. 新潟大学教育学部, 新潟 (<http://wetlands.info/tools/guidebook/guideline4survey/>)
3. 富士田裕子, 李娥英, 孫仲益, 倉博子, **首藤光太郎**, 小林春毅. 2020. 全国湿地データベース (<http://wetlands.info/tools/wetlandsdb/wetlandsdb/>)

<学会活動> (3件)

1. 日本植物分類学会 研究・普及推進委員会委員 (2019年度～)

2. 水草研究会 幹事 (2019 年度～)
3. 東北植物研究会『東北植物研究』編集委員 (2015 年度～)

<学会発表等> (6 件, *演者)

1. *首藤光太郎, 薄葉満, 山岸洋貴, 志賀隆. 「青森県つがる市から発見された日本新産のヒルムシロ属雑種 *Potamogeton × angustifolius* (ツガルモク)」. 水草研究会第 41 回全国集会 (青森), 2019 年 8 月 24 日, 青森県弘前市 (口頭).
2. *中村誠司, 首藤光太郎, 志賀隆, 山ノ内崇志, 大西亘, 加藤将, 原野晃一, 芹澤 (松山) 和世, 芹澤如比古. 「河口湖の水生植物調査はどの地点で行うべきか?」. 水草研究会第 41 回全国集会 (青森), 2019 年 8 月 24 日, 青森県弘前市 (口頭).
3. *内藤芳香, 首藤光太郎, 加藤将, 志賀隆. 「*Nymphaea tetragona* を中心としたスイレン科スイレン亜属の分類学的再検討」. 日本陸水学会甲信越支部会第 45 回研究発表会 (諏訪), 2019 年 11 月 30 日～12 月 1 日, 長野県諏訪市 (口頭).
4. *首藤光太郎, 田島裕子, 松林順, 陀安一郎, 末次健司. 「ラン科以外の種子植物から初めて発見された部分的菌従属栄養植物のアルビノ個体」. 日本植物分類学会第 19 回大会 (岐阜), 2020 年 2 月 29 日～3 月 3 日, 岐阜県岐阜市 (口頭, コロナウイルス感染拡大のため中止).
5. *中島優介, 久保直輝, 田畑諒一, 大槻達郎, 首藤光太郎, 野間直彦, 原田英美子. 「伊吹山に自生するヨーロッパ原産帰化植物の移入経路 イブキノエンドウの分布調査および遺伝子解析」. 日本植物分類学会第 19 回大会 (岐阜), 2020 年 2 月 29 日～3 月 3 日, 岐阜県岐阜市 (ポスター, コロナウイルス感染拡大のため中止).
6. *内藤芳香, 首藤光太郎, 加藤将, 志賀隆. 「エゾベニヒツジグサはヒツジグサの色違い?: 日本産スイレン属植物 (スイレン科) の分類学的再検討」. 日本植物分類学会第 19 回大会 (岐阜), 2020 年 2 月 29 日～3 月 3 日, 岐阜県岐阜市 (ポスター, コロナウイルス感染拡大のため中止).

<一般講演・セミナー発表> (3 件)

1. 「ハルニレの小話」. 講話 北海道大学エルムの和紙づくり, 2019 年 9 月 28 日, 北海道大学総合博物館, 北海道札幌市.
2. 「水草の話」. 平成遠友夜学校, 2019 年 6 月 4 日, 北海道大学遠友学舎, 北海道札幌市.
3. 「水草を探して、集めて、調べて、守る。」. 北海道大学総合博物館土曜

市民セミナー, 2019年4月13日, 北海道大学総合博物館, 北海道札幌市.

<教育活動>

学位論文主査・副査

農学院環境資源学専攻生物生態・体系学講座担当：博士論文指導主査1名

指導学生

0名

授業等 (7件)

全学教育 一般教育演習「北大エコキャンパス探求」(分担)

全学教育 総合科目「生物の多様性」(分担)

全学教育 総合科目「『モノ』+『コト』+『ヒト』=総合博物館」(分担)

大学院農学院 「生物生態・体系学総論 I」(分担)

大学院環境科学院 「多様性生物学基礎論」(分担)

大学院共通授業 「博物館学特別講義 I (学術標本・資料学)」(分担)

学芸員養成課程授業 「学芸員実習 (館園実習)」(分担)

<博物館活動>

総合博物館関連各種委員等 (2件)

展示専門委員会委員 (2019年度～)

北大の学び舎維持・発展ワーキンググループ副担当 (2019年度～)

博物館教育 (1件)

大学院生企画グッズ「植物・海藻標本クリアカード」(監修を担当)

セミナー・シンポジウム開催 (0件)

博物館企画展示 (0件)

編集・出版 (0件)

<学内各種委員> (0件)

<社会貢献> (3件)

1. 環境省希少野生動植物種保存推進員(平成27年度～)

2. 大雪山四ノ沼湿原調査および保全指導(令和元年)
3. 環境省「平成31年度重要生態系監視地域モニタリング推進事業(陸水域調査)」
調査参画

<外部資金> (1件)

【代表】首藤光太郎：科学研究費「イチャクソウ亜科で生じた菌従属栄養性進化の定量的な追跡」(研究活動スタート支援)平成31年度～令和2年度

大原昌宏

ÔHARA Masahiro

資料基礎研究系 教授

○研究内容の概要

1. 海浜性甲虫群集の分類と生物地理学

東アジアと北米西海岸の海浜性甲虫（エンマムシ科、ガムシ科、ゴミムシダマシ科、ゾウムシ科など）の分類学的研究を行い、アジア・北米間の海浜性甲虫類の群集の種構成差異を明らかにし、両地域間の生物地理学的な分布の成り立ちと種間・属間系統との関係を検討した。科研費（分担）に関わる研究。

2. 北方圏のエンマムシ、陸生ガムシ（昆虫綱、鞘翅目）の分類学・生物地理学的研究

日本から千島、樺太、朝鮮半島にかけて、エンマムシ科（Histeridae）と陸生のガムシ科（Hydrophilidae）について分布、種構成など分類学的・生物地理学的基礎情報の収集を目的とした。特に陸生ガムシは日本北部における先行研究がないため、多くの新知見が得られた。

3. タイプ標本データベース作成

昆虫綱鞘翅目のタイプ標本の画像、原記載データ、ラベルデータに関するデータベースの構築を行った。

4. 博物館におけるバイオミメティクス研究

動植物の持つ能力や形・機能などの特性を把握し、そこからヒントを得て人工的に設計・合成・製造する「生物規範工学」と協力し、博物館に収蔵される膨大な生物標本の利活用を探る先駆的なデータベース開発を行った。

○2016-2019年度の研究・活動業績

<原著論文>（25件）

Ôhara, M., 2015. A new record of *Pachylister ceylanus pygidialis* (Coleoptera, Histeridae) from Japan. *Elytra*, Tokyo, New Series, 5(2): 311–312.

Ôhara, M., Y.-B., Cho and K.-J., Ahn, 2016. Histeridae (Coleoptera) collection of the Natural History Museum, Hannam University, with a description of new species. *Journal of Asia-Pacific Biodiversity*, 9(2016): 429–436. DOI: 10.1016/j.apb.2016.03.011

Ôhara, M., 2016. Records of Korean Histerid beetles (Coleoptera) from the collection

- of the National Taiwan University, Taipei, Taiwan. *Elytra*, Tokyo, New Series, 6(1): 163–164.
- Minoshima, Y. N., M. Fikacek and M. Ôhara, 2016. Distribution of a conspicuous terrestrial Hydrophilid beetles *Cercyon lineolatus* (Motschulsky) (Coleoptera, Hydrophilidae, Sphaeridiinae). *Elytra*, Tokyo, New Series, 6(1): 165–169.
- Hsu, C.-F., Y. Hsiao and M. Ôhara, 2016. Synonymical notes on *Ectatorhinus adamsii* Lacordaire, 1865 (Coleoptera, Culculionidae). *Elytra*, Tokyo, New Series, 6(2): 215–217.
- Ôhara, M., and N. Ogawa, 2016. A new distributional record of *Cercyon* (*Cercyon*) *algarum* Sharp (Coleoptera, Hydrophilidae) from Shimoji-jima Island, the Ryukyus, Japan. *Elytra*, Tokyo, New Series, 6(2): 338.
- Ôhara, M., and J.-C. Paik, 2016. Records of histerid beetles from Jeju Island, Korea (Coleoptera, Histeridae). *Elytra*, Tokyo, New Series, 6(2): 353–358.
- Vilasri, V., R. Yamanaka, T. Kawai, H. Imamura, S. Ratmuangkhwang, F. Tashiro and M. Ôhara, 2016. Survey for coastal fishes of Ranong and Phuket Provinces, Thailand in December 2014. *The Thailand Natural History Museum Journal*, 10 (2): 117–123.
- 岸本祐樹・高橋慎二・大原昌宏・佐藤喜和, 2017. 北海道東部浦幌地域におけるヒグマが採食するアリ類以外の昆虫類. *浦幌町立博物館紀要*, (17): 13–18.
- Kobayashi, N., and M. Ôhara, 2017. Preliminary report of host plants of a supralittoral beetle, *Cercyon* (*Cercyon*) *tolfino* (Coleoptera, Hydrophilidae) in Canada. *Elytra*, Tokyo, New Series, 7(1): 21–23.
- Leschen, B. A., and M. Ôhara, 2017. Phylogenetic placement of *Abraeus vividulus* Broun and notes on New Zealand Histeridae (Coleoptera). *The Coleopterists Bulletin*, 71(3): 537–551. DOI: 10.1649/0010-065X-71.3.537
- Ôhara, M., 2017. Redescription of a Korean histerid beetle, *Saprinus* (*Saprinus*) *aneolus* Marseul, 1870 (Coleoptera, Histeridae) from the collection of the National Tawiiwan University, Taipei, Taiwan. *Elytra*, Tokyo, New Series, 7(2): 375–381.
- Ôhara, M., and K.-J., Ahn, 2018. Histeridae (Coleoptera) collection of Yungnam University, with a description of new species and redescription of *Niposoma lewisi* (Marseul). *Journal of Asia-Pacific Biodiversity*, 11 (2018): 237–247. DOI: 10.1016/j.japb.2018.01.007.
- Inari, N., N. Kobayashi and M. Ôhara, 2018. Seasonality of supralittoral hydrophilid beetles, *Cercyon* (*Cercyon*) spp. (Coleoptera, Hydrophilidae) in Zenibako, Hokkaido, Japan. *Elytra*, Tokyo, New Series, 8(1): 223–226.
- 上田明良・大原昌宏, 2018. 熊本市での腐肉を誘引餌としたトラップによる甲虫

- 類捕獲の季節消長. 九州森林研究, 71: 19–22.
- 大原昌宏・中岡利泰・高木大稔・小川直記・菊池波輝・山本ひとみ, 2018. 北海道えりも町豊似湖周辺ほか昆虫調査報告. I. 甲虫類. えりも研究, (15): 1–16.
- 志津木真理子・大原昌宏・中岡利泰・高木大稔・小川直記・菊池波輝・山本ひとみ, 2018. 北海道えりも町豊似湖周辺ほか昆虫調査報告. II. 双翅目. えりも研究, (15): 17–22.
- 中岡利泰・大原昌宏・高木大稔・中田和義, 2018. 北海道えりも町豊似湖で捕獲されたミシシippアカミミガメ *Trachemys scripta elegans*の生態系への影響と今後の対策について. えりも研究, (15): 23–32.
- Song, J.-H., I.-S. Yoo, M. Ôhara and K.-J., Ahn, 2018. Discovery of two new *Diaulota* Casey species (Coleoptera: Staphylinidae: Aleocharinae) from coastal Hokkaido, Japan based on morphological and molecular characters. *Journal of Asia-Pacific Biodiversity*, 21 (2018): 930–936. DOI: 10.1016/j.aspen.2018.07.002.
- Suzumura, A. L., N. Kobayashi and M. Ôhara, 2019. Revision of the beach-dwelling species of *Cercyon* Leach (Coleoptera: Hydrophilidae) of the west coast of North America. *The Coleopterists Bulletin*, 73 (3): 473–493. DOI: org/10.1649/0010-065X-73.3.473.
- 大原昌宏・的場 績, 2019. エンマムシ科数種の分布記録について. *Sayabane*, (n. ser.), (34): 38.
- Yoo, I.-S., M. Ôhara and K.-J. Ahn, 2019. Three *Cafius* Stephens Species (Coleoptera, Staphylinidae) new to Hokkaido, Japan. *Elytra*, Tokyo, (n. ser), 9(1): 37–38.
- Yoo, I.-S., M. Ôhara and K.-J. Ahn, 2019. New records of the intertidal genus *Halorhadinus* Sawada (Coleoptera, Staphylinidae Aleocharinae) from Hokkaido, Japan. *Elytra*, Tokyo, (n. ser), 9(2): 306.
- Hirai, Y., N. Okuda, N. Saito, T. Ogawa, R. Machida, S. Nomura, M. Ôhara, M. Haseyama and M. Shimomura, 2019. The friction properties of firebrat scales. *Biomimetics*, 2019, 4(1), 2: 1–13. doi:10.3390/biomimetics4010002.
- Miyamoto, T., H. Masuya, A. Koizumi, T. Yamaguchi, M. Ishihara, Y. Yamaoka, I. Okane, M. Shizuki, and M. Ôhara, 2019. A report of dieback and mortality of elm tree suspected of Dutch elm disease in Hokkaido, Japan. *Journal of Forest Research*, 24: 6, 396–400. doi.org/10.1080/13416979.2019.1679942.

< 著書・図録・目録等 > (4件)

- 大原昌宏, 2016. 付録 動物分類表 (11) . 生20(860) p. 国立天文台編, 理科年表、平成28年、第89冊. 丸善出版 (分担監修)
- 大原昌宏・小林憲生・稲荷尚記, 2016. 第15章 海辺にすむ甲虫類は今どうな

っているのか . pp. 111-117. 日本生態学会東北地区会 (編) 『生態学が語る東日本大震災 ―自然界に何が起きたのか―』, 文一総合出版. 191 pp. (分担執筆).

大原昌宏, 2017. コラム6 博物館標本を基軸とした分類学人材養成. 196-199 pp. 日本昆虫学連合 (編) 『招かれない虫たちの話 虫がもたらす健康被害と害虫管理』 222 pp. 東海大学出版部 (分担監修)

大原昌宏, 2018. 2. 動物の多様性と分類・系統. 博物館と標本 ―動物生息の証拠、そしてその活用. 52-53 pp. 日本動物学会(編) 『動物学の百科事典』. 770 pp. 丸善出版 (分担監修)

<総説・解説・報告等> (6件)

大原昌宏, 2016. エンマムシ分類学と博物館. 北海道大学総合博物館ニュース, 32: 4.

大原昌宏, 2016. 書評「大雪山昆虫誌」. モーリー, 44: 69.

大原昌宏, 2016. 高桑さんとの思い出. さやばねニューシリーズ, 24: 4-5.

大原昌宏, 2018. 北の研究者物語「昆虫学」. モーリー, 50: 2-5.

大原昌宏, 2019. リレーエッセイ、私にとっておきの場所4「穴滝 (小樽市)」. モーリー, 53: 51.

大原昌宏, 2019. おしゃべりな標本たち5 「ノッポロヒメエンマムシ」. 北海道新聞, 夕刊, 2019.3.13: 4面.

大原昌宏, 2019. おしゃべりな標本たち「ウスバキチョウ」. 北海道新聞, 夕刊, 2019.12.11: 4面.

<学会活動> (6件)

日本昆虫学会: 評議員 (2016—2017) ; 和文誌編集委員長 (2016—2017) ; 自然保護委員会委員 (2016—2017) ; 日本産昆虫カタログ編纂委員会委員 (2016—2017)

一般社団法人日本昆虫学会: 代議員(2017-2020) ; 自然保護委員会委員 (2017—継続) ; 日本産昆虫カタログ編纂委員会委員 (2017—継続) ; 会計担当理事 (2017—2018) ; 副代表理事 (副会長) (2018—継続)

日本甲虫学会: 編集委員長 (2016—継続) ; 評議員 (2016—2019) ; 会長 (2019-継続)

北海道自然史研究会: 副会長 (2016—2017) ; 会長 (2017—継続)

Coleopterologist Society: 会員 (1994—現在)

Association of Systematic Biology Society of the Philippines: 会員 (2015-現在)、Editorial Board (2016-現在)

<学会発表等> (11件)

- Ôhara, M., 2016. Promoting parataxonomists training course in Japan. Plenary speaker during the 2016 Symposium and Annual meeting of the ASBP, with the theme "Philippines Systematics Beyond Borders". ASBP (Association of Systematic Biologists of the Philippines, Inc.). [The University of Santo Tomas, Manila, Philippines]. 2016, May 19. [Invitation].
- 大原昌宏, 2016. アメリカ大陸西海岸の甲虫について. 日本甲虫学会大阪例会・2016年秋例会. [大阪市立自然史博物館]. 2016年9月24日. [招待講演].
- Yamashita, S., & Ôhara, M. 2017. Natural history societies in Japan: their development during the late 19th century and the first half of the 20th century. Conference "The Expansion of Natural History in Japanese and American colonies, Institutionalization and professionalization in comparative perspectives". AAS-in Asia (Association for Asian Studies, Inc.). [Korea University, Seoul, Korea]. 2017, June 25. [Invitation].
- 大原昌宏・小林憲生, 2017. 環太平洋北部の海浜性甲虫類. 日本甲虫学会, 公開講演会「海辺に生きる～海浜性・海岸性の甲虫たち～」. [静岡市レイアップ御幸町ビルCSA]. 2017年11月25日. [招待講演].
- 占部智史・大原昌宏, 2018. 北海道大学所蔵のキクイムシ類のデータベース化及びその利用. 2017年度 北海道応用動物・昆虫研究発表会[北海道大学総合博物館]. 2018年1月24日.
- 川内谷亮太・大原昌宏, 2018. 北海道の海浜性甲虫相と海岸環境. 2017年度 北海道応用動物・昆虫研究発表会[北海道大学総合博物館]. 2018年1月24日.
- Moon, Tae-Young & Ôhara, M., 2018. Histeridae (Coleoptera) with forensic implication in Korea. 日本昆虫学会第78回大会. [名城大学天白キャンパス]. 2018年9月9日.
- Suzumura, A., 大原昌宏, 稲荷直記, 小林憲生, 2018. 太平洋北部の海浜性ケンガムシ属 (鞘翅目ガムシ科) の分類と生物地理 (津波と移動分散). 日本昆虫学会第78回大会. [名城大学天白キャンパス]. 2018年9月10日.
- Suzumura, A., & M. Ôhara, 2018. Transoceanic dispersal and biogeography of littoral *Cercyon* Leach (Hydrophilidae) across the Northern Pacific. The 39th Annual Meeting of Taiwan Entomological Society. [National Cheng Kung University, Tainan, Taiwan]. 2018, November, 14th.
- Suzumura, A., & M. Ôhara, 2018. Revision of littoral *Cercyon* (Leach) species of Washington and British Columbia. 2018 ESA (Entomological Society of America), ESC and ESBC joint Annual Meeting. [Vancouver Convention Centre - Meeting

room 111/112, Vancouver, BC, Canada]. 2018, October, 18th.

大原昌宏, 菊地波輝, 前藤 薫, 小西和彦, 志津木真理子, 山本ひとみ, 2019. 北海道大学所蔵膜翅目昆虫標本に基づく広義寄生蜂の多様性情報基盤の構築. 日本昆虫学会第79回大会. [弘前大学文京町キャンパス]. 2019年9月16日.

<一般講演・セミナー発表> (33件)

大原昌宏, 2016. 虫の生息場所と北海道で見られる主な昆虫について. えこりん村主催. えこりん村世界の大昆虫展2016, 昆虫展のいきもの塾. [北海道恵庭市えこりん村]. 2016年8月20日, 21日.

大原昌宏, 2016. 北海道大学総合博物館所蔵 一昆虫標本について. 北海道大学総合博物館主催. サイエンスカフェ・金曜ナイトセミナー. [北海道大学総合博物館, 知の交差点]. 2016年9月9日. [招待講演].

大原昌宏, 2016. CISEネットワーク構築とその事業内容について. 公益社団法人 日本動物園水族館協会主催. 平成28年水族館・教育事業一参加型研修会(ワークショップ). [小樽経済センター]. 2016年9月28日. [招待講演].

大原昌宏, 2016. 自然史を学ぶノウハウを伝える -パラタクソノミスト講座の取組み-. 弘前大学白神自然環境研究所・弘前大学白神研究所 主催. 弘前大学白神自然環境研究所シンポジウム「自然史を学ぶ楽しみ」. [弘前大学農学生命科学部403講義室]. 2016年10月16日. [招待講演].

大原昌宏, 2016. 北大総合博物館を拠点としたネットワークがめざすもの. きたネットフォーラム2016, 北の生物多様性を守るために. 認定NPO法人北海道市民環境ネットワーク/一般財団法人セブン-イレブン記念財団主催. [札幌エルプラザ2階・環境研究室] 2016年12月10日 [招待講演].

大原昌宏, 2017. 生物に学ぶデザイン、凄いぞバイオミメティクス. 札幌市青少年科学館、冬の特別展「小さな世界をみてみたい! ~ワクワク・ドキドキ、ミクロの世界~」関連講演会. [札幌市青少年科学館]2017年1月5日[招待講演].

大原昌宏, 2017. バイオミメティクス研究と博物館. 広島大学東アジア拠点広島コンソーシアムによるGSC事業 異分野融合シンポジウム. [広島大学東千田キャンパス]. 2017年1月8日. [招待講演].

大原昌宏, 2017. 北海道大学総合博物館 CISEネットワークの取組について. ステージイベント. CISEサイエンスフェスティバルin 新千歳空港. [新千歳空港]. 2017年1月14, 15日. [招待講演].

大原昌宏, 2017. 北海道の自然と観光 ~つなげる! ヒト・いきもの・博物館~. 生トークステージ. 第5回CISEサイエンスフェスティバルin チカホ.

- [札幌駅前通地下歩行空間]. 2017年1月21日. [招待講演].
- 大原昌宏・越前谷宏紀・村上麻季, 2017. データジャーナルとバイオミメティクス. 「我が国におけるバイオミメティクスの現状と課題」16-4 バイオミメティクス研究会. [産業技術総合研究所 臨海副都心センター]. 2017年2月16日. [招待講演].
- 大原昌宏, 2017. 虫の生息場所と北海道で見られる主な昆虫について. えこりん村主催. えこりん村世界の大昆虫展2017, 昆虫展のいきもの塾. [北海道恵庭市えこりん村]. 2017年7月22日, 23日, 8月26日, 27日. [招待講演].
- 大原昌宏, 2017. バイオミメティクス ～生物から学ぶテクノロジー～. 札幌市中央中学校 環境授業実践校. 2017年10月31日. [招待講演].
- 大原昌宏, 2017. 海浜性甲虫からみた自然環境 ～北太平洋海岸の生物多様性と水環境を考える～. 第8回北海道e-水フォーラム 基調講演. 主催: 北海道、北海道固化・コーラボトリング株式会社、公益財団法人北海道環境財団. [札幌国際ビル8F 国際ホール]. 2017年11月21日. [招待講演].
- 大原昌宏, 2018. バイオミメティクス研究と博物館. 広島大学東アジア拠点広島コンソーシアムによるGSC事業 異分野融合シンポジウム. [広島大学東千田キャンパス]. 2018年1月7日. [招待講演].
- Ôhara, M., 2018. Accumulation of SEM images and biomimetics outreach activities at the Hokkaido University Museum. Seminar of Laboratory of entomology, Korea University. [Korea University, Seoul, Korea]. 2018, May 2. [Invitation].
- Ôhara, M., 2018. Successful renovation and management of the Hokkaido University Museum implemented as a commemorative project for the 125th anniversary of the university. [Korea University, Seoul, Korea]. 2018, May 3. [Invitation].
- 大原昌宏, 2018. 生物学と博物館学から見たバイオミメティクス動向. バイオミメティクス市民セミナー対話篇. 第77回 北海道とバイオミメティクスを考える, その1 バイオミメティクスの動向. [北海道大学総合博物館 知の統合ホール]. 2018年5月5日. [招待講演].
- 大原昌宏, 2018. 昆虫目線で、とびきりマニアな北大観察会&分類学セミナー. きたカフェ NPO法人北海道市民環境ネットワーク「きたネット」主催. [北海道大学&札幌カフェ]. 2018年6月16日. [招待講演].
- 大原昌宏, 2018. 20年前のNZの自然と博物館について. 北海道大学総合博物館 昆虫サロン15回目. 北海道大学総合博物館 昆虫ボランティア 主催. [北海道大学総合博物館 知の交差点]. 2018年6月26日.
- 大原昌宏, 2018. 虫の生息場所と北海道で見られる主な昆虫について. えこり

- ん村主催. えこりん村世界の大昆虫展2018, 昆虫展のいきもの塾. [北海道恵庭市えこりん村]. 2018年7月21日, 22日, 8月18日, 19日. [招待講演].
- 大原昌宏, 2018. 昆虫博士キャンプ. 札幌市定山溪自然の村 主催. [札幌市定山溪自然の村]. 2019年7月28日, 29日. [招待講演].
- 大原昌宏, 2018. エコミュージアム普及推進事業「バイオミメティクスの世界」. 北広島市教育委員会 エコミュージアムセンター知新の駅 主催. [北広島市広葉交流センター] 2018年8月5日 [招待講演].
- 大原昌宏, 2018. 外来昆虫の影響. 2018年度自然保護大学「外来昆虫・外来植物・外来魚」. 一般社団法人北海道自然保護協会主催. [札幌市資料館]. 2018年11月18日. [招待講演].
- 大原昌宏, 2018. え?こんなモノがあんな生き物から!? 生き物にまねる新たなモノづくり バイオミメティクス (共演 居城邦治). サイエンスレクチャー2018. 北海道大学電子化学研究所、北海道大学総合博物館、読売新聞北海道支社 主催. [北海道大学総合博物館 知の交流ホール]. 2018年12月22日. [招待講演].
- 大原昌宏, 2019. バイオミメティクス研究と博物館. 広島大学東アジア拠点広島コンソーシアムによるGSC事業 異分野融合シンポジウム. [広島大学東千田キャンパス]. 2019年1月6日. [招待講演].
- 大原昌宏, 2019. 第2回「小さな生きものたちが住む 森の動物園」(座談会方式: 共演: 円山動物園長 加藤修、円山動物園飼育展示課 朝倉卓也、イラストレーター 新岡薫(司会進行)). トモエpresents 「生きものたちの北海道おはなしリレー」札幌市円山動物園主催. 福山醸造株式会社トモエ 協力. [札幌市円山動物園センター情報ホール]. 2019年2月9日. [招待講演].
- 大原昌宏, 2019. 北海道の海岸線から世界をみる 特に海浜性甲虫を題材に. シンポジウム「第3回 十勝海岸の自然を考える～湿地・湖沼・海岸線の現状と将来～」. 十勝自然保護協会主催. [十勝プラザ]. 2019年3月23日. [招待講演].
- 大原昌宏, 2019. 昆虫博士キャンプ. 札幌市定山溪自然の村 主催. [札幌市定山溪自然の村]. 2019年5月1日, 2日, 6月29日, 30日. [招待講演].
- 大原昌宏, 2019. 虫の生息場所と北海道で見られる主な昆虫について. えこりん村主催. えこりん村世界の大昆虫展2018, 昆虫展のいきもの塾. [北海道恵庭市えこりん村]. 2019年7月20日, 21日, 8月17日, 18日. [招待講演].
- 大原昌宏, 2019. 第52回サイエンス・フォーラムin さっぽろーホットな科学の話題をやさしく・深く・おもしろくー. 「北海道の昆虫たち ～身近な自然と昆虫、絶滅危惧種、外来種など～」. サイエンス・コンソーシアム

札幌主催。 [札幌市中央図書館 3階講堂]. 2019年7月27日. [招待講演].
大原昌宏, 2019. 夏休みこども講座. 「昆虫採集および標本づくり」. 浦河町教育委員会、公益財団法人北海道新聞野生生物基金主催。 [浦河町柏陽館]. 2019年7月28日. [招待講演].
大原昌宏, 2019. エコミュージアム普及推進事業「昆虫標本を作ろう!」. 北広島市教育委員会 エコミュージアムセンター知新の駅 主催。 [北広島市広葉交流センター] 2018年7月31日 [招待講演].
大原昌宏, 2019. 北海道新聞野生生物基金ミニフォーラム. 「昆虫の名前を調べて標本を残す: 昆虫分類学と博物館」. 公益財団法人北海道新聞野生生物基金主催。 [道新プラザD0-BOX]. 2019年10月16日. [招待講演].

<教育活動>

学位論文主査・副査:

- ・農学部 生物資源学科 生物生態・体系学講座担当: 平成27年度 (卒業論指導2名)
- ・農学院 環境資源学専攻 生物生態・体系学講座担当: 平成28年度 (修士論文指導主査0名、副査2名)、平成29年度 (修士論文指導主査2名、副査2名)、平成30年度 (修士論文指導主査1名、副査2名)、平成31年度 (修士論文指導主査1名、副査5名、博士論文指導主査1名)

指導学生・授業等:

- ・教育 (各学年の学部・研究科指導学生数)
2016年 学部1名、研究科1名 (博士1名、修士2名) (農学研究科、兼任)
2017年 学部1名、研究科1名 (博士1名、修士6名) (農学研究科、兼任)
2018年 学部1名、研究科1名 (博士1名、修士4名) (農学研究科、兼任)
2019年 学部1名、研究科1名 (博士2名、修士2名、学士1名) (農学研究科、兼任)

授業等: (9件)

- 全学教育 複合科目「生物の多様性」 (分担) (2016-現在)
- 全学教育 一般教育演習「エコキャンパス」 (分担) (2015-2018)
- 全学教育 一般教育演習「北大エコキャンパス探求」 (代表) (2019-現在)
- 全学教育 環境と人間「モノ」+「コト」+「ヒト」 (分担) (2019-現在)
- 大学院共通科目「新自然史科学特別講義～地球と生命の自然史」 (分担) (2016-現在)
- 大学院地球環境科学 「多様性生物学基礎論I」 (分担) (2016-現在)

大学院農学研究科 「生物体系学特論」 (分担) (2016-現在)
大学院文学研究科 「博物館・文化財研究特別演習」 (分担) (2019-現在)
大学院文学研究科 「博物館・文化財研究特殊講義：博物館自然史資料の維持・活用」 (2019-現在)
大学院共通科目授業 「博物館学特別講義 (学術標本・資料学)」 (分担) (2016-2018)
学芸員養成課程授業 「博物館学芸員実習指導」 (分担) (2016-現在)
学芸員養成課程授業 「博物館実習事前指導」 (分担) (2016-現在)
学芸員養成課程授業 「博物館資料保存論」 (分担) (2016-現在)

<博物館活動>

総合博物館関連各種委員等 (5件)

総合博物館運営委員会委員 (2016-現在)、総合博物館点検評価委員会委員 (2016-現在)、学術標本検討専門委員会委員 (2016-現在)、企画展示専門委員会委員 (2016-現在)、札幌農学校第二農場の一般公開に関する専門委員会委員 (2016、2019-現在)

博物館教育 (講座6件)

パラタクソノミスト養成講座 昆虫 (初級) (2016年7月31日、2017年9月16, 17日、2019年10月12,13日、3回)
パラタクソノミスト養成講座 昆虫 (初級ジュニア編) (2016年8月28日、1回)
パラタクソノミスト養成講座 昆虫コウチュウ目 (中級) (2018年1月27,28日、2020年2月22, 23日、2回)

セミナー・シンポジウム開催 (企画、運営) :

2016-2019年度 (セミナー51件)

- (1) ミュージアム・カフェ・ナイトコンサート (全3回) . 北海道大学総合博物館. 2016年8月5日, 8月19日, 10月21日, 10月28日 [企画]
- (2) ミュージアム・カフェ・金曜ナイトセミナー (全3回) . 北海道大学総合博物館. 2016年8月26日, 9月9日, 10月14日 [企画]
- (3) ミュージアム・カフェ・ナイトコンサート (全3回) . 北海道大学総合博物館. 2017年6月9日, 7月7日, 10月27日 [企画]
- (4) ミュージアム・カフェ・金曜ナイトセミナー (全4回) . 北海道大学総合博物館. 2017年6月16日, 7月28日, 9月29日, 10月20日 [企画]

- (5) ミュージアム・カフェ・ナイトコンサート（全3回）．北海道大学総合博物館．2018年7月6日，7月27日，8月10日，8月24日 [企画]
- (6) ミュージアム・カフェ・金曜ナイトセミナー（全4回）．北海道大学総合博物館．2018年8月3日，8月31日，9月7日，9月21日 [企画]
- (7) キャンパスマスタープラン CMPセミナー、ミュージアム・カフェ・金曜ナイトセミナー（全4回）．北海道大学総合博物館．2019年6月14日，7月12日，7月26日，8月23日 [企画]
- (8) バイオミメティクス・市民セミナー（全6回：52-57）．北海道大学総合博物館．共催[科学研究費 新学術領域「生物規範工学」]，協賛[高分子学会北海道支部，千歳科学技術大学バイオミメティクス研究センター]．2016年4月2日，5月7日，6月4日，7月2日，8月13日，9月10日 [企画、総合司会]
- (9) バイオミメティクス・市民セミナー（全6回：58-64）．北海道大学総合博物館．共催[科学研究費 新学術領域「生物規範工学」，高分子学会北海道支部]，協賛[千歳科学技術大学バイオミメティクス研究センター]．2016年10月1日，11月5日，12月3日，2017年1月7日，2月4日，3月4日 [企画、総合司会]
- (10) バイオミメティクス・市民セミナー（全6回：64-70）．北海道大学総合博物館．共催[科学研究費 新学術領域「生物規範工学」，高分子学会北海道支部]，協賛[千歳科学技術大学バイオミメティクス研究センター]．2017年4月1日，5月6日，6月3日，7月1日，8月5日，9月2日 [企画、総合司会]
- (11) バイオミメティクス・市民セミナー対話篇，北海道とバイオミメティクスを考える（全6回：70-75）．北海道大学総合博物館．共催[高分子学会北海道支部，北海道大学電子科学研究所，特定非営利活動法人バイオミメティクス推進協議会，高分子学会バイオミメティクス研究会]，協賛[公立千歳科学技術大学地域連携センター]．2017年10月7日，11月4日，12月2日，2018年1月6日，2月3日，3月3日 [企画、総合司会]
- (12) バイオミメティクス・市民セミナー対話篇，北海道とバイオミメティクスを考える（全6回：76-81）．北海道大学総合博物館．共催[高分子学会北海道支部，北海道大学電子科学研究所，特定非営利活動法人バイオミメティクス推進協議会，高分子学会バイオミメティクス研究会]，協賛[公立千歳科学技術大学地域連携センター]．2018年4月8日，5月5日，6月2日，7月7日，8月4日，9月1日 [企画、総合司会]
- (13) バイオミメティクス・市民セミナー対話篇，北海道とバイオミメティクスを考える（全6回：82-87）．北海道大学総合博物館．共催[高分子学会北海道支部，北海道大学電子科学研究所，特定非営利活動法人バイオミ

- メティクス推進協議会，高分子学会バイオメティクス研究会，公立千歳科学技術大学地域連携センター]. 2018年10月6日，11月3日，12月1日，2019年1月13日，2月9日，3月2日 [企画、総合司会]
- (14) バイオメティクス・市民セミナー対話篇，持続可能な社会とバイオメティクスを考える (全6回：88-93) . 北海道大学総合博物館. 共催[高分子学会北海道支部，北海道大学電子科学研究所，特定非営利活動法人バイオメティクス推進協議会，高分子学会バイオメティクス研究会，公立千歳科学技術大学地域連携センター]. 2019年4月6日，5月4日，6月1日，7月6日，8月3日，9月7日 [企画、総合司会]
- (15) バイオメティクス・市民セミナー対話篇，アントロポセン (人新世) とバイオメティクス (全6回：94-99) . 北海道大学総合博物館. 共催[高分子学会北海道支部，北海道大学電子科学研究所，特定非営利活動法人バイオメティクス推進協議会，高分子学会バイオメティクス研究会，公立千歳科学技術大学地域連携センター]. 2019年10月5日，11月2日，12月7日，2020年1月12日，2月1日，3月7日 (コロナで中止) [企画、総合司会]
- (16) Cucujiformia Workshop. (Invited lecturer: Richard A. Leschen). Intenational workshop. Organized by The Hokkaido University Museum [The Hokkaido University Museum]. 2016827 [Organizer].
- (17) 北海道の動物、自然、ヒト：パネルディスカッション. 生き物文化誌学会第1回北海道例会. [札幌エルプラザ2階・環境研究室] 2016年11月5日[コーディネーター].
- (18) 地域を元気にする施設、施設を元気にする地域～地域・市民・施設の共創～. きたネットフォーラム2016, 北の生物多様性を守るために. 分科会 A 環境中間支援会議・北海道 連続勉強会. 認定NPO法人北海道市民環境ネットワーク／一般財団法人セブン-イレブン記念財団主催. [札幌エルプラザ2階・環境研究室] 2016年12月10日[コーディネーター, see 140口頭発表].

博物館企画展示 (2件)

企画展示名：「ウキウキ昆虫ランド2015 ～北大総合博物館 in 新千歳空港」2015年度 (協力)、会場：新千歳空港国内線ターミナルビル3階 イベントホール翔 主催：北海道空港株式会社、期間：2015年7月25日から8月9日

企画展示名：「世界の大昆虫展」2015年度 (協力)、会場：エコリン村 主催：エコリン村、期間：2015年7月25日から8月23日

<学内各種委員> (2件)

生態環境タスクフォース委員 (平成27年度—現在)

FSC（北方圏フィールド科学センター）運営委員（平成27年度—現在）

＜社会貢献＞（25件）

1. 北海道希少野生動植物種保護対策検討有識者会議 委員（平成28年度—現在）
2. 札幌市青少年科学館 特別展 講演講師（平成28年度）
3. 「ほっかいどう学」ネット検定実行委員会 委員（平成28年度—）
4. 小樽商科大学 非常勤講師（平成28年度—平成29年度）
5. 北海道環境審議会 委員（平成28年度—平成30年度）
6. 北海道新聞野生生物基金 評議員（平成28年度—現在）
7. 北海道新聞野生生物基金 「モーリー」編集委員（平成28年度—現在）
8. 小樽市総合博物館協議会委員（平成28年度—現在）
8. 北海道文化財審議会 委員（平成28年度—令和元年度）
9. 小樽市文化財審議会 委員（平成28年度—現在）
10. 地球規模生物多様性情報機構（GBIF）日本ノード運営委員会 副委員長（平成28年度—現在）
11. えこりん村 「虫の生息場所と、北海道で主に見られる昆虫について」講演会 講師（平成28年度—令和元年度）
12. 北広島市教育委員会 エコミュージアム普及推進事業「まちを好きになる市民大学」 講師（平成28年度—平成30年度）
13. 広島大学 グローバルサイエンスキャンパス事業、異分野融合シンポジウム 講師（平成28年度—令和元年度）
14. 函館開発局 後志利別川河川水辺の国勢調査 アドバイザー（平成28年度—令和元年度）
15. 千歳科学技術大学 オープンサイエンスパーク千歳 ～こんなにすごい！身近な生き物たち～ 講師（平成29年度—令和元年度）
16. 広島大学総合博物館外部評価委員会 委員（平成29年度）
17. 札幌市中央中学校 「札幌らしい特色ある学校教育」講師（平成29年度）
18. 前田一步園財団普及啓発事業 「ネーチャーウォッチング」 講師（平成29年度）
19. 北海道開発局 幾春別川ダム環境会議 委員（平成30年度—令和元年度）
20. 独立行政法人）日本学術振興会、国際生物学賞委員会審査委員会 委員（平成30年度）
21. 独立行政法人）国立科学博物館外部評価委員会 委員（平成30年度）
22. 一般社団法人）北海道自然保護協会、「自然保護大学」 講師（平成30年度）

23. 札幌市定山溪自然の村 「昆虫博士キャンプ」 講師（平成30年度－令和元年度）
24. 公益財団）北海道生涯学習協会 「ほっかいどう学」かでの講座 講師（平成30年度）
25. 公益財団法人）藤原ナチュラルヒストリー振興財団 シンポジウム 担当（平成30年度）

<外部資金> (6件)

【代表】大原昌宏：科学研究費補助金基盤研究（C），研究代表者「アジア・北米環太平洋北部における海浜性甲虫群衆の起源と分散」、平成31年1,300千円（直接経費1,000千円、間接経費300千円）、令和2年1,500千円、令和3年1,430千円、平成31-令和3年4,290千円（直接経費3,300千円、間接経費990千円）（2019-2021）

【代表】大原昌宏：一般社団法人全国科学博物館財団「地域科学系博物館の活性化を目的としたガイドブックの作成と効果測定」 500,000円（2019）

【代表】大原昌宏：公益財団法人日本科学博物館財団 船の科学館「海のミュージアムサポート」プログラム、「海の学び石狩湾トランクキット」の開発と啓発事業の推進」 3,000,000円（2019）

【分担】大原昌宏：科学研究費補助金・基礎研究（A）「次世代技術と自然史財を高度に活用した広義寄生蜂の多様性情報基盤の構築」 代表者：前藤薫（神戸大学・教授）（2019-2022）

【分担】大原昌宏：科学研究費補助金・基礎研究（C）「日本列島及び日本海成立過程が海浜性昆虫の分布形成に与えたインパクト」 代表者：小林憲生（埼玉県立医科大学・准教授）（2016-2019）

【代表】大原昌宏：公益財団法人図書振興財団「図書館と自然科学系博物館の連携による「調べる学習モデル」の開発」 計5,760,000円（2016-2017）

阿部剛史

ABE Tsuyoshi

資料基礎研究系 講師（2019年6月から准教授）

○研究内容の概要

1. 紅藻ソゾ属および近縁属の系統分類学的研究と化学成分研究

広義ソゾ属（*Chondrophyucus*, *Laurencia*, *Laurenciella*, *Osmundea*, *Palisada*, *Yuzurua*）の系統分類学的研究を、形態形質に加えて分子系統、培養実験、成分分類学的手法を用いて進めている。また、ウラソゾの種内分化（ケミカルレース）における個体群構造について、分子系統学的手法を用いて解明を進めた。

2. 北方コンブ類の系統分類学的研究

資料部との共同研究として、サハリン・カムチャツカおよび日本産の材料を用い、北方コンブ類の系統分類学的研究を進めている。

3. 日本及び東南アジア・極東ロシアの海藻相に関する研究

上記の2群に限らず東南アジアから日本を経て極東ロシアに至る北西太平洋の海藻相についての研究をおこなっている。

4. 日本海における寒冷適応進化・多様化に関する共同研究

日本海をはじめとする縁海で、氷期に分断された海域で寒冷適応化・種分化が生じ、次の間氷期に北方の寒冷海域に進出するという「日本海多様化工場説」を、神谷隆宏教授（金沢大）が貝形虫の研究から提唱した。この説を海藻類において検証する共同研究をおこなっている。

5. 標本に含まれる放射性同位体に着目した共同研究

数十年から百年以上前に採集された海藻標本が多数収蔵されている当館の特徴を活かし、磯焼け現象が見られる前の時代における窒素源の推定や、核実験以前の本来の沃素同位体比の推定など、分類学以外の分野に海藻標本を活用する共同研究をおこなっている。

○2016～2020年の研究・活動業績

<原著論文> (9件)

Suzuki, M., Segawa, T., Mori, H., Akiyoshi, A., Ootsuki, R., Kurihara, A., Sakayama, H., Kitayama, T., Abe, T., Kogame, K., Kawai, H. & Nozaki, H. 2016. Next-generation sequencing of an 88-year-old specimen of the poorly known

- species *Liagora japonica* (Nemaliales, Rhodophyta) supports the recognition of *Otohimella* gen. nov. *PLoS ONE* **11**(7): e0158944.
- Yotsukura, N., Maeda, T., Abe, T., Nakaoka, M. & Kawai, T. 2016. Genetic differences among varieties of *Saccharina japonica* in northern Japan as determined by AFLP and SSR analyses. *Journal of Applied Phycology* **28**(5): 3043-3055.
- Sutti, S., Tani, M., Yamagishi, Y., Abe, T., & Kogame, K. 2017. New genus and species based on the *Chondria tenuissima* auct. Japan (Rhodomelaceae, Rhodophyta) *Phycologia* **56**(4): 182-182.
- Kuribayashi, T., Abe, T. & Montani, S. 2017. Historical $\delta^{15}\text{N}$ records of *Saccharina* specimens from oligotrophic waters of Japan Sea (Hokkaido). *PLoS ONE* **12**(7): e0180760.
- 阿部剛史・江口暁彦・松浦裕志・南田悠・鈴木稔・野別貴博・酒巻一修 2018. 浅海域生物相調査 II. 海藻相. 平成 29(2017)年度知床半島における浅海域生物相調査及び貝類定量調査報告書 62-72.
- Sutti, S., Tani, M., Yamagishi, Y., Abe, T., Miller, K. A., Kogame, K. 2018. *Neochondria* gen. nov. (Rhodomelaceae, Rhodophyta), a segregate of *Chondria*, including *N. ammophila* sp. nov. and *N. nidifica* comb. nov. *Phycologia* **57**(3) 262-272.
- Ishii, T., Miyagi, M., Shinjo, Y., Minamida, Y., Matsuura, H., Abe, T., Kikuchi, N. & Suzuki, M. 2019. Two new brominated C15-acetogenins from the red alga *Laurencia japonensis*. *Natural Product Research* **34**: 2787-2793.
- Ishii, T., Shinjo, Y., Miyagi, M., Matsuura, H., Abe, T., Kikuchi, N. & Suzuki, M. 2019. Investigation of insect repellent activity of cyclocolorone obtained from the red alga *Laurencia intricate*. *Records of Natural Products Articles* **13**(1) 81-84.
- Ishii, T., Hisada, W., Abe, T., Kikuchi, N., & Suzuki, M. 2020. A new record of the marine red alga *Laurencia snackeyi* from Japan and its chemotaxonomic significance. *Records of Natural Products* **14**(2) 150-153.

<学会活動> (4件)

国際藻類学会
 日本藻類学会
 北海道海洋生物科学研究会
 北海道植物学会

<学会発表等> (0件)

<一般講演・セミナー発表> (0件)

<教育活動>

学位論文主査・副査：

・理学院自然史科学専攻多様性生物学講座：修士論文指導副査0名
指導学生・授業等：

・教育（各学年の学部・研究科指導学生数）

学部0名、学院0名（修士0名、博士0名）（理学院、兼任）

授業等：（14件）

全学教育「環境と人間 北大総合博物館で学ぶ「モノ」「コト」「ヒト」」
（分担）

全学教育「環境と人間 生物の多様性」（分担）

全学教育「自然科学実験」（分担）

理学部「生物多様性基礎論」（分担）

理学部「生物多様性概論」（分担）

理学部「多様性生物学」（分担）

理学部「多様性生物学I」（分担）

理学部「臨海実習II」（分担）

理学部「生物学特別講義V」（集中講義世話教員）

大学院共通科目「博物館学特別講義I 学術標本・資料学」（分担）

大学院理学院「多様性生物学特論II」（分担）

大学院理学院「多様性生物学研究法」（分担）

学芸員養成過程授業「博物館資料論」（分担）

学芸員養成過程授業「博物館学芸員実習指導」（分担）

<博物館活動>

総合博物館関連各種委員等（3件）

総合博物館運営委員会委員、展示専門委員会委員、学術標本検討専門
委員会委員

博物館教育（0件）

シンポジウム開催（企画、運営）：（0件）

博物館企画展示（0件）

<学内各種委員> (3件)

環境負荷低減推進員

野外活動安全マニュアル検討WG委員 (北海道大学安全衛生本部, 2015, 安全な野外活動のための基礎知識, 79 pp. 分担執筆)

理学部環境安全衛生委員会委員

<社会貢献> (1件)

希少野生動植物種保存推進員 (環境省) (2012.7～現在)

<外部資金> (2件)

【分担】四ツ倉典滋 (代表: 北海道大学) : 科学研究費 基盤研究(B) 25304010 「北太平洋西部沿岸におけるコンブ類の種多様性とその由来の解明」 (2013-2016)平成25年度-平成28年度

【分担】神谷隆宏 (代表: 金沢大学) : 科学研究費 基盤研究(B) 26304010 「新たな生物進化モデルの展開: 日本海多様化工場説とその世界的インパクト」 (2014-2017)平成26年度-平成29年度

河合俊郎（～30.3.31）

KAWAI Toshio

資料基礎研究系 助教

○研究内容の概要

1. キホウボウ科魚類の系統分類学的研究

深海性魚類の一群全てを包括的に形態形質および分子形質の両面から研究し、種多様性とその形成史を総合的に明らかにする試みである。深海底という特殊かつ安定した環境において、生物はどのように進化・適応してきたのかという研究を進める上で、世界中の深海底に生息する代表的な一群であるキホウボウ科は最も有効な研究対象種のひとつである。

2. 北海道周辺海域に出現する魚類の分類学・生物地理学的研究

北海道周辺に出現する魚類を分類し、北海道周辺の魚類相を解明することを目的とする。北海道は南からの暖流である黒潮と対馬暖流、北からの寒流である親潮とリマン海流によって、複雑な水域を形成するため寒海性から熱帯性までの多様な魚類が生息可能となっている。

3. 東部インド洋アンダマン海周辺に出現する魚類の分類学的研究

東部インド洋に位置するアンダマン海からマラッカ海峡にかけて出現する魚類を分類し、インド洋と太平洋の熱帯域をつなぐ魚類相の特徴を明らかにすることを目的とする。

○2016-2017年の研究・活動業績

<原著論文> (9件)

H.-C. Ho, T. Kawai and K. Amaoka. 2016. Records of deep-sea anglerfishes (Lophiiformes: Ceratioidei) from Indonesia, with descriptions of three new species. *Zootaxa*, 4121 (3): 267-294.

H.-C. Ho, T. Kawai, Wudianto and F. Satria. 2016. Records of anglerfishes (Actinopterygii: Lophiiformes: Lophiidae) from Indonesia. *Acta Ichthyologica et Piscatoria*, 46 (2): 77-85.

T. Kawai. 2016. *Peristedion richardsi* sp. nov. (Actinopterygii: Teleostei: Peristediidae) from Indonesian waters, with synonymy between *Peristedion riversandersoni* Alcock, 1894 and *Peristedion nierstraszi* Weber, 1913. *Zootaxa*, 4172 (2): 335-346.

V. Vilasri, R. Yamanaka, T. Kawai, H. Imamura, S. Ratmuangkhwang, F. Tashiro and

M. Ohara. 2016. Survey for coastal fishes of Ranong and Phuket provinces, Thailand in December 2014. The Thailand Natural History Museum Journal, 10 (2): 117-123.

T. Kawai, F. Tashiro, H. Imamura and C. Aungtonya. 2017. Deep-sea fishes collected from the Andaman Sea by R/V Chakratong Tongyai during 1996–2000. Part 1: order Scorpaeniformes. Phuket Marine Biological Center Research Bulletin, 74: 23-32.

R. Fricke, T. Kawai, T. Yato and H. Motomura. 2017. *Peristedion longicornutum*, a new species of armored gurnard from the western Pacific Ocean (Teleostei: Peristediidae). Journal of the Ocean Science Foundation, 28: 90-102.

河合俊郎. 2017. 高知県にて採集された日本初記録のキホウボウ科魚類 *Paraheminodus kamoharai* カモハラキホウボウ (新称). 魚類学雑誌, 64 (2): 175-178.

T. Kawai and R. Causse. 2017. Record of an armored searobin *Heminodus philippinus* Smith, 1917 (Actinopterygii, Teleostei, Peristediidae) from French Polynesia. The Thailand Natural History Museum Journal, 11 (2): 99-103.

K. Kimura, M. Takagishi, T. Kawai, H. Imamura, H.-C. Ho, T. Tomita, F. Tanaka and G. Shinohara. 2017. Record of a flathead fish, *Rogadius pristiger* (Cuvier, 1829) (Platycephalidae) from Taiwan. Platax, 14: 46-54.

河合俊郎・木村克也・川畑達・神正人. 2017. 青森県むつ市沖から採集されたカグラザメ *Hexanchus griseus*. 北海道大学水産科学研究彙報, 67 (3): 35-37

< 著書・図録・目録・総説・解説・報告等 > (2件)

T. Kawai. 2017. Triglidae, Peristediidae, Dactylopteridae. H. Motomura, U. B. Alama, N. Muto, R. P. Babaran and S. Ishikawa (Eds). Commercial and bycatch market fishes of Ponay Island, Philippines. Pp. 70-71, 75-76.

河合俊郎. 2017. 3章 体表の構造. 矢部衛・桑村哲生・都木靖彰 (編). 魚類学. pp15-24. 恒星社厚生閣, 東京.

< 学会活動 > (2件)

日本魚類学会、日本動物分類学会

< 学会発表等 > (10件)

○木村克也・今村央・河合俊郎、タカノハダイ科とユメタカノハダイ科魚類の系統分類学的研究、第49回日本魚類学会年会、No.47、岐阜、2016年9月24

日

○外山太一郎・今村央・河合俊郎、ダツ科の系統分類学的研究、第50回日本魚類学会年会、No. 40、函館、2017年9月16日

三上大樹・○河合俊郎・今村央、トビウオ亜目内におけるサヨリ科魚類の系統学的位置の推定、第49回日本魚類学会年会、No.79、岐阜、2016年9月25

日

○木村克也・今村央・河合俊郎、*Hispidoberyx ambagiosus*の形態学的新知見とその系統的示唆、第50回日本魚類学会年会、No. 85、函館、2017年9月16日、日本魚類学会最優秀ポスター発表賞

○森下悟至・河合俊郎・本村浩之、インドネシア・バリ島から得られたメバル科カサゴ属の1未記載種、第50回日本魚類学会年会、No. 87、函館、2017年9月16日

○岸本早貴・河合俊郎・田城文人、アンダマン海南部から採集されたアカゴチ科バラハイゴチ属の1未記載種、第50回日本魚類学会年会、No. 89、函館、2017年9月16日

○田城文人・鈴木啓太・永野優季・野口俊輔・上田祐司・藤原邦浩・河合俊郎・甲斐嘉晃、日本海産カレイ目魚類相、第50回日本魚類学会年会、No. 167、函館、2017年9月16日

○寺塚真奈美・今村央・河合俊郎、ヒメツバメウオ科魚類の骨学的研究、第50回日本魚類学会年会、No. 98、函館、2017年9月17日

○川原田峻平・今村央・河合俊郎・矢部衛、ラスヘビゲンゲ *Lycenchelys rassi*の再定義および類似種との形態比較、第50回日本魚類学会年会、No. 100、函館、2017年9月17日

○篠原現人・沓名貴彦・河合俊郎、北海道大学に保管される魚類学の黎明期資料～疋田豊治氏が描いた魚類の原図、第50回日本魚類学会年会、No. 106、函館、2017年9月17日

<一般講演・セミナー発表> (0件)

なし

<教育活動>

学位論文主査・副査：

・水産科学院 海洋生物資源科学専攻：平成28年度（博士論文指導副査2名，修士論文指導副査5名），平成29年度（博士論文指導副査1名，修士論文指導副査3名）

指導学生・授業等：

・教育（各学年の学部・研究科指導学生数）

平成28年度

学部4年生7名（水産学部、兼担）、学院13名（修士10名、博士3名）（水産科学院、担当）

平成29年度

学部4年生6名（水産学部、兼担）、学院8名（修士4名、博士1名）（水産科学院、担当）

授業等：（9件）

水産学部「水圏生物学」（分担）

水産学部海洋生物科学科「水圏生物科学実習」（分担）

水産学部海洋生物科学科「海洋生物科学論文講読」（分担）

水産学部海洋生物科学科「海洋生物科学基礎実験」（分担）

水産学部海洋生物科学科「海洋生物学実験」（分担）

水産学部海洋生物科学科「水族館学」（責任）

水産学部海洋生物科学科「水産科学英語II」（分担）

学芸員養成過程授業「博物館実習館務実習（総合博物館）」（分担）

学芸員養成過程授業「博物館実習館務実習（水産科学館）」（責任）

<博物館活動>

総合博物館関連各種委員等（2件）

水産科学館専門委員会委員（1999.4-2020.3）、学術標本検討専門委員会委員（1999.4-2018.3）

博物館教育（0件）

なし

シンポジウム開催（企画、運営）：

Training course on identification of deep-sea fishes from Andaman Sea、プーケット海洋生物学研究所（ソクラー大学プーケットキャンパス）、2016年7月11日～15日

第51回日本魚類学会年会、日本魚類学会創立50周年記念シンポジウム 日本の魚類学—その歴史と次世代への展望、コンビーナー、2018年10月8日

博物館企画展示 1件

北海道大学総合博物館水産科学館企画展示「ランの王国」担当、2017年5月15日～7月14日

<学内各種委員> (0件)

なし

<社会貢献> (6件)

日本魚類学会評議員 (2016.1-2017.9)

日本魚類学会代議員 (2017.9-2021)

日本魚類学会 50周年記念事業実行委員 (2015.4-2019.9)

日本魚類学会電子情報委員 (2016.1-2020)

日本魚類学会 2017年度年会実行委員会委員 (2017.1-2017.9)

Thailand Natural History Museum Journal, Advisory Editorial Board (2017-)

<外部資金> (0件)

なし

田城文人

TASHIRO Fumihito

資料基礎研究系 助教

○研究内容の概要

1. 深海性魚類の分類学的・生物地理学的研究

基礎生物学的な情報に乏しい深海性魚類を対象として、それらの種多様性や進化史を形態・分子データに基づき多角的な手法で調査している。中でも、水産上重要種は資源管理等の側面からも正確な基礎情報の把握が求められる。そこで、現在はウナギ目を中心に、水産重要種を多く含む分類群を主な研究対象としている。

2. 日本海産浅海性魚類の分類学・生物地理学的研究

日本列島は太平洋・日本海・オホーツク海・東シナ海に囲まれるが、日本海に産する魚類の種多様性は未解明な状況にある。そこで、とくに研究が進んでいない浅海性魚類を対象として、日本海産魚類の種多様性の解明を進めている。同時に、過去（所蔵標本）から現在（新規標本）までの標本を利活用することで、種多様性の時系列的な変動に関する研究も実施している。

3. アンドAMAN海産深海性魚類の分類学的研究

アンドAMAN海（東部インド洋）に分布する深海性魚類を対象として、それらの分類学的な研究を実施している。標本調査に際しては、標本を保有するタイ王国プーケットの研究施設を訪問し、現地スタッフらに資料の維持・管理を指導している。

4. 北海道産魚類のDNA解析用試料・写真インベントリーの構築

水産科学館には24万点の魚類標本があるが、形態観察を主用途とする標本であった。近年は北方系魚類の集団遺伝解析も盛んに実施されつつあり、他機関からの利用要望も多いことから、各種10個体を目安にしてDNA解析用の資料を蓄積させている。加えて、標本化前の色彩保存・記録を目的として、全ての種で生鮮時写真を撮影し、写真資料として保管している。

○2018–2019年の研究・活動業績

2018年

<原著論文> (2件)

Smith, D. G., Ho, H.-C. and Tashiro, F.. 2018. Eels of the genus *Bathyroconger* in the

northwestern Pacific, with descriptions of four new species (Anguilliformes: Congridae). *Zootaxa*, 4454: 147–167.

Tashiro, F., Tabata, R., Nishizawa, H. and Mitamura, H. 2018. A rare species of *Uropterygius* (Anguilliformes, Muraenidae) found in the stomach content of a Yellow-lipped Sea Krait from Japan. *Check List*, 14: 163–166.

<著書・図録・目録・総説・解説・報告等> (2件)

田城文人. 2018. ホラアナゴ科. pp.72–73. 中坊徹次 (編・監). 小学館の図鑑 Z 日本魚類館: ~精緻な写真と詳しい解説~. 小学館, 東京.

田城文人. 2018. 形態の雌雄差. pp. 88–89. 日本魚類学会 (編). 魚類学の百科事典. 丸善出版, 東京.

<学会活動> (2件)

日本魚類学会、日本動物分類学会

<学会発表等> (5件)

田城文人・今村央. 2018. 小規模分館を取り巻く施設の老朽化問題—北大総合博水産科学館の現状と課題—. 第 13 回日本博物科学会 (香川大学) 2018 年 6 月.

田城文人・Chen, W.J. 2018. 南シナ海から得られたホラアナゴ科リュウキュウホラアナゴ属の 1 未記載種. 第 51 回日本魚類学会年会 (国立オリンピック記念青少年総合センター) 2018 年 10 月.

甲斐嘉晃・田城文人. 2018. 西部太平洋から得られたカガミダイ属の 1 未記載種. 第 51 回日本魚類学会年会 (国立オリンピック記念青少年総合センター) 2018 年 10 月

千田哲朗・河合俊郎・田城文人・今村央・Aungtonya, C・Surapong, B. 2018. タイ王国プーケット沖のアンダマン海から採集されたニギス目魚類の分類学的研究. 第 51 回日本魚類学会年会 (国立オリンピック記念青少年総合センター) 2018 年 10 月

河合俊郎・田城文人・今村央・中山直英・木村克也・千田哲朗・神山晃汰・Charatsee, A・Surapong, B. 2018. タイ王国プーケット沖のアンダマン海から採集されたニギス目魚類の分類学的研究. 第 51 回日本魚類学会年会 (国立オリンピック記念青少年総合センター) 2018 年 10 月

<一般講演・セミナー発表> (0件)

<教育活動>

学位論文主査・副査：

- ・水産科学院 海洋生物資源科学専攻：平成30年度（修士論文指導副査1名）

指導学生・授業等：

- ・教育（各学年の学部・研究科指導学生数）
学部4年生6名（水産学部、兼担）、学院5名（修士4名、博士1名）（水産科学院、担当）

授業等：（11件）

- 水産学部「水圏生物学」（分担）
- 水産学部海洋生物科学科「水族館学」（責任）
- 水産学部海洋生物科学科「水圏生物科学実習」（分担）
- 水産学部海洋生物科学科「海洋生物科学実験Ⅱ」（分担）
- 水産学部海洋生物科学科「海洋生物科学実験Ⅲ」（分担）
- 水産学部海洋生物科学科「水産科学英語Ⅱ」（分担）
- 水産学部海洋生物科学科「海洋生物科学論文講読」（分担）
- 全学教育科目「「モノ」＋「コト」＋「ヒト」＝北大総合博物館」（分担）
- 学芸員養成過程授業「博物館実習館務実習（総合博物館）」（分担）
- 学芸員養成過程授業「博物館実習館務実習（水産科学館）」（責任）
- 学芸員養成過程授業「博物館実習事前事後指導」（分担）

<博物館活動>

総合博物館関連各種委員等：（2件）

- 水産科学館専門委員会委員、学術標本検討専門委員会委員

博物館教育：（1件）

- 水産科学館学生ボランティア活動担当

シンポジウム開催（企画、運営）：（0件）

博物館企画展示 0件

<学内各種委員> （0件）

<社会貢献> (1件)

日本魚類学会編集委員

<外部資金> (0件)

なし

2019年

<原著論文> (6件)

Hibino, Y., J. E. McCosker and F. Tashiro. 2019. Four new deepwater *Ophichthus* (Anguilliformes: Ophichthidae) from Japan with a redescription of *Ophichthus pallens* (Richardson 1848). Ichthyological Research.

Kai, Y. and Tashiro, F. 2019. *Zenopsis filamentosa* (Zeidae), a new mirror dory from the western Pacific Ocean, with redescription of *Zenopsis nebulosa*. Ichthyological Research.

Kishimoto, S., Kawai, T., Tashiro, F. and Aungtonya, C. 2019. Description of a new species of *Bembradium* (Scorpaeniformes: Bembaradidae) from the Andaman Sea, Thailand. Phuket Mar. Biol. Cent. Res. Bull., 76: 9–17.

Kimura, K., Kawai, T., Tashiro, F., Nakayama, N., Aungtonya, C. and Banchongmanee, S. 2019. Deep-sea fishes from the Andaman Sea by R/V Chakratong Tongyai during 1996–2000. Part 2: orders Beryciformes and Stephanoberyciformes. Phuket Mar. Biol. Cent. Res. Bull., 76: 1–8.

松沼瑞樹・内田喜隆・田城文人. 2019. オオクチケカツオ *Scomberoides commersonianus* (アジ科) の山口県日本海沿岸からの記録および若狭湾とその周辺海域に出現するアジ科魚類目録. 魚類学雑誌, 66: 253–260.

荻野星・田城文人・松沼 瑞樹. 2019. 日本海から得られたマルバラシマガツオとチカメエチオピア (シマガツオ科) の記録. 魚類学雑誌, 66: 245–252.

<著書・図録・目録・総説・解説・報告等> (2件)

田城文人. 2018. ホラアナゴ科. pp.72–73. 中坊徹次 (編・監). 小学館の図鑑 Z 日本魚類館: ~精緻な写真と詳しい解説~. 小学館, 東京.

田城文人. 2018. 形態の雌雄差. pp. 88–89. 日本魚類学会 (編). 魚類学の百科事典. 丸善出版, 東京.

<学会活動> (2件)

日本魚類学会、日本動物分類学会

<学会発表等> (0件)

<一般講演・セミナー発表> (1件)

第6回土曜市民セミナー「日本海の『カレイ』の種多様性を概観する」(北海道大学総合博物館) 9月14日

<教育活動>

学位論文主査・副査:

・水産科学院 海洋生物資源科学専攻: 令和1年度 (博士論文指導副査1名; 修士論文指導副査1名)

指導学生・授業等:

・教育 (各学年の学部・研究科指導学生数)
学部4年生5名 (水産学部、兼担)、学院7名 (修士6名、博士1名) (水産科学院、担当)

授業等: (11件)

水産学部「水圏生物学」(分担)
水産学部海洋生物科学科「水族館学」(責任)
水産学部海洋生物科学科「水圏生物学実習」(分担)
水産学部海洋生物科学科「海洋生物学実験II」(分担)
水産学部海洋生物科学科「海洋生物学実験III」(分担)
水産学部海洋生物科学科「水産科学英語II」(分担)
水産学部海洋生物科学科「海洋生物学論文講読」(分担)
全学教育科目「[モノ]+[コト]+[ヒト]=北大総合博物館」(分担)
学芸員養成過程授業「博物館実習館務実習(総合博物館)」(分担)
学芸員養成過程授業「博物館実習館務実習(水産科学館)」(責任)
学芸員養成過程授業「博物館実習事前事後指導」(分担)

<博物館活動>

総合博物館関連各種委員等: (2件)

水産科学館専門委員会委員、学術標本検討専門委員会委員

博物館教育: (0件)

水産科学館学生ボランティア活動担当

シンポジウム開催（企画、運営）：（0件）

博物館企画展示 0件

<学内各種委員> （0件）

<社会貢献> （1件）

日本魚類学会編集委員（和文誌主任）

<外部資金> （0件）

なし

小林快次

KOBAYASHI Yoshitsugu

資料開発研究系 教授

大阪大学総合学術博物館 招聘教授

Perot Museum of Nature and Science (Texas, USA), Associate Research

旭川市科学館サイパル 顧問

○研究内容の概要

①生態復元からみた、恐竜類から鳥類への進化

鳥類が中生代の恐竜類からどのようにして“鳥類化”したかが、現在の議論の的になっている。内温性は、どこまでさかのぼれるのか？脳の作りはいつから“鳥類タイプ”になっていたのか？食性がどのように変化し、原始的な鳥類は生態系においてどの位置に立たされていたのか？など、化石から復元できる生態から、恐竜の“鳥類化”のプロセスを探っている。

②アジア（モンゴルと中国）と北米（カナダ）における恐竜類の多様性

世界に恐竜王国は6カ国に渡る（中国、モンゴル、アメリカ、カナダ、アルゼンチン、イギリス）。中国とモンゴルは、これまでも多くの化石を産出しているが、現在も未開拓の地が多く、恐竜時代において恐竜の多様性がどの程度だったのかは不明な部分が多い。比較的研究が進んでいて、同時代で同じ古緯度のカナダ・アルバータ州の恐竜と比較することで、大陸間で恐竜の多様性の相違を追求している。

③北極圏での恐竜の多様性と適応能力

恐竜は、全大陸を支配した大型陸棲動物である。その分布域は、極圏にまで及ぶ。アラスカ州の恐竜研究を行い、当時の環境や生態系の復元、アジア-北米間における恐竜の移動の時期と種類を解明、恐竜やその他の動物の内温性の有無といったことを追求している。

④むかわ町穂別地区から発見された植物食恐竜

北海道総合博物館とむかわ町穂別博物館との共同で、2013年と2014年に植物食恐竜ハドロサウルス科の全身骨格が発掘された。本邦としては、最も完全な全身骨格であり、白亜紀末の恐竜としては最も保存の良いものであり、日本古生物学の歴史に残る発見となった。2019年に *Kamuysaurus japonicus* と命名し、現在もカムイサウルスを中心とした研究を行っている。

○2016-2020年の研究・活動業績

<原著論文>

1. Chiba, K., Fiorillo, A., Jacobs, L., Kimura, Y., Kobayashi, Y., Kohno, N., Nishida, Y., Polcyn, M., and Tanaka, K. 2016. A new desmostylian mammal from Unalaska (USA) and the robust Sanjussen jaw from Hokkaido (Japan), with comments on feeding in derived desmostylids. *Historical Biology*, 28: 289-303. DOI:10.1080/08912963.2015.1046718
2. Jacobs, L., Flynn, L., Kimura, Y., Kobayashi, Y., Wang, X. Qiu, Z., Jin, C., Zhang, Y., Taylor, L., Kohno, N., and Winkler, A. J. 2016. Contributions to vertebrate palaeontology in honour of Yukimitsu Tomida. *Historical Biology*, 28: 1-7. DOI:10.1080/08912963.2015.1049839
3. Iijima, M. Takahashi, K., and Kobayashi, Y. 2016. The oldest record of *Alligator sinensis* from the Late Pliocene of western Japan, and its biogeographic implication. *Journal of Asian Earth Sciences*, 124: 94-101.
4. Takasaki, R. Chiba, K., Kobayashi, Y., Currie, P., and Fiorillo, A. 2017. Reanalysis of the phylogenetic status of *Nipponosaurus sachalinensis* (Ornithopoda: Dinosauria) from the Late Cretaceous of Southern Sakhalin. *Historical Biology*, 1-18. doi.org/10.1080/08912963.2017.1317766
5. Lü, J., Li, G., Kundrát, M., Lee, Y., Sun, Z., Kobayashi, Y., Shen, C., Teng, F., and Liu, H. 2017. High diversity of the Ganzhou Oviraptorid Fauna increased by a new “cassowary-like” crested species. *Scientific Reports*, 7: 6393. DOI:10.1038/s41598-017-05016-6
6. Chinzorig, T., Kobayashi, Y., Tsogtbaatar, K., Currie, P., Watabe, M., and Barsbold, R. 2017. First ornithomimid (Theropoda, Ornithomimosauria) from the Upper Cretaceous Djadokhta Formation of Togrogiin Shiree, Mongolia. *Scientific Reports* 7, 5835; doi: 10.1038/s41598-017-05272-6
7. Nakajima, J., Kobayashi, Y*, Chinzorig, T. Tanaka, T., Takasaki, R., Tsogtbaatar, K., Currie, P., and Fiorillo, A. 2017. Dinosaur tracks at the Nemegt locality: paleobiological and paleoenvironmental implications. *Palaeogeography, Palaeoclimatology, Palaeoecology* 494: 147-159. doi.org/10.1016/j.palaeo.2017.10.026 (*corresponding author)
8. Paulina-Carabajal, A., Lee, Y., Kobayashi, Y., Lee, H., and Currie, P. 2017. Neuroanatomy of the ankylosaurid dinosaurs *Tarchia teresae* and *Talarurus plicatospineus* from the Upper Cretaceous of Mongolia, with comments on endocranial variability among ankylosaurs. *Palaeogeography, Palaeoclimatology, Palaeoecology* 494: 135-146. doi.org/10.1016/j.palaeo.2017.11.030
9. Chinzorig, T., Kobayashi, Y., Tsogtbaatar, K., Currie, P., Takasaki, R., Tanaka, T., Iijima, M., and Barsbold. 2017. Ornithomimosaur from the Nemegt Formation of Mongolia: manus morphological variation and diversity. *Palaeogeography, Palaeoclimatology, Palaeoecology* 494: 91-100. doi.org/10.1016/j.palaeo.2017.10.031
10. Lee, H., Lee, Y., Adams, T., Currie, P., Kobayashi, Y., Jacobs, L. and Koppelhus, E. 2017. Theropod trackways associated with a *Gallimimus* foot skeleton from the Nemegt Formation, Mongolia. *Palaeogeography, Palaeoclimatology, Palaeoecology* 494: 160-167. doi.org/10.1016/j.palaeo.2017.10.020
11. Zelenitsky, D., Therrien, F., Tanaka, K., Kobayashi, Y., and Debuhr, C. 2017. Dinosaur eggshells from the Santonian Milk River Formation of Alberta, Canada. *Cretaceous Research*, 74: 181-187.
12. Tanaka, T., Kobayashi, Y., Kurihara, K., Fiorillo, A., and Kano, M. 2017. The oldest Asian hesperornithiform from the Upper Cretaceous of Japan, and the phylogenetic reassessment of

Hesperornithiformes. *Journal of Systematic Palaeontology*. 1-21.
doi.org/10.1080/14772019.2017.1341960

13. Iijima, M., Momohara, A., Kobayashi, Y., Hayashi, S., Ikeda, T., Taruno, H., Watanabe, K., Tanimoto, M., and Furui, S. 2018. *Toyotamaphimeia* cf. *machikanensis* (Crocodylia, Tomistominae) from the Middle Pleistocene of Osaka, Japan, and crocodylian survivorship through the Pliocene-Pleistocene climatic oscillations. *Palaeogeography, Palaeoclimatology, Palaeoecology* 496: 346-360.
14. Iijima, M., Kubo, T., and Kobayashi, Y. 2018. Comparative limb proportions reveal differential locomotor morphofunctions of alligatoroids and crocodyloids. *Royal Society Open Science* 5: 171774. doi: [10.1098/rsos.171774](https://doi.org/10.1098/rsos.171774)
15. Tanaka, K., Zelenitsky, D., Therrien, F., and Kobayashi, Y. 2018. Nest substrate reflects incubation style in extant archosaurs with implications for dinosaur nesting habits. *Scientific Reports* 8:3170; doi: [10.1038/s41598-018-21386-x](https://doi.org/10.1038/s41598-018-21386-x).
16. Fiorillo, A.R., McCarthy, P.J., Kobayashi, Y., and Tanaka, T. 2018. Duck-billed dinosaurs (Hadrosauridae), ancient environments, and Cretaceous Beringia in Alaska's National Parks. *Alaska Park Science* 17(1): 20-27.
17. Fiorillo, A.R., McCarthy, P.J., Kobayashi, Y., Tomisch, C.S., Tykoski, R.S., Lee, Y.N., Tanaka, T., and Noto, C.R. 2018. An unusual association of hadrosaur and therizinosaur tracks within Late Cretaceous rocks of Denali National Park, Alaska. *Scientific Reports* 8, 1-12, doi:[10.1038/s41598-018-30110-8](https://doi.org/10.1038/s41598-018-30110-8).
18. Iijima, M. and Kobayashi, Y. 2019. Mosaic nature in the skeleton of East Asian crocodylians fills the morphological gap between "Tomistominae" and Gavialinae. *Cladistics* doi.org/10.1111/cla.12372 (on line)
19. Tanaka, K. *, Kobayashi, Y. *, Zelenitsky, D.K., Therrien, F., Lee, Y.N., Barsbold, R., Kubota, K., Lee, H.J., Chinzorig, T., and Idersaikhan, D. 2019. Exceptional preservation of a Late Cretaceous dinosaur nesting site from Mongolia reveals colonial nesting behavior in a non-avian theropod. *Geology*, 47 (9): 843-847. doi.org/10.1130/G46328.1. (*corresponding author)
20. Takasaki, R., Fiorillo, A.R., Kobayashi, Y., Tykoski, R.S., and McCarthy, P.J. 2019. The first definite lambeosaurine bone from the Liscomb Bonebed of the Upper Cretaceous Prince Creek Formation, Alaska, United States. *Scientific Reports* 9:5384 doi.org/10.1038/s41598-019-41325-8
21. Fiorillo, A.R., Kobayashi, Y., McCarthy, P.J., Tanaka, T., Tykoski, R.S., Lee, Y.N., Takasaki, R., and Yoshida, J. 2019. Dinosaur ichnology and sedimentology of the Chignik Formation (Upper Cretaceous), Aniakchak National Monument, southwestern Alaska; further insights on habitat preferences of high-latitude hadrosaurs. *PLoS ONE* 14(10): e0223471. <https://doi.org/10.1371/journal.pone.0223471>.
22. Kobayashi, Y., Nishimura, T., Takasaki, R., Chiba, K., Fiorillo, A.R., Tanaka, K., Chinzorig, T., Sato, T., and Sakurai, K. 2019. A new hadrosaurine (Dinosauria: Hadrosauridae) from the marine deposits of the Late Cretaceous Hakobuchi Formation, Yezo Group, Japan. *Scientific Reports* 9:12389 doi.org/10.1038/s41598-019-48607-1
23. Lee, Y.N., Lee, H.J., Kobayashi, Y., Paulina-Carabajal, A., Barsbold, R., Fiorillo, A.F., and Tsogtbaatar, K. 2019. Unusual locomotion behaviour preserved within a crocodyliform trackway from the Upper Cretaceous Bayanshiree Formation of Mongolia and its palaeobiological implications. *Palaeogeography, Palaeoclimatology, Palaeoecology* 533 (1): doi.org/10.1016/j.palaeo.2019.1092394 (on line)

24. Park, J.M., Lee, Y.N., Currie, P.J., Kobayashi, Y., Koppelhus, E., Barsbold, R., Mateus, O., Lee, S., and Kim, S.H. 2020. Additional skulls of *Talarurus plicatospineus* (Dinosauria: Ankylosauridae) and implications for paleobiogeography and paleoecology of armored dinosaurs. *Cretaceous Research* 108 doi.org/10.1016/j.cretres.2019.104340 (on line).
25. Takasaki, R., Fiorillo, A.R., Tykoski, R.S., and Kobayashi, Y. 2020. Re-examination of the cranial osteology of the Arctic Alaskan hadrosaurine with implications for its taxonomic status. *PLoS ONE* 15 (5): e0232410.
26. Tanaka, T., Kobayashi, Y., Ikuno, K., Ikeda, T., and Saegusa, H. 2020. A marine hesperornithiform (Avialae: Ornithuromorpha) from the Maastrichtian of Japan: Implications for the paleoecological diversity of the earliest diving birds in the end of the Cretaceous. *Cretaceous Research* 113 doi.org/10.1016/j.cretres.2020.104492
27. Funston, G.F., Chinzorig, T., Khishigjav, T., Kobayashi, Y., Sullivan, C., and Currie, P.J. 2020. A new two-fingered dinosaur sheds light on the radiation of Oviraptorosauria. *Royal Society Open Science* 7: 201184. <http://dx.doi.org/10.1098/rsos.201184>
28. Takasaki, R. and Kobayashi, Y. 2020. Effects of diet and gizzard muscularity on grit use in domestic chickens. *PeerJ* 8:e10277 DOI 10.7717/peerj.10277

<著書・図録・目録・総説・解説・報告等> (38件)

1. 小林快次 (監修) 2016, 恐竜新訂版 (講談社の動く図鑑 MOVE) , 224pp, 講談社.
2. 小林快次 (監修) 2016, スーパービジュアル恐竜図鑑, 96pp, 講談社.
3. 小林快次・櫻井和彦・西村智弘 (監修) 2016, ザ・パーフェクト—日本初の恐竜全身骨格発掘記：ハドロサウルス発見から進化の謎まで, 308pp, 誠文堂新光社.
4. 小林快次・藤原慎一 (監修) 2017, 語源がわかる恐竜学名辞典, 540pp, 北隆館.
5. 小林快次 (監修) 2017, NHKダーウィンが来た！ 特別編集 知られざる恐竜王国！！ 日本にもティラノサウルス類やスピノサウルス類がいた！ , 85pp, 講談社.
6. 小林快次 (監修) 2017, マルいアタマをもっとマルく！ 日能クエスト超肉食恐竜ティラノサウルスの誕生！ 肉食恐竜の究極進化, 203pp, 講談社.
7. 小林快次・佐藤たまき・富田幸光 (著) 2017, 臨時増刊号総特集恐竜古生物学最前線, 393pp, 青土社.
8. 小林快次 (監修) 2018, スーパービジュアル恐竜と大昔の生きもの, 208pp, 講談社.
9. 小林快次 (監修) 2018, 恐竜キングダム(1) タイムマシンで古生代へ！ (角川まんが科学シリーズ), 160pp, KADOKAWA.

10. 小林快次（監修）2018, 恐竜キングダム(2) 地中探検は危険だらけ！（角川まんが科学シリーズ）, 160pp, KADOKAWA.
11. 小林快次（監修）2018, 恐竜キングダム(3) 発見！ディメトロドンの卵（角川まんが科学シリーズ）, 160pp, KADOKAWA.
12. 小林快次（監修）2018, 恐竜キングダム(4) ギャッ！恐竜が出た（角川まんが科学シリーズ）, 160pp, KADOKAWA.
13. 小林快次（監修）2018, 恐竜キングダム(5) ジュラ紀で迷子に！？（角川まんが科学シリーズ）, 160pp, KADOKAWA.
14. 小林快次（監修）2018, やりすぎ恐竜図鑑なんでここまで進化した！？, 173pp, 宝島社.
15. 小林快次（監修）2018, ブリタニカ科学まんが図鑑恐竜（ナツメ社科学まんが図鑑シリーズ）, 170pp, ナツメ社.
16. 小林快次（著）2018, 僕は恐竜探検家, 150pp, 講談社.
17. 小林快次（監修）2019, 恐竜キングダム(6) 最速の恐竜をさがせ！（角川まんが科学シリーズ）, 160pp, KADOKAWA.
18. 小林快次（監修）2019, 恐竜キングダム(7) 巨大恐竜カルカロドントサウルス（角川まんが科学シリーズ）, 160pp, KADOKAWA.
19. 小林快次・久保田克博・田中康平・千葉謙太郎（監修）2019, 恐竜の教科書：最新研究で読み解く進化の謎, 240pp, 創元社.
20. 小林快次（監修）2019, 恐竜キングダム(8) 空の王者、決定戦！（角川まんが科学シリーズ）, 160pp, KADOKAWA.
21. 小林快次（監修）2019, 恐竜キングダム(9) 海の危険生物、大集合！（角川まんが科学シリーズ）, 160pp, KADOKAWA.
22. 小林快次（監修）2019, 恐竜キングダム(10) ティラノサウルス vs トリケラトプス（角川まんが科学シリーズ）, 160pp, KADOKAWA.
23. 小林快次（監修）2019, はじめてのずかん きょうりゅう（講談社の動く図鑑 MOVE）, 96pp, 講談社.
24. 小林快次（著）2019, 化石ハンター恐竜少年じゃなかった僕はなぜ恐竜学者になったのか（YA心の友達シリーズ）, 160pp, PHP 研究社
25. 小林快次（監修）2019, もっとやりすぎ恐竜図鑑, 173pp, 宝島社
26. 小林快次（監修）2019, 恐竜（講談社の動く図鑑 MOVE mini）, 208pp, 講談社.
27. 小林快次（監修）2019, 漫画むかわ竜発掘記：恐竜研究の最前線と未来がわかる, 195pp, 誠文堂新光社.
28. 小林快次（著）2019, 恐竜まみれ-発掘現場は今日も命がけ-, 221pp, 新潮社.

29. 小林快次・小西卓哉（監修）2019, NHK スペシャル 恐竜超世界, 163pp, 日経ナショナルジオグラフィック社.
30. 小林快次（監修）2020, 恐竜キングダム(11) 巨大肉食獣アンドリューサルクス（角川まんが科学シリーズ）, 160pp, KADOKAWA.
31. 田中康平・小林快次（監修）2020, まどあけずかんきょうりゅう（小学館の図鑑 NEO）, 31pp, 小学館
32. 小林快次（監修）2020, 恐竜キングダム(12) マンモス vs スミロドン（角川まんが科学シリーズ）, 160pp, KADOKAWA.
33. 小林快次（監修）2020, 恐竜2 最新研究（講談社の動く図鑑 MOVE）, 88pp, 講談社
34. 小林快次（監修）2020. スーパービジュアル恐竜図鑑（第2版）, 96pp, 講談社.
35. 小林快次（監修）2020, 絵本 NHK スペシャル恐竜超世界, 64pp, 徳間書店.
36. 小林快次・田中康平（監修）2020, NHK 子ども科学電話相談恐竜スペシャル!, 128pp, NHK 出版.
37. 小林快次（監修）2020, 超リアル恐竜サバイバル図鑑, 144pp, ジー・ビー.
38. 小林快次（監修）2020, 恐竜骨ぬりえ, 64pp, KADOKAWA.

<学会発表等> (33 件)

1. Takasaki, R., Chiba, K., Kobayashi, Y., Currie, P. J. 2016. 演題「OSTEOHISTOLOGICAL ONTOGENETIC ASSESSMENT AND PHYLOGENETIC ANALYSIS OF *NIPPONOSAURUS SACHALINENSIS* (DINOSAURIA, HADROSAURIDAE)」76th Annual Meeting of Society of Vertebrate Paleontology (Salt Lake City, USA).
2. 小林快次, ツクトバアタル・チンゾリグ, キシグジャヴ・ツクトバアタル, リンチェン・バルズボルド. 2016. 演題「モンゴルの上部白亜系バランシレ層から発見された二指性のテリジノサウルス類」日本古生物学会165回例会（京都府・京都大学）
3. 高崎竜司, 小林快次. 2016. 演題「胃石の形状に基づいた主竜類の食性推定方法の構築」日本古生物学会165回例会（京都府・京都大学）
4. 田中公教, ディム・トカリク, 小林快次. 2016. 演題「カナダ・マニトバ州の上部白亜系ピエールシェールから産出した小型のヘスペロルニス科」日本古生物学会165回例会（京都府・京都大学）
5. Tsogtbaatar Chinzorig, Yoshitsugu Kobayashi, Khishigjav Tsogtbaatar, Mahito Watabe, Rinchen Barsbold, Philip Currie, and Shigeru Suzuki. 2016. 演題「First record of an ornithomimid from the Djadokhta Formation (Campanian) of Togrokiin Shiree, Mongolia」日本古生物学会165回例会（京都府・京都大学）

6. 飯島正也, 小林快次, 高橋啓一. 2016. 演題「大分県宇佐市の津房川層(鮮新統)より産出したワニ化石の再検討: 最古のヨウスコウワニとその生物地理学的意義」2016年日本古生物学会年会(福井県・福井県立大学)
7. 田中康平, Darla Zelenitsky, François Therrien, 小林快次. 2016. 演題「恐竜は極域でいかに営巣したか」2016年日本古生物学会年会(福井県・福井県立大学)
8. 田中公教, 飯島正也, 小林快次, Timothy Tokaryk, Stephen Cumbaa. 2016. 演題「最古の潜水鳥類ヘスペロルニス目における前後肢の相関進化」2016年日本古生物学会年会(福井県・福井県立大学)
9. Takasaki, R. Tanaka, T., and Kobayashi, Y. 2017. 演題「RELATIONSHIPS OF DIET AND GASTROLITH SHAPE, USING LAYER CHICKS: IMPLICATION FOR *DEINOCHEIRUS* DIET」77th Annual Meeting of Society of Vertebrate Paleontology (Calgary, Alberta, Canada).
10. Chinzorig, T., Kobayashi, Y., Saneyoshi, M., Tsogtbaatar, K., Badamkhatan Z., and Takasaki, R. 2017. 演題「MULTITAXIC BONEBED OF TWO NEW ORNITHOMIMIDS (THEROPODA, ORNITHOMIMOSAURIA) FROM THE UPPER CRETACEOUS BAYANSHIREE FORMATION OF SOUTHEASTERN GOBI DESERT, MONGOLIA」77th Annual Meeting of Society of Vertebrate Paleontology (Calgary, Alberta, Canada).
11. Nottrodt, R.E., Therrien, F., Zelenitsky, D.K., and Kobayashi, Y. 2017. 演題「ORNITHOMIMID MATERIAL FROM THE LOWER SCOLLARD FORMATION (UPPER MAASTRICHTIAN) OF ALBERTA, CANADA, CONFIRMS THE PRESENCE OF ORNITHOMIMIDS, INCLUDING ONE LARGE-BODIED TAXON, AT THE END OF THE CRETACEOUS PRIOR TO THE CRETACEOUS-PALEOGENE BOUNDARY」77th Annual Meeting of Society of Vertebrate Paleontology (Calgary, Alberta, Canada).
12. Kubo, K. and Kobayashi, Y. 2017. 演題「KINEMATIC FUNCTION OF ARCTOMETATARSUS OF ORNITHOMIMOSAURS AND THEIR CURSORIAL ADAPTATION」77th Annual Meeting of Society of Vertebrate Paleontology (Calgary, Alberta, Canada).
13. Lü, J., Kundrát, M., Kobayashi, Y., Lee, Y., Shen, C., and Teng, F. 2017. 演題「A CASSOWARY-LIKE CRESTED OVIRAPTORID DINOSAUR (DINOSAURIA: OVIRAPTOROSAURIA) FROM SOUTHERN CHINA」77th Annual Meeting of Society of Vertebrate Paleontology (Calgary, Alberta, Canada).
14. Lee, H., Lee, Y., Kobayashi, Y., and Tsogtbaatar, K. 2017. 演題「A PRELIMINARY REPORT OF UNUSUAL DINOSAUR NESTING GROUND, EASTERN GOBI, MONGOLIA」77th Annual Meeting of Society of Vertebrate Paleontology (Calgary, Alberta, Canada).

15. Fiorillo, A.R., Kobayashi, Y., McCarthy, P., Tanaka, T., Tykoski, R.S. 2017. 演題「DINOSAUR ICHNOLOGY AND PALEOENVIRONMENTS FROM THE CHIGNIK FORMATION (ANIACHAK NATIONAL MONUMENT, LATE CRETACEOUS, SOUTHWESTERN ALASKA)」 77th Annual Meeting of Society of Vertebrate Paleontology (Calgary, Alberta, Canada).
16. Tanaka, T., Kobayashi, Y., and Tokaryk, T. 2017. 演題「EVOLUTION OF BODY MASS IN THE HESPERORNITHIFORMES」 77th Annual Meeting of Society of Vertebrate Paleontology (Calgary, Alberta, Canada).
17. 小林快次. 2017. 演題「学術賞記念特別講演：恐竜類の古生態学的研究」日本古生物学会166回例会（東京都・早稲田大学）
18. 久保孝太, 小林快次. 2017. 演題「獣脚類恐竜オルニトミモサウルス類の走行能力適応アークトメタターサルの力学的機能」2016年日本古生物学会年会（福岡県・北九州市立自然史歴史博物館）
19. Nottrodt, R.E., Therrien, F., Zelenitsky, D.K., and Kobayashi, Y. 2018. 演題「NEW ORNITHOMIMID MATERIAL FROM THE DINOSAUR PARK FORMATION OF ALBERTA, CANADA, REVEALS THE PRESENCE OF TWO LARGE ORNITHOMIMOSAUR TAXA DURING THE LATE CAMPANIAN IN NORTH AMERICA」 78th Annual Meeting of Society of Vertebrate Paleontology (Albuquerque, New Mexico, USA).
20. Kobayashi, Y., Tsogtbaatar, C., Khishigjav, T., Takasaki, R., Tanaka, T., Currie, P.J., Funston, G.F., Yoshida, J., Koppelhus, E.B. 2018. 演題「A NEW IGUANODONTIAN DINOSAUR WITH A "PYGOSTYLE" FROM THE LOWER CRETACEOUS KHUKHTEEG FORMATION OF DORNOGOVI PROVINCE, MONGOLIA」 78th Annual Meeting of Society of Vertebrate Paleontology (Albuquerque, New Mexico, USA).
21. Takasaki, R., Fiorillo, A.R., Kobayashi, Y., and Tykoski, R.S. 2018. 演題「THE FIRST LAMBEOSAURIN MATERIAL FROM THE LISCOMB BONEBED OF THE UPPER CRETACEOUS PRINCE CREEK FORMATION, ALASKA」 78th Annual Meeting of Society of Vertebrate Paleontology (Albuquerque, New Mexico, USA).
22. Fiorillo, A.R., McCarthy, P., Kobayashi, Y., Tanaka, T., Takasaki, R., Tsogtbaatar, C., Suarez, M.B., Shimer, G., and Tykoski, R.S. 2018. 演題「COMPARATIVE VERTEBRATE ICHNOLOGY, SEDIMENTOLOGY, AND PALEOPRECIPITATION BETWEEN TWO CRETACEOUS HIGH-LATITUDE NON-MARINE ECOSYSTEMS (NANUSHUK FORMATION, CENOMANIAN, AND CHIGNIK FORMATION, CAMPANIAN-MAASTRICHTIAN), ALASKA」 78th Annual Meeting of Society of Vertebrate Paleontology (Albuquerque, New Mexico, USA).
23. Yoshida, J., Tsogtbaatar, C., Kobayashi, Y., and Khishigjav, T. 2018. 演題「A NEW

- SAUROPOD FROM THE LATE JURASSIC OF MONGOLIA」 78th Annual Meeting of Society of Vertebrate Paleontology (Albuquerque, New Mexico, USA).
24. Nakajima, J., Kobayashi, Y., Tsogtbaatar, C., Tanaka, T., Takasaki, R., Khishigjav, T., Currie, P.J., and Fiorillo, A.R. 2018. 演題「DINOSAUR TRACKS AT THE NEMEGT LOCALITY: PALEOBIOLOGICAL AND PALEOENVIRONMENTAL IMPLICATIONS」 78th Annual Meeting of Society of Vertebrate Paleontology (Albuquerque, New Mexico, USA).
 25. 中島重大, 小林快次, 高崎竜司, 田中公教, Tsogtbaatar Chinzorig, Khishigjav Tsogtbaatar, Anthony Fiorillo. 2018. 演題「モンゴル・ゴビ砂漠ネメグト産地の恐竜足跡化石: 古生態学・古環境的意義」2018年日本古生物学会年会 (宮城県・東北大学)
 26. Kobayashi, Y., Nishimura, T., Takasaki, R., Chiba, K., Fiorillo, A.R., Tanaka, K., Tsogtbaatar, C., Sato, T., and Sakurai, K. 2019. 演題「A NEW CRESTED HADROSAURINE (DINOSAURIA: HADROSAURIDAE) FROM THE MARINE DEPOSITS OF THE LATE CRETACEOUS HAKOBUCHI FORMATION (MAASTRICHTIAN), YEZO GROUP, JAPAN」 79th Annual Meeting of Society of Vertebrate Paleontology (Brisbane, Queensland, Australia).
 27. Suzuki, H., Kobayashi, Y., Kano, M., Karasawa, T., Hayashi, S., Ota, A., and Miyaji, T. 2019. 演題「A THEROPOD REMAIN FROM THE UPPER CRETACEOUS YEZO GROUP, HABOROGAWA FORMATION IN ASHIBETSU CITY, HOKKAIDO PREFECTURE, JAPAN」 79th Annual Meeting of Society of Vertebrate Paleontology (Brisbane, Queensland, Australia).
 28. Tsogtbaatar, C. and Kobayashi, Y. 2019. 演題「A NEW ORNITHOMIMID (THEROPODA, ORNITHOMIMOSAURIA) FROM THE UPPER CRETACEOUS NEMEGT FORMATION OF BUGIIN TSAV, MONGOLIA」 79th Annual Meeting of Society of Vertebrate Paleontology (Brisbane, Queensland, Australia).
 29. Park, J., Lee, Y., Currie, P.J., Kobayashi, Y., Koppelhus, E.B., Barsbold, R., Lee, S., Kim, S., and Mateus, O. 2019. 演題「THREE NEW SKULLS OF THE LATE CRETACEOUS ARMORED DINOSAUR *TALARURUS PLICATOSPINEUS* MALEEV, 1952」 79th Annual Meeting of Society of Vertebrate Paleontology (Brisbane, Queensland, Australia).
 30. Fiorillo, A.R., Kobayashi, Y., and McCarthy, P. 2019. 演題「COMPARISON OF PALEOENVIRONMENTAL AND PALEOCLIMATOLOGICAL PARAMETERS OF CORRELATIVE DINOSAUR-BEARING LATE CRETACEOUS (CAMPANIAN–MAASTRICHTIAN) ROCK UNITS ACROSS ALASKA, USA: A REGIONAL PERSPECTIVE」 79th Annual Meeting of Society of Vertebrate Paleontology (Brisbane, Queensland, Australia).

31. 小林快次, 西村智弘, 高崎竜司, 千葉謙太郎, Anthony Fiorillo, 田中康平, Tsogtbaatar Chinzorig, 佐藤たまき, 櫻井和彦. 2019. 演題「北海道むかわ町穂別から発見されたハドロサウルス科の全身骨格」2019年日本古生物学会年会（静岡県・静岡大学）
32. Tanaka, K., Ogi, A.O.U., Ahmedshaev, A.S., and Kobayashi, Y. 2020. 演題「CA LARGE NEOVENATORID (DINOSURIA: THEROPODA) FROM THE UPPER CRETACEOUS BISSEKTY FORMATION (TURONIAN), UZBEKISTAN」80th Annual Meeting of Society of Vertebrate Paleontology (Online).
33. Kobayashi, Y., Chiba, K., Chinzorig, T., Ganzorig, B., and Tsogtbaatar, K. 2020. 演題「A LARGE NON-CERATOPSID NEOCERATOPSIDIAN FROM THE UPPER CRETACEOUS BAYANSHIREE FORMATION IN MONGOLIA」80th Annual Meeting of Society of Vertebrate Paleontology (Online).

<教育活動>

・学位論文主査・副査：

2018年度（修士論文指導主査3名、博士論文指導主査1名、博士論文指導副査1名）、2019年度（修士論文指導主査2名、博士論文指導主査2名）

指導学生・授業等：

・教育（各学年の学部・研究科指導学生数）

2016年 博士課程5名、修士課程4名、学部2名

2017年 博士課程5名、修士課程6名、学部2名

2018年 博士課程5名、修士課程4名、学部2名

2019年 博士課程4名、修士課程6名、学部3名

2020年 博士課程2名、修士課程7名、学部3名

授業等：（10件）

全学教育 複合科目「生物の多様性」（分担）

全学教育 基礎科目「自然科学実験」（分担）

理学部地球科学科選択必修科目「古生物学」（分担）

理学部地球科学科選択必修科目「地質学実習」（分担）

理学部地球科学科選択必修科目「地球惑星科学実習」（分担）

理学院共通科目「地球惑星システム科学概論」（分担）

大学院共通科目「新自然史科学特別講義～地球と生命の自然史」（分担）

大学院共通科目「博物館学特別講義I」（分担）

大学院共通科目「博物館学特別講義II」（分担）

学芸員養成課程授業「博物館学芸員実習指導」

<博物館活動>

総合博物館関連各種委員等 (5件)

総合博物館運営委員会委員、総合博物館点検評価委員会委員、学術標本検討専門委員会委員、企画展示専門委員会委員、ミュージアムショップ運営委員

<社会貢献> (2件)

National Geographic, Committee of Research and Exploration

Jurassic Foundation Grant Committee

<外部資金> (5件)

科学研究費 基盤研究 (C) 【研究代表者】「オルニトミモサウルス類から探る恐竜における特異な収斂進化メカニズムの解明」(2015-2017年)

科学研究費 基盤研究 (C) 【研究代表者】「本邦初の大型恐竜全身骨格から探る恐竜絶滅直前のアジアの恐竜の多様性」(2019-2021)平成27年度-平成29年度

【分担】Anthony Fiorillo (米国ペロー博物館) アメリカ合衆国国立公園局の研究費、「アラスカ州デナリ国立公園恐竜調査」(2016)

【分担】Anthony Fiorillo (米国ペロー博物館) アメリカ合衆国国立公園局の研究費、「アラスカ州アニアクチャック国定天然記念物自然保護区恐竜調査」(2017)

【分担】Anthony Fiorillo (米国ペロー博物館) アメリカ合衆国国立公園局の研究費、「アラスカ州アニアクチャック国定天然記念物自然保護区恐竜調査」(2018)

【分担】Anthony Fiorillo (米国ペロー博物館) アメリカ合衆国国立公園局の研究費、「アラスカ州アニアクチャック国定天然記念物自然保護区恐竜調査」(2019)

<賞罰>

2016年 北海道大学 研究総長賞奨励賞

2017年 北海道新聞 文化賞 (学術部門)

2018年 北海道 文化奨励賞 (自然科学)

2019年 北海道大学 研究教育総長表彰

2020年 ナレッジキャピタル (大阪梅田) World OMOSIROI Award

山本順司

YAMAMOTO Junji

資料開発研究系 准教授

○研究内容の概要

地球内部に存在する揮発性成分の起源

地球は太陽系が形作られる過程において微惑星や塵の集合によって生まれたと考えられている。もしこの考えが正しいのであれば、地球と隕石は似た化学成分であるべきであろう。もしこの類似性が確認できれば、地球がどのようなタイプの隕石の集合によって生まれたのかといった太陽系の進化史に重要な楔を打つことができるであろう。しかし、地球は誕生後に核の形成や大気の生成など大規模な化学的分化過程を経ているため、化学的活性度が高い元素に着目すると、隕石と地球は全く異なった特徴を見せることになる。

そこで我々は化学的に不活性な希ガスや窒素に着目し、その元素比だけでなく同位体組成も考慮して隕石と地球物質との比較をおこなった。その結果、地球内部と大気、炭素質コンドライトなどの隕石との類似性が明らかになった。

○2016-2019 年度の研究・活動業績

<原著論文>

[査読付き]

Yokokura L., Hagiwara Y. and Yamamoto J. (2020) Pressure dependence of micro-Raman mass spectrometry for carbon isotopic composition of carbon dioxide fluid. *Journal of Raman Spectroscopy* 51, 997-1002.

Hagiwara Y., Torimoto J. and Yamamoto J. (2020) Pressure measurement and detection of small H₂O amounts in high-pressure H₂O-CO₂ fluid up to 141 MPa using Fermi diad splits and bandwidths of CO₂. *Journal of Raman Spectroscopy* 51, 1003-1018.

Yamamoto J., Takahata N., Sano Y., Yanagita M., Arai S. and Prikhod'ko V.S. (2020) Nitrogen and noble gas isotopic compositions of mantle xenoliths from Far Eastern Russia: implications for nitrogen isotopic characteristics of mantle wedge fluid. *Earth and Planetary Science Letters* 534, 116109.

山本順司, 江田真毅, 山下俊介 (2020) 博物館活動におけるカフェ設置のベネフィットとコスト. *博物館学雑誌* 45, 37-45.

山本順司, 徳永彩未, 朝日啓泰, 小田嶋元哉, 阿部太郎 (2020) 地球の比重層構造を体感する教材の改良. *地学教育* 72, 115-128.

Hagiwara J., Torimoto J. and Yamamoto J. (2019) Thermoelastic equilibrium of fluid

- inclusion-host mineral systems under homogenization measurement. *Journal of Mineralogical and Petrological Sciences* 114, 149-154.
- Shitaoka Y., Saito T., Yamamoto J., Miyoshi M., Ishibashi H. and Soda T. (2019) Eruption age of Kannabe volcano using multi-dating: implications for age determination of young basaltic lava flow. *Geochronometria* 46, 49-56.
- Nakamura Y., Ishibashi H., Yasuda A., Hokanishi N. and Yamamoto J. (2019) Ultra-magnesian olivine-bearing ultramafic lava blocks within Cenozoic accretionary sediments at Shizuoka, Japan: Implications for young, hot plume activity beneath the western Pacific Plate. *Lithos* 324–325, 315–324.
- 山本順司 (2019) 博物館活動の双方向性と即応性. *博物館学雑誌* 45, 95-105.
- 山本順司, 徳永彩未, 横倉伶奈, 田中公教, 田島貴裕 (2019) 地球の層構造を理解するための教材開発 –比重の体感教材–. *地学教育* 72, 31-42.
- 山本順司, 江田真毅, 山下俊介 (2019) 博物館と入館料 –経済性の観点から–. *博物館学雑誌* 44, 17-29.
- Yamamoto J., Yoshino T., Yamazaki D., Higo Y., Tange Y. and Torimoto J. (2018) Thermal expansion of natural mantle spinel using in situ synchrotron X-ray powder diffraction. *Journal of Materials Science* 54, 139–148.
- Hagiwara Y., Takahata K., Torimoto J. and Yamamoto J. (2018) CO₂ Raman thermometer improvement: comparing hot band and Stokes and anti-Stokes Raman scattering thermometers. *Journal of Raman Spectroscopy* 49, 1776–1781.
- Yamamoto J., Kawano T., Takahata N. and Sano Y. (2018) Noble gas and carbon isotopic compositions of petit-spot lavas from southeast of Marcus Island. *Earth and Planetary Science Letters* 497, 139-148.
- Hagiwara Y., Sogo Y., Takahata K. and Yamamoto J. (2018) Temperature dependence of CO₂ densimetry using micro-Raman Spectrometry at laboratory conditions. *Geochemical Journal* 52, 379–383.
- Sato Y., Hirano N., Machida S., Yamamoto J., Nakanishi M., Ishii T., Taki A., Yasukawa K., and Kato Y. (2018) Direct ascent to the surface of asthenospheric magma in a region of convex lithospheric flexure. *International Geology Review* 60, 1231–1243.
- Ono K., Harada Y., Yoneda A., Yamamoto J. and Watanabe T. (2018) Determination of elastic constants of single crystal chromian spinel by resonant ultrasound spectroscopy and implications for fluid inclusion geobarometry. *Physics and Chemistry of Minerals* 45, 237-247.
- 山本順司, 徳永彩未 (2018) クラウドファンディングを利用した展示制作. *博物館学雑誌* 44, 55-65.
- 下岡順直, 三好雅也, 西村光史, 石橋秀巳, 山本順司 (2018) 岩脈形成過程を観察する教

- 材の教育実践と体系的解説. 地球環境研究 20, 95-102.
- Shibano Y., Takahata K., Kawano J., Watanabe T., Enomoto D., Kagi H., Kamiya N. and Yamamoto J. (2017) Raman spectroscopic determination of Sr/Ca ratios of calcite samples. *Journal of Raman Spectroscopy* 48, 1755–1761.
- Yamamoto J., Ishibashi H. and Nishimura K. (2017) Cooling rate responsiveness of pyroxene geothermometry. *Geochemical Journal* 51, 457–467.
- 田中公教, 山本順司, 安藤卓人, 増田彩乃, 三嶋渉, 岩波連, 山下俊介 (2017) 異分野展示の融合: 天体シミュレーターソフトウェアを用いた宇宙展示は異分野融合の架け橋となるか? 博物館学雑誌 43, 59-76.
- 山本順司, 徳永彩未, 田中公教, 高畑幸平, 田島貴裕, 三嶋渉 (2017) 級化組織の形成機構を理解するための補助教材の開発 一媒体の粘性による影響を体感する一. 地学教育 70, 31-41.
- 三嶋渉, 山本順司, 在田一則, 加藤義典, 田中公教, 鳥本淳司, 高畑幸平, 日下葵, 寺西辰郎 (2017) 凍結融解による岩石の風化を理解させるためのモデル実験におけるモルタルの利用可能性. 地学教育 70, 15-22.
- Akziawa N., Tamura A., Yamamoto J., Mizukami T., Fukushi K., Python M. and Arai S. (2016) High-temperature hydrothermal activities around suboceanic Moho: An example from diopside and anorthosite in Wadi Fizh, Oman ophiolite. *Lithos* 263, 66–87.
- Shitaoka Y., Moriwaki H., Akai F., Nakamura N., Miyoshi M. and Yamamoto J. (2016) Eruption age of Sakurajima-Satsuma tephra using thermoluminescence dating. *Bulletin of Geo-Environmental Science* 18, 29–35.
- 下岡順直, 山本圭香, 山本順司 (2016) 減災教育を意識した液状化現象実験観察の実践例. 地球環境研究 18, 89-96.
- 田中公教, 三嶋渉, 高畑幸平, 榊山匠, 山本順司 (2016) 天文シミュレーターMitakaを用いたプログラム公演と大学博物館展示の連携: 化石展示との連携を事例して. 地学教育 68, 145-153.

[査読なし]

- 山本順司 (2020) 北海道大学総合博物館 ～“大学の博物館”をご存知でしょうか?～. ほくよう調査レポート 284, 23-28.
- 山本順司 (2019) 大学博物館におけるミュージアムショップの可能性. ミュゼ 124, 20-21.
- 山本順司, 山下俊介, 徳永陽子 (2019) 地域における大学博物館の意義. NETT 105, 2-5.
- 山本順司, 徳永彩未 (2018) クラウドファンディングで実現した展示パネル制作. 全科協ニュース 48, 4-6.
- 西村光史, 山本順司, 石橋秀巳 (2018) 冷却する海洋リソスフェア中の単斜輝石の化学反応と元素拡散. 東洋大学紀要 (自然科学篇) 62, 25-31.

Yamamoto J., Yoshino T., Yamazaki D., Shimojuku A. and Wei S. (2017) Thermal expansion of natural MgAl₂O₄ using in situ synchrotron X-ray powder diffraction. SPring-8/SACLA Research Report 6, DOI : 10.18957/rr.6.1.1.

山本順司, 萩原雄貴 (2017) 西南日本背弧のマグマ供給機構. Provenance of backarc magmatism in Southwest Japan. 月刊地球号外 69, 154-159.

山本順司, 江田真毅 (2017) 展示リニューアルを果たした北海道大学総合博物館. NETT 98, 64-67.

江田真毅, 山本順司 (2017) 北海道大学総合博物館の耐震改修工事と展示リニューアル. 博物館研究 52, 30-33.

平野直人, 油谷拓, 山本順司 (2016) 歯舞群島と色丹島の地質資料と岩石試料の重要性. 東北アジア研究 20, 61-73.

<学会活動>

所属学会

日本地球化学会, 日本地球惑星科学連合, 日本鉱物科学会, 日本地質学会, 東京地学協会, 日本環境教育学会, 日本地学教育学会, American Geophysical Union, The Geochemical Society

<学会発表等>

山本順司 (2019) 地球の化学的層構造をもたらしたもの. 日本質量分析学会同位体比部会, 2019年11月5日, 北海道登別市 (第一滝本館)

Yamamoto J. Kawano T., Takahata N. and Sano Y. (2019) Noble Gas and Carbon Isotopic Compositions of Petit-Spot Lavas from Southeast of Marcus Island. JpGU, 2019年5月28日, Makuhari Messe, Chiba, Japan

Yamamoto J. (2018) Boundary depth of layered mantle. 質量分析学会同位体比部会, 2018年11月9日, 大韓民国太田市 (Yousung Hotel)

Yamamoto J. Kawano T., Takahata N. and Sano Y. (2018) Noble Gas and Carbon Isotopic Compositions of Petit-Spot Lavas from Southeast of Marcus Island. Goldschmidt conference, 2018年8月14日, Boston, USA

山本順司, 石橋秀巳, 萩原雄貴, 横倉伶奈, 新井田清信 (2017) 世界最大のかんらん石. 日本地球化学会年会, 2017年9月13日, 東京都目黒区 (東京工業大学)

Yamamoto J. (2016) Noble gas isotopic constraint on depth of layered mantle boundary. International Symposium

“Advances in High-pressure Research - III: Towards Geodynamic Implications-2016”, 2016年8月30日, Novosibirsk University,

Novosibirsk, Russia

Yamamoto J. (2016) Fluid inclusions: a probe for depth origin of mantle minerals. GeoHP Summer School, 2016年8月29日, Novosibirsk University, Novosibirsk, Russia

山本順司, 石橋秀巳, 高畑幸平 (2016) 流体包有物を用いたマンツルの Redox 推定. 日本地球化学会年会, 2016年9月16日, 大阪府大阪市 (大阪市立大学)

<一般講演・セミナー発表>

山本順司 (2019) 宇宙科学と地球科学の融合をめざして. 公式サークルGround セミナー, 2019年12月20日, 北海道札幌市 (北海道大学理学部)

山本順司 (2019) 地と知. 北空知信用金庫セミナー, 2019年10月26日, 北海道札幌市 (北海道大学総合博物館)

山本順司 (2019) ある地質学者から見た人新世 ~環境の時空間スケールとは~. バイオミメティクスセミナー, 2019年10月5日, 北海道札幌市 (北海道大学総合博物館)

山本順司 (2019) 癒着するミュージアム・ショップ. 学芸リカプロセミナー, 2019年8月10日, 北海道札幌市 (北海道大学高等教育推進機構)

山本順司 (2019) 地球の謎. 株式会社アートフルセミナー, 2019年7月6日, 北海道札幌市 (株式会社アートフル)

山本順司 (2019) 知の交差点. 東京大学地殻化学実験施設40周年記念セミナー, 2019年3月23日, 東京都文京区 (東大農学部弥生講堂 セイホクギャラリー)

山本順司 (2018) 地球の謎. 公式サークルGroundセミナー, 2018年12月12日, 北海道札幌市 (北海道大学理学部)

山本順司 (2018) 大学の博物館. 北海道大学平成遠友夜学校, 2018年9月23日, 北海道札幌市 (北海道大学平成遠友学舎)

山本順司 (2017) 芸術と科学. TERRACE MEETING, 2017年9月19日, 北海道札幌市 (北海道大学総合博物館)

山本順司 (2017) 石の中の銀河. サイエンス・カフェ@高田馬場, 2017年8月19日, 東京都豊島区 (10° CAFE 3Fイベントスペース)

山本順司 (2017) 石の中の銀河. 第93回サイエンス・カフェ札幌, 2017年2月19日, 北海道札幌市 (紀伊国屋書店札幌本店)

山本順司 (2016) 大学博物館の研究者. CoSTEP大学院授業: 「大学院生のための研究アウトリーチ法」, 2016年11月25日, 北海道札幌市 (北海道大学総合博物館)

山本順司 (2016) 総合博物館オープン. 北海道大学総合博物館ボランティア交

流会，2016年10月28日，北海道札幌市（北海道大学総合博物館）
山本順司（2016）この地球にあるマグマの出口 ～5つ目を見つけました～.
ミュージアム・カフェ 金曜ナイトセミナー，2016年9月23日，北海道札幌市（北海道大学総合博物館）
山本順司（2016）つかえる博物館オープン. 創成科学サロン，2016年8月8日，北海道札幌市（北海道大学創成科学研究棟）

<教育活動>

学位論文主査・副査：

- ・理学院 自然史科学専攻 地球惑星システム科学講座担当：
2016-2019年度（修士論文指導主査5名，副査4名）

指導学生・授業等：

- ・教育（各学年の学部・研究科指導学生数）
2016-2019年度 理学部5名、理学院8名（修士5名、博士3名）

授業等：

理学部専門科目

- 「地球資源科学」（主担）
- 「地球惑星科学実験1」（分担）
- 「地球惑星科学研究Ⅰ・Ⅱ」（分担）
- 「地球惑星科学文献購読Ⅰ・Ⅱ」（分担）

理学院科目

- 「資源地質科学」（主担）
- 「地球惑星システム科学概論」（分担）
- 「自然史科学特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ」（分担）
- 「自然史科学論文購読Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ」（分担）

大学院共通授業科目

- 「博物館学特別講義Ⅰ（学術標本・資料学）」（分担）
- 「博物館展示論」（分担）
- 「博物館経営論」（分担）

全学教育

- 総合科目「北大大学博物館で学ぼう「コレクション・もの」にこだわる科学」
（分担）
- 一般教育演習「北大総合博物館で学ぼうー博物館のバックヤードを知るー」
（分担）

一般教育演習「博物館情報メディア」（分担）

<博物館活動>

総合博物館関連各種委員等（4件）

総合博物館運営委員会委員

展示専門委員会委員

ミュージアムショップ運営委員

札幌農学校第2農場の一般公開に関する専門委員会

博物館教育

（出前講座1件）

比重 ～地球の層構造を体感しよう！～. おもしろ理科実験, 2019年9月16日, 北海道札幌市（北海道大学総合博物館）

博物館展示企画：

2016-2019年度（10件）

2019年「地質の日」記念企画展示「失われた川を尋ねて『水の都』札幌」.
会場：北海道大学総合博物館企画展示室, 期間：2019年4月27日ー
2019年6月16日

Group Exhibition 「大地の物語」@500m美術館. 会場：札幌大通地下ギャ
ラリー500m美術館, 期間：2019年4月13日ー2019年6月26日

長坂有希「カムイワッカへ、そして私たちの始まりへ」. 会場：CAI現代芸
術研究所, 期間：2018年10月6日ー2018年10月27日

2018年「地質の日」記念企画展示「北海道のジオサイトに見る岩石」. 会
場：北海道大学総合博物館企画展示室, 期間：2018年4月27日ー2018
年6月17日

Topo-notes / Acoustical Scenery. 会場：北海道大学総合博物館3階, 期
間：2017年9月27日ー2017年9月29日

惑星地球の時空間. 会場：北海道大学総合博物館3階, 期間：2017年8月4
日ー2017年10月1日

2017年「地質の日」記念企画展示「北海道のジオサイトに見る化石」. 会
場：北海道大学総合博物館企画展示室, 期間：2017年4月28日ー2017
年6月18日

北海道大学総合博物館ウッドデッキプロジェクト-自分たちのキャンパス
は、自分たちでつくれる-. 会場：北海道大学総合博物館ラウンジ,
期間：2017年3月23日ー2017年4月9日

ーはじめての人工雪ー誕生 80 年記念企画「中谷宇吉郎展」．会場：北海道大学総合博物館S301室，期間：2016年11月8日ー2017年3月5日
2016年「地質の日」記念企画展示「北海道のジオパークー地球の営みを体感するー」．会場：北海道大学総合博物館企画展示室，期間：2016年4月26日ー2016年6月5日

博物館各種担当

博物館ホームページ担当
サステナビリティーク担当
募金促進WG担当
標本担当（鉱物・岩石・鉱石・機器）
ボランティア担当（4Dシアター・ハンズオン展示・チェンバロ・展示改訂（地学）・きたみて）

<学外委員等> 5件

1. 大分県温泉調査研究会 委員
2. 大分に青少年科学館を作る会 事務局メンバー
3. 日本地球化学会 評議員
4. 日本地学教育学会 編集委員
5. 経済産業省地質環境長期安定性評価技術高度化開発委員会 委員

<外部資金>

2019年度

（分担）科学研究費補助金，基盤研究（B），揮発性元素のマントル大循環，300千円，2017年4月～2020年3月

（分担）科学研究費補助金，基盤研究（B），ルビジウムの分子地球化学：分子レベルの物理化学的普遍性が生む多様な地球惑星科学，300千円，2019年4月～2021年3月

2018年度

（代表）科学研究費補助金，基盤研究（B），マントルウェッジ炭素の起源をさぐる，4,550千円，2016年4月～2019年3月

（代表）科学研究費補助金，挑戦的萌芽研究，ピコモル炭素に適用できる新たな炭素同位体比測定法の開発，1,820千円，2017年4月～2019年3月

（代表）ほくとう総研地域活性化連携支援事業資金，地域における大学

博物館の意義評価, 600千円, 2018年4月～2019年3月
(分担) 科学研究費補助金, 基盤研究(B), 揮発性元素のマントル大循環, 300千円, 2017年4月～2020年3月

2017年度

(代表) 科学研究費補助金, 基盤研究(B), マントルウェッジ炭素の起源をさぐる, 4,810千円, 2016年4月～2019年3月
(代表) 科学研究費補助金, 挑戦的萌芽研究, ピコモル炭素に適用できる新たな炭素同位体比測定法の開発, 4,550千円, 2017年4月～2019年3月
(分担) 科学研究費補助金, 基盤研究(B), 揮発性元素のマントル大循環, 500千円, 2017年4月～2020年3月

2016年度

(代表) 科学研究費補助金, 基盤研究(B), マントルウェッジ炭素の起源をさぐる, 8,710千円, 2016年4月～2019年3月
(代表) 科学研究費補助金, 挑戦的萌芽研究, ゼロ次元応力源を利用した鉱物の弾性特性測定法の開発, 1,040千円, 2014年4月～2017年3月

<共同研究>

東京大学大気海洋研究所 外来研究員

愛媛大学 地球深部ダイナミクス研究センター「先進超高压科学研究拠点」設備利用型共同研究 共同研究員

江田真毅

EDA Masaki

資料開発研究系 講師（2019年6月～ 准教授）

○研究内容の概要

1. 東アジア・東南アジアにおける家禽飼育の歴史の解明

ニワトリ、アヒル、シナガチョウの飼育は、完新世初頭以降、新石器時代の中国において世界で最初にはじまったとされている。しかし、これらの見解には疑義も呈されており、新たな資料の分析や資料の再検討が求められている。中国における家禽飼育の歴史を明らかにするために、袁靖氏や呂鵬氏（ともに中国社会科学院）、菊地大樹氏（総合研究大学院大学）、孫国平氏（浙江省文物考古研究所）らとの共同研究として、新石器時代や青銅器時代の中国の遺跡から出土した鳥類遺体の分析をおこなっている。また、タイではDr. Rasmi Shoocongdej（シルパコーン大学）らと、ベトナムではDr. Mai Huong（ハノイ考古学院）や澤田純明氏（新潟医療福祉大学）らと、韓国では鄭仁盛氏や金大郁氏（ともに嶺南大学）との共同研究として各地の遺跡から出土した鳥骨を分析し、東アジアにおける家禽飼育の起源と拡散について研究した。

2. ナスカの地上絵に描かれた鳥類と利用された鳥類の解明

ナスカの地上絵は、主にナスカ期（約2,100年前～1,300年前）にペルー南部の砂漠台地に描かれた一連の図像群である。ナスカ社会は文字を持たない文化であったことなどから、これらの図像が何の目的で描かれたのか、描かれたものは何かなどはよくわかっていない。これまで、全体的な印象やごく少数の特徴的な形態形質を根拠に同定されてきた鳥類の図像を複数の形態形質に基づいて再検討している。また、地上絵に描かれた鳥類との対比のために、ナスカ市にあるほぼ同時期のカワチ神殿遺跡やベンティーヤ遺跡から出土した鳥類遺体を分析している。坂井正人氏（山形大学）やDr. Giuseppe Orefici（アントニーニ博物館）などとの共同研究。

3. 日本国内の遺跡から出土した鳥類骨の分析

カモイベツ遺跡（北海道斜里町・擦文文化期）、金沢城下町遺跡（石川県金

沢市・江戸時代)、栃原岩陰遺跡(長野県北相木村・縄文時代)、四谷一丁目遺跡(東京都新宿区・江戸時代)、大洗吹上遺跡(茨城県大洗町・縄文時代)、下ヶ戸貝塚(千葉県我孫子市・縄文時代)、加曾利貝塚(千葉県千葉市・縄文時代)、唐古・鍵遺跡(奈良県田原本町・弥生時代)、和蘭商館跡(長崎県長崎市・江戸時代)など、各地の遺跡から出土した鳥類遺体を調査した。資料中に含まれる分類群の構成や解体・加工の痕跡などに基づいて各遺跡を形成した人々の活動域や狩猟技術、生業の季節性などについて動物考古学の観点から検討するとともに、考古動物学的視点から過去の鳥類相を明らかにした。

4. アホウドリの保全遺伝学的研究

アホウドリ(*Phoebastria albatrus*)は特別天然記念物の海鳥で、主に伊豆諸島鳥島と尖閣諸島(南小島と北小島)で繁殖する。これまでの研究から、鳥島と尖閣諸島で生まれたアホウドリは別の集団を形成しており、さらに生態的、形態的観点からも両者は別種とみなすべきであることが明らかになりつつある。泉洋江氏(総合博物館資料部研究員)、綿貫豊氏(北海道大学水産科学研究院)、佐藤文男氏・出口智広氏・山崎剛史氏(ともに山階鳥類研究所)らとの共同研究。

5. コラーゲンタンパクを用いた遺跡出土動物骨の同定基準の作成

遺跡出土動物骨をコラーゲンタンパクのアミノ酸配列の違いから同定する方法は2010年代になって急速に進んでいる。これまで、ヨーロッパの哺乳類や魚類を対象とした研究例がある一方、鳥類を対象とした研究は世界的にも稀である。泉洋江氏(総合博物館資料部研究員)や川上和人氏(森林総合研究所)との共同研究として、主に日本産鳥類を対象に、骨中のコラーゲンタンパクの大部分を占めるI型コラーゲンのアミノ酸配列の解析から種同定に有効なアミノ酸配列の特定を目指して研究した。また、2019年度から日本の遺跡から出土した哺乳類骨の同定基準の確立を目指して、藤田祐樹氏と田島木綿子氏(ともに国立科学博物館)との共同研究をおこなっている。

○2016～2019 年度の研究・活動業績

<原著論文> (24 件)

【査読有】 (16 件)

- Eda, M., Yamasaki, T., and Sakai, M. 2019. Identifying the bird figures of the Nazca Pampas: an ornithological perspective. *Journal of Archaeological Science: Reports* 26: 101875. <https://doi.org/10.1016/j.jasrep.2019.101875>
- Vokhshoori, N. L., McCarthy, M. D., Collins, P. W., Etnier, M. A., Rick, T., Eda, M., Beck, J., and Newsome, S. D. 2019. Broader foraging range of ancient short-tailed albatross populations into California coastal waters based on bulk tissue and amino acid isotope analysis. *Marine Ecology Progress Series* 610: 1-13. <https://doi.org/10.3354/meps12839>
- 江田真毅 2019.「遺跡から出土する鳥骨の生物学,「考古鳥類学」の現状と展望」日本鳥学会誌 68: 289-306.
- 川上和人・江田真毅・泉 洋江・堀越和夫・鈴木 創 2019.「日本鳥類目録におけるセグロミズナギドリ和名変更の提案」日本鳥学会誌 68: 95-98.
- 山本順司・江田真毅・山下俊介 2019.「博物館と入館料—経済性の観点から—」博物館学雑誌 44 : 3-30.
- Eda, M., Kikuchi, H., Sun, G., and Matui, A. 2019. Were chickens exploited in the Neolithic early rice cultivation society of the lower Yangtze River? *Archaeological and Anthropological Sciences* 11: 6423-6430. DOI: 10.1007/s12520-019-00783-x
- Eda, M., Rasmi Shoocongdej, Prasit Auetrakulvit, Jirassa Kachajiwa. 2019. The history of chicken and other bird exploitation in Thailand: Preliminary analysis of bird remains from four archaeological sites. *International Journal of Osteoarchaeology* 29: 231-237. DOI: <https://doi.org/10.1002/oa.2731>
- 川上和人・江田真毅 2018.「鳥類の起源としての恐竜と、恐竜の子孫としての鳥類」日本鳥学会誌 67: 7-23.
- Kawakami, K., Eda, M., Izumi, H., Horikoshi, H., and Suzuki, H. 2018. Phylogenetic position of endangered *Puffinus lherminieri bannermani*. *Ornithological Science* 17: 11-18. DOI: <http://dx.doi.org/10.2326/osj.17.11>
- Deguchi, T., Sato, F., Eda, M., Izumi, H., Suzuki, H., Suryan, R. M., Lance, E. W., Hasegawa, H., and Ozaki, K. 2017. Translocation and hand-rearing of chicks result in short-tailed albatrosses returning to breed in the Ogasawara Islands 80 years after extirpation. *Animal Conservation* 20: 341-349. DOI: 10.1111/acv.12322
- 岩波連・江田真毅 2017.「幾何学的形態測定による解体痕の断面形状の分析」動物考古学 34: 75-83
- Eda, M., Koike, H., and Higuchi, H. 2016. Understanding prehistoric maritime

adaptations in northern Japan: indirect evidence from ancient DNA and histological observations of albatross (Aves: Diomedidae) bones. *Quaternary International* 419: 159-164. DOI: 10.1016/j.quaint.2015.06.067

李志鹏・江田真毅 2016.「二里头遗址的野生动物资源获取与利用」*南方文物* 2016-3: 162-168

江田真毅・刘羽阳・邓惠・袁靖 2016.「试论家鸡骨骼的形态特征」*南方文物* 2016-2: 104-107

Conrad, C., Higham, C., Eda, M., and Marwick, B. 2016. Paleocology and forager subsistence strategies during the Pleistocene-Holocene transition: A reinvestigation of the zooarchaeological assemblage from Spirit Cave, Mae Hong Son Province, Thailand. *Asian Perspectives* 55: 2-27. DOI: <https://doi.org/10.1353/asi.2016.0013>

Eda, M., Izumi, H., Konno, S., Konno, M., and Sato, F. 2016. Assortative mating in two populations of Short-tailed Albatross *Phoebastria albatrus* on Torishima. *IBIS* 158: 868-875. DOI: 10.1111_ibi.12397

【査読無】(8件)

江田真毅・山川史子 2020.「金沢城下町遺跡(丸の内7番地点)出土の鳥類遺体について」*石川県埋蔵文化財情報* 42: 33-35.

太田 晶・服部 薫・外山雄大・牛島夏未・江田真毅・泉洋江・大泰司紀之 2020.「根室市長節に漂着したラッコ骨格の記録」*根室市歴史と自然の資料館紀要* 32: 43-48.

阿部常樹・江田真毅・猪熊花那子・田口哲也・奈良貴史 2020.「茨城県大洗吹上遺跡第1次調査出土の脊椎動物遺体—茨城県大洗吹上遺跡出土の動物遺体(2)-3—」*國學院大學博物館學紀要* 36: 35-56.

江田真毅 2019.「動物考古学からニワトリの起源と日本列島への導入を探る」*畜産の研究* 73: 115-124.

江田真毅 2018.「弥生時代のニワトリ、再考」*季刊考古学* 144: 43-46.

江田真毅・山本順司 2017.「北海道大学総合博物館の耐震改修工事と展示リニューアル」*博物館研究* 52 (9): 30-33.

江田真毅 2017.「加賀藩前田家本郷邸内における鳥類利用の時間的・空間的変遷—溶姫御殿に着目して—」『江戸藩邸と国元・金沢の近世食文化—動物考古学の研究成果から—』*東京大学埋蔵文化財調査室編、東京大学埋蔵文化財調査室・加賀藩食文化史研究会*、45-52.

江田真毅 2017.「世界最古のニワトリ」をめぐら攻防」*家畜資源研究会報* 16: 7-12.

<著書・図録・目録・総説・解説・報告等> (26件)

江田真毅 2020.「カモイベツ遺跡(2008年調査)出土の鳥類遺体について」『斜里町

- カモイベツ遺跡』北海道埋蔵文化財センター編、341-345.
- 江田真毅・許開軒 2020.「四谷一丁目遺跡(6次調査)出土の鳥類遺体」『四谷一丁目遺跡(第3分冊)』東京都埋蔵文化財センター編、116-124.
- 江田真毅・渡辺双葉 2020.「鳥類遺体」『栃原岩陰遺跡発掘調査報告書 第1次～第15次調査(1965～1978)』北相木村教育委員会、251-262.
- 江田真毅 2020.「「恐竜」の考古学—生活復元資料としての骨髄骨の研究—」『世界と日本の考古学 オリーブの林と赤い大地』常木晃先生退職記念論文集編集委員会編、六一書房.
- 江田真毅 2020.「標本100選09 考古」北海道大学総合博物館編『北大総合博物館のすごい標本』、195-213、北海道新聞社。
- 江田真毅 2019.「遺跡から出土するアホウドリの骨の動物考古学と考古鳥類学」上田恵介編『遺伝子から解き明かす鳥の不思議な世界』、235-253、一色出版。
- 江田真毅 2019.「ナスカの地上絵の鳥類学」青山和夫・米延仁志・坂井正人・鈴木紀編『古代アメリカの比較文明論』、229-241、京都大学学術出版会。
- 江田真毅・小杉康 2019.『考古学からみた北大キャンパスの5,000年』、中西出版。
- 江田真毅・渡辺双葉 2019.「出島和蘭商館跡 江戸町側出土の鳥類遺体—平成20年度および平成26・27年度調査地点」『出島和蘭商館跡 出島表門橋架橋に伴う発掘調査報告書』長崎市教育委員会、118-125.
- 江田真毅・渡辺双葉 2019.「鳥類」『下ヶ戸貝塚VI』我孫子市教育委員会、68-75.
- 江田真毅 2018.「伊豆諸島・鳥島のフィールド調査と北海道・礼文島の遺跡資料の分析から尖閣諸島のアホウドリを探る」水田拓・高木正興『島の鳥類学—南西諸島の鳥をめぐる自然史—』、76-94、海游舎。
- 江田真毅・建石徹 2018.「キトラ古墳の朱雀を観察する」Birder 32(8): 41.
- 川上和人・江田真毅・泉洋江・鈴木創・堀越和夫 2018.「オガサワラミズナギドリの逆襲」Birder 32(6): 42.
- 江田真毅・川上和人 2018.「絶滅した恐竜の威を借る現生の鳥類型恐竜!？」日本鳥学会誌 67: 3-5.
- 江田真毅 2018.「日本列島最古のニワトリ」『唐古・鍵考古学ミュージアム 常設展示図録』唐古・鍵考古学ミュージアム編、40.
- 江田真毅 2018.「唐古・鍵遺跡で利用された鳥類」『唐古・鍵考古学ミュージアム 常設展示図録』唐古・鍵考古学ミュージアム編、14.

- 江田真毅 2018.「遺跡から出土した骨で明らかにする過去のアホウドリの分布」野鳥 822: 14-15.
- 江田真毅 2018.「北の旅日記 ロシア・マガダンでの資料調査」Arctic Circle 106: 20.
- 江田真毅 2018.「鳥類」『直良信夫展～再発見された遺産は語る～展示図録・解説書』西岡裕一郎・平山簾編、早稲田大学會津八一記念博物館、34-37.
- 江田真毅 2018.「今後、「アホウドリ」をどう保全するべきか？—種内の2集団と、求められる集団別の保全対策」遺伝 72: 171-176.
- 江田真毅 2018.「世界最古のニワトリをもとめて～ヒトとセキショクヤケイの歴史」Birder 32 (3): 34-35.
- 江田真毅 2018.「出島和蘭商館跡出土の鳥類遺体」『国指定史跡 出島和蘭商館跡 銅蔵跡他中央部発掘調査報告書 第2分冊(分析・考察編)』長崎市教育委員会、110-131.
- 山本順司・江田真毅 2017.「展示リニューアルを果たした北海道大学総合博物館」NETT 98: 64-67.
- 江田真毅・建石徹 2017.「キトラ古墳壁画:朱雀」動物考古学 34: 93.
- 江田真毅 2017.「鳥類」『史跡 加曾利貝塚 総括報告書』千葉市教育委員会、745-753.
- 江田真毅 2017.「付章 自然科学分析 第4節 鳥類」『千葉県教育振興財団調査報告書第758集 首都圏中央連絡自動車道埋蔵文化財調査報告書32—東金市養安寺遺跡・大網白里市養安寺遺跡—第2分冊』国土交通省関東地方整備局・公益財団法人千葉県教育振興財団編、610—615.

<学会活動>

日本動物考古学会、北海道考古学会、文化財科学会、International Council for Archaeozoology、日本鳥学会、生き物文化誌学会

<学会発表等> (33件)

- 江田真毅・久井貴世「考古学資料から過去のニホンライチョウの分布を探る」日本生態学会第67回大会、名城大学、名古屋、2020年3月5日。
- 相馬雅代・江田真毅「キジ目鳥類における骨形態の進化にかかわる性淘汰要因の解明」第5回部局横断シンポジウム、北海道大学、札幌、2019年11月6日。
- 山崎剛史・江田真毅・泉洋江・佐藤文男「アホウドリの隠ぺい種:*Phoebastria albatrus*

- の名を継ぐのは誰か」日本鳥学会 2019 年度大会、東京、2019 年 9 月 15 日。
- 江田真毅・渡辺双葉「産卵期のヤマドリ猟と非産卵期のキジ猟：栃原岩陰縄文人の狩猟戦略」日本鳥学会 2019 年度大会、東京、2019 年 9 月 14 日。
- 泉洋江・江田真毅・川上和人「質量分析を用いた鳥類骨の同定」日本鳥学会 2019 年度大会、東京、2019 年 9 月 14 日。
- 久井貴世・江田真毅「遺跡試料と文献史料から探るニホンライチョウの過去の分布」日本鳥学会 2019 年度大会、東京、2019 年 9 月 14 日。
- 江田真毅「長江下流域新石器稲作農耕社会における家禽利用」日中合作 稲作与中国文明—総合稲作文明学的新構築報告会、浙江省文物考古研究所、杭州、中国、2019 年 9 月 10 日。
- 江田真毅・泉洋江・菊地大樹・孫国平「長江下流域の新石器・稲作農耕社会でニワトリは利用されていたのか？—コラーゲンタンパク分析からの検討」第 7 回動物考古学会、千葉市、2019 年 6 月 16 日
- 渡辺双葉・江田真毅「長野県北相木村栃原岩陰遺跡における鳥類の利用について」第 7 回動物考古学会、千葉市、2019 年 6 月 15 日。
- 山崎京美・黒住耐二・江田真毅・谷口康浩「群馬県居家以岩陰遺跡(2017 年度)における縄文時代早期の動物利用」第 7 回動物考古学会、千葉市、2019 年 6 月 15 日。
- 江田真毅・泉洋江・川上和人・沖田絵麻「「鶉を抱く女」が「抱く」鳥は何か？コラーゲン分析と形態解析からの検討」第 36 回日本文化財科学会、東京藝術大学、2019 年 6 月 1 日。
- Sawada, J., Eda, M., Hongo, H., Sato, T., Takahashi, R., Toizumi, T., Yoneda, M., Hattori, T., Sawaura, R., and Yamada, E. The hunting activities in the Hoabinhian period of northern Vietnam. International Council for Archaeozoology 13th Conference, Turkey, 5. Sep. 2018.
- Maruyama, M., Kikuchi, H., Eda, M., Zhang, Y., Song, S., Ko, J., Yu, C., Yat-sen, S., and Sun, G. Examining the Environmental Adaptation Strategies During the Chinese Neolithic Period in the Lower Yangtze River Valley through the Faunal Materials from the Site of Tianluoshan (7000-5500 cal BP). International Council for Archaeozoology 13th Conference, Turkey, 5. Sep. 2018.
- Eda, M., Hongo, H., Arai, S., Takahashi, R., and Miyake, Y. Avian resource

exploitation in Neolithic Hasankeyf Höyük, Turkey: Bustards for feather and pheasants for meat. International Council for Archaeozoology 13th Conference, Turkey, 4. Sep. 2018.

Eda, M., Kikuchi, H., Maruyama, M., Sun, G. The oldest poultry in East Asia: Immature goose bones from Neolithic Tianluoshan, China. International Council for Archaeozoology 13th Conference, Turkey, 3. Sep. 2018.

田中望羽・小林快次・江田真毅「化石ワニ類への応用を目的とした現生ワニ類のコラーゲンによるタンパク分析」第 20 回大会日本進化学会大会、東京大学、東京、2018 年 8 月 22 日。

江田真毅・泉洋江・川上和人・沖田絵麻「「鵜を抱く女」が抱く鳥は何か？コラーゲン分析からの検討」日本文化財科学会、奈良女子大学、2018 年 7 月 7 日。

江田真毅「遺跡資料同定のためのガン類の骨形成に関する基礎的研究」第 6 回動物考古学会、崎山貝塚縄文の森公園複合施設、2018 年 6 月 17 日。

Eda, M. Morphological microevolution of red junglefowls and chickens under domestication process. 9th ICAZ Bird Working Group, Sheffield University, U.K., 10th Jul. 2018.

福田正宏・Gablirchuk, M.・國木田大・Malyabin, A.・Gorshkov, M.・田尻義了・江田真毅・夏木大吾・足立達朗・Shipovalov, A.「ロシア・ユダヤ自治州における完新世遺跡群の実態調査—2017 年度調査結果速報—」『日本中国考古学会九州部会第 78 回例会』・平成 29 年度九州大学 QR プログラム『ロシア・アムール流域の考古遺跡と自然災害—地域文化資源保護活用に関する国際協力の加速化—』(研究代表者:福田正宏)研究成果報告会(共同開催)、九州大学、福岡市、2018 年 2 月 24 日。

佐藤文男・富田直樹・Thiebot, J-B.・西沢文吾・泉洋江・江田真毅・綿貫豊「伊豆諸島鳥島で同所的に繁殖するアホウドリ 2 系統の非繁殖期の利用海域」日本鳥学会、筑波大学、2017 年 9 月 16 日。

江田真毅「家禽化に伴うセキショクヤケイの骨形態の変化」日本鳥学会、筑波大学、2017 年 9 月 15 日。

稲田薫・江田真毅「礼文島・香深井 1 遺跡出土ウミスズメ科上腕骨の種同定」日本動物考古学会、石川県立歴史博物館、2017 年 6 月 17 日。

江田真毅・泉洋江「質量分析による遺跡出土鳥類骨同定のための基礎的研究」日本

文化財科学会、東北芸術工科大学、2017年6月10日。

江田真毅「なぜ鳥類は恐竜類と言われるのか？」日本鳥学会公開シンポジウム「恐竜学者の鳥のはなしと鳥類学者の恐竜のはなし」、札幌共済ホール、2016年9月19日(招待講演)。

出口智広・佐藤文男・江田真毅・泉洋江・鈴木創・Robert M Suryan・Ellen W Lance・長谷川博・尾崎清明「小笠原諸島におけるアホウドリ再導入事業の進捗状況」日本鳥学会大会、北海道大学、2016年9月17日。

江田真毅「北海道大学総合博物館のリニューアルについて」科研(A)「被災博物館等の汚染ガスからみた資料と環境の安定化、およびその評価手法の研究」・北海道・東北保存科学研究会例会共同シンポジウム、北海道大学、2016年7月11日(招待講演)。

江田真毅・山本順司・山下俊介「私たちのセンタクー北大総合博物館のリニューアルに伴う展示改訂とマネジメント」第11回博物科学会大会、広島大学、2016年7月1日。

澤田純明、江田真毅、佐藤孝雄、澤浦亮平、高橋遼平、樋泉岳二、服部太一、本郷一美、山田英佑、米田穰「ベトナム先史時代の家畜利用に関する新知見」日本動物考古学会、鳥取市青谷町総合支所、2016年6月19日。

江田真毅「弥生時代のニワトリの性比」日本動物考古学会、鳥取市青谷町総合支所、2016年6月18日。

Eda, M., Lu, P., Luo, Y. and Yuan, J. “Morphological microevolution of chickens in the East Asia under domestication process: a statistical point of view” Seventh Worldwide Conference of the Society for East Asian Archaeology. Cambridge, Boston, USA. 9th June, 2016.

Conrad, C., Higham, C., Eda, M. and Marwick, B. “Hunter-Gatherer Foraging Adaptations at Spirit Cave and Banyan Valley Cave (Mae Hong Son Province, Northwest Thailand) During the Late Pleistocene and Holocene” SEAMEO-SPAFA. Amari Watergate Hotel, Bangkok. 1st June 2016.

江田真毅「幾何学的形態測定を用いた遺跡出土鳥類骨の動物考古学と生物地理学」日本生物地理学会、シンポジウム・形態測定学と地理的分布:かたちの定量化と生物地理学・文化地理学への応用、2016年4月17日(招待講演)。

<一般向け講演・セミナー発表等> (17件)

江田真毅「ナスカ地上絵の謎に迫る～鳥類学的観点からの最新研究～」NHK カルチャーセンター、2019年11月24日。

江田真毅「動物利用の変化」シンポジウム・北大キャンパス遺跡群を探る、北海道大学総合博物館、2019年9月28日。

江田真毅「ナスカの地上絵に描かれた鳥は何か？」三角山フェスティバルランチオンセミナー、三角山小学校、2019年9月21日。

江田真毅「考古学からみた北大キャンパス遺跡群における水圏利用」土曜市民セミナー、北海道大学総合博物館、2019年8月10日。

江田真毅「考古学資料を生物多様性情報資源として考える」GBIFワークショップ、国立科学博物館、2018年12月8日。

江田真毅「遺跡から見える人とシカとの関わり」札幌市民カレッジ講座「おいしいエゾシカ学～札幌を元気にする森の幸～」、札幌市生涯学習センター ちえりあ、2018年10月26日。

江田真毅「分子生物学から恐竜を探る！？」藤原ナチュラルヒストリー振興財団・公開シンポジウム「恐竜と鳥のはざま」、北海道大学、2018年10月14日。

Eda, M. “Were Domestic Chicken Exploited in the Neolithic Rice Cultivation Society in the Lower Yangtze River?” Faunal utilization during the Prehistoric age in the Pan-East China Sea region. 平成27年度～31年度文部科学省科学研究費補助金新学術領域研究「稲作と中国文明—総合稲作文明学の新構築—」主催国際研究集会, Tokyo, 29th Aug. 2018

江田真毅「ナスカの地上絵の「鳥」を読み解く—鳥類形態学と動物考古学の視点から—」朝日カルチャー講座、朝日カルチャーセンター札幌教室、2018年8月3日。

江田真毅「人とニワトリの関係史:その起源と日本への渡来を探る」考古学講座、福岡市埋蔵文化財センター、2018年7月28日。

江田真毅「ニワトリの歴史を動物考古学から読み解く」平成遠友夜学校、遠友学舎、2018年6月19日。

江田真毅「オホーツク人と鳥類の関係 アホウドリに着目して」根室市総合文化会館、2018年2月9日。

江田真毅「遺跡から出土する鳥骨の考古学と鳥類学」鴨池早春講演会、加賀市鴨池観察館、2018年2月4日。

江田真毅「ナスカの地上絵に描かれた鳥は何か？－鳥類形態学からの検討－」金曜ナイトセミナー、北海道大学総合博物館、2017年9月1日。

江田真毅「遺跡の鳥のサイエンス－鳥取市・青谷上寺地遺跡の骨からペルー・ナスカの地上絵まで－」科学講演会「サイエンスレクチャー」、鳥取県立博物館、2017年8月6日。

江田真毅「ナスカの地上絵に描かれた鳥とナスカ社会で捧げられた鳥」公開講演会「メソアメリカとアンデスの古代文明と現在」、国立民族博物館、2017年7月1日。

江田真毅「キャンパスの遺跡散策」第1回 エルムの杜の宝もの、北海道大学総合博物館、2016年5月14日。

<教育活動>

学位論文主査・副査

2016年度～2018年度 理学院 自然史科学専攻 多様性生物学講座担当
2016年度 修士論文指導 主査1名・副査2名、博士論文指導 副査1名
2017年度 修士論文指導 副査2名、博士論文指導0名
2018年度 修士論文指導 副査1名、博士論文指導0名
2019年度～ 文学院 人文学専攻 歴史学講座担当
2019年度 修士論文指導0名、博士論文指導0名

指導学生等

2016年度 院生2名（修士1名、博士1名）、研究生1名
2017年度 院生1名（修士0名、博士1名）、研究生1名
2018年度 院生2名（修士0名、博士2名）
2019年度 院生1名（修士0名、博士1名）

授業

全学教育 一般教育演習「エコキャンパス」（分担）（2016年度～2018年度）
全学教育 総合科目「生物の多様性」（分担）（2016年度～2019年度）
全学教育 総合科目「脊椎動物の生態と進化」（分担）（2016年度～2019年度）

全学教育 総合科目「「モノ」＋「コト」＋「ヒト」＝北大総合博物館」（主担）（2016年度～2019年度）

全学教育 総合科目「ヒグマ学入門」（分担）（2016年度～2018年度）

全学教育 一般教育演習「エコキャンパス探求」（分担）（2019年度）

大学院共通科目 「博物館学特別講義 I (学術標本・資料学)」（分担）（2016年度～2019年度）

理学院 「多様性生物学研究法」（分担）（2016年度～2019年度）

理学院 「進化学概論 系統地理学」（分担）（2016年度～2018年度）

文学院 「考古学特別演習」（主担）（2019年度）

文学院 「環境考古学特別演習」（主担）（2019年度）

学芸員養成過程 「博物館情報・メディア論」（分担）（2016年度～2019年度）

学芸員養成過程 「博物館情報展示論」（分担）（2016年度～2019年度）

学芸員養成過程 「博物館実習」（分担）（2016年度～2019年度）

<博物館活動>

総合博物館関連各種委員等

総合博物館運営委員会委員、学術標本検討専門委員会委員、企画展示専門委員会委員、札幌農学校第2農場の一般公開に関する専門委員会

博物館教育

北大キャンパスの遺跡・植物・昆虫観察会（野外観察会）（2016年度～2018年度）

セミナー・シンポジウム開催（企画、運営）

シンポジウム・北大キャンパス遺跡群を探る．北海道大学総合博物館、2019年9月28日[企画、総合司会]

博物館企画展示 （1件）

企画展示名：2019年度夏季企画展示「K39: 考古学からみた北大キャンパスの5,000年」（主担当）、会場：北海道大学総合博物館企画展示室 主催：北海道大学総合博物館、共催：北海道大学埋蔵文化財調査センター、期間：2019年7

月 19 日～9 月 29 日

編集・出版

江田真毅・小杉康（編著）2019.『考古学からみた北大キャンパスの5,000年』
中西出版

データベースの構築・公開

「考古学資料検索システム」

(<http://database.museum.hokudai.ac.jp/archaeology/search.php>)

<学内各種委員> (2 件)

北海道大学における人類学的・考古学的学術資料の収集・保存・利用に関する
基本方針策定部会 委員 (2012年度～)

埋蔵文化財運営委員会調査専門部会 委員 (2018年度～)

<社会貢献> (5 件)

日本動物考古学会・学会誌編集委員 (2013年度～2017年度)

日本鳥学会・英文学会誌 (Ornithological Science) 編集委員 (2014年～)

北方民族博物館・研究協力員 (2015年度～)

日本鳥学会・札幌大会・大会実行委員長 (2016年度)

日本動物考古学会・広報幹事 (2018年度～)

<外部資金> (15 件)

【分担】加藤博文（代表：北海道大学）：研究拠点形成事業－先端拠点形成型
「北方圏における人類生態史総合研究拠点」平成25年度～平成29年度

【分担】坂井正人（代表：山形大学）：科学研究費「アンデス比較文明論」新
学術領域研究（研究領域提案型）平成26年度～平成30年度

【分担】綿貫豊（代表：北海道大学）：科学研究費「渡りと遺伝的分化に着目
したアホウドリの保全単位の解析」（挑戦的萌芽研究）平成27年度～平
成29年度

【代表】江田真毅：科学研究費「「鶉を抱く女」が抱く鳥は何か？コラーゲン
タンパクによる遺跡出土鳥類骨の同定」（挑戦的萌芽研究）平成27年度

～平成30年度

【分担】澤田純明（代表：新潟医療福祉大学）：科学研究費「東南アジア大陸部における家畜化プロセスの総合的解明」（基盤研究（B））平成27年度～平成30年度

【分担】高瀬克範（代表：北海道大学）：科学研究費「千島アイヌの起源と経済史に関する考古学的研究」（基盤研究（A））平成27年度～平成31年度

【分担】津山幾太郎（代表：国立研究開発法人森林研究・整備機構）：科学研究費「ニホンライチョウの分布変遷の解明と気候変化への脆弱性評価」（基盤研究（B））平成28年度～平成31年度

【代表】江田真毅：科学研究費「稲作農耕社会の発展を背景とした人とカモ科鳥類の関係史」（新学術領域研究（研究領域提案型））平成28年度～平成29年度

【分担】澤田純明（代表：新潟医療福祉大学）：科学研究費「土器出現期の日本列島人類を探る：日向洞窟出土縄文草創期人骨の考古学的研究」（基盤研究（B））平成29年度～平成31年度

【代表】江田真毅：科学研究費「コラーゲン分析による日本の遺跡出土の「同定不能骨片」同定のための基礎的研究」（挑戦的研究（萌芽））平成30年度～令和2年度

【分担】福田正宏（代表：東京大学）：科学研究費「東北アジアにおける温帯性新石器文化の北方拡大と適応の限界」（基盤研究（B））平成30年度～令和3年度

【代表】江田真毅：科学研究費「稲作農耕社会の発展を背景とした家禽利用の変化の解明」（新学術領域研究（研究領域提案型））平成30年度～平成31年度

湯浅万紀子

YUASA Makiko

博物館教育・メディア研究系 准教授

○研究内容の概要

1. 博物館体験の長期的インパクトを検証する調査研究

日本ではまだ体系的に実施されていない博物館体験の長期的インパクトの検証に取り組み、人々の記憶に残る博物館体験を調査し、その記憶を続く世代へとつなぐための博物館活動の展開方法を研究している。認知面での学習効果にとどまらない博物館体験の多様な意味を明らかにすると同時に、博物館活動の意義を検証し、博物館資源を生かした活動への提案を導くための調査研究でもある。

2. 大学博物館における複合教育プログラムの評価に関する調査研究

大学博物館は社会において今後どのような役割を果たしていくべきかを探るために、大学博物館独自のリソースを生かした活動として「複合教育プログラム」に注目した研究を行っている。複合教育プログラムとは、博物館の活動の様々な局面に学生を関与させて教育し、その学生が博物館活動の担い手として来館者とコミュニケーションすることにより更に学習を深化させ、学生と来館者双方に教育的な意味を持つ実践的な教育プログラムである。大学博物館ならではの学生教育とは何かを探り、更にその学生教育の意義をいかに評価すればよいかを研究している。

3. 展示評価に関する調査研究

展示の総括的評価として、主として展示がいかに来館者に受け止められたかについて質的な調査を実施して評価するための研究を行っている。調査手法の検討、質問紙調査の自由記述回答や面接調査のデータの分析方法について研究し、メディア報道との関わり、展示解説を受けた人、展示解説を担った人へのインパクトなどを調査し、展示を多角的に検証する研究を行っている。更に、異なる展示にフィードバックできる指摘を求めて、評価方法を検討している。同時に、来館者プロフィールを継続的に分析することで、博物館の広報活動への示唆を導く。

4. 博物館評価に関する調査研究

前項の展示評価を含めた包括的な博物館評価として、各館独自の使命と設立経緯、社会状況を踏まえた上で、博物館の組織体制、運営形態などを含めた活

動のあらゆる局面を評価する手法、特に活動の質を評価するための手法を研究している。

5. 新しいミュージアム像に関する調査研究

博物館の新しい姿、活動を導くために、運営体制の見直し、コレクションや人的資源の流動化、来館者・非来館者との関わり、異分野との協働など、博物館と博物館を取り囲む社会の文化資源を新しい視点で再組織化する研究を行っている。

○2016～2019 年度の研究・活動業績

<原著論文>

湯浅万紀子，藤田良治，2015. 大学博物館における教育プログラムの意義と課題——北海道大学ミュージアムマイスター認定コースを事例として，日本ミュージアム・マネジメント学会研究紀要，19: 43-50.

湯浅万紀子，藤田良治，2016. 大学博物館の企画展示のあり方に関する検討——北海道大学総合博物館を事例として，日本ミュージアム・マネジメント学会研究紀要，20: 27-34.

清水寛之，湯浅万紀子，2016. 記憶特性質問紙 (MCQ) による科学館体験の自伝的記憶に関する検討——科学館職員，大学生，および高齢者における小学生の頃の科学館への好意度の分析——，人文学部紀要（神戸学院大学人文学部），36: 167-182.

藤田良治，湯浅万紀子，2017. 博物館映像学の研究の枠組み——学術映像標本を中心とした企画展示を事例としてサイエンス映像学会誌，1，1-13.

湯浅万紀子，清水寛之，藤田良治，2018. 科学者の関与者の長期記憶に関する調査研究——名古屋市科学館での面接調査を中心に，日本ミュージアム・マネジメント学会研究紀要，22: 47-54.

増田彩乃，湯浅万紀子，藤田良治，2018. 利用者の視点に基づいて考える博物館の価値——北海道大学総合博物館における「楽しみ方」調査より，日本ミュージアム・マネジメント学会研究紀要，22: 39-45.

大西慶，湯浅万紀子，藤田良治，2019. 小規模博物館で活用可能な来館者基礎情報ツールの開発，日本ミュージアム・マネジメント学会研究紀要，23: 33-39.

<著書・図録・目録等>

湯浅万紀子，2017. ミュージアム・コミュニケーション——関与者にとっての意味，湯浅万紀子編著『博物館情報学シリーズ5 ミュージアム・コミュニ

- ケーションと教育活動』, 樹村房, 2018
- Anderson, David 著, 湯浅万紀子訳, 2017. The role of the museums as sites for learning how to teach and change educational practices (教育実践を指導し変革する方法を学ぶ場としての博物館の役割), 湯浅万紀子編著『博物館情報学シリーズ5 ミュージアム・コミュニケーションと教育活動』, 樹村房, 2018

<総説・解説・報告等>

- 湯浅万紀子, 2015. 卒論ポスター発表会, 北海道大学総合博物館ニュース, 31:10.
- 湯浅万紀子, 2015. 2014年度第2回ボランティア講座&交流会, 同上, 31:11.
- 湯浅万紀子, 2015. サイエンスパーク in 北海道大学, 同上, 31:12.
- 湯浅万紀子, 2015. 「エルムの杜の宝もの」道新ぶんぶんクラブとの共催講座を開催, 同上, 31:12.
- 湯浅万紀子, 2015. 学生が運営する「土曜市民セミナー」, 北海道大学総合博物館ニュース, 32:10.
- 湯浅万紀子, 2015. 2015年度第1・2回ボランティア講座&交流会, 同上, 32:11.
- 湯浅万紀子, 2015. 2015年度道新ぶんぶんクラブ共催講座「エルムの杜の宝もの」, 同上, 32:13.
- 湯浅万紀子, 2016. 研究紹介 博物館体験の記憶の研究, 同上, 33:6.
- 湯浅万紀子, 2016. 卒論ポスター発表会, 同上, 33:11.
- 湯浅万紀子, 2016. 博物館実習, 北海道大学総合博物館ニュース, 34:10.
- 湯浅万紀子, 2016. 「エルムの杜の宝もの」道新ぶんぶんクラブとの共催講座を開催, 同上, 34:12.
- 湯浅万紀子, 2016. 北海道大学ホームカミングデー2016, 同上, 34:13.
- 湯浅万紀子, 2017. 卒論ポスター発表会, 同上, 35:8.
- 湯浅万紀子, 2017. 第1・2回ボランティア講座&交流会, 同上, 35:10.
- 湯浅万紀子, 2017. 博物館実習, 北海道大学総合博物館ニュース, 36:7.
- 湯浅万紀子, 2017. 博物館における北海道大学初任事務職員実地研修, 同上, 36:8.
- 湯浅万紀子, 2017. 「エルムの杜の宝もの」道新ぶんぶんクラブとの共催講座を開催, 同上, 36:10.
- 湯浅万紀子, 2017. 2017年度第1・2回ボランティア講座&交流会, 同上, 36:13.
- 湯浅万紀子, 2018. 2017年度北大総合博物館活動報告会, 北海道大学総合博物館ニュース, 37:4.
- 湯浅万紀子, 2018. 卒論ポスター発表会, 同上, 37:9.
- 湯浅万紀子, 2018. 2016年度学生企画ミュージアムグッズ(2)「デスモスチルスUSB」, 同上, 37:10.

- 湯浅万紀子, 2018. 博物館実習, 同上, 38:7.
- 湯浅万紀子, 2018. 博物館における北海道大学初任事務職員実地研修, 同上, 38:8.
- 湯浅万紀子, 2018. 「エルムの杜の宝もの」道新ぶんぶんクラブとの共催講座を開催, 同上, 38:10.
- 湯浅万紀子, 2018. 2018 年度第1回ボランティア講座&交流会, 同上, 38:13
- 湯浅万紀子, 2019. 学生企画ミュージアムグッズ 2017・2018年度の大学院授業から次々と誕生, 同上, 39:9.
- 湯浅万紀子, 2019. 卒論ポスター発表会, 同上, 39:10.
- 湯浅万紀子, 2019. 2018 年度第2回ボランティア講座&交流会, 同上, 39:10.
- 湯浅万紀子, 2019. 2018 年度総合博物館活動報告会, 同上, 39:11.
- 湯浅万紀子, 2019. 北海道大学総合博物館への誘い、そして研究紹介「記憶のなかの博物館」北海道大学関西同窓会会報, 第82号, 13-16.

<学会活動>

- 第54回北海道博物館大会 研究大会コーディネータ（主催 北海道博物館協会・日本博物館協会北海道支部）, 北海道博物館, 2015年7月10日
2016年度日本ミュージアム・マネジメント学会第21回大会実行委員

所属学会：博物科学会, 日本科学教育学会, 日本ミュージアム・マネジメント学会, American Alliance of Museums.

<学会発表等>

- 藤田良治・柴田英昭・湯浅万紀子, 2015. 高等教育における資格情報教材「全天トレイル」の開発, サイエンス映像学会2015年度大会, 2015年8月29日.
- 湯浅万紀子・清水寛之, 2015. 2015「博物館体験の長期記憶に関する研究」報告, 「2015「博物館体験の長期記憶に関する研究」報告会（明石市立天文科学館編）, 明石市立天文科学館, 2015年2月6日.
- 湯浅万紀子・清水寛之, 2015. 2015「博物館体験の長期記憶に関する研究」報告, 「2015「博物館体験の長期記憶に関する研究」報告会（名古屋市科学館編）, 名古屋市科学館, 2015年1月31日.
- 湯浅万紀子, 2016. 北海道大学総合博物館ミュージアムマイスター認定コースの意義と課題[招待有り] 日本展示学会2015年度研究集会IN札幌, 北海道大学, 2016年2月28日.
- 藤田良治・柴田英昭・湯浅万紀子, 2016. インターネットを活用した大学博物館からの情報発信 視覚情報教材「研究林全天トレイル」の事例, 第11回

- 日本博物科学会，広島大学，2016年7月30日。
- 湯浅万紀子，2016. 博物館体験の長期記憶を探る——来館者調査の意義と課題 [招待有り] 第23回日本平和博物館会議研修会，立命館大学，2016年11月11日。
- 湯浅万紀子・清水寛之・藤田良治，2018. 「博物館体験の長期記憶に関する研究（昭和日常博物館編）」，「博物館体験の長期記憶に関する研究」報告会，昭和日常博物館，2019年3月9日。
- 湯浅万紀子・清水寛之・藤田良治，2018. 「博物館体験の長期記憶に関する研究（明石市立天文科学館編）」，「博物館体験の長期記憶に関する研究」報告会，明石市立天文科学館，2019年3月10日。
- 湯浅万紀子・清水寛之・藤田良治，2019. 「博物館体験の長期記憶に関する研究 その意義と成果」，研究説明会1，竹中大工道具館，2019年7月20日。
- 湯浅万紀子・清水寛之・藤田良治，2019. 「博物館体験の長期記憶に関する研究 その意義と成果」，研究説明会2，竹中大工道具館，2019年8月29日。

<一般講演・セミナー発表>

- 湯浅万紀子，2015. 博物館学講座，北海道大学総合博物館ボランティア講座，北海道大学，2015年7月11日。
- 湯浅万紀子，2015. 北海道大学総合博物館と学生教育，北海道伊達緑丘高等学校研修会，2015年9月27日
- 湯浅万紀子，2016. 記憶のなかの科学館—50年前から紡がれる科学館体験，北海道大学総合博物館土曜市民セミナー・道民カレッジ連携講座，北海道大学，2016年3月19日。
- 湯浅万紀子，2016. リニューアル記念北大総合博物館紹介，北海道遺産見学愛別同好会研修，北海道大学，2016年7月28日。
- 湯浅万紀子，2016. 北大総合博物館と博物館教育，國學院大学博物館実習施設実地見学，北海道大学，2016年8月19日。
- 湯浅万紀子，2016. リニューアル記念 北大総合博物館紹介および展示解説の留意事項，札幌市商工会議所観光ボランティアガイドの会研修，北海道大学，2016年8月23日・25日。
- 湯浅万紀子，2016. リニューアル記念 北大総合博物館常設展示紹介，道新ぶんぶんクラブ共催講座「エルムの杜の宝もの」，北海道大学，2016年8月27日。
- 湯浅万紀子，2016. 北大総合博物館と博物館教育，北海道伊達緑丘高等学校研修，北海道大学，2016年9月27日。
- 湯浅万紀子，2016. リニューアル記念 北大総合博物館紹介と博物館教育，北

海道札幌旭丘高等学校 PTA校外研修, 北海道大学, 2016年10月11日.

湯浅万紀子, 2016. リニューアル記念 北大総合博物館紹介と博物館教育,, 放送大学北海道学習センター学友会, 北海道大学, 2016年10月18日.

湯浅万紀子, リニューアル記念北大総合博物館展示紹介, 総合博物館ボランティア講座, 2016年10月28日.

湯浅万紀子, 2016. リニューアル記念 北大総合博物館紹介および展示解説の留意事項, 北海道開拓の村ボランティア研修, 北海道大学, 2016年11月11日.

湯浅万紀子, 2016. リニューアル記念 北大総合博物館紹介および展示解説の留意事項, 札幌芸術所森ボランティア研修, 北海道大学, 2017年3月2日.

湯浅万紀子, 2017. 夜の博物館から時間旅行, 第1回ミュージアム・カフェ金曜ナイトセミナー2017, 北海道大学, 2017年6月16日.

湯浅万紀子, 2017. 北大総合博物館と博物館教育, 北海道生物教育会研修会, 北海道大学, 2017年6月17日.

湯浅万紀子, 2017. 北大総合博物館紹介および展示解説の留意事項, 夢大地北海道ガイドタクシー乗務員向けスキルアップ研修会, 北海道大学, 2017年6月21日.

湯浅万紀子, 2017. 北大総合博物館常設展示紹介, 道新ぶんぶんクラブ共催講座「エルムの杜の宝もの」, 北海道大学, 2017年7月29日.

湯浅万紀子, 2017. 北大総合博物館紹介および来館者対応の留意事項, 北海道大学初任事務職員実地研修, 北海道大学, 2017年8月29日・8月31日.

湯浅万紀子, 2018. 北大総合博物館紹介および展示解説・来館者対応の留意事項, むかわ町穂別地球探検館サイエンスガイド研修, 北海道大学, 2018年2月2日.

湯浅万紀子, 2018. ミュージアム:モノ・コト・ヒト——ミュージアム体験の広がりを探る、電気制御システムコース・システム情報科学専攻が贈る学生のためのサイエンスカフェSSIセミナー2018 第1話, 北海道大学, 2018年4月25日.

湯浅万紀子, 2018. 北大総合博物館紹介および来館者対応の留意事項, 北海道大学初任事務職員実地研修, 北海道大学, 2018年7月24日.

湯浅万紀子, 2018. 北大総合博物館紹介と博物館教育, 道新ぶんぶんクラブ共催講座「エルムの杜の宝もの」, 北海道大学, 2018年7月29日.

湯浅万紀子, 2019. 大学博物館紹介 (1) 北海道大学総合博物館、(2) 他大学の博物館 (3) 北大総合博物館における学生教育、ボランティア活動支援

記憶のなかの博物館 博物館体験の長期記憶研究の意義, 北海道大学関西

同窓会会館祭講演会、2019年5月25日

湯浅万紀子，2019. 北大総合博物館紹介および来館者対応の留意事項，北海道
大学初任事務職員実地研修，北海道大学，2019年7月23日．

湯浅万紀子，2019. 北大総合博物館紹介と博物館教育，道新ぶんぶんクラブ共
催講座「エルムの杜の宝もの」，北海道大学，2019年7月27日．

<学外各種委員>

北海道立釧路芸術館指定管理者候補者選定委員会委員（平成29年度）

北海道立総合博物館協議会委員（平成29年度～）

北海道立近代美術館協議会委員（平成29年度～）

<教育活動>

学位論文主査・副査・指導

理学院 自然史科学専攻 科学コミュニケーション講座

主査：博士前期課程1名（平成29年度）

博士前期課程1名（平成30年度）

博士前期課程1名（令和元年度）

指導：博士前期課程2名（平成28年度）

博士後期課程1名、博士前期課程3名（平成29年度）

博士後期課程1名、博士前期課程3名（平成30年度）

博士後期課程1名、博士前期課程4名（令和元年度）

授業等：

1. 全学教育科目「「モノ」＋「コト」＋「ヒト」＝北大総合博物館」（分担）
（平成28年度～）
2. 博物館教育論（担当）（平成28年度～）
3. 理学院自然史科学専攻・大学院共通授業「博物館コミュニケーション特論Ⅰ
学生発案型プロジェクトの企画・運営・評価」（担当）（平成28年度～）
4. 理学院自然史科学専攻・大学院共通授業「博物館コミュニケーション特論Ⅱ
基礎からわかる映像表現」（分担）（平成28～29年度）
5. 理学院自然史科学専攻・大学院共通授業「博物館コミュニケーション特論
Ⅲ ミュージアムグッズの開発と評価」（担当）（平成28年度～）
6. 理学院自然史科学専攻・大学院共通授業「博物館コミュニケーション特論
Ⅳ 映像制作とスノーボード」（分担）（平成28～29年度）
7. マイスターコース社会体験型科目「ランの王国」展展示解説（平成28年度）
8. マイスターコース社会体験型科目「北大古生物学の巨人たち」展展示解説

(平成28年度)

9. マイスターコース社会体験型科目「惑星地球の時空間」展展示解説 (平成29年度)
10. マイスターコース社会体験型科目「視ることを通して」展展示解説 (平成30年度)
11. マイスターコース社会体験型科目「K39: 考古学からみた北大キャンパスの5,000年」展展示解説 (令和元年度)
12. マイスターコース社会体験型科目「卒論ポスター発表会」(担当) (平成28年度～)
13. マイスターコース社会体験型科目「卒論ポスター発表会の運営」(担当) (平成28年度～)

<博物館活動>

総合博物館関連各種委員等

- 総合博物館運営委員会委員 (平成28年度～)
- 学術標本検討専門委員会委員 (平成28年度～)
- 企画展示専門委員会委員 (平成28年度～)
- ミュージアムショップ運営委員 (平成28年度～)
- 第2農場専門委員会 (平成29～30年度)

博物館教育

ミュージアムマイスターコース担当

- 企画展の展示解説指導 (平成28年度～)
- 卒論ポスター発表会の発表指導 (平成28年度～)
- 卒論ポスター発表会の運営指導 (平成28年度～)
- 総合博物館・北海道新聞ぶんぶんクラブ共催講座「エルムの杜の宝もの」企画・運営 (平成28年度～)

大学院生ワークショップ企画プロジェクト

- ・「総合博物館リニューアルオープン初日 個別対応型展示解説ツアー」(指導) (平成28年度)
- ・小学生向けイベント「学芸員まるごと体験ツアー in 北大総合博物館～北大生と一緒に展示を作ろう!～」(指導) (平成29年度)
- ・総合博物館の建物に注目したワークショップ「めぐる建物 感じる歴史 みんなのまなざし再発見」(指導) (平成30年度)
- ・指名制・対話型解説「みんなの博物館物語 選ぶ・語る・描く」(指導)

(令和元年度)

大学院生開発ミュージアムグッズ 開発と評価を指導

- ・「Go to Museum トートバッグ、北海道の動植物缶バッジ6種」(平成28年度)
- ・「ぼけっとミュージアム さかな・むし・博士(ミニタオル)」(平成28年度)
- ・「特典映像内蔵デスモスチルス USB」(平成28年度)
- ・「クマスキングテープ」(平成29年度)
- ・「鉱物蠟燭」(平成29年度)
- ・「まなびのむすび 北大総合博物館の海藻標本・道具から見る研究・北大総合博物館の建物(巾着)」(平成30年度)
- ・「北大総合博物館 タンブラー ドリンクチケット付」(平成30年度)
- ・「ミュージアムショップ ショッパー 通常版・ギフト用」(平成30年度)
- ・「植物・海藻標本クリアカード」(令和元年度)

ボランティア・マネジメント担当(平成28年度～)

ボランティア展示解説グループ、ハンズオングループ担当(平成28年度～)

ボランティア講座&交流会 企画運営(平成28年度～)

編集・出版

『北大総合博物館のすごい標本』(北海道大学総合博物館編著・北海道新聞社出版)編集担当(令和元年度)

北海道大学総合博物館ニュース 31号、32号 編集担当

<学内各種委員>

総長補佐 広報室担当(平成28年度)

高等教育機能開発総合センター研究員(平成28年度)

オープンエデュケーション専門委員 理学院(平成28年度)

教務委員会学芸員養成課程専門委員会(平成29～30年度)

理学院自然史科学専攻科学コミュニケーション講座 将来構想委員(平成27年度)

理学院自然史科学専攻科学コミュニケーション講座 広報・学生委員(平成29年度)

理学院自然史科学専攻科学コミュニケーション講座 講座長・代議員(令和元年度)

理学院自然史科学専攻 入試委員（令和元年度）
埋蔵文化財調査センター運営委員会専門部会（平成29～30年度）
全学教育担当委員 総合博物館（平成28年度～）
歴史的資産活用TF（平成29年度～）

<外部資金>

【代表】湯浅万紀子：日本学術振興会科学研究費 基盤（C） 「高齢者の長期記憶に基づく異世代間交流の場としての博物館の基盤形成に関する研究」平成27～30年度

【分担】藤田良治（北海道大学）：日本学術振興会科学研究費 基盤研究（C） 「森林生態系に関する視覚情報教材「全天トレイル」の開発」平成27～30年度

【分担】David Anderson（ブリティッシュ・コロンビア大学）：カナダ政府 人文社会科学研究評議会（Social Science Research and Humanities Council, SSRHC）からの研究助成「博物館体験と『懐かしさ』反応に基づく来館者の長期記憶に関する研究」（2012-2016）

【代表】湯浅万紀子：日本学術振興会科学研究費 基盤（C） 「企業博物館の多様なステークホルダーにおける博物館体験の長期記憶研究に関する研究」令和1～4年度

【分担】藤田良治（北海道大学）：日本学術振興会科学研究費 基盤研究（C） 「高度な理解促進を目指す獣医学臨床手技映像教材の開発」令和1～4年度

山下俊介

YAMASHITA Shunsuke

博物館教育・メディア研究系 助教 (平成27年7月より) 2016～2019年度

○研究内容の概要

研究者が生成・収集した学術資料のうち、写真・映像や音声、フィールドノート、実験ノートなどの学術活動に関わる記録資料は、その資料的価値にも関わらず、体系的に保存する仕組みや活用するための方法論は未だ確立されていない。こうした学術資料のアーカイブの構築実践と関連する問題について研究を進めている。

1. 学術資料の再資源化

学術活動の現場で生み出された記録資料の主要な役割である「証拠性」以降の資料の果たす働きに関心がある。資料にまつわる様々なコンテキストは、資料の相互連繋を強め証拠性を補強する一方で、適切に分節化・抽象化すれば見知らぬ資料同士を結びつけ、研究に用いられる可能性も高められる。このような再資源化に適した学術資料アーカイブズのあり方を研究している。

2. 映像資料学の構築

映像資料学は主として二つの方向を持つ。学術活動を記録し媒体に定着する、博物館資料や学術資料の暗黙知・コンテキスト情報を記録する、あるいは既存の学術資料やそのコンテキストを編集し映像作品として組立て多くの人に伝える、という新しく映像を生み出す取り組みと、もう一つは既存の映像を再資源化するという取り組みである。後者においては、映像メディアの独立性・移動性が原因で、もとのコンテキストから切り離されて残存することが多く、またその方が資料の利便性が高い場合がある。こうした映像資料の特性に合わせたアーカイブズを検討すると共に学術映像資料の分類の検討も行っている。

3. 学術映像史

研究者による映像メディアの利用史研究を行う。研究者自らが主導した映像実践のあり方、映像制作を生業とする職能集団との協働、社会発信の方法などを手掛かりに調査を進めている。

4. 博物館の利用者研究

学術資料アーカイブや博物館資料の利用者は、研究者にとどまらない。特に資料価値が未確立の状態においては、幅広い利用のあり方を検討する必要がある。

資料の利用者研究として、アマチュアやナチュラリストの概念と活動を検討している。また利用者が博物館にどのような公共性概念を抱いているかについても調査を行っている。

5. 博物館の成立環境

プライベートコレクションやプライベートミュージアムの成立・成長過程に関心を持ち研究を進めている。蒐集・開陳に向かう動機の探究のほか、地域や国による文化的・社会的土壌、博物館制度の違いなどを検討している。

○2016年度～2019年度の研究・活動業績

<論文・書籍>

山下俊介, 2020. 10章: 科学技術史・学術資料アーカイブ『北大総合博物館のすごい標本』, 北海道大学総合博物館編, pp.215-236. 北海道新聞社

山本順司, 山下俊介, 徳永陽子, 2020. 地域における大学博物館の意義、ほくとう総研機関紙 NETT (105) 38 - 41 2019年7月

山本 順司, 江田 真毅, 山下 俊介, 2019. 博物館と入館料: 経済性の観点から、博物館学雑誌 44(2) 17 - 29 2019年4月

宮崎 興二, 奈尾 信英, 日野 雅之, 山下 俊介 (共訳), 2018. Wade David 著『ルネサンスの多面体百科』, 丸善出版 2018年

田中 公教, 安藤 卓人, 増田 彩乃, 三嶋 渉, 岩波 連, 山下 俊介, 山本 順司, 2017. 異分野展示の融合: 天体シミュレーターソフトウェアを用いた宇宙展示は異分野融合の架け橋となるか? 博物館学雑誌 43(1) 59 - 76 2017年11月

山下俊介, 2017. 博物館活動の映像による記録化、博物館研究 52(9) 16 - 19 2017年9月

山下俊介, 2016. 鉄細工と銅細工、神崎 宣武, 白幡 洋三郎, 井上 章一共編『日本文化事典』 丸善出版、2016年

<総説・解説・報告等>

山下俊介, おぼろげなかたちをのこすということ: アーカイブの観点からの本展作家への返答, 「きらめきの結晶体/紡がれる物語」展記録集, 2019年8月4日

山下俊介, 気象学講座関係フィルム, 科学おしゃべりな標本たち, 北海道新聞夕刊, 2019年5月23日

山下俊介, チセリウス式電気泳動装置 HT-B 型, 科学おしゃべりな標本たち 1, 北海道新聞夕刊, 2018年11月14日

- 山下俊介, 2018. 拾いもの, 『その界限』 2018年4月号
- 山下俊介, 2017. ひとのあいだ, 『その界限』 2017年12月号
- 山下俊介, 2017. 見立て, 『その界限』 2017年8月号
- 山下俊介, 2017. 時間と格子／自転車と街, 『その界限』 2017年4月号
- 山下俊介, 2019. 宇宙の4Dシアターの開催, 北海道大学総合博物館ニュース, 39:13
- 山下俊介, 2019. 夏季企画展示「視ることを通して」開催報告, 北海道大学総合博物館ニュース, 38:1
- 山下俊介, 2019. 常設展示収蔵標本の世界「科学技術史資料の世界」, 北海道大学総合博物館ニュース, 38:6
- 山下俊介, 2019. 宇宙の4Dシアターの開催, 北海道大学総合博物館ニュース, 38:13
- 山下俊介, 2018. 夏季企画展示「視ることを通して」, 北海道大学総合博物館ニュース, 37:6.
- 山下俊介, 2018. 「札幌農学校第2農場を活用した北海道遺産発信プロジェクト」の実施, 北海道大学総合博物館ニュース, 37:11.
- 山下俊介, 2017. 博物館研究会の開催, 北海道大学総合博物館ニュース, 36:4.
- 山下俊介, 2017. 学術資料の活用を志す人のためのmeeting A*C2017札幌ラウンド, 北海道大学総合博物館ニュース, 36:4.
- 山下俊介, 2017. 宇宙の4Dシアターの開催, 北海道大学総合博物館ニュース, 36:13.
- 山下俊介, 2017. 宇宙の4Dシアターの開催, 北海道大学総合博物館ニュース, 35:13.
- 山下俊介, 2017. 宇宙の4Dシアターの開催, 北海道大学総合博物館ニュース, 35:13.
- 山下俊介, 2017. 「北海道×台湾」@台湾大学博物館, 北海道大学総合博物館ニュース, 35:5.
- 山下俊介, 2017. 博物館研究会の開催, 北海道大学総合博物館ニュース, 35:3.
- 山下俊介, 2016. 博物館研究会の開催, 北海道大学総合博物館ニュース, 34:6.
- 山下俊介, 2016. 国立台湾大学博物館群関係者の訪問, 北海道大学総合博物館ニュース, 34:13.
- 山下俊介, 2016. 宇宙の4Dシアター の開催, 北海道大学総合博物館ニュース, 34:13.
- 山下俊介, 2016. 研究紹介：学術映像の再資源化, 北海道大学総合博物館ニュース, 33:7.
- 山下俊介, 2016. 博物館研究会の開催, 北海道大学総合博物館ニュース, 33:8.

<学会活動, 社会貢献>

科学技術コミュニケーション JJSC 誌 編集委員

ミュージアム・マネジメント学会 北海道支部会幹事

日本ミュージアム・マネジメント学会 第21回大会実行委員

学術資源リポジトリ協議会 理事

所属学会：デジタルアーカイブ学会、記録管理学会、日本展示学会、日本ミュージアム・マネジメント学会、博物科学会、日本技術史教育学会、記録管理学会、企業史料協議会、生き物文化誌学会、The Association of Moving Image Archivists

<学会発表等>

山下俊介, 2019. 整理・調査未完了アーカイブズ資料の展示活用：視点タグの利用を中心に、日本展示学会 第38回研究大会 2019年6月30日

Shunsuke Yamashita, 2017. Issues of utilizing the video recording on exhibition evaluation: visitor's consciousness on the publicness and privacy in a museum, International Conference on Museum Evaluation 2017, National Science and Technology Museum (高雄市) 2017年10月19日

山下俊介, 2017. 博物館資料とアーカイブ活動を資源化する、第56回北海道博物館協議会大会, 帯広百年記念館 2017年7月6日

Shunsuke Yamashita, Ohara Masahiro, Natural History Societies in Japan: Their Development During the Late 19th Century and the First half of the 20th Century, Association for Asian Studies in-Asia, Seoul 2017, Korea University 2017年6月25日

山下俊介, 2017. 北海道大学総合博物館における資料保存, 第4回京都大学研究資源アーカイブ研究会, 京都大学, 2017年3月21日.

Shunsuke YAMASHITA, 2016, Real Faces of Japanese Researchers seen in Academic Films in 1930s, A Documentary Trilogy of Hokkaido Imperial University: From Hokkaido to Formosa, National Taiwan University History Gallery, 12th Nov., 2016.

山下俊介, 2016. 記録映像が旅する一広い北海道の博物館連携への一提案, 第55回北海道博物館協会大会, 新日高町公民館, 2016年7月7日.

江田真毅, 山本順司, 山下俊介, 2016. 私たちのセンタクー北大総合博物館のリニューアルに伴う展示改訂とマネジメントー, 第11回博物科学会大会, 広島大学, 2016年7月1日.

- 高田良宏, 古畑徹, 林正治, 堀井洋, 堀井美里, 山地一禎, 山下俊介, 2016. オープンサイエンス時代に向けた非文献資料のための学術資源群によるサブジェクトリポジトリの構築, 第11回博物科学会大会, 広島大学, 2016年6月30日.
- 田中公教, 山本順司, 安藤卓人, 三嶋渉, 岩波連, 山下俊介, 2016. 異分野展示の融合:天体シミュレーターソフト **Mitaka** を用いた大学博物館の新たな試み, 日本ミュージアム・マネジメント学会 21回大会, 北海道大学, 2016年6月19日.

<一般講演・セミナー発表>

- 山下俊介, 2019. シンポジウム「芸術祭をしまうとは」パネルディスカッション, 樽前Arty2019 2019年9月15日
- 山下俊介, 2019. ミュージアム/アーカイブズ資料が表現に出会うまで, レクチャー「資料と映像表現の出会い@ミュージアム」苫小牧市美術博物館 2019年7月27日
- 山下俊介, 2018. 記録資料のアーカイブ化, セミナー「続けるための記録について」さっぽろ天神山アートスタジオ 2018年11月26日
- 山下俊介, 2018. 企画展“視ることを通して”のねらい, 北海道大学総合博物館土曜市民セミナー, 2018年10月6日
- 山下俊介, 2018. 学術資料を用いた表現行為の可能性, 企画展「視ることを通して」関連トークイベント, 2018年8月31日
- 山下俊介, 2018. “視ることを通して”展示の解説, ボランティア講座交流会, 2018年8月28日
- 山下俊介, 2018. 作家性と活動アーカイブについて「きらめきの結晶体/紡がれる物語」ギャラリートーク, T0/OV カフェギャラリー, 2018年8月18日
- 山下俊介, 2018. 夏季企画展示「視ることを通して」の解説, エルムの杜の宝もの, 2018年7月29日
- 山下俊介, 2017. 博物学会の夜明け: 明治期博物学会の比較から, 金曜ナイトセミナー, 2017年7月28日
- 山下俊介, 2017. 台湾での調査と実践—国立台湾大学博物館群の活動と連携学術映像上映会, ボランティア講座交流会, 北海道大学総合博物館, 2017年3月11日.
- Shunsuke YAMASHITA, 2017. The Role of University Museum -Our Renewed Exhibition, for visitor group of JENESYS2016: Calcutta International School, The Hokkaido University Museum, 10th Mar., 2017.

山下俊介, 2016. 学術映像から見る北大, 総合博物館・北海道新聞ぶんぶんクラブ共催講座 第4回エルムの杜の宝物, 北海道大学総合博物館, 2016年9月3日.

Shunsuke YAMASHITA, 2016. The Hokkaido University Museum-Invisible Aspects of Museum Activities, for visitor group from University of Science and Technology Beijing, The Hokkaido University Museum, 25th Aug., 2016.

展示

企画展示「視ることを通して」, 総合博物館, 2018年8月3日～10月28日

特別上映週間(企画展連携), 知の交流ホール, 2018年9月19日～24日

常設展示「科学技術史資料の世界」, 総合博物館, 2016年～

上映展示「Museum Exhibition on Screen」, 31' 41' ', 総合博物館 1階北階段モニター、2016年～

上映展示「庫頁島索齒獣化石挖掘／宮部金吾先生・臺灣之旅／祝 宮部先生 77歳喜壽(日・簡解説字幕付)」30' 05' ', 国立台湾大学校史館, 2016年11月5日～12月31日

上映展示「Takao Minami “岸の映像”」, 総合博物館 1階北階段, 2016年12月13日 [企画・設営を担当]

上映展示「樺太デスマスチルス骨格の発掘」5' 24' ', 企画展示「北大高生生物学の巨人たち」展示映像(部分), 2017年1月31日～4月2日

上映展示「北海道大学中川研究林の冬山造材 2016年2月～3月」, 10' 23' ', ラウンジ展示, 2017年3月23日～4月9日

講演企画「教育と通信制度—高等教育における教養教育、職業教育の歴史とメディア」(講師: 來生新, 放送大学長), 知の交流ホール, 2018年8月3日

上映・講演企画「北大と学術映像」(講師: 岡田一男, 東京シネマ新社)) 知の交流ホール, 2018年9月20日

上映・講演企画「再構築的映画表現: 映像素材と実験映画」(講師: マルバ会館, 自主上映団体) 知の交流ホール, 2018年9月22日

上映・講演企画「記録すること、伝えること」(講師: 今井友樹, 映画監督), 総合博物館 N308, 2018年10月13日

上映展示「苫小牧美術博物館特集展示「本拠と外/Home and Away」における映像アーカイブ資料の上映, 2018年2月8日～3月29日

<教育活動>

学位論文主査・副査:

文学院博物館学講座：修士論文指導副査 2 名

指導学生・授業等：

教育（各学年の学部・研究科指導学生数）

文学院 1 名（修士 1 名）

講義担当

博物館情報・メディア論（主担）

博物館展示論（分担）

博物館資料論（分担）

博物館概論（分担）

博物館実習（映像・科学技術史資料）担当

全学教育科目「「モノ」＋「コト」＋「ヒト」＝北大総合博物館」（分担）

大学院共通授業科目「博物館学特別講義Ⅰ：学術標本・資料学」（分担）

文学院博物館・文化財研究特殊講義「記録資料のアーカイブ」担当

マイスター社会体験型科目「卒論ポスター発表会」発表参加者・運営参加者
指導

<映像制作等>

映像制作

『K39 遺跡 剥ぎ取り標本制作記録』（企画展「K39：考古学からみた北大キャンパスの 5,000 年」展示映像），23 分 18 秒，2019 年

『北海道大学ホームカミングデー2017 上映映像』7 分 37 秒，2017 年

学術活動の映像記録・オーラルヒストリー

海浜性昆虫の採集活動記録撮影（大原昌宏教授同行，カナダ・バンクーバー島，2016 年 8 月 2 日～8 月 12 日）

昆虫標本の標本化作業記録撮影（北海道大学総合博物館，2016 年 9 月 18 日）

苫小牧観測所資料に関する聞き取り（徂徠和夫准教授，理学研究院，2016 年 5 月 11 日）

産卵期の蟹類生態調査記録撮影（劉烘昌氏，台湾・新竹，竹南，苗栗，2016 年 10 月 4 日～5 日）

台北帝国大学地質学教室と早坂教授に関する聞き取り（王源名誉教授，台北市，2016 年 11 月 11 日）

北海道大学水産科学館撮影（水産科学館（函館），2017 年 2 月 2 日～3 日）

北大構内 K39 トレンチ～剥ぎ取り標本制作撮影 2018 年 10 月 2 日～5 日，
2019 年 1 月 22 日・23 日，7 月 1 日（文化財科学研究センター，奈良）

7月8日・16日（エントランス設営）
根室地質調査・厚岸臨海実験所撮影 2018年11月13日～17日
菊地勝弘理学院名誉教授聞き取り 2018年12月13日
おしよろ丸乗船実習記録撮影（北海道大学練習船おしよろ丸第79次海洋
生物科学科乗船実習，2019年10月16日～10月23日）

<博物館活動>

総合博物館関連各種委員等

学術標本検討専門委員会委員

展示専門委員会委員

学部展示新設ワーキンググループ事務局（副担当，2016-2018年）

博物館ニュース編集担当（33号，34号，35号，36号）

博物館ホームページリニューアル担当

標本担当（学術資料アーカイブズ，科学機器）

博物館研究会の企画運営

第3回研究会「大学博物館とミュージアムショップ」、ミーティングルーム、
2016年6月18日

第4回研究会 “International Workshop “Rethinking sharing information of researchers
and collections in Museum between Taiwan and Japan: focused on natural scientists in the
early 20th century”，知の交差点、2016年6月29日（国際ワークショップ
として開催）

第5回研究会「娯楽観光施設の研究と記録化」、知の交差点、2016年12月
2日

第6回研究会「アーカイブとコンテクスト：アーティストと映像」、知の交
差点、12月13日

第7回研究会「人間ゴリラは展示できるか：生き物と共にあることの探究」
知の交差点、2017年7月22日

第8回研究会「国立科学博物館の展示・学習支援の仕組み～アマゾンから
深海まで～」2017年9月6日

第9回研究会「可視化と模型 見せる技術・生まれる視界」知の交差点、2017
年9月27日

第10回研究会「ヌソ（犬ぞり）から考える アイヌ文化の復興」（北海道大
学アイヌ・先住民研究センター「儀礼・信仰プロジェクト／生業と食
プロジェクト」と共催）知の交差点、2019年7月14日

第11回研究会「地域における文化芸術活動のしまいかた／つづけかたをめぐって」知の交差点、2019年7月30日

第12回研究会「大学教育のeラーニング教材と博物館展示の連携の可能性」
知の交差点、2020年1月14日
公開実証実験「VR おもいでのもち「北大構内編」」於北海道大学総合博物館、
2018年4月
ワークショップ「A*C2017 学術資料の活用を志す人のための meeting」, 於北
海道大学総合博物館, 2017年4月22日
生涯学習支援担当
メディアボランティアグループ(2019年からはSPレコード鑑賞会を開催),
4Dボランティアグループ担当(宇宙の4Dシアターを定期開催)

<外部資金>

- 【代表】山下俊介：日本学術振興会科学研究費 若手(B)「山下俊介：インターメディアを用いた技術史資料情報のユーザー共進化アーカイブプログラムの開発」27-28年度
- 【分担】岡田温司(京都大学) 日本学術振興会科学研究費 基盤(A)「現代美術の保存と修復-その理念・方法・情報のネットワーク構築のために」平成27-31年度
- 【分担】林正治(一橋大学) 日本学術振興会科学研究費 基盤(C)「研究データリポジトリにおける時間軸を意識した版管理モデルの開発と実装」平成27-29年度
- 【分担】青柳かつら(北海道博物館) 日本学術振興会科学研究費 基盤(C)「少子高齢社会のウェルビーイング創成型地域学習コンテンツの開発」平成29-令和3年度
- 【分担】高田良宏(金沢大学) 国立情報学研究所公募型共同研究「研究資源の活用に資する発生源入力によるオープン化モデルと学術資源基盤構築に向けての検討」平成29年度
- 【客員研究】国立台湾大学博物館群, 9月20日-11月17日
- 【補助金】ほっかいどう遺産 WAON「札幌農学校第2農場を活用した北海道遺産の発信」プロジェクト, 平成28年度
- 【共同研究】「過去写真を利用した成長型展示物の展示可能性についての研究」(日本ユニシス), 平成29-30年度

<平成28年～令和元年度の報道記録>

〈平成28（2016）年度の新聞報道記録〉（セミナー開催告知は除く。）

1	北海道新聞	4月 5日	恐竜見えるかな 北大生、化石クリーニング
2	北海道新聞	4月10日	来月、北大遺跡散策 エルムの杜の宝もの
3	北海道新聞	5月 9日	骨格標本は語る ツバメ 発達した翼で高速飛行
4	北海道新聞	5月13日	北大博物館に100万円を寄付 苫小牧埠頭
5	北海道新聞	5月17日	北大博物館に100万円を寄付 苫小牧埠頭
6	北海道新聞	5月18日	知の交差点 北大総合博物館 7月リニューアル
7	朝日新聞	5月18日	北大総合博物館 7月に新装開館 資料整理の見学も
8	読売新聞	5月19日	北大総合博物館が7月26日新装再開
9	毎日新聞	5月27日	北大博物館が7月改装オープン 気軽に科学とふれあう場
10	北海道新聞	7月11日	骨格標本は語る 肉食恐竜 歯の形 食べ方に違い
11	北海道新聞	7月24日	ラン展解説と博物館見学 発掘、千島調査…学術記録映像の視聴も
12	北海道新聞	7月26日	内容充実 きょう開館 北大総合博物館
13	北海道新聞	7月27日	北大博物館リニューアル 記念式典
14	読売新聞	7月27日	北大博物館が新装開館 展示面積1.4倍に
15	北海道新聞	8月 8日	北大博物館驚き発見 先月26日リニューアル
16	北海道新聞	8月 8日	骨格標本は語る 恐竜のウロコ 皮膚も残存？ 研究注目
17	北海道新聞	8月19日	大学院休学 「化石の先生」に
18	北海道新聞	9月12日	骨格標本は語る アホウドリ 鉤型 厚く長くちばし
19	北海道新聞	10月 3日	恐竜は鳥にどう進化したか 札幌で専門家連携シンポジウム
20	北海道新聞	11月 1日	未公開スケッチ展示4日から北大 坂本直行生誕110年で
21	十勝毎日新聞	11月 5日	広尾在住時代のスケッチ画も 北大で直行展
22	静岡新聞	11月 7日	ニワトリ家畜化なぜ 弥生時代は雄ばかり 中国から「権威の象徴」
23	読売新聞	11月 8日	山岳画家・坂本直行 生誕110年記念企画展 北大総合博物館
24	読売新聞	11月17日	北大博物館 入館10万人 新装開館4か月で
25	北海道新聞	11月17日	改装効果 入館10万人 北大総合博物館、記念品贈る
26	北海道新聞	11月22日	直行さんの原点、ここに 北海道総合博物館 坂本直行スケッチブック展
27	北海道新聞	12月 5日	ニワトリ 権威の象徴？北大・江田講師 中国から輸入と推定
28	日本経済新聞	12月 6日	「博物館でブランド向上」北大・サッポロビール 140周年で公開討論会
29	毎日新聞	12月 9日	坂本直行さん生誕110年展 龍馬のおいの孫で山岳画家
30	北海道新聞	12月12日	沼田で発掘 ヌマタネズミイルカ 化石研究で系統解析
31	北海道新聞	12月12日	骨格標本は語る コンドル 鉤状くちばし 獲物裂く
32	朝日新聞	1月 1日	今をつかめ 道は続く 「謎の恐竜」全身骨格を解明

3 3	読売新聞	1月11日	弥生のニワトリ オスが大半 北大総合博物館 江田講師が研究
3 4	北海道新聞	1月17日	鳥に魅せられ 出土した骨を研究 浮かび上がる太古の生活
3 5	北海道新聞	1月20日	樺太の恐竜「里帰り」 骨格模型展示
3 6	読売 KODOMO 新聞	1月26日	弥生時代のニワトリ オスばかり！
3 7	十勝毎日新聞	2月9日	触れて感じる展示 北海道大学総合博物館
3 8	日本経済新聞	2月10日	探訪サイエンス 北海道大学総合博物館 研究紹介で北大の魅力発信
3 9	北海道新聞	2月14日	理系の未来、可能性探る 風船写真家岩谷さんから講演
4 0	北海道新聞	3月5日	新年度北大総合博物館と教養講座 クラーク博士の業績学ぼう
4 1	北海道新聞	3月5日	北大総合博物館で発表会 卒論わかりやすくポスターで紹介
4 2	北海道新聞	3月13日	骨格標本は語る アショロア 生息地は「足寄の海」
4 3	毎日新聞	3月14日	新装続く恐竜博物館
4 4	北海道新聞	3月15日	地球の断面パネル ネットで資金 北大総合博物館が募る

〈平成28（2016）年度のテレビ・ラジオ報道〉

- 1 TBSテレビ 別冊アサ秘ジャーナル 7月3日
- 2 HBC北海道放送 今日ドキッ！ 7月25日
- 3 NHK札幌放送局 ほっとニュース北海道 7月25日
- 4 札幌市広報テレビ番組TVh ウォッチングさっぽろ 7月26日
- 5 NHK札幌放送局ラジオ おはようもぎたてラジオ便 7月27日
- 6 UHB北海道文化放送 みんなのテレビ 8月2日
- 7 J:COM デイリーニュース 8月3日
- 8 AIR-G' FM北海道 brilliant days 8月4日
- 9 NHKBSプレミアム ザ・プレミアム「あなたの知らない 恐竜王国ニッポン」8月13日
- 10 NHK総合 ニュースシブ5時（クリス松村潜入！夏休み子ども科学電話相談）8月25日
- 11 AIR-G' FM北海道 hello! HOKKS 8月26日
- 12 STV札幌テレビ放送 どさんこワイド 8月30日
- 13 BS朝日 建物遺産～重要文化財を訪ねて 9月2日
- 14 BS朝日 建物遺産～重要文化財を訪ねて 9月9日
- 15 KAB熊本朝日放送 駅前TVサタブラ 9月24日
- 16 HTB北海道放送 イチオシ！（ノーベル賞特集内） 10月7日
- 17 STV札幌テレビ放送 熱烈！ホットサンド！ 10月8日
- 18 STVラジオ ウィークエンドバラエティー 日高晤郎ショー 10月29日
- 19 HTB北海道テレビ ニュース（10万人達成セレモニー） 11月16日
- 20 AIR-G' FM北海道 Sparkle Sparkler（直行さんのスケッチブック展） 11月17日
- 21 J:COM デイリーニュース（直行展と10万人達成セレモニー） 11月18日

- 22 おはようもぎたてラジオ便 12月17日
- 23 NHK総合 おはよう北海道 土曜日プラス (冬休みに注目!いま大人気の北大総合博物館) 12月24日
- 24 NHK総合 ダーウィンが来た!史上最強!ティラノサウルスの真実 1月8日
- 25 NHK総合 ダーウィンが来た!初めて見た!日本の巨大恐竜 1月15日
- 26 NHK総合 ダーウィンが来た!大変身!北海道雪になった虫 1月22日
- 27 NHK総合 ニュース (企画展示北大古生物学の巨人たち) 1月31日
- 28 HBC北海道放送 金曜ブランチ 1月27日
- 29 HTB北海道テレビ イチオシ! 3月21日

〈平成29(2017)年度の新聞報道記録〉(セミナー開催告知は除く。)

- 1 北海道新聞 4月9日 海藻アカモク 食材の価値
- 2 北海道新聞 4月10日 フラミンゴ くちばし形成 食性と密接
- 3 道新スポーツ 4月19日 「小学生昆虫教室」
- 4 朝日新聞 4月28日 「むかわ竜」沸き立つ地元
- 5 朝日新聞 4月28日 国内最大の恐竜全身骨格
- 6 北海道新聞 4月28日 「むかわ竜」全身骨格化石国内最大体長8メートル
- 7 毎日新聞 4月28日 恐竜化石:体長8メートル、全身骨格 北海道・むかわ町で
- 8 読売新聞 4月28日 全長8メートル恐竜全身骨格
- 9 読売新聞 4月28日 恐竜全身骨格「夢のよう」
- 10 北海道新聞 4月29日 きょうから恐竜化石展
- 11 北海道新聞 5月3日 よみがえるむかわ竜
- 12 北海道新聞 5月8日 骨格標本は語る バイソン 2万年前道内でも生息
- 13 北海道新聞 5月10日 1934年発見 ニッポノサウルス
- 14 毎日新聞 5月11日 恐竜:ニッポノサウルス「独立種」
- 15 北海道新聞 5月13日 <道新こども新聞週刊まなぶん>むかわ竜(りゅう)
- 16 北海道新聞 5月15日 むかわ竜「植物食に優れていた」
- 17 朝日新聞 5月16日 世界的な研究者と恐竜ファンが交流
- 18 読売新聞 5月26日 北大博物館に院生考案グッズ
- 19 読売新聞 5月28日 ニッポノサウルス「独立種」
- 20 北海道新聞 6月4日 <記者の視点>恐竜全身骨格化石「むかわ竜」
- 21 北海道新聞 6月5日 聞く語る 恐竜博士の「むかわ竜」愛 小林 快次さん
- 22 北海道新聞 6月12日 骨格標本は語る コウノトリ 太いくちばし 獲物丸のみ
- 23 北海道新聞 6月27日 むかわ竜 世界が注目
- 24 日本経済新聞 6月28日 キャンパス発この一品 ミュージアムグッズ—北海道大
- 25 朝日新聞 7月9日 むかわ竜 迫力デビュー
- 26 北海道新聞 7月10日 骨格標本は語る ネコ 鋭い歯 身近な肉食動物

27	北海道新聞	7月18日	体験 学芸員の仕事
28	読売新聞	7月20日	メガ恐竜展2017 巨大恐竜 大阪に出現
29	北海道新聞	7月30日	昆虫採集し自然満喫
30	北海道新聞	8月9日	むかわ竜「世界でも貴重」
31	北海道新聞	8月21日	骨格標本は語る ニッポノサウルス再研究
32	北海道新聞	9月11日	骨格標本は語る 海ワシ 獲物ちぎる強いくちばし
33	北海道新聞	10月3日	「むかわ竜は世界の宝」
34	北海道新聞	10月11日	昆虫9万点 ネットに博物館
33	北海道新聞	10月11日	むかわ竜の骨格発掘調査を紹介
34	読売新聞	10月27日	むかわ竜 町に活気
35	北海道新聞	10月30日	北方四島の生き物たち 世界で有数の多様性
36	北海道新聞	11月1日	集落の形など解説
37	北海道新聞	11月2日	四島 洋上で動物観察構想
38	北海道新聞	11月3日	第71回北海道新聞文化賞 思い貫き功績築く
39	毎日新聞	11月4日	地層パフェ人気
40	北海道新聞	11月6日	倒木ポプラ 音色優美に
41	北海道新聞	11月10日	北海道密着 功績たたえ
42	北海道新聞	11月13日	骨格標本は語る ウマ 横向き目視野は350度
43	北海道新聞	11月14日	将来の化石博士を
44	北海道新聞	11月20日	国内最古のマリモ標本
45	読売新聞	11月21日	国内最古のマリモ標本 北大にあった！
46	北海道新聞	11月21日	恐竜化石でまちづくり
47	日本経済新聞	12月3日	古代壁画(下)伸び伸び筆振るう飛鳥びとの姿
48	北海道新聞	12月11日	骨格標本は語る 鳥の足跡 恐竜時代に生きた証拠
49	北海道新聞	12月14日	2017今年の顔 眼力鋭く世紀の発見
50	北海道新聞	12月16日	日胆ニュース回顧2017 国内最大「むかわ竜」化石
51	朝日新聞	12月23日	「国内最古」マリモ標本 1894年
52	北海道新聞	1月20日	中高生まなぶん 世界初中谷博士が作る
53	北海道新聞	1月21日	目指せ恐竜王国北海道
54	北海道新聞	1月24日	「むかわ竜 地域の宝に」
55	北海道新聞	1月24日	シマエナガの四季写真家3人が撮影
56	北海道新聞	1月27日	恐竜化石で地域づくり
57	読売新聞	1月28日	恐竜・化石 道の資源に
58	毎日新聞	1月31日	道恐竜・化石ネットワーク研究会：発足
59	朝日新聞	2月1日	恐竜化石で街づくり連携
60	北海道新聞	2月7日	むかわ竜「ダイヤの原石」

6 1	北海道新聞	2月10日	恐竜生かしたまちづくりへ町と大学が協定
6 2	北海道新聞	2月15日	アホウドリの骨で道具
6 3	北海道新聞	2月16日	「むかわ竜」の調査 小林准教授が解説
6 4	毎日新聞	2月20日	フォーラム：第一線の研究者が恐竜化石を語る
6 5	北海道新聞	2月23日	知っ得北海道 考える むかわ竜発掘のドラマは
6 6	北海道新聞	2月25日	むかわ竜に興味津々
6 7	北海道新聞	3月 2日	むかわ竜化石 札幌で展示
6 8	毎日新聞	3月 2日	街角ワイド アホウドリの骨出土の謎
6 9	朝日新聞	3月 4日	新しい恐竜の化石 採れるかな
7 0	北海道新聞	3月 6日	岩石砕き「化石取れた」
7 1	北海道新聞	3月12日	骨格標本は語る シマフクロウ 謎多きアイヌ民族の神
7 2	朝日新聞	3月14日	シマエナガのソフト評判
7 3	朝日新聞	3月18日	中谷宇吉郎が絵筆 屏風寄贈
7 4	北海道新聞	3月28日	中谷宇吉郎が賛や絵をかいたびょうぶ

〈平成29（2017）年度のテレビ・ラジオ報道〉

1	HTB北海道テレビ	LOVE HOKKAIDO	4月15日
2	AIR-G' FM北海道	BOND GIRL!	4月21日
3	HTB北海道テレビ	イチオシ!	4月26日
4	UHB北海道文化放送	NUDEな音楽	4月26日
5	NHK総合	NHKスペシャル世紀の発見!日本の巨大恐竜	5月7日
6	HTB北海道テレビ	イチオシ!	5月19日
7	HBC北海道放送	今日ドキッ	6月5日
8	HTB北海道テレビ	イチオシ!	6月8日
9	HTB北海道テレビ	ANNニュース	8月4日
10	NHK総合	NHKニュース	8月17日
11	TBSテレビ	クレージージャーニー	11月1日
12	TBSテレビ	マツコの知らない世界	11月7日
13	TBSテレビ	クレージージャーニー	11月15日
14	UHB北海道文化放送	札幌クロニクル	11月15日
15	NHKラジオ	すっぴん!	12月15日
16	STV札幌テレビ放送	どさんこワイド179	3月15日
17	NHK総合	おはよう北海道	3月16日

〈平成30（2018）年度の新聞報道記録〉（セミナー開催告知は除く。）

1	毎日新聞	4月 3日	Re:北メール 札幌の銭湯史を博物館で=持田誠さん
---	------	-------	---------------------------

2	毎日小学生新聞	4月 4日	どこで発見？日本の恐竜化石
3	朝日新聞	4月 9日	「天からの手紙」をたどって1 結晶形から上空を知る
4	朝日新聞	4月10日	「天からの手紙」をたどって2 ニセコ山頂の戦闘機
5	朝日新聞	4月11日	「天からの手紙」をたどって3 もう一人の「雪博士」
6	北海道新聞	4月11日	骨格標本は語る ヘルメット 衝撃防止かおしゃれか
7	朝日新聞	4月12日	「天からの手紙」をたどって4 芥川絶賛 無名の作家
8	朝日新聞	4月12日	「天からの手紙」をたどって5 由布院の「雪安居」
9	北海道新聞	4月15日	本と旅する 農学生支える専門職員
10	朝日新聞	4月16日	「天からの手紙」をたどって6 次女霧をアートで表現
11	朝日新聞	4月17日	「天からの手紙」をたどって7 立春の後に卵を立てる
12	北海道新聞	4月25日	四島交流 活動を紹介
13	北海道新聞	4月29日	出かけよう！心ウキウキGW
14	読売新聞	5月 3日	新渡戸が採取 シダ植物標本
15	毎日新聞	5月 8日	Re:北メール よみがえれ、小樽の蒸気機関車=持田誠さん
16	北海道新聞	5月 9日	骨格標本は語る ウミウ 大量の魚を「うのみ」
17	日本経済新聞	5月12日	キャンパスがミュージアムに
18	北海道新聞	5月25日	北大博物館穂別に「分室」
19	北海道新聞	5月25日	北大総合博物館が分室開設へ 穂別の化石研究加速 期待
20	北海道新聞	5月25日	旧ソ連時代から四島交流継続 根室の小林さん
21	毎日新聞	5月26日	むかわ町穂別博物館：恐竜化石の研究、連携さらに
22	北海道新聞	6月 1日	穂別「分室」開設へ覚書
23	朝日新聞	6月 1日	北大博物館の分室むかわ町に設置へ
24	毎日新聞	6月 1日	唐古・鍵考古学ミュージアム：リニューアル
ル25	北海道新聞	6月 5日	十勝発アイヌ音楽CDに
26	毎日新聞	6月12日	Re:北メール まず大人が本を読め=持田誠さん
27	北海道新聞	6月12日	町長「地域特性生かす」
28	北海道新聞	6月13日	骨格標本は語る 産み落とした卵
29	北海道新聞	6月19日	高校生 恐竜のまちPR
30	北海道新聞	6月20日	16年芦別で発見 道内初ティラノ類化石
31	朝日新聞	6月21日	道内初 ティラノ類化石か
32	北海道新聞	6月21日	鶴川高生 恐竜のまちPR
33	北海道新聞	7月11日	骨格標本は語る アホウドリ オホーツク人精緻に加工
34	毎日新聞	7月17日	Re:北メール ロケットより原野守りたい=持田誠
35	北海道新聞	7月20日	アイヌ音楽CD 発売記念し熱唱
36	北海道新聞	7月25日	両陛下「むかわ竜」見学へ 来月、札幌で
37	北海道新聞	7月27日	虫の生態 面白い！

38	日本経済新聞	7月31日	おいしそうでシュ？鉱物模したシュークリーム
39	北海道新聞	8月3日	ティラノ展示で三笠活性化
40	北海道新聞	8月6日	両陛下むかわ竜を鑑賞
41	北海道新聞	8月6日	恐竜 骨から解説
42	北海道新聞	8月9日	ヤモリの足ヒントに商品 秘密は
43	北海道新聞	8月18日	「超はっ水」手本はハスの葉
44	毎日新聞	8月21日	Re:北メール 教科書に載らない戦争＝持田誠
45	北海道新聞	8月23日	自転車活用し観光促進
46	北海道新聞	8月29日	昆虫の模様や毛 リアルに
47	北海道新聞	8月29日	<科学>視る学術資料 価値と魅力は
48	日本経済新聞	9月1日	観光情報の発信 手軽に多言語で
49	北海道新聞	9月5日	むかわ竜*骨格判明8割 関係者喜び
50	日本経済新聞	9月5日	国内最大の恐竜化石公開
51	北海道新聞	9月5日	むかわ竜全身くつきり
52	朝日新聞	9月5日	全長8メートルむかわ竜 全容くつきり
53	日経産業新聞	9月7日	北海道観光に多言語アプリ
54	北海道新聞	9月18日	文化財にも爪痕 胆振東部地震
55	北海道新聞	9月22日	北海道文化賞に木幡さんら3人
56	毎日新聞	9月25日	Re:北メール 根室線の復旧を急げ＝持田誠
57	北海道新聞	9月28日	全身骨格被害なし
58	朝日新聞	9月28日	恐竜がつなぐ縁むかわを支援
59	北海道新聞	10月1日	北大博物館前庭 院生が証明計画
60	北海道新聞	10月14日	読んで考え書く力。お手伝い
61	朝日新聞	10月20日	アホウドリ研究に「尖閣」の壁
62	北海道新聞	10月22日	北の動物の生態 3研究者が解説
63	北海道新聞	10月22日	むかわ竜、復興後押し
64	北海道新聞	10月26日	道産昆布の魅力企画めじろ押し
65	北海道新聞	10月26日	「むかわ竜」生かしまちづくり
66	北海道新聞	11月5日	道産昆布個性に驚き
67	毎日新聞	11月6日	Re:北メール 地方教育大を知の拠点に＝持田誠
68	北海道新聞	11月9日	フットパスの効果解説 徒歩観光の専用道
69	北海道新聞	11月11日	むかわ竜 復興の象徴に
70	朝日新聞	11月13日	北大総合博物館分室をむかわに
71	朝日新聞	11月14日	おしゃべりな標本たち チセリウス式電気泳動装置 HT-B 型
72	北海道新聞	11月14日	竜の物語
73	北海道新聞	12月10日	SDGs 道内から発信を 北大総合博物館で勉強会

74	北海道新聞	12月11日	Re:北メール 年末の社会鍋 持田誠
75	北海道新聞	12月12日	洞爺湖有珠山ジオパーク学術専門職員複数の応募
76	北海道新聞	12月12日	おしゃべりな標本たち ヤツデガタトサカモドキ
77	北海道新聞	1月9日	おしゃべりな標本たち ムラージュ(ロウ製皮膚病模型)
78	北海道新聞	1月12日	北大・読売連携講座サイエンスレクチャー2018
79	北海道新聞	1月14日	野生生物の魅力標本に触れ実感
80	北海道新聞	1月18日	東胆振・日高平成タイムトリップ 被災地復興へ弾みにも
81	北海道新聞	1月18日	<魚眼図>ワクワク、オヤオヤ、フムフム
82	朝日新聞	1月19日	北の文化 博物館のお楽しみ 大澤夏美
83	毎日新聞	1月22日	Re:北メール 五輪「巡業」は必要? =持田誠
84	北海道新聞	1月30日	@キャンパス一学内外の活動や話題の紹介
85	北海道新聞	2月13日	おしゃべりな標本たち チシマヒナゲシ
86	北海道新聞	2月15日	終末期医療の課題 裁判例から考える
87	北海道新聞	3月3日	卒論 市民に向けて解説
88	北海道新聞	3月5日	Re:北メール 私の敬愛する中国人たち 持田誠
89	北海道新聞	3月13日	おしゃべりな標本たち ノッポロヒメエンマムシ
90	北海道新聞	3月24日	十勝の海岸 現状と課題は

<平成30(2018)年度のテレビ・ラジオ報道>

1	NHKEテレ	又吉直樹のへウレーカ!	4月11日
2	STV日本テレビ	世界一受けたい授業	4月14日
3	STV札幌テレビ放送	どさんこワイド179	4月27日
4	NHK総合	さわやか自然百景	7月15日
5	フジテレビ	世界のなんだコレ!?ミステリー	7月18日
6	AIR-G' FM北海道	スパークルスパークラー	8月16日
7	NHKBSプレミアム	これが恐竜王国日本だ!	8月29日
8	NHK総合	ひるまえナマら!北海道	8月30日
9	AIR-G' FM北海道	eccentric chic	10月31日
10	AIR-G' FM北海道	eccentric chic	11月5日
11	TVHテレビ北海道	夕方サテライト	11月16日
12	NHK総合	道内ニュース	11月16日
13	HBC北海道放送	今日ドキッ	11月16日
14	STV札幌テレビ放送	どさんこワイド	11月16日
15	HBC北海道放送	今日ドキッ	11月22日
16	TBSテレビ	ゴロウ・デラックス	11月29日
17	フジテレビ	99人の壁	12月1日

- 18 TBSテレビ ぴったんこカン★カン 1月4日
 19 HBC北海道放送 あぐり王国 2月9日
 20 NHK総合 ほっとニュース北海道 3月25日

〈平成31・令和元（2019）年度の新聞報道記録〉（セミナー開催告知は除く。）

- | | | | |
|----|--------|-------|--------------------------------|
| 1 | 北海道新聞 | 4月9日 | Re:北メール あまりにも寂しい春＝持田誠 |
| 2 | 日本経済新聞 | 4月17日 | 「むかわ竜」立ち上がる 化石から全身骨格復元 |
| 3 | 北海道新聞 | 4月26日 | GW 北大総合博物館に行こう 院生ら企画、商品化 グッズ好評 |
| 4 | 北海道新聞 | 5月10日 | ポプラチェンバロバロックなど演奏 |
| 5 | 北海道新聞 | 5月15日 | 本物そっくり、鉱物キャンドル発売 北大総合博物館 |
| 6 | 北海道新聞 | 5月23日 | 「雪の化石」時代超え輝く |
| 7 | 毎日新聞 | 5月28日 | Re:北メール 驚きの町村議員選挙＝持田誠 |
| 8 | 朝日新聞 | 6月9日 | わがまち遺産札幌農学校第2農場(札幌市) |
| 9 | 朝日新聞 | 6月18日 | 「鵜を抱く女」通説覆る？ |
| 10 | 日本経済新聞 | 6月19日 | 「むかわ竜」は新種濃厚 |
| 11 | 朝日新聞 | 6月19日 | むかわ竜は新種 |
| 12 | 朝日新聞 | 6月19日 | 「むかわ竜」新種 期待高まる地元 |
| 13 | 日本経済新聞 | 6月20日 | ナスカの地上絵描かれた鳥特定 |
| 14 | 毎日新聞 | 6月21日 | ナスカの地上絵ハチドリ、ペリカン3点の鳥を特定 |
| 15 | 朝日新聞 | 6月24日 | 「化石の町」魅力考える |
| 16 | 毎日新聞 | 7月2日 | Re:北メール 議員除名は適切か 持田誠 |
| 17 | 北海道新聞 | 7月10日 | おしゃべりな標本たち 土層剥ぎ取り標本 |
| 18 | 信濃毎日新聞 | 7月31日 | 信大の「標本」北大の研究者が調査 |
| 19 | 北海道新聞 | 8月7日 | 北大内の遺跡出土品を紹介 |
| 20 | 北海道新聞 | 8月7日 | 戦前の貴重な植物標本発見 |
| 21 | 毎日新聞 | 8月20日 | Re:北メール 国際博物館会議の年に 持田誠 |
| 21 | 日本経済新聞 | 8月22日 | 理系人材育成 小中から |
| 22 | 苫小牧民報 | 8月23日 | むかわ町と北大総合博物館協力協定を改定 |
| 22 | 北海道新聞 | 8月24日 | むかわ竜で地域振興 |
| 23 | 日経産業新聞 | 8月28日 | 理系人材育成、小中から |
| 24 | 朝日新聞 | 9月6日 | 震災1年後の「新種」発表 むかわ竜に復興の期待 |
| 25 | 北海道新聞 | 9月11日 | おしゃべりな標本たち 気象学講座関係フィルム |
| 26 | 北海道新聞 | 9月12日 | 北大構内で81年発掘のサケ捕獲遺構木製くいはアイヌ文化期 |
| 27 | 朝日新聞 | 9月21日 | むかわ竜発掘への道(北海道)リレーされた世紀の発見 |
| 28 | 毎日新聞 | 9月24日 | Re:北メール 毎日新聞 北海道60年＝持田誠 |

- 29 毎日新聞 10月10日 新種の恐竜、論文で証明 化石の特徴を分析
- 30 日本経済新聞 10月11日 恐竜 遠路の新種証明
- 31 読売新聞 11月13日 旅 北海道大学周辺(札幌市)
- 32 北海道新聞 マイたうん札幌・道央圏 羅臼・水中写真家関さん撮影
- 33 朝日新聞 知の集積 北大総合博物館

〈平成31・令和元(2019)年度のテレビ・ラジオ報道〉

- 1 NHK総合 さわやか自然百景 4月7日
- 2 NHK総合 ひるまえナマら!北海道 5月14日
- 3 STV日本テレビ 世界一受けたい授業 6月29日
- 4 NHK総合 ダーウィンが来た! 7月7日
- 5 NHK総合 NHKスペシャル「恐竜新世界:見えてきた!ホントの世界」 7月7日
- 6 HTB北海道テレビ イチオシ! 8月28日
- 7 NHK総合 チコちゃんに叱られる 8月30日
- 8 NHKラジオ第1 ラジオ深夜便 9月10日
- 9 STV札幌テレビ どさんこワイド179 10月2日
- 10 STVラジオ エンタメーション 12月9日

< 予算状況 > (2019年度迄)

単位：千円

区 分	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
運営費交付金	47,503	44,160	46,945	45,431	50,408

外部資金受入状況等

年 度	件数	金 額
2016年度	8 件	14,823
2017年度	9 件	13,922
2018年度	8 件	11,132
2019年度	9 件	10,396

年 度	件数	金 額
2016年度	8 件	3,400
2017年度	10 件	3,440
2018年度	11 件	3,080
2019年度	12 件	2,674

【科学研究費採択状況】 単位：千円 【科学研究費分担金一覧（他機関から受領する分）】 単位：千円

年度	件 名	相手方	金 額
	2016～2019年度 なし		

【受託研究受入状況】

単位：千円

【奨学寄付金委任経理金の受入状況】

単位：千円

年 度	件 数	金 額
2016年度	2 件	6,760
2017年度	2 件	2,052
2018年度	5 件	2,850
2019年度	4 件	3,582

【総合博物館支援基金】

単位：円

受入年度	受入金額
2016年度	420,948
2017年度	833,946
2018年度	825,332
2019年度	732,912